5

2020年
履修ガイド

公立大学法人
名桜大学
MEIO UNIVERSITY

国 際 学 群

履修ガイドについて

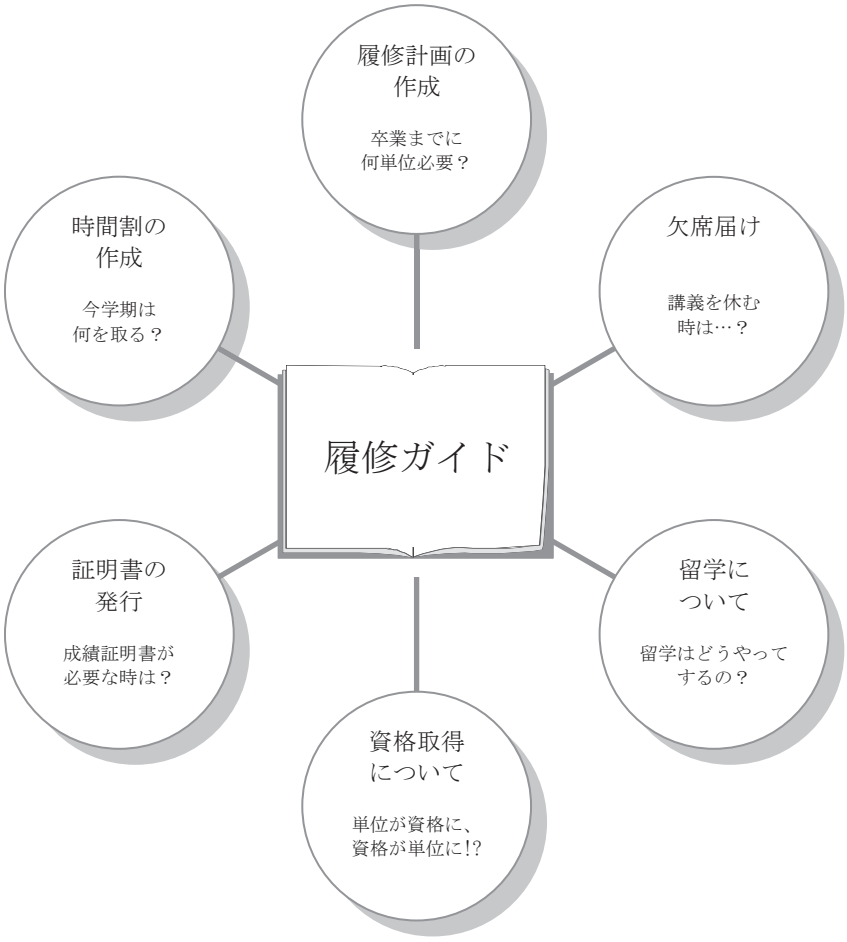
この「履修ガイド」は、卒業までに必要な単位数、時間割や履修計画の作成方法、履修登録の方法、各種手続きなど、４年間の修学にとって必要な情報が記載されています。

まず、大学では履修登録は各自の責任において行うことを自覚しましょう。

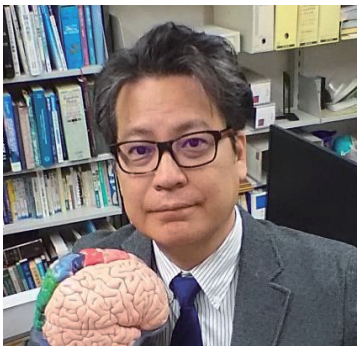
履修登録を正しく行わなかった場合、その授業科目の受講・受験は認められず、単位も修得できません。そうならない為にも、「履修ガイド」をよく読み、自身の履修計画を立てて、確実に履修登録を行いましょう。

「履修ガイド」は、入学時に一度しか配布されません。1 年次から卒業する時まで、時間割や履修計画の作成、欠席届や公欠席願いの作成、追試験や再試験の申し込みを行う時などに使用するため、紛失しないよう心掛けてください。なお、紛失しても再発行はしません。

☞こんな時に履修ガイドを利用します！



名桜大学で学ぶ



学 長　砂川 昌範

名桜大学は、1994 年、沖縄本島北部 12 市町村と沖縄県が出資して公設民営の大学として設立され、2010 年に公立大学法人名桜大学として生まれ変わりました。大学の名称は、全国で一番早く桜前線が出発する所で、桜で有名な土地柄であることから命名されました。

大学は、「人類の普遍的価値」の継承、発展と「新しい価値の創造」に貢献する使命を担っています。大学の営みの最も価値あるものとして、研究があります。研究とは大学における考える機能ともいえます。大学の教員は同時に研究者でもあり、それぞれの専門分野で新たな「知」の生産に日々精進しています。研究成果は、学生教育に活用されます。

情報技術に代表されるテクノロジーの急速な進化やグローバリゼーションにより社会は複雑化しています。このような予測困難な時代であるからこそ、自ら学び続ける能力が必要とされています。本学は、学生が自ら設定した学修目標を達成するため、主体的な学修と適切な自己評価をとおして、さらに必要な学びを深化させることのできる自律的な学修者を育成します。

名桜大学の教育の特徴にリベラルアーツ（自由学芸）教育があります。日本語で教養教育と訳され、専門教育に進むための重要な教育として組み込まれています。名桜大学の教養教育科目は、自由な発想のもと、入学後から将来に亘って自律的に学ぶ基本的能力として、批判的な読書ができる能力、批判的な思考能力、論理的な思考と判断ができる能力などを重点的に育成し、それに続く専門基礎教育、専門教育の礎としています。

学生は、在学中に多くの教員と語らい、多くの友人と出会い、深い洞察を得て、自身の世界を広げ成長していきます。情報通信技術や人工知能（AI）導入が益々促進され、インターネットを介してありとあらゆる知識（情報）を入手できる今、大学が存在し得る意義として、感化力が求められています。名桜大学は、これからも感化力を有する大学教育を通して、社会で活躍できる人材を育成していきます。高校までの学習で構築された考え方から脱却し、入学後の学修から発想の転換を通して新たな知の体系を構築するパラダイムシフトに至ることを期待しています。

国際学群へようこそ



国際学群長　新垣　裕治

新入生のみなさん、名桜大学への入学おめでとうございます。本学はみなさんの入学を心から歓迎します。

沖縄県は約 140 万人の人口を擁し、那覇市（県庁所在地）のある沖縄本島にはその約 90%の 129 万人が住んでいます。沖縄本島は、北部・中部・南部に区分され、この区分は琉球王国成立以前の北山・中山・南山に由来するとされています。沖縄県人口の約 70%（104 万人）は、那覇市を含めた中部と南部に住んでいます。名桜大学の所在する北部は沖縄県の面積の約 60%を占めているのですが、人口は県人口の約 8%に相当する 12 万人しか住んでいません。北部は、人口減少が進む少子高齢化の顕著な地域になっています。また、北部は「やんばる」（山原）とも称され、「田舎」との表現がピッタリするようなところがあります。このような地域ですので、北部全体（12 市町村）にとっても、新入生みなさんの入学は非常に喜ばしいことです。みなさんの入学で北部地区の抱える人口減少問題の緩和に貢献していることになります。北部地域は多くの課題を抱えています。これら課題の解決に向けて、本学は地域と様々な協力と連携をしてきています。新入生みなさんも、本学の学生として地域への協力と連携を期待します。

名桜大学のある名護市は、北部の中核都市で、東は太平洋、西は東シナ海、北は羽地内海に面した、海あり山ありの自然が豊かな地域で、便利な都市機能も備えていてとても暮らしやすい街です。また、沖縄本島北部の「やんばる」の入り口の街でもあります。「やんばる」は、日本でも最も自然環境の優れた地域の一つです。「やんばる」には、ヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネに代表されるような固有種を育む日本を代表する自然があり、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産候補地としてユネスコに推薦されている地域の一つでもあります。北部地域の西海岸に位置する恩納村には、恵まれた自然海岸の立地条件を活かし、全国、あるいは世界中から観光客が訪れるリゾート地で、多くの著名なホテルが所在しています。日本を代表する「やんばる」の亜熱帯の森と海、また、これを繋ぐ川や干潟の自然、地域の伝統文化が色濃く継承されている地域が、本学の所在する名護市と沖縄本島北部地域です。

沖縄県は、日本の辺境の地域として海外に接している地域で、世界で起きている様々な変化に敏感に反応をしている地域です。日本とアメリカの国際的な問題として沖縄や北部地域がメディアで取り上げられることは少なくありません。海外の変化と日本の思惑が衝突し、常に様々なことが起こり、常に我々に様々なことを問いかけてくる地域です。日本の変化や世界の変化を実感を伴って捉えることができる地域です。このような地域だからこそ、新入生のみなさん自身の新たな可能性（斬新さ、独自性、優位性等）が探求でき、また、これまで培ってきた才能を開花させることができると思います。名桜大学はそれを全力で応援します。

名桜大学は、「平和・自由・進歩」を基本理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を、中心的な教育目標としています。今日の国際社会においては文化、ビジネス、教育、政治、経済、観光、芸術、環境から医療やスポーツに至るあらゆる領域において、地球規模のスケールで相互接続ができる環境にあります。情報通信技術（ICT）と交通手段の飛躍的な発展は、国際化（Globalization）を促進し、私たちの日常（Local）が世界（Global）に直接接続する現状にあります。21 世紀の地球市民として、この「やんばる」の地で自身を鍛え・磨き、地域を発展させ、国際社会へ貢献できる人材になって下さい。本学のカリキュラムや留学制度等はそれを後押しします。知識や教養の習得に限らず、問題の本質を注意深く批判的に見極め、その解決策を論理的に組み立て、創造的に応用することのできる、知性と感性のバランスのとれた国際的教養人となることを期待します。

世界的にも貴重な亜熱帯の自然に囲まれ、充実した教育施設に恵まれた本学での４年間が、限りない可能性を秘めたみなさんの将来への大きなステップとなることを切に願います。

目　次

履修ガイドについて
学長あいさつ　- 名桜大学で学ぶ -・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・学　　長　砂川　昌範
国際学群長あいさつ　- 国際学群へようこそ -・・・・・・・・・・・・・・・・・国際学群長　新垣　裕治

Ⅰ　建学の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

表１０　ビジネスマネジメント　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
表１１　ネットワーク技術　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115
表１２　システム開発　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・116
表１３　情報管理　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
表１４　デジタルコンテンツ　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118
表１５　観光ビジネス　副専攻科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
表１６　名桜大学副専攻（地域マネジメント）科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120

Ⅵ　留学・資格等について

１．留学等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
２.「診療情報管理士」の受験資格について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
表１７　診療情報管理士課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
３.「観光実務士」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
表１８　観光実務士課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
４.「日本語教育（日本語教師養成課程）」修了証について・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
表１９　日本語教師養成課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
５．その他の単位認定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・131
表２０　文部科学省大臣の認定を受けた主な資格のうち、本学で履修したものとみなす授業科目・・132

Ⅶ　諸手続きについて

１．証明書・願書・届出等の手続きについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133
２．こんな時はここへ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136

Ⅷ　学則・諸規程

名桜大学学則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
名桜大学国際学群履修規程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
欠席及び成績評価の対象等に関する申合せ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
暴風時の講義等の取り扱いに関する申合せ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
名桜大学研究生規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
名桜大学科目等履修生規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
名桜大学国際学群単位認定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
名桜大学国際学群が定める大学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する取扱要項・・・199
名桜大学転学部等規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・202
名桜大学再入学規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・204

Ⅸ　付録

名桜大学建物配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・付-1
名桜大学校歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・付-14
名桜大学讃歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・付-15

Ⅰ　建学の精神

Ⅰ　建学の精神

名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

名桜大学は、1994 年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部１２市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学であったが、2010 年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わることとなった。

人類の歴史をたどると、それは戦争の歴史であったといっても過言ではなく、それだけに人類の平和を希求する精神は絶えることはない。とりわけ第二次大戦最後の激戦地と化したわが沖縄県においては、熾烈な地上戦が展開され、われわれの祖先が築きあげた文化遺産がことごとく破壊され、20 万余の尊い生命が失われた。従って県民の平和に対する願望は強烈なものがある。

本学は、そのような歴史的背景を踏まえ、世界平和の維持と構築に貢献することによって、平和発信の使命を果たすべく創設された。

平和なくして自由はありえない。自由への闘争もまた人類の歴史そのものであった。独裁者からの解放、圧制からの解放、社会的階級からの解放、差別からの解放、貧困や飢餓からの解放を目指して人類は戦ってきた。わが国でも自由を圧迫する封建社会や軍国主義の時代を経験した歴史があり、本県の場合は沖縄戦に続き 27 年間にわたる米国の占領と施政権下におかれた。本学が最も強調していることは、いうまでもなく言論・信条・学問の自由であることは論を俟たない。自由なくして大学の教育研究の進展はありえない。

平和と自由なくして人類社会の進歩はありえず、平和と自由なくして文化の創造はありえない。現代の科学の進歩は著しく、人類の幸福に多大な貢献をしている。それにともなって社会構造も急速な変化を遂げてきた。また、その結果、国際化・グローバル化は急速に進展し、各国は相互依存の関係にあり、もはや孤立することは許されなくなった。本学は、国際的な教育研究を通して学術の向上と進歩に努め、地域社会と人類社会の福祉に貢献することを使命のひとつとした。

この平和・自由・進歩の三本柱のもとに、本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げた。そのためには心を解放し、自由な発想で、国際的視点から問題をとらえ、解決できる人材を育成することを教育の基本理念とした。本学がリベラルアーツを強化したのはまさに国際的教養人を養成するためである。その基盤に立って、高度の専門的教育研究を推進することによって地域・国際社会に貢献できる人材の育成を期する。

（1）全学的３つの方針

名桜大学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標として、次のような人材を育成することを目指します。

1. グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力を持った人材
2. 豊かな教養と専門性、総合的な判断力と論理的な思考力、創造性、協調性、積極性、自立性、主体性を併せ持ち、生涯学び続けることができる人材
3. 自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人

ディプロマ・ポリシー

（卒業認定・学位授与方針）

このような人材を育成するために、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力

カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施方針）

ディプロマポリシー（学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を４年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

（2）ディプロマ･ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

国際文化専攻／語学教育専攻

国際学群（国際文化専攻／語学教育専攻）は、以下の能力を身につけた学生に学士（国際文化学）の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 高度な言語運用能力と多文化理解力を兼ね備え、地域社会や国際社会に貢献する力

経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

国際学群（経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻）は、以下の能力を身につけた学生に学士（経営情報学）の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に加え、優れた実践力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力と組織運営力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力と自己検証力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現するとともに、調整し統合する力
5. 社会変化や科学技術の革新を数量的に分析し、評価する力

観光産業専攻

国際学群（観光産業専攻）は、以下の能力を身につけた学生に学士（観光産業学）の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 社会の変化に対応し、地域社会や国際社会において観光産業の発展に貢献する力

（3）カリキュラム･ポリシー(教育課程方針･実施方針)

国際文化専攻／語学教育専攻

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を４年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 沖縄を含む国内外の諸地域における言語と文化の体系的学習を行い、知識を実践する機会として実習科目を配置する。
6. 専門知識や技術を統合し、問題解決力と創造力を育成するため、卒業研究を実施し、丁寧な個別指導を行う。

経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を４年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

5. 学生が自主的に計画・行動・検証・改善できる実習・演習を重視したカリキュラムを編成する。

観光産業専攻

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を 4 年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 地域社会や国際社会で観光産業の発展に貢献できる人材を育成するため、観光ビジネスや観光政策、環境・エコツーリズム、観光文化などの専門科目を設置する。

Ⅱ　学修について

Ⅱ 学修について

1　大学での「学び」

高校と大学では学び方が大きく異なります。

高校では、知識の蓄積と、与えられた問いに決められた通り正しく答える事が求められてきたと思います。他者に教わりながら、正解がある問題に対して、正確に速く答えを導き出すことが求められてきたとも言えるでしょう。これを一般的には「勉強」と言います。

それに対して、大学では、自ら問いを立てて、自分なりの答えを出し、どうしてその答えが妥当なのかを論証することが求められます。これを「学問」と言います。

また、大学における学び方については、講義、演習、実験、実技等の『授業時間』とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な『自学自修時間』を含めた『単位制』が取られています。この学び方のことを「学修」と呼び、高校までの「学習」とは区別しています。

そして、大学では「学問」のために「学修」している人たちを「学生」と呼んでいます。

高校と大学の 1 番の違いは、大学では、様々なことを自分で自由に決めることができるということです。逆に、主体的に自分が動かなければ、何も学べないし、誰も手を貸してくれないということにもなります。自由が増える代わりに、自己責任も大きくなるのです。

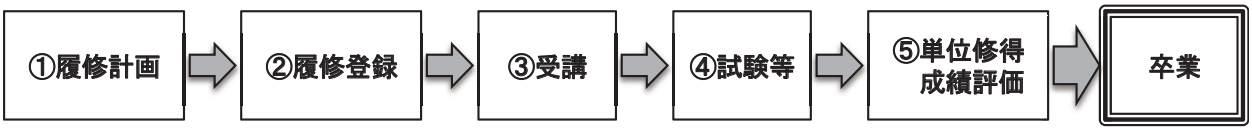
大学では、「学生」が「学修」をしてしっかりと「学問」に取り組むことができるように、授業をはじめとして、様々な仕組み、サポート体制を構築しています。

	学びの種類	学び方	学ぶ人
大学	「学問」	「学修」	「学生」
高校	「勉強」	「学習」	「生徒」

2　単位制度

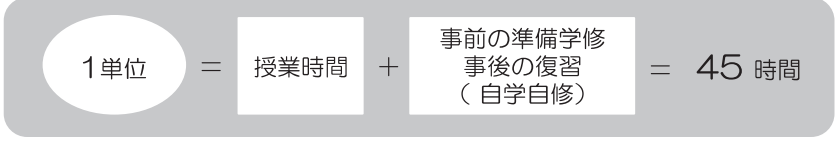
大学の教育課程は「単位制度」に基づいて編成されています。

開講している授業科目には、それぞれ単位数が定められており、その単位を修得するためには、受講する科目の履修登録を行い、所定の時間を学修し、試験等に合格しなければなりません。そして、学科ごとに定められた単位数の合計（卒業要件）を満たした場合に卒業の資格が与えられます。



3　単位の算定方法

大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。ここでいう１単位あたりの学修時間は、授業時間内の学修時間だけではなく、その授業の事前の準備学修・事後の復習（自学自習）を合わせたものとなっています。



本学の授業は 1 学期（セメスター）を 15 週として前学期・後学期に分かれています。大学の授業時間と単位については学則に明示している通りで、1 時間は 45 分で計算し、1 コマ（1 回）は 1 時間 30 分で、制度上これを 2 時間として計算します。授業形態によって算定基準が異なりますので下表を参照下さい。

授業形態	1 セメスターあたりの単位数	1 セメスターあたりの学修量	内　訳		週のコマ数
			授業時間	自学自修時間	
講義・演習	2 単位	90 時間	30 時間	60 時間	1 コマ
外国語	2 単位	90 時間	60 時間	30 時間	2コマ
実験・実習・実技	1 単位	45 時間	30 時間	15 時間	1 コマ
	2 単位	90 時間	60 時間	30 時間	2コマ

※　講義•演習：15 時間から 30 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
※　外国語・実験・実習・実技：30 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

4　授業時間

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
開始	8:45	10:30	12:00	13:00	14:45	16:30	18:15
終了	10:15	12:00	13:00	14:30	16:15	18:00	19:45

5　授業の開講区分

授業は開講区分に応じて次のように分類されます。

開講区分	説　明
通年科目	1 年を通して実施される授業で、評価・単位は年度末に認定
半期科目	前学期または後学期の半年間で終了する授業で、評価・単位は各学期に認定
集中講義	特定の時期に数日間継続して実施される授業で、評価・単位は学期末に認定

6　授業科目の区分

本学では次のように授業科目が区分化され、4 年間にわたって計画的・有機的に配置されています。その具体的な内容は以下のとおりです。

授業科目の区分	説　明
必修科目	卒業するために必ず修得する科目
選択必修科目	指定された複数の科目から一定の単位数を修得する科目
選択科目	指定された科目区分の中から選択して修得する科目
自由科目	修得しても卒業要件に含まれない科目

また、本学の授業科目は、教養教育科目、専門教育科目に区分されており、その中でさらに科目区分に分かれています。卒業には、それぞれの科目区分ごとに修得しなければならない単位数があり、単位取得ができなければ卒業することはできません。

科目区分	説　明
教養教育科目	本学の教養教育は、広く心を解放し、人文・社会・自然科学を学ぶことにより、学問分野の広い視点から俯瞰的にものを見ることのできる人材育成を目指している。 広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通教養教育として「名桜大学型リベラルアーツ」を構築し、「共通コア科目」、「共通選択科目」をおいている。
専門教育科目	専門教育科目は、各専攻の専門分野の知識をさらに深めるとともに、これまで修得してきた知識・技術・態度等を用い、総合的実践能力を高める科目から構成されている。専門分野の枠をこえて、多種な内容を学ぶ学類共通専門教育科目と各専攻の特色ある内容を学ぶ専攻専門教育科目に分けられる。

7　シラバス

シラバスは、履修計画を作成する上で重要な資料です。シラバスとは、授業の目標、授業で扱う内容、授業の進め方、評価方法など授業の全体像を示す文書のことです。シラバスには、①授業選択のガイド、②掲載された教育内容を提供するという学生と大学間の合意事項、③学修効果を高める文書、④授業全体をデザインする文書、⑤カリキュラムに一貫性をもたせるツール（前提科目、前提条件の提示など）など様々な役割があります。

名桜大学のシラバスには、科目名、担当教員名、担当教員のＥメールアドレスと研究室、取得単位数、受講年次、開講学期、登録人数、オフィスアワーの他以下の項目が記載されています。

項　目	説　明
① 授業の概要	授業の概要や目的
② 到達目標	授業終了時に身についていて欲しい知識・技能・態度
③ 授業計画と内容	各授業の内容や時間外学修内容の提示
④ テキスト・参考文献	指定教科書や参考になる本や文献のリスト
⑤ 事前・事後学修	毎回の授業での予習・復習方法
⑥ 成績評価の方法	具体的な評価の基準
⑦ 履修の条件	前提科目や前提条件、履修するのが望ましい科目の提示
⑧ その他	受講上の注意事項、授業のルールなど

シラバスは事前登録に必要なうえ、授業の目標や内容だけでなく、必要なテキスト、講義に臨む姿勢など、詳細な内容が示されています。履修する科目の授業内容や進度を確認し、次回の授業準備や予習にはシラバスは欠かせないものです。このように、シラバスを有効に活用することは、学修を効果的に進めることにつながります。シラバスは本学の Web サイト UNIVERSAL PASSPORT 上に掲載されています。

8　オフィスアワーの活用

オフィスアワーとは、『学生が事前の約束無しに研究室を訪問できる時間帯』のことをいいます。オフィスアワーの時間には、教員は研究室に在室することを義務づけられています。各教員のオフィスアワーは週 2 時間以上指定されており、シラバスや研究室の前に示されています。授業でわからなかったことや、教員の研究内容の質問だけでなく、相談や雑談などでも構いません。もし、オフィスアワーの時間に授業が入っているときは、事前にメール等で約束をとって教員の研究室

を訪ねて下さい。※アポイントメールの文面は、p.13 参照。

9　成績評価の対象（p.189「欠席及び成績評価の対象等に関する申合せ」参照）

学生は登録した科目の授業に出席しなければなりません。

本学における成績評価の対象は、原則として授業時間の３分の２以上出席した者とされています。

10 成績評価と GPA

本学の評価基準は次のとおりです。成績評価は、学則第 16 条にもとづき規定されており、59 点以下は不可とし、再履修の対象となります。

また、本学では GPA（科目成績平均値：Grade Point Average グレード・ポイント・アベレージ）制度を導入しています。GPA は次のようにして算出されます。

$$GPA = \frac{\text{(修得単位数×成績値)の合計}}{\text{履修登録科目の単位合計}}$$

GPA は大学の奨学金の判断基準となることや、教職希望者の教育実習および協定校留学等の可否を決める審査等に利用されます。学期末に配付される成績表に GPA が記載されています。GPA アップを学修目標のひとつとして活用します。

成績評価	評価点	GP
秀	90 点　～　100 点	4
優	80 点　～　89 点	3
良	70 点　～　79 点	2
可	60 点　～　69 点	1
不可	0 点　～　59 点	0

11 進級について

進級に必要な条件は次の通りです。

学部	進級に必要な条件	
国際学群	２年次への進級	在学期間が２セメスタを超過していること。
	３年次への進級	在学期間が４セメスタを超過し、６０単位以上の単位修得、かつ次の表に掲げる特定の科目を修得していること。進級の時期は４月とする。 修得単位が６０単位未満の海外派遣留学生及び国内派遣留学生は、上記とは別に、国際学群教務委員会の議を経て、国際学群長がこれを認める。
	４年次への進級	在学期間が６セメスタを超過（編入学生は２セメスタを超過）し、所属する専攻の専門演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。

※３年次編入学生のうち、３年次への進級要件を満たしていない者は、編入学後１年以内の学修において、当該学年への進級要件を満たすこと。満たさない場合は、４年次への進級を認めない。

【３年次進級要件科目】

区分	科　目　名	受講年次	単位数		進級要件
			必修	選択	
教養教育科目	教養演習Ⅰ	1	2		１４単位修得すること。
	教養演習Ⅱ	1	2		
	コンピュータ・リテラシー	1	2		
	アカデミックライティングⅠ	1	2		
	大学と人生	1	2		
	ベーシック・イングリッシュ	1	2		
	イングリッシュ・コミュニケーション	1	2		

区分	科　目　名	受講年次	単位数		進級要件
			必修	選択	
学類共通専門教育科目	国際文化系基礎演習	2		1	1単位以上修得すること。 ※卒業要件を必ず確認すること。
	語学教育系基礎演習	2		1	
	経営系基礎演習	2		1	
	情報システムズ系基礎演習	2		1	
	診療情報管理系基礎演習	2		1	
	観光産業系基礎演習	2		1	

12 卒業に必要な単位数（卒業要件）

卒業に必要な単位は次の通りです。

卒業要件単位数	内　　訳
合計 124 単位以上	教養教育科目４２単位以上 専門教育科目５６単位以上 自由選択科目※２６単位以上

※自由選択科目：教養教育科目、専門教育科目のうち、卒業に必要な単位以外で修得した科目の単位を自由選択科目の単位として認定する。卒業単位に含まれない自由科目（教職科目）とは異なるので注意すること。

13 学籍について

学籍とは、学生としての身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続を完了した者に本学への入学が許可され、本学学生としての学籍が与えられます。在学中に本人の氏名・本籍地・住所・保証人(外国人 留学生は在日保証人)等の変更があった場合は、ただちに学生課に届け出てください。

1) 学生番号は入学時に決定し、原則として在学中は変更しません。学校に提出する書類には、氏名とともに 学生番号を必ず記入することになっています。

2) 学生番号は７桁で表記され、次のような仕組みになっています。

１ ４ ２ ０ ０ ０ ０

所属区分　入学年度　個人番号

学科等	所属区分
国際学群	14
スポーツ健康学科	21
看護学科	22

14 履修に関する用語の解説

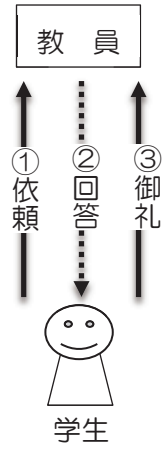
項　　目	説　　明
カリキュラム	国際学群が掲げる教育理念・目的に基づき、自主的・自律的に編成した教育課程
履　　修	科目の受講を登録し、授業を受けること
単位修得	授業を受け、試験などに合格し、単位が与えられること
GPA 制度	授業科目ごとの成績評価を、例えば５段階(A、B、C、D、E)で評価し、それぞれに対して、４・３・ ２・１・０のようにグレード･ポイントを付与し、この単位あたりの平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。
卒業要件	卒業するために学生が修得すべき単位数 ＝124 単位以上
セメスター制	１学年複数学期制の授業形態 通年制（ひとつの授業を１年間を通して実施）における前期・後期 の区分とは異なり、ひとつの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度 本学では一年間を前学期・後学期の２期に分ける。
CAP 制	単位の過剰登録を防ぎ効果的な学修をすすめるために、１年間あるいは１学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度 本学における１セメスターで履修登録できる単位数は原則 20 単位である。
前提科目 前提条件	ある科目を履修するために、知っておかなければならない分野や科目を指定し、修得していなければならない科目を「前提科目」あるいは「前提条件」という。 自分が取りたい科目にこの前提科目や前提条件がある場合は、その前提科目を修得した後でなければ履修登録ができない。
授業計画 （シラバス）	授業前に学生に提示・配付され、授業の目標、授業で扱う内容、授業の進め方、評価方法など授業の全体像を示す文書のこと
オフィスアワー	学生が事前の約束無しに教員研究室を訪問できる時間帯のこと。各教員は週２時間が設定されている。
ガイダンス	生活・学習のあらゆる面にわたり、学生が自己の能力や個性を最大限に発揮しうるよう助言すること。履修に関するガイダンスは学期開始前に開催される。
UNIVERSAL PASSPORT	本学 Web サイト上で、履修登録、シラバス照会、成績照会ができるシステム
副専攻	地域の現状や課題に関する理解を深め、地域の抱える課題解決の為の具体的な方策の提案や実践を通し地域の維持と発展に対して主体的に関わり能動的に行動できる人材を育成する地域志向型教育プログラム

The tips for university life

■□*■ メールでの面談のアポイントの取り方 ■*□*■*

メールの基本は

「一往復半」



＜　**依頼**　メール文面例（参考）＞

①件名

面談のお願い（○年次／○○専攻［氏名］）

②本文

●●先生

お世話になっております。

［学籍番号］［氏名］です。

●●のことについてご相談するお時間をいただきたく、ご連絡しました。

●月●日または●月●日のいずれかで１時間ほどお時間をいただけないでしょうか。

お忙しいところ恐れ入りますが、何卒よろしくお願いいたします。

名桜大学国際学群（○年次／○○専攻）

［学籍番号］［氏名］

［メールアドレス］　［携帯番号］

＜　**御礼**　メール文面例（参考）＞

①件名

Re：面談のお願い（○年次／○○専攻［氏名］）

②本文

●●先生

お世話になっております。

［学籍番号］［氏名］です。

この度は、お忙しい中、面談の時間を作っていただき、誠にありがとうございます。

●月●日（●）△△時△△に先生の研究室（■■棟●●室）に伺います。

よろしくお願いいたします。

名桜大学国際学群（○年次／○○専攻）

［学籍番号］［氏名］

［メールアドレス］　［携帯番号］

■□*■ スケジュールとタスク管理について ■*□*■*

大学では、高校のように学科やクラスで統一した時間割はありません。学生自身が自律して、授業の課題レポート、テスト等のスケジュールやタスク管理を行うことが求められています。配布された学生ガイドを上手に活用し、授業や課外活動、学外での活動等を計画的に行えるようにしてください。

やるべきことや提出物等を書き出す。

完了したら☑を入れる。

☑▲▲授業課題提出（4/●）

□健康診断

□履修登録確認シートの提出（4/●）

2020　4月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
30	31	01	02	03 新入生一斉学力テスト 新入生ガイダンス	04 入学式	05
06	07	08	09	10	11	12
13	14	15	16 授業開始	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	01	02	03

■□*■ 報・連・相について ■*□*■*

「報・連・相（ほうれんそう）」は、「報告」、「連絡」、「相談」の「報」「連」「相」を組み合わせた造語です。「報告」とは、指示されたことや依頼されたことについて、経過や結果を知らせることです。「連絡」とは、その時点の状況を知らせることです。「相談」とは、判断に困った時や自分の考えを聞いてほしい時に、教員や先輩、仲間などに意見や指示、助言などをもらうことです。「報・連・相」を徹底することは、ミスや損失を最小限にすることにつながります。

教員や先輩、仲間に、普段から現状について「連絡」し、困った時には「相談」を行い、その後の経過や結果を「報告」することを意識して行うようにしましょう。

Ⅲ　教養教育について

教養教育について

（1）教養教育の概要

国際化・グローバル化さらに大学入学のユニバーサル化（希望する者全てが大学に入学できる）時代を迎えた今日、専門性のみ強調する大学教育から脱却するために、本学では「平和・自由・進歩」という建学の精神と「国際性豊かな人材の育成」という教育理念に基づき、「名桜大学型リベラルアーツ」を構築することになった。

リベラルアーツの基本理念は、人間の心を解放し、心を自由にすることによって円満な人格形成をすることにある。心を広く解放し、人文・社会・自然科学を幅広く学ぶことによって、学問分野の広い視点から俯瞰的にものを見ることのできる人材育成を目指す。リベラルアーツでもっとも強調されるのは、批判的な読書であり、批判的な思考であり、論理的な思考と論理的な判断である。さらには、文学や宗教など人文科学を学ぶことにより、感性を磨き、価値観、倫理観や人生観を確立できる。知性と感性のバランスこそ円満な人格にとって不可欠である。

本学では、このような「名桜大学型リベラルアーツ」に基づく教養教育の理念を確立し、それに基づいて教養教育のカリキュラムを構築し、学生諸君に提供することになった。

1）「学ぶスキル」を獲得、幅広い科目選択が可能

基礎的能力に加え、時代の変化に対応できる問題解決能力を備えた人材を育成するために、国際学群と人間健康学部に所属する全学生を対象とした教養教育カリキュラムを構築した。特に、批判的思考及び論理的思考などの「学ぶスキル」を獲得するために、アカデミックスキル科目を必修科目として1年次に設定し、知性と感性のバランスが保たれるように幅広い科目（共通コア5科目区分25科目、共通選択5科目区分55科目）を設定した。

2）少人数教育体制の利点を最大限活用

問題発見・解決能力と優れたコミュニケーション能力、さらには学生の学ぶ意欲を引き出し、自ら学ぶ力を身につけさせるための教育方法として、チーム・ティーチング、学生主体の参画型教育・学習を積極的に導入した。大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標としている「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」「コンピュータ・リテラシー」「アカデミックライティングⅠ」では、少人数教育を基本とし、かつ複数の科目担当者を配置する「チーム・ティーチング」を導入した。また、「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」では、学生主体による問題設定、情報収集、資料作成、発表会におけるディスカッション等を通した積極的学習を実践し、「学生主体の参画型教育・学習」を実現した。

3）学生自らが社会人としての将来を構想し、実現できるキャリア形成

学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得する「ライフデザイン科目区分」を設定した。学長が自ら担当する「大学と人生」（1年次）は全学生の必修科目として配置した。さらに、教養教育や専門教育、キャリアガイダンス等のキャリア形成にかかわる教育プログラムの効率性と効果性を議論する場として、全学的な連絡調整会議が行われている。

（2）教養教育の目標と科目区分紹介

【教養教育の目標】教養教育科目は、自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。

【教養教育の体系】教養教育のそれぞれの科目区分は、本学の建学の精神ならびに教育目標に基づき、次の通り体系化されている。

区分等				教育目標
名桜大学				**本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目標とする。**
	教養教育科目			**教養教育科目は、自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。**
		共通コア科目		**共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。**
			アカデミックスキル	アカデミックスキル科目は、大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。
			ライフデザイン	ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。
			思想と論理	思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。
			沖縄理解	沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。
			健康スポーツ	健康スポーツ科目は、健康・体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。
		共通選択科目		**共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。**
			外国語	外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。
			国際理解	国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。
			人文科学	人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。
			社会科学	社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。
			自然科学	自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。

共通コア科目

【共通コア科目の目標】共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。

■アカデミックスキル科目の目標と科目

【目標】アカデミックスキル科目は、大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。

【科目】教養演習Ⅰ／教養演習Ⅱ／コンピュータ・リテラシー／アカデミックライティングⅠ／アカデミックライティングⅡ／アカデミックスキル特別講義

授業紹介①　「教養演習 Ⅰ」「教養演習 Ⅱ」

教養演習は、これまで名桜大学が培ってきた教育方法を見直し、大学生としての学びの統合を図るため、さらに名桜大生としての資質の向上を視野に、新たに全学の共通必須科目として位置づけられた科目です。

教養演習は、教養教育のコアとなる科目であり、大学生に必要な豊かな教養と、専門教育の学習を支える幅広い知識の獲得や人格の形成を図るためのアカデミックスキルズの獲得を目標としています。

具体的な学習は、「教養演習Ⅰ」では、大学における履修についてのガイダンスをはじめ、テキストを使用して大学での受講の方法や学ぶことの意義、健康な生活の維持など、ディスカッションを通して学びます。「教養演習Ⅱ」では、これまで修得した知識や学びを活用して、幅広い分野からテーマを設定し、情報の収集、整理・まとめるというプロセスを通してレポートを作成します。論理力、批判力、統合力の育成、さらに成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図ります。

授業は少人数グループ学習（ゼミワーク）を基本とし、学習者が主体となれる教育方法を取り入れます。また、ディスカッションを通して学生間の交流、人的ネットワークの構築を目指します。さらに、個別の学習支援、指導を行うことにより、自己の目標を明確にし、将来の人生設計を視野に入れた充実した大学生活が送れるための学びを進めます。

授業紹介②　「アカデミックライティングⅠ」

大学では、様々な分野の専門書を読み、その内容をまとめ、自分の意見を書くことが求められます。また、アンケートや聞きとり調査などで得た事実や知識等を根拠に基づいて論理的・科学的にまとめることが求められます。そこで「アカデミックライティングⅠ」では、レポートを作成する際に必要な基礎的能力(検索力・引用力・読解力・分析力・文章作成力)を身につけます。

例えば、図書館やインターネット検索を利用し、レポートを書くために的確な情報を集め、整理する力をつけることが必要です。また、レポートのテーマや課題の目的を読みとり、課題を分析する力をつけることも必要です。そして、レポートを書くうえでの基本的なルール(出典の表記法、参考文献の表記法・スタイル)を身につけ、読む人にとってわかりやすく、根拠に基づいた、説得力のあるレポートを書く能力を身につけることも必要です。作文ではなく、レポートを書く力を身につけましょう。

授業紹介③　「コンピュータ・リテラシー」

「リテラシー」とは読み書き能力のこと。現代社会ではコンピュータの操作能力は読み書き能力と同じように必要なものとなっています。大学生活においても同様です。情報を集め、データを分析し、わかりやすい資料を作る、という作業にはパソコンを使います。スムーズに大学生活をスタートするには、入学したらまずパソコンを使いこなせるようになることが大切です。

名桜大学のアカデミックスキル科目「コンピュータ・リテラシー」では、１年次の前期、学生生活に必要なパソコンの操作方法を学びます。具体的には、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションソフト、電子メール、学生支援システム（Universal Passport）の使い方を習得します。

また、ネット社会において適切な情報活用・発信能力を習得することを目的として、インターネットを利用した情報検索と情報発信の方法とマナー（著作権・ネチケット）について学びます。

■ライフデザイン科目の目標と科目

【目標】ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。

【科目】大学と人生／ライフデザイン特別講義／キャリアデザイン／プロジェクト学習

授業紹介④　「大学と人生」

本学は、平和・自由・進歩の三本柱を建学の精神とし、国際舞台で活躍できる人材の育成を教育の理念として掲げて開学しました。この基本精神と基本理念を学生に周知徹底し、本学の学生としてのアイデンティティを確立するためには、学長担当の講義を提供する必要があるとして、「大学と人生」と題する科目を全学必修として開設することにしました。そのためには本学の誕生のみならず、国内外の大学の生成発展の歴史を概観し、大学教育の果たしてきた役割について論じ、大学生としての自覚と使命を認識してもらうことが必要です。

具体的には、社会で活躍している人生経験および国際性豊かな先輩をお招きし、自分が受けた大学教育とその後の人生との関りについて講義してもらい、学生にどのような学生生活を送るべきか、またどのような人生を送るべきかについて深く考えてもらう機会をもってもらうことを目指しています。

■思想と論理科目の目標と科目

【目標】思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。

【科目】人間と環境／生命と倫理／科学入門／論理学／現代思想／思想と論理特別講義

■沖縄理解科目の目標と科目

【目標】沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。

【科目】沖縄学／沖縄の自然／沖縄の言語／沖縄理解特別講義

■健康スポーツ科目の目標と科目

【目標】健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。

【科目】体育実技Ⅰ／体育実技Ⅱ／健康・スポーツ科学／健康スポーツ特別講義／健康スポーツ特別実技

共通選択科目

【共通選択科目の目標】共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。

■外国語科目の目標と科目

【目標】外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。

【科目】ベーシック・イングリッシュ／イングリッシュ・コミュニケーション／ドイツ語Ⅰ／ドイツ語Ⅱ／フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ／スペイン語Ⅰ／スペイン語Ⅱ／ポルトガル語Ⅰ／ポルトガル語Ⅱ／中国語Ⅰ／中国語Ⅱ／韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ／タイ語Ⅰ／タイ語Ⅱ／外国語特別講義Ⅰ／外国語特別講義Ⅱ／アカデミック英語基礎／プラクティカル・イングリッシュⅠ／プラクティカル・イングリッシュⅡ／ビジネス英語Ⅰ／ビジネス英語Ⅱ

授業紹介⑤　「ベーシック・イングリッシュ」

「ベーシック・イングリッシュ」は１年次必修外国語科目で、英語を運用する「イングリッシュ・コミュニケーション」科目とは異なり、次の教育目標を持ちます。レベルに応じて言語使用の場面での目的を達成する文法や頻度の高い語彙を学習します。さらに、意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った基本的な 音読ができるようになります。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することにより自立した英語学習者になることを目標としています。

本学における「ベーシック・イングリッシュ」は、プレイスメントテストにより習熟度クラス分けを行い、全学（国際学群、スポーツ健康学科、看護学科）で共通のテキストを使用します。共通の指導体制として、文法のクイズをレベル別に全クラスで実施し、形成的評価を重視します。英語の専任教員と非常勤教員が定期的に会合を開き、カリキュラムや学生指導の把握を常に行っています。

■国際理解科目の目標と科目

【目標】国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。

【科目】国際学入門／異文化接触論／国際社会と日本／人権と平和／国際コミュニケーション論／海外スタディツアー／国際理解特別講義

■人文科学科目の目標と科目

【目標】人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。

【科目】音楽の歴史と鑑賞／美術の歴史と鑑賞／哲学／心理学／歴史学／教育学／ヒューマンケアリング／文学／人文科学特別講義

■社会科学科目の目標と科目

【目標】社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。

【科目】法学／憲法／政治学／経済学／経営学／社会学／人文地理学／社会科学特別講義

■自然科学科目の目標と科目

【目標】自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。

【科目】数学／統計学／物理学／化学／生物学／地学／情報科学と社会／自然科学特別講義

（3）教養教育科目の概要

教養教育科目

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通コア科目	アカデミックスキル	教養演習Ⅰ	この授業科目は、本学における学習者としての基本的な心がまえや学習方法、教職員間･学生間の人的ネットワークを構築することを目的とする。大学において学ぶとは何かを探求するとともにアカデミックスキルズの獲得を図る。ディスカッションでの授業をすすめるため少人数グループ学習を導入し、個別の学習支援、指導を行う。また、成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図るための学習をすすめる。
		教養演習Ⅱ	この授業科目は、教養演習Ⅰやアカデミックライティング、コンピュータ・リテラシー等で修得した知識や技術をもとに、書籍や文献を詳読し、レポートを作成する。本演習では、幅広い知識から一つのテーマをより深めるという学習方法を身につける。少人数グループ学習を基本とし、論理力、批判力、統合力の育成、さらに成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図るための学習をすすめる。
		コンピュータ・リテラシー	高度情報化社会で不可欠なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションソフト、電子メール、学生支援システム（Universal Passport）の使い方を習得する。また、ネット社会において適切な情報活用・発信能力を習得することを目的とし、インターネットを利用した情報検索と情報発信の方法と作法（著作権・ネチケット）について学ぶ。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通コア科目	アカデミックスキル	アカデミック ライティングⅠ	大学では、専門書やフィールドワークなどで得た事実や知識、概念を根拠に基づいて論理的・科学的にまとめることが要求される。そのためには多様な情報源から必要である的確な情報・知識を、論旨をふまえて取捨選択する能力が必要不可欠となる。そこで本講義をとおしてアカデミックライティングに必要な基礎的能力を身につける。
		アカデミック ライティングⅡ	この授業科目では、論文作成の基礎的能力の獲得を目指したアカデミックライティングⅠを受け、より応用可能なライティング技能の獲得を目的とする。文献研究と実証研究の性質の差を理解しつつ、テーマ選択の方法、情報収集及びその整理法、また資料の読解法を学ぶ。学生個々の興味に添った論文作成の手順の習得を目指す。
		アカデミックスキル 特別講義	大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目的にアカデミックスキル特別講義を開設する。
	ライフデザイン	大学と人生	世界のグローバル化が進む中、大学の位置づけも変化しつつある。諸外国を含めた大学の歴史的・文化的な変遷を踏まえた上で、日本の大学の現状と課題を整理し、地域社会における大学の使命と役割を展望する。その際、名桜大学の建学の理念および教育目標について理解を深める。さらに先人の人生開拓の歩みから学び、自らの人生と社会的な役割について考え、名桜大学生として学ぶ意識を高めることをめざす。
		ライフデザイン 特別講義	学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目的にライフデザイン特別講義を開設する。
		キャリアデザイン	「キャリア」という言葉を理解した上で、卒業後の進路や卒業選択に向けた社会認識・自己分析を積極的に行い、キャリアを意識した学習活動、学生生活、人生設計の大切さを理解し、実践する。さらに社会が求めるコミュニケーション力など実践的なスキルの必要性や現在の日本の労働環境と労働者の権利・義務などへの理解も深める。
		プロジェクト学習	本授業では、学生自らが地域社会に根差した課題・問題を解決していく中で、生活設計に必要な主体性、創造性、計画性を獲得することを目指す。そのため、この授業では正解のある課題は与えられない。専攻や学科の壁を超えて集まった学生たちが、チームワークを発揮しながら、モノづくり、システムづくりなどの解決策を提案する。
	思想と論理	人間と環境	様々な環境問題を生み出してきた社会のあり方や価値観について解説する。これらを通して、我々人間の本質の一面と我々が置かれている状況に関する理解をもたらし、人間の意識や行動のあり方について考察する意思と能力を養う。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通コア科目	思想と論理	生命と倫理	この授業科目では、生命にかかわる倫理的諸問題を理解し、問題の所在を多面的に検討することを通して、最終的には健康科学・医療福祉に携わる者となった場合、あるいは一社会人として倫理的価値判断を行うことのできる見識を身につける。
		科学入門	この授業科目は、普遍的な法則を見つけ出し、明瞭な思考の道筋を立て、自分で考え・判断する姿勢を養うとともに、科学的な手法としての理論的な考え方を紹介し、科学の対象を明らかにしながら、各テーマに対しての真偽（真理）の決定（探求）までのプロセスを学ぶ。
		論理学	科学とは共通理解の事柄から未知の世界を共通の方法で論理的に考え、新しい法則や真理を発見する知的作用である。学問を探究する大学において、また、実社会においても、論理的な思考・発想、および説明を訓練することは大学の授業・報告・論文作成には欠かせない。本講義では、論理的思考について形式論理学を中心に学ぶ。
		現代思想	本授業では、現代社会において生じている問題を、思想家・哲学者の考えを参考にみていく。その過程を通して、自身の見解に対し、批判的かつ論理的に思考する力を身につけることが目的とされる。本授業は、講義形式での提供となる。
		思想と論理特別講義	ひとつの視点にとらわれることなく、批判的～論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目的に思想と論理特別講義を開設する。
	沖縄理解	沖縄学	沖縄に関する地理、歴史、文化、社会などについて、毎週、その分野の専門家を招聘して講義が展開される。沖縄について総合的かつ多角的な視点にたち学ぶことによって、地域の独自性と普遍性がどのように形成され、また現在の沖縄の有り様とどのように関連しているかを学ぶことを目的とする。この授業科目を通じて、学生は国際教養人の尺度の基盤を形成することができる。
		沖縄の自然	沖縄の自然は、その地理的位置と地史および島嶼性から、さまざまな特徴を有し、それが「おきなわ」の風土と人々の気質を育んできた。「おきなわ」を理解するには、その背景である自然の特徴と現状を深く理解することが有益である。その上で、エコツーリズムの望ましい形での発展が必要である。この授業科目では、以上を念頭におき、主に生物と生物群集を対象にして沖縄の自然を解説し共に考える。
		沖縄の言語	この授業科目では、身近すぎて普段はほとんど意識しない沖縄の言語の中にあるルールについて概説し理解を深める。さらに、沖縄の言語を通して見えてくるものの見方、考え方について言語学の面から検討する。その結果、方言が単なる風変わりな珍奇なことばではなく、その地域の文化・社会を色濃く映したとても貴重で大切な継承発展させていくべき文化であることの理解も深める。
		沖縄理解特別講義	自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目的に沖縄理解特別講義を開設する。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
	健康スポーツ	体育実技Ⅰ	この授業科目は、スポーツの持つ楽しさや達成感を味わいながら、ラケット型スポーツやアクアエクササイズを通してのコミュニケーションと仲間づくりを目標としている。さらに、運動の大切さや効果を認識することで、生涯スポーツとしての意識を養う。
		体育実技Ⅱ	この授業科目は、チーム型スポーツを通して、体力やコニュニケーション能力を向上させることを目標とする。さらに、個人練習、チーム練習、ゲーム等を通じて、純粋にスポーツを楽しみながら、仲間との協応性を高めていく。
		健康・スポーツ科学	現代における社会環境の変化として、少子高齢化、自由時間の増大、労働環境のオートメーション化とコンピュータ化、運動不足、過食や偏食などがある。これら健康の維持・増進を脅かす諸問題に対処するため、自らの身体に興味を持ち、健康やスポーツについて科学的に理解できるよう「体力」「運動」「健康」の各分野からアプローチし解説する。
		健康スポーツ 特別講義	健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目的として健康スポーツ特別講義を開設する。
		健康スポーツ 特別実技	健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目的として健康スポーツ特別実技を開設する。
共通選択科目	外国語	ベーシック・ イングリッシュ	学習者のレベルに応じて、実際の使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特性にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモと取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。
		イングリッシュ・ コミュニケーション	学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面に配慮しなら、言語使用の機能の達成を考慮しながら、語彙や文法、英語独特の音声体系の習得に基づいて口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。異文化理解のみならず、自国や身近な地域の情報を発信でき、積極的にコミュニケーションストラテジーを用いて意思疎通を図り、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	外国語	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の綴りと発音、基本的文構造について、すぐにでも使えるような会話表現を通して説明し、徹底的な口頭練習を取り入れて熟達させる。また、ドイツ事情を話しながら、ドイツ語の単語を紹介していく。これは、文化を教えることで、その言語にさらに親しみを持ってもらうためである。何かを説明する際には、できるだけ身近な外国語である英語を念頭に置き、両言語を比較･対照することによって、ドイツ語の像をよりはっきりさせる。
		ドイツ語Ⅱ	ドイツの歴史や地理、人々の生活についての全般的な知識も学ぶ。またドイツ語を積極的に発音する練習をし、ドイツ語に慣れていく。
		フランス語Ⅰ	フランス語の初心者を対象とする。アルファベットと発音の基礎から学び、当言語を理解するために必要な文法事項を解説していくと共に、反復練習を行う。またフランスやフランス語圏の文化・芸術・音楽の紹介、映画鑑賞等を予定している。
		フランス語Ⅱ	AV 機器を活用しながら、《聞く・話す》の習熟をはかる、外国語としてのフランス語。日本語や英語との異同・文化背景の相違に着目する。
		スペイン語Ⅰ	講義は初心者を対象とし、その実施に向けては、一般動詞の導入までを学習の達成目標にかかげる。授業計画には、アルファベットの読み方、単語を音節に分ける方法、アクセントの位置に関する法則、冠詞を含めた形容詞、SER 動詞と ESTAR 動詞の使い分け、一般動詞の導入、といった学習項目を盛り込み、受講生に対して外国語学習に不可欠な基本四技能の初歩的訓練を行う。講義では、折に触れて、スペイン語を育んだイベリア半島の重層複合文化の諸相について紹介する。
		スペイン語Ⅱ	講義はスペイン語Ⅰを履修した学生を対象に提供される。授業では、主として目的格人称代名詞、不規則動詞、Gustar 型動詞、数詞、天候表現、日付の表現、感嘆表現、再帰動詞、命令形などについて学び、基本四技能のさらなる向上を促す。折々には、スペイン語Ⅰと同様に、イベリア半島の重層複合文化の魅力について紹介する。
		ポルトガル語Ⅰ	現在、地球上の約 6、500 語あると言われる言語の中で、ポルトガル語は「母国語としての人数」からすると世界で第 6 番目の言語である。これはロシア語（第 7 番目）、ドイツ語（第 9 番目）それにフランス語（第 13 番目）と比べてみても以外と多く、1 億 7、000 万人のスピーカーを持つ。この話し手の内、そのほとんどは南米ブラジルのポルトガル語を母語とするブラジル人である。ポルトガル語Ⅰでは、会話を中心にスキットを交えながらブラジルで日常良く使われる表現を用い、ポルトガル語の発音の特徴である鼻母音の発音に注意しながら進めていく。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	外国語	ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱは、ポルトガル語Ⅰの会話中心の授業から文法を重要視した授業へと発展させていく。具体的には、-ar、-er、-ir 動詞の活用の説明から始め、ser、 estar 動詞の変化を解説する。また、時制の概念では点過去と線過去の違いを理解させる。その後、未来の時制へと発展させ直説法までを視野に入れる。加えて、ブラジル事情にも言及し、ブラジルの５つの地域を概説しカーニヴァル、サッカーなどの国民統合にも寄与したブラジル文化についても説明したい。
		中国語Ⅰ	中国語入門の基礎である声調をしっかり練習する。次に発音練習に入っていくが、中国語には日本語にはない発音がいくつかあるので、それを単語・文章の中に入れて練習する。中国語の発音は難しいとよく言われるが、それは日本語に存在しない発音がよくあるからである。練習を重ねることによって、正しい中国語らしい発音ができるように訓練する。現代中国語の社会情勢に対しても興味を持つように数回のレポートを課す。
		中国語Ⅱ	①「中国語Ⅰ」でマスターした基本を更に一歩前進させる。②「中国語Ⅱ」は、中国語検定準４級に合格することを目標とする。「中国語Ⅰ」で基本をしっかりマスター出来ていれば、おもしろい程の進歩を実感するはずである。ボキャブラリーを出来るだけ覚えて、短文の作文練習を重ねる。③前半は「中国語検定準４級」の過去問題 20 回分を学ぶ。④中国映画を鑑賞して、自然の会話の中から理解できる言葉を探し出す。
		韓国語Ⅰ	日本語母語話者が外国語として韓国語を学習するという視点に立ち、両言語の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。主として文字と発音、助詞の使い分け、名詞文の肯定形と否定形、疑問形などを学習し、韓国語の読み書きは勿論、基礎的文章の構造が理解できる力を身につけることを目標とする。
		韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰに引き続き、韓国語の基礎的文型の理解と文の組み立てに重点をおいて授業を進める。主に数詞、用言の過去形や敬語形、否定形などの学習を通じ、表現に幅を利かせながら韓国語の理解をさらに深めていく。かくして、語彙力の増加とともに基礎的な日常会話ができるようなレベルを目指していく。
		タイ語Ⅰ	タイ語の音声組織、文法の原理、基本的な表現、表記法を学ぶ。タイ語は複雑な音声組織を持ち、これまで触れてきた外国語とは全く異なる原理を持つ言語である。今まで英語やフランス語などが修得出来なかった学生には特に勧めたい。学習を通じて言語というシステムの多様性に気付いてもらいたい。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	外国語	タイ語Ⅱ	タイ語の音声組織、文法の原理、基本的な表現、表記法を学ぶ。タイ語はこれまで触れてきた外国語とは全く異なる原理を持つ言語である。タイ語Ⅰで学習した「発音、文法、表記、基本表現を修得している」ということを履修の条件として、さらに表現を発展させ、その後、講読と作文を通じて表現力の充実をめざす。
		外国語特別講義Ⅰ	グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目的として外国語特別講義を開設する。
		外国語特別講義Ⅱ	「外国語特別講義Ⅰ」の学習を発展する内容で、異文化理解に基づき、様々なトピックについて外国語で理解し、身近なことのみならず抽象的な考えや情報も外国語で発信できる能力や態度を身に着ける。
		アカデミック英語基礎	英語による講義で基礎的に必要なノートテイキングや専門文献読解、要旨作成、簡単な口頭発表やグループディスカッションなどを学習する。3 年次や 4 年次で取り組む卒業論文や専門書を英語で学習できる基礎的な知識や能力を養う。さらに、各専門分野に共通した英語論文の検索方法、APA や MLA などの代表的な英語学術論文の基礎的な作成ルールの理解、英語圏の大学における剽窃（plagiarism） や批判的思考などについて学ぶ。
		プラクティカル・イングリッシュⅠ	近年、TOEIC(Test of English for International Communication)に対する関心、必要性がますます高まっている。この授業ではその試験対策として、学生のリスニング、リーディング、文法、さらに strategies（方略)などの力を伸ばしていきたい。TOEIC スコアーは 400 点台(990 点満点)の後半を目指す。毎授業毎に、ミニ模擬試験を行い TOEIC の形式に慣れていく。
		プラクティカル・イングリッシュⅡ	実用英語技能英語検定試験 2 級の資格取得を目的とし、単語、熟語、英文法、読解、リスニングトレーニングなどの語学向上を中心とした授業を行う。過去問題や、練習問題、ｅラーニングを通して、総合的な英語能力を身につける。
		ビジネス英語Ⅰ	将来の多様なビジネスの場で必要とされる最低限の英語力の育成を主眼とする。職業の場面は勿論のこと、大学院や海外の仕事場での活躍を夢見ている学生にも必要な基礎である。社内や対外的な事務処理などを含めてオフィスで役立つ会話力と文章力を養うためにリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能に渡って学ぶ。
		ビジネス英語Ⅱ	英語の基礎学力の上に自分の選んだ仕事のシーンに即した最低必要限と思われる英語のノウハウを身につける。国際ビジネスの実際的知識を身につける。英語のリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能に渡って学ぶ。さらに、専攻分野における英語力アップビジネスの場に限らず基本的読解力、文章表現力、音声的表現力、判断力を等しく育みたい。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	国際理解	国際学入門	日本人の食料の約 70%は海外からの輸入依存しているように私たちの暮らしは世界中の国々や人々との関係から成り立っている。しかし、その相互関連性については、意識しなければなかなかなか分からない。この講座では、私たちと世界との関係について、国内の社会、政治、法、組織と国際社会などの比較から考え、ますます関係が深まり、複雑化する現代社会において国際人および専門科目への方向性を学ぶ。
		異文化接触論	異文化とは、「異なる分類体系を持つ文化」を意味する。異文化の理解には異なる分類体系の理解が欠かせない。本講義では構造主義人類学の観点から講義する。特に言葉と人間の関係について観光ではなかなか接することのできない「深い観察」ができるように導く。構造主義の考え方は大学生が避けては通れない「思想の科学」であるのでぜひ挑戦してもらいたい。構造主義人類学により現代のさまざまな問題に対し、新たな観点から問題の本質に接近できる。
		国際社会と日本	国際社会と日本の相互関係の歴史を学び、現在の国際問題に日本はどのように対応しているか、また国際社会は日本に何を期待しているかを考察する。明治維新とヨーロッパ外交、戦後の連合国占領と復興時の対米外交、国連加盟と国際外交、戦後の対アジア外交などを内容とする。今後、自立外交をいかに樹立するかを考察する。
		人権と平和	18 世紀後半に誕生した“人権”や、二度の大戦を経て培われた“平和”は、21 世紀の現在、時代や国家のあり方を越え、その普遍的価値を国際社会に享有させるに至っている。しかし、“人権”保障や“平和”確保をめぐる国内外の状況には依然厳しいものがあることも看過してはならない。本科目は、わが国の内外で生じている“人権”や“平和”の問題を素材とし、徹底的に“人権”と“平和”について真剣に考える機会とする。
		国際コミュニケーション論	国際社会がボーダーレス、相互依存の時代に入り、異国と異国の人々を理解することは時代の要請になっている。その道具としての国際コミュニケーションを学ぶ。コミュニケーションの理論、産業、実情、課題について学び、電子コミュニケーションなど新しい手段の弊害を理解し、いかに活用するかを学んでいく。
		海外スタディツアー	海外の言語・文化、社会制度、産業等を理解するためには、現地を訪問することが最も効果的である。本授業では、主に海外経験の無い学生を対象に、アジア地域を中心とした海外スタディツアーを行い、多様な価値観や考えを理解し、海外でも主体的に行動ができる資質を身につける。
		国際理解特別講義	グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目的として国際理解特別講義を開設する。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	人文科学	音楽の歴史と鑑賞	ただ単に音楽史のみを扱うのではなく、大きな波としての歴史のうねりと変遷から説き起こし、社会の大枠が変わるから音楽もそれにつれて変わらざるを得ないと言う事をよく理解して貰う。 そして、時代ごと、地域ごとに色々な音楽があり、其れが又、時代の思潮や哲学、価値観や生活と密接に繋がっていると言う事も知って貰う。
		美術の歴史と鑑賞	芸術様式と文化的背景を学ぶ。授業では、古代から現代までの芸術作品を通して、創造的意欲の源泉、創造物と文化との関わりについて理解を深めていく。受講生は、講義やスライド・ビデオを通して多くの芸術家や彼らの作品にふれるだけではなく、芸術的経験を広げる為にも、自分で何らかの創作をする。
		哲学	数学、物理学、医学等はその名前を聞いただけで、何を研究する学問であるかは一目瞭然であるが「哲学」はそうではない。その為「哲学は人生の役に立つのか」という疑問が投げかけられる。しかし、我々は生きている中で「生き甲斐のない人生は、意味がない」「正義のためには死をもいとわない」といったさまざまな考え方に出会う。そして「本当はどうなっているのか」と気になり、考え始めたとき「哲学」は始まる。その為「哲学」は自らするしかないのである。この講義は、過去の哲学者がそれらの問題をどのように考えてきたかを紹介しながら学生自ら「哲学する」ことを学んでいく。
		心理学	行動科学としての心理学の知見を紹介する。心理学の研究法や基礎的な理論に触れながら、現代の心理学が「こころ」に関わる問題にどのように取り組んでいるかをみていく。特に自己認知・発達・性格・記憶・学習・欲求など「個人」をめぐる課題に焦点をあて、自己および他者理解を目指した学習をおこなう。
		歴史学	歴史のとらえ方を学び、現代文明の成り立ちについて深く理解することは、いかに生きるかを考える上で大いに役立つ。たんに過去の人物や事件の紹介ではなく、人・物・環境が有機的に関連し、歴史のドラマが繰り広げられてきたことを概観する。前半は様々なテーマを取り上げて、歴史を学ぶことの楽しみを知ってもらい、後半は東アジアの歴史を海の視点から描写してゆく。
		教育学	「教育」という営みを通し、人間を「成長し続ける存在」として捉え、研究していく。学校、地域、家庭、社会、産業などの領域において人間が「成長し続ける存在」であるために必要な教育の理論や目的、指導方法などを学び、21 世紀市民の教養としての「教育学」の在り方を考える。
		ヒューマン ケアリング	この科目は、人間が誕生してから死を迎えるまでどのように生きるのか、大学生に人間の健康を考える場を提供する。赤ちゃんの誕生から子どもの成長発達、そして青年期の健康問題や職業生活での健康、家族の中における健康、高齢者の生活や死を見つめて生きる終末期の人々への健康に対するケアの方法やケアリングについて学習する。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	人文科学	文学	文学は、各時代の社会や文化を背景に生まれ、その時代あるいは時代を超えて享受されてきた言語芸術である。文学からは人間にとって根源的なテーマを学び取ることができ、多様化が進む現代を生きる我々にこそ必要な学問領域となる。また、真の国際的教養人となるには、日本（人）とは何か、という問いに自分なりの考えを提示できることが要請される。この授業では、日本の古典から現代までの代表的な作品を取り上げ、各作品がもつ時代性と普遍性の内実を読み解く。
		人文科学特別講義	人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目的に人文科学特別講義を開設する。
	社会科学	法学	日常生活に見受けられる法現象（例えば、新聞やテレビ等で取り上げられる法に関する話題等）を主たる素材として、我が国の主要な法制度に関する基礎について学習する。具体的な講義内容としては、“法の一生(法の誕生から消滅まで；立法過程・法執行(行政)過程・裁判制度)について”や、法の本質やその解釈、様々な観点(公法･私法、国内法･国際法、手続法・実体法等)から分類しうる我が国の主たる法体系を概説する。
		憲法	日常生活(特に沖縄)に見られる憲法現象(新聞やテレビで取り上げられる憲法に関する話題)を主たる素材として、日本国憲法のしくみや基本原理(近代立憲主義や人権論を中心に)について学習する。特に、IT 技術の発達に伴い、便利さが追求される傾向にある現代社会にあっても、依然として大事にされ続けられなければならない「人間(個人)の価値」や、人間(個人)と関わる社会や国家のあり方等について考察を深める。
		政治学	政治学における基礎的な概念や理論、方法論などを紹介する。まず政治学の発達とその過程で常に直面する価値観の課題、すなわち主観と客観の間を揺れ動きながら発達してきたことを概説する。現代政治の特性、国内外の政治体系を構成する議会や官僚、政党、利益団体などを解明し、政治に関心を持ち、究明する能力を育てる。
		経済学	経済のグローバル化、高度情報化（IT 革命）の急速な進展の中で社会を取り巻く環境は大きく変化している。そうした複雑な社会・経済的状況を理解するために経済学の基本的概念である市場メカニズムを中心に、経済システムの持つ意味と限界（「市場の失敗」）について考察する。
		経営学	この講義は、企業の経営・戦略とは何か、社会経済の中における企業の果たす役割は何かといった基本的な問題・課題について、実態と理論を学んでいくことを主な目的とする。そのため広範囲にわたって講義を進めていくが、企業とは何かという根本的な点を理解してもらいたい。
		社会学	社会学やその他の社会科学への導入・基礎として位置付けられる。社会学や人類学の基礎概念・理論を通して、私達が直面する様々な社会現象・問題を考察していく。キーワードは「グローバリゼーション」と「市民社会」。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	社会科学	人文地理学	人文地理学的センス・理解は私たちの日常生活と深く関わっている。また、現代・日本・世界を理解するうえにも、人文地理学は有効である。「阪神・淡路大震災」「地球温暖化」「商業戦争」「華人社会」など 34 のキーワード（テーマ）を中心に、テキストを素材とし、また広げながら現代の日本と世界の諸事象・データを人文地理学的に分析・理解するセンスと方法を身につけることを目標において授業を展開する。
		社会科学特別講義	様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目的に社会科学特別講義を開設する。
	自然科学	数学	この科目では、問題解決に数学を活用する意欲や態度、能力を高め、数学的思考力を身に付けることを目標とする。そのために必要な数学的知識･技能を主体的に習得するとともに、数学と人間・社会・文化とのつながりを学習し、数学の文化的・教養的価値や数学の有用性、論理性などを味わい数学的素養を身に付ける。
		統計学	統計学とは、標本データを基に母集団を推定・推測するための科学である。そのために必要なことは、統計的な考え方であり、計算技術そのものではない。この授業では、主に正規分布を中心に、標本値からの母数の推定や検定の仕方を、統計的な考え方に重点を置いて考察する。
		物理学	私達が日常身近に体験する現象から、日常概念では説明しがたい不思議な現象まで、自然界に起こる現象は多様である。原子レベルのミクロな現象から宇宙レベルのマクロな現象まで、物理法則は様々である。しかし、これらの法則もより基本的な法則から説明（演繹）できることが多く、より基本的な法則を探究することが物理学の醍醐味である。本講義では、これらのプロセスを通し自然界の理解と科学的な物の見方を身につけていく。
		化学	環境化学、地球化学、および一般化学の学問領域の中で取り上げられる諸事項のうち、基礎的な自然科学に対する本学学生の知識と理解力に鑑みて適切と考えられる範囲の内容を教授する。
		生物学	本講義では、遺伝子の本体である DNA に焦点をあて、遺伝現象や DNA の分子（構造と機能）、遺伝子工学（バイオテクノロジー）、これらの発見や解明に至った過程へも理解を深める。これにより知識だけでなく、科学的なものの見方、物事の進め方（実験の工程、理論の積み上げ方等）についても理解を深める。

科目区分		授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	自然科学	地学	私達の住む地球はどのようにして生まれたのか。宇宙はどのような歴史をたどり進化し、これからどうなっていくのか。最近の観測データをもとに、現在までに分かってきた驚くべき宇宙像について紹介し、私達宇宙の過去・現在・未来像を紹介していく。また、その結論に至るまでの思考プロセスを追いながら、宇宙の進化についての理解を深め、宇宙を支配する法則について学習していく。
		情報科学と社会	先ず、情報理論を概観しコンピュータの汎用性について理解する。次に、コンピュータ誕生から社会的普及までの背景を学び、コンピュータの開発に関わった人々の思惑や電子工学の発展がPC誕生にどのように寄与したか理解する。さらに、論理回路、OS、プログラム、アルゴリズム等について学びコンピュータ内部の仕組みを理解する。最後にインターネットの歴史や機能、知的所有権について学び、今後の情報化社会について考察する。
		自然科学特別講義	自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目的として自然科学特別講義を開設する。

Ⅳ　国際学群の概要

国際学群の概要

（1）教育目標

国際学群の教育目標は 21 世紀地球市民として、「地域社会及び国際社会で活躍できる人材」を育成することである。すなわち、地球規模での協調・共生と、一方で国際競争力の強化が求められる時代の中で、柔軟かつ総合的に判断できる能力等の育成が重要であるということに鑑み、多様な社会的ニーズに対応できる人材を育てることである。

（2）人材育成

本学は、北部 12 市町村（名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊是名村、伊平屋村）よりなる北部広域市町村圏事務組合が開設する公立大学である。

沖縄県北部地域に建てられた唯一の公立大学として、幅広い職業人の育成機関であることは社会的責務である。国際学群においては、「国際文化専攻」、「語学教育専攻」、「経営専攻」、「情報システムズ専攻」、「診療情報管理専攻」、「観光産業専攻」と６つの専攻を融合させた教育課程による教育を施し、教養教育科目を基礎として、６つの専門分野でそれぞれ活躍できる人材を養成する。

（3）進路

卒業後の進路としては、学群の制度を活かした幅広い就職先が考えられる。進路の見通しとして具体的に考えられるものは、以下のとおりである。なお、６専攻ともさらに研究を深化させ、より専門的な学際知識を獲得できるようになっており、本学大学院国際文化研究科にもそれらに対応できる専攻・専修がある。

① 国際文化専攻

地方公務員、在外公館職員、中・高等学校教諭（英語）、日本語教師、国内外のＮＧＯ・ＮＰＯ法人、国内外の大学院等の高等教育機関への進学、金融機関（銀行）、観光施設　等

② 語学教育専攻

地方公務員、在外公館職員、中・高等学校教諭（英語）、日本語教師、国内外のＮＧＯ・ＮＰＯ法人、国内外の大学院等の高等教育機関への進学　等

③　経営専攻

地方公務員、高等学校教諭（情報・商業）、店舗経営者、マーケットリサーチャー、事業統括者、金融機関（銀行、証券会社等）、国内外のＮＧＯ・ＮＰＯ法人、国内外の大学院等の高等教育機関への進学　等

④　情報システムズ専攻

地方公務員、高等学校教諭（情報・商業）、医療機関、情報技術者、ネットワーク管理者、金融機関（銀行、証券会社等）、国内外のＮＧＯ・ＮＰＯ法人、国内外の大学院等の高等教育機関への進学　等

⑤　診療情報管理専攻

地方公務員、医療機関（診療情報管理士、医師事務作業補助）、医療・介護・福祉・ヘルスケア関係企業（医薬品、医療機器、医療システム開発等）、金融機関（銀行、証券会社等）、国内外のＮＧＯ・ＮＰＯ法人、国内の大学院等の高等教育機関への進学　等

⑥　観光産業専攻

公務員、旅行会社、宿泊業、観光施設、交通運輸業（航空、鉄道等）、野外活動指導員、金融機関（銀行、証券会社等）、国内外の NGO・NPO 法人、国内外の大学院等の高等教育機関への進学　等

（４）専攻の特色

国際社会及び地域社会の要請に応える人材育成モジュールである６専攻の特色は以下の通りである。

国際文化専攻

沖縄県は、その島嶼性から古琉球の昔より進取の気質に富み、東南アジアや東アジアそれに中南米の地域と深い関係をもつ。また、これらの地域には 20 世紀初頭以来、沖縄県から多くの人々が移民しており、現在に至るまで深い人的・文化的な繋がりができている。このような沖縄県の持つ諸条件を活かして、地球規模で活躍する人材の育成は本学の最も必要とするところである。

そこで本専攻では５つのコース（①沖縄コース、②日本コース、③アジアコース、④中南米コース、⑤国際協力コース）を設け、これらの地域や分野における国際文化の理解と国際協力を担う人材の育成を教育の目標として掲げている。

沖縄コース及び日本コースでは地域研究を行い、沖縄文化や日本文化の継承発展及びそれを通して、特にヤンバル（沖縄本島北部）地域の発展に貢献しうる人材の輩出を目指す。

アジアコースでは、経済発展が目覚ましい東アジア、歴史関係の深い東南アジア、それにＩＴ産業を中心に経済発展の可能性を秘めている南アジアについて、互いの連関を視野に入れた広域的な活躍ができる人材の育成を目指す。

中南米コースでは、沖縄系移民の子孫が約 30 万人も存在する南米地域の文化や歴史を中心に学習する。加えてブラジルやペルー、アルゼンチンの学術交流協定大学に留学の機会を与え、これらの国々の文化について体験的、実践的な理解を目指す。

国際協力コースでは、広く国際社会の現状や紛争や貧困などの課題について理解を深め、国際機構やＮＧＯや多国籍企業などの国際協力機関で活躍する人材の育成を目指す。

語学教育専攻

本専攻は、建学の理念である「国際社会で活躍できる人材育成」を目指して国際的視野に立って行動する学生を育てることを教育目標とする。さらに、国際共通語としての英語の専門的なレベルを習得させると共に、日本語を指導し、自己の考えを的確に発信できる高い日本語力の習得を目指す。

本専攻は英語教員、日本語教師を養成するとともに、英語力、日本語力を生かした進路選択を可能にし、地域に貢献できる人材育成を実現する。教員養成では、教育者としての使命感を持ち、人間の成長・発達についての深い理解、児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養を持つ人材育成を目指す。

本専攻の教員養成プログラムは現場での体験を重視し、教育の知識や技術が机上のものに終わらず、豊富な教育現場体験による、実践的な教員養成を目指す。

本専攻は母語による高い日本語力を育成するとともに、英語が使える人材育成を目指し、実践力のある英語コミュニケーション能力を身につけ、国際社会で活躍できる人材育成を目指す。

本専攻は中学校及び高等学校のみならず、将来小学校でも語学教育ができる人材を輩出している。

経営専攻

経営専攻は、本学の教育理念である「創造性豊かな人材の育成」と「地方の適切な要望、時代のニーズに応えうる」ために、現代社会の多様化・多次元化する諸問題に対応してマネジメントできる人材育成を目指す。そのためには、次の学びを行う。

第一に、企業経営、地域行政、教育、医療などの諸問題に対する多様なマネジメントに必要な専門的知識と技術を修得した人材の育成を目指す。そのために、人間行動をマネジメントする心理学、社会政策をマネジメントする経済・法律、企業をマネジメントする経営学、情報をマネジメントする情報管理学の４つの側面から、マネジメントの理論と実践を学習する。

第二に、他の専門職との連携と調整、さらには、問題指向的なマネジメントを行えるマインドとスキルを養成する。そのため、学生に対して、専門性を異にする複数の教員から学習指導が受けられる教育体制を整備する。２学年対象の「経営系基礎演習」では、共通課題（例：企業経営、沖縄振興、観光産業等）に対し、４つのマネジメント区分のゼミ別に分析・検討を加える。そして、その学習成果を共有することで、多様化・多次元化するマネジメントの様相の理解が促進され、自らの適性・興味を考慮した専門性の選択が可能となる。また３～４学年の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅲ・Ⅳ」では、他のゼミと連携し、テーマ発表から中間発表、最終発表までを共同開催し、他の専門性を有する教員と学生との

質疑応答を通じて、自らの専門性を深めることができる環境を提供する。

第三に、経営専攻においては、他の専攻が提供する副専攻カリキュラムの履修を積極的に奨励し、国内外の言語・文化、先端的な情報技術、観光産業の専門性をあわせ持つシステムマネジメント能力をもった人材育成と、大学院における高度専門職業人養成を視野に入れながら、学群における教育研究に努めていく考えである。

情報システムズ専攻

情報化の浸透と企業経営の国際化に伴い、民間企業は勿論のこと、国や地方公共団体のあらゆる分野で、情報活用能力及び経営的センスと、国際的視野及び感覚を備え、さらに、システム思考に優れ、問題解決ができる人材が必要とされている。特に地方県である沖縄では、中小企業の比率が高く、このような人材に対するニーズが高い。具体的には、LAN／インターネット接続型ネットワークの構築・管理・運営の高度なスキルを有する人材、イントラネットとデータベース知識を有し、それらの管理・運営とコンピュータによる問題の発見及びその解決を行える人材、さらに、プログラミングやシステム設計の知識に加えてインタラクティブな Web コンテンツや Web アプリケーションを作成する知識と技術を有し、それらの管理・運営を行える人材などが必要とされている。今後、モバイル・コンピューティングやユビキタス・コンピューティングが推進される中で、必ずしもコンピュータの専門家に対してではなく、上記の人材に対する地域社会からの需要はさらに高まっていくであろう。

情報システムズ専攻は、このような地域社会からの要望に応えて、大学創設以来掲げてきた地域との連携をさらに強化しながら、情報技術による地域経済の活性化と地域産業の振興を連携して推し進めることを第一の特色とする。第二の特色としては、情報技術による地域経済の活性化と地域産業の振興を支える担い手として、企業組織内では勿論のこと、複数の連携組織間でも協働・調整しながら、決断・行動できる自律した人材を育成することである。第三には、沖縄県の地理的・歴史文化的特性、とりわけ人的・物的交流が盛んで、国際的開放性が高い地域を基盤とした、実践に基づく情報技術の応用を発展させることのできる人材を育成することである。

診療情報管理専攻

診療情報管理士とは、カルテ（診療録）の内容精査と管理を行うライブラリー作業だけではなく、得られた診療情報をデータベース化し、WHO の勧告する国際疾病分類（ICD-10）に基づきコーディング作業を行い、さらにデータベースの分析と解析を通して医療の質を保証し、医療ニーズの分析を行う専門職である。

医学的な専門知識を持つ「診療情報管理士」は、病院経営の場で即戦力のある貴重な人材として高いニーズがある。このような県内の医療現場、地域社会の要請に応え、高い情報処理能力を有し、幅広い教養と専門的知識を身につけた人材を育成していくことが本専攻の目標である。医療情報管理のエキスパートを養成するために、医学的知識、診療情報管理、IT 技術、経営管理の４つの専門領域を学ぶことができる。

本専攻の特色は、第一に沖縄県内では唯一の「診療情報管理士」認定試験に必要な全科目を履修することができる認定大学である。第二に、大学生活の４年間で幅広くアカデミックな教養を深めながら、認定試験合格の為の勉強をすることができる。そのため、他大学では取得できない資格をもって就職活

動をスタートすることができる。第三に、病院をマネジメントするためには、医学的知識やIT技術は欠くことのできないスキルであるため、医学・医療を教授する医師、医療制度・診療録の専門家である診療情報管理士、診療録をデータベース化するIT技術を指導する教授陣、それぞれの分野の専門家が「診療情報管理士」の資格取得に向けて指導を行うことができる。診療録をデータベース化し、病院経営にも参画できる専門的な知識と技能をもち、医療の安心・安全に貢献できる専門職を育成していく。

観光産業専攻

国際化、少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化等により観光が地球規模で展開し、観光産業および観光振興への社会的ニーズが高まっている。特に沖縄県は観光立県として数多くの観光振興策やリゾート開発プロジェクトが県全域において計画、運営されているが、この分野に関わる人材が質・量ともに不足しており、地域および観光産業の振興をリードするスペシャリストの育成が急務となっている。観光産業専攻においてはこうした社会のニーズに対応し、地域社会及び国際社会に貢献できる実践能力のある人材を育成する。

観光産業は歴史や文化をはじめ、健康や自然、交通運輸、都市計画等様々な要素を持つ裾野の広い産業である。特に、本学は本島北部地域に位置し、リゾートホテルの集積地であると同時に「やんばる」と呼ばれる国の天然記念物や貴重な固有生物が生息する自然に恵まれた地域に立地している。そのため、当専攻においては３つのコース（観光政策・ビジネス、環境・エコツーリズム、観光文化）を設け観光人材の育成に努めていく。

本専攻の特色は以下の通りである。

第一に、開学以来掲げてきた地域との連携をさらに強化し、産官学連携の中での人材育成に努める。

第二に、生きた教材であるやんばるの森での教育・研究活動を通して、自然・環境に配慮した観光振興や歴史、文化資源をいかした観光等、広い視野から地域や産業に貢献できる人材を育成する。

第三に、観光産業等を担う地域のリーダーの養成と国際観光への方向性を戦略的にコーディネートができる人材を育成する。

（５）学群・学類・専攻の名称及び学位の名称

学群・学類の名称は、国際学群（Faculty of International Studies）、国際学類（College of International Studies）である。国際学群には６つの専攻がありその名称は、国際文化専攻（International Culture Major）、語学教育専攻（Language Education Major）、経営専攻（Management Major）、情報システムズ専攻（Information Systems Major）、診療情報管理専攻（Health Information Management Major）、観光産業専攻（Tourism Industry Major）である。

授与される学位の名称は、国際文化専攻と語学教育専攻は、共に世界中の地域文化および言語を学ぶ分野のため、「学士（国際文化学）」（Bachelor of Arts in International Cultural Studies）である。経営専攻と情報システムズ専攻そして診療情報管理専攻は、共に人間・社会・企業・情報・医療のマネジメントを学ぶ分野のため、「学士（経営情報学）」（Bachelor of Arts in Management and Information Sciences）である。観光産業専攻は観光産業を学ぶ分野のため、「学士（観光産業学）」（Bachelor of Arts in Tourism Industry）である。

学群名称 学類名称	国際学群　Faculty of International Studies 国際学類　College of International Studies					
専攻名称 （日本語） （英語）	国際文化 専攻 International Culture Major	語学教育 専攻 Language Education Major	経営 専攻 Management Major	情報ｼｽﾃﾑｽﾞ 専攻 Information Systems Major	診療情報管理 専攻 Health Information Management Major	観光産業 専攻 Tourism Industry Major
学位名称 （日本語） （英語）	学士 （国際文化学） Bachelor of Arts in International Cultural Studies		学士 （経営情報学） Bachelor of Arts in Management and Information Sciences			学士 （観光産業学） Bachelor of Arts in Tourism Industry

学類共通専門教育科目　人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
日本語理解論	文字言語を介した多様なジャンルの文章(説明文・論説文、物語・小説、詩歌、古典)の内容を的確に読み取り、文章の構成や表現の特色を把握する。これとともに文章に描かれた人物、心情、情景、思想等を読み味わう方法を習得する。
日本史入門	日本の歴史を学ぶことは、我が国への理解を深めるのみならず、近隣諸国との関係性を理解する上でも不可欠である。また、歴史を学ぶことで現代を相対化する視座を身につけることも可能となるだろう。この講義では、近現代史の学習を重視しつつ、日本史の全体像を把握することを目指す。
日本文化概論	原始・古代から現代までの我が国で展開した信仰・芸術・学問などについて、歴史学の立場から概観する。過去と現在との相違点・共通点を考えることで、歴史・文化を客観的に捉える力を身につける。
文化人類学	人類学は「人間の科学」である。幅広い人間探求から生まれた「人間の行動原理」を究明する学問である。「人間に関するロジック」なので当然すべての学問の基礎学問にもなる。講義では主に「交換論」の立場から「人間関係」の暗号を紐解く。講義では「他者を知ること」、「自分を知ること」が如何に重要なのか示して行く。
人間関係論	人間関係論では個人と集団の相互作用過程について扱う。特にグループ・ダイナミックス(集団力学)の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や人間行動の法則性について検討する。また、本講義ではグループ・ワークを通して、対人関係の諸課題を把握し適切な集団運営を行うためのスキルを体験的に学習することを目指す。
日本語表現論	「書く」「話す」を媒介として、文字言語による表現行為を理解するとともに、表現活動に関する基本的な事項を習得する。日本語による表現活動に不可欠の知識や技能を広く深く習得させる。表現(作文)の指導過程を具体的に習得させ表現力を定着させる。相手や目的に応じて表現する能力や思想、心情を文種によって、文章構成を創意工夫し文章をまとめる表現力を培う。すぐれた文章表現や作品に接して、自己表現に役立てる文章力を高める。

学類共通専門教育科目　社会科学系科目

授業科目名	講義等の内容
経営統計学	入門レベルの統計学について講義をする。統計学とはデータから分析対象の状態を記述したり、一部の標本から全体像を探ったり、自分のたてた仮説を検証したりする学問である。主にテキストに従って進め、学んだことを実際のデータを使って応用できるようにコンピュータセッションも行う。
観光学概論	本講義では、観光学を学ぶために必要となる基礎的な知識の理解と習得を目指す。観光は多様で複合的な人間行動であり、その産業は様々な業種から構成される裾野の広い複合産業である。世界各地においても多様な観光資源が、多種多様な旅行者を惹きつけてやまない。本講義では、(1)観光学基礎の理解、(2)観光旅行者の視点、(3)観光デスティネーションの視点、(4)その他観光を取り巻く環境について理解を深めることとする。とりわけ、沖縄においてはその立地条件や自然資源により観光を学ぶ適地であるので、適宜、沖縄の事例を通して観光産業について修学する。
地域研究方法論	地域研究は、確固たる理論および方法論を持った学問分野としては未だ確立されていない。むしろ、既存の一分野だけでは分析が困難な多領域にまたがる問題群を、「地域」をキーワードに多角的、包括的に見ようとする学際的試みといえる。本講義では、地域研究(area studies)誕生の歴史的経緯と変遷を学ぶとともに、「地域」を研究することの現代的意義を考えていく。また、具体的な研究例の紹介とレポート作成を通して、ひとつの学問分野や理論に捉われない多角的視点から対象地域を研究するための素地を養う。
社会調査法	この授業科目は、現地調査やアンケート調査によって科学的データを収集し、分析し、意思決定する技術を身につけることを目的とする。具体例をまじえて調査計画、調査票作成、対象者の選定、実施に至るまでのプロセスについて受講者の参画を積極的に求め、社会調査の基礎と実際について理解を深める。
経営情報論	現代の企業は厳しい競争環境の中で生き残りをかけた戦略を展開しており、経営情報システムはますます重要になってきている。企業や組織においては、急速に進歩している情報技術やインターネットの活用を行い、競争の優位性を達成することが重要な課題になってきている。当講義では経営情報論の基礎理論から入り、経営情報システムについて学習し、さらにインターネットによるビジネスや、最新の情報技術についても学習する。
地域社会論	現在、在日韓国・朝鮮人は約 70 万人に達する日本における最大のマイノリティ集団である。当該社会は世代交替の課程で固有のエスニック・マーカーの衰退と、マジョリティ社会への適応の度合いを深めている。本講義では、在日の歴史を基調とし、特に若者世代のアイデンティティの現状にスポットをあてる。
社会心理学	この授業科目では、同調行動や援助行動などの著名な社会心理学的研究の成果を「道具的適応」という観点から捉え直し、なぜ人間の心に「社会性」が備わっているのか、その必然性について論証する。また、専門用語および研究方法についても具体例をまじえて解説し、社会心理学の現状と課題を学ぶ。

学類共通専門教育科目　自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
コンピュータ概論	本講義では、主にコンピュータそのものに焦点を当てて、情報システムにおける、コンピュータのハードウェアや周辺機器、OS、ソフトウェア等の仕組みや概念を理解する。
情報処理論	コンピュータ概論にて学んだコンピュータの基礎知識を基に、情報処理技術者としての知識を得るべく、情報処理全般の社会との関わりについて学習する。具体的には、情報システムの評価・運用と管理、社会における情報システムの考察、企業の業務知識とシステム化の啓蒙、情報ネットワークの種々の視点からの活用法などを学ぶ。
情報化社会論	情報化社会で仕事をするには、専門的な情報技術だけでなく利用者目線、業務、ビジネス、技術者倫理といった情報の社会的な側面についての知識も不可欠である。本講義では、「データ・情報・知識をどのように処理、管理したら良いか」という視点に立ち、広い分野ではあるが基本的な概念を学習する。
自然保護論	いまや自然環境の保護・保全、生物多様性の保全及び持続可能な利用を図ることが国際的に重要視されている。これは、人間の活動がいかに自然環境を改変し、資源を消費し、廃棄物を放出してきたかを示すものである。本講義では、自然の実体についての理解を深め、自然保護について議論していく。主に沖縄の事例を示し、地域の自然、現状等の理解を深めることも目的とする。
沖縄の天然記念物	生物を含めた貴重な自然物には、天然記念物として法的に保護されているものが多い。沖縄では、自然の構成要素の多様さやユニークさから、特色ある生物や生物群集および地質・地形が少なくないが、島の面積が小さい割には国内他地域に比較して数多くの天然記念物が指定されている。それらの天然記念物を学ぶことは、「おきなわ」を理解する有効な方法の一つである。この講義では、沖縄の天然記念物を主たる対象として詳しく学習すると共に、その現状と課題を考察し、発展的で有効な活用と保護について共に考えたい。
島嶼環境論	主として自然地理学、地形学、地質学、水文学、気象学等の観点から島嶼環境の特徴を概説する。その上で、島嶼における人間活動との相互作用と、それによって生じる環境上の諸問題について講義する。これらを通じて、島嶼地域における望ましい人間と環境とのあり方について解説する。
情報と職業	本講義では、情報化社会において主体的に参画することができるような人材を育成することを目標とする。すなわち、社会人として自らの職業を考えるにあたり、情報と職業の関わり方、職業倫理の一環としての情報モラル等を包括した健全な職業観や勤労観を育成する。なお、「情報」の教員免許取得予定者は必須の講義である。

学類共通専門教育科目　学際・統合系科目

授業科目名	講義等の内容
国際学群特別講義	国際社会で活躍している研究者や実務家を広く学内外から招聘し、学際的な研究事例、最新の社会動向などについて紹介する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化系基礎演習	国際文化専攻への進学を希望する学生を対象としたガイダンス科目である。演習の前半は、各教員が専門領域について解説するオムニバス講義とし、中南米地域、アジア地域（東アジア・東南アジア）、沖縄、日本の 4 地域とそれらを越えた領域としての国際協力についての紹介を行う。それを踏まえ、後半は各教員の仮ゼミに分かれて「グローバル／ローカル」という共通テーマのもとで、国際社会や地域に関する文献の収集・精読を行う。この演習を通して、国際文化専攻で扱う領域についての基礎的な理解を目指すと共に、ゼミ活動を行う上での研究姿勢を身につける。
語学教育系基礎演習	語学教育専攻の教育内容を詳しく学生に理解してもらうための専攻のガイダンス的な講義である。英語教員、日本語教師の各コースに関する大学での講義内容や実習内容、年次ごとの履修モデル、就職先や進学先などを説明する。留学生との交流、卒業生を招き、就職体験や進路決定の様子などを聞く。さらに、各担当教員ごとで各領域の特色を生かしたコース学習を行い、成果を発表会で披露する。
経営系基礎演習	経営専攻の履修希望学生向けた前専門的演習科目である。問題指向的なマネジメントを行えるマインドとスキルの重要性を理解してもらうために、地域の活性化やリーディング産業等をテーマに、ゼミ形式で演習を行い、その学習成果を発表して共有する。本演習によって、学生は多様化・多次元化するマネジメントの様相を理解し、自らの適性・興味を考慮した専攻選択の機会を得る。
情報システムズ系基礎演習	我々のまわりには様々な情報システムがある。これらの情報システムは我々が生活していく上で必要不可欠なものとなっている。今後もさらに新しいシステムが造られ生活の中に取り入れられることであろう。情報システムズ系基礎演習では、コンピュータを利用した演習を取り入れ、このようなシステム全体についての基礎を学ぶ。
診療情報管理系基礎演習	診療情報管理系基礎演習では、文献を深く読み、診療情報管理の基礎となる日本の医療制度の現状と課題を理解する。実際の地域の医療現場をフィールドとして課題の設定、解決策の立案、解決策の実行と検証を通した問題解決学習を通して、自ら感じ、考えたことを、他者に頻繁に言語化（文章化、プレゼン）し、他者が感じ、考えたことを、傾聴し、質問し、理解をし、自らの考えを修正する。グループワークを通して、チームワークが重要であることを理解し身につける。

授業科目名	講義等の内容
観光産業系基礎演習	観光産業専攻を選択したいと考えている学生のためのガイダンス科目となっている。当専攻は観光政策・ビジネス、環境・エコツーリズム、観光文化の３つのコースが設定されている。各コースのカリキュラムの特色、科目の内容、及び育成する人材像等について専任教員が持ち回りで講義する。その上で、課題レポートを作成し、観光産業の現状と課題について理解を深め、3 年次から始まる専攻科目に対応できるよう、基本的な姿勢と学習方法について学ぶ。
国際文化専門演習 I	演習指導教員のもと、国際文化系学問の研究領域に関する文献・資料を検索・講読しながら実証的研究の手法を修得する。さらに収集した文献・資料を批判的に読み解き、理論・仮説を組み立てる方法を修得して、各自の専門研究領域を選択する。
経営情報専門演習 I	演習指導教員のもと、経営情報研究領域に関する文献・資料を検索・講読しながら実証的研究の手法を修得する。さらに収集した文献・資料を批判的に読み解き、理論・仮説を組み立てる方法を修得して、各自の専門研究領域を選択する。
観光産業専門演習 I	各研究室の研究分野に沿ったテーマに関する文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。
国際文化専門演習 II	国際文化に関する先行研究や理論を体系的に収集・理解・整理し、専門研究領域における自己の問題意識の位置づけを明確にする。さらに指導教員・ゼミ仲間とのディスカッションを通じて、自己の論理構成に飛躍や矛盾がないかチェックしながら卒業研究のテーマを設定する。
経営情報専門演習 II	経営情報に関する先行研究や理論を体系的に収集・理解・整理し、専門研究領域における自己の問題意識の位置づけを明確にする。さらに指導教員・ゼミ仲間とのディスカッションを通じて、自己の論理構成に飛躍や矛盾がないかチェックしながら卒業研究のテーマを設定する。
観光産業専門演習 II	各研究室の研究分野に沿ったテーマに関する文献講読やフィールドワークにより専門的知識を修得するとともに、報告書を作成するスキルを身に付け、次年度の卒業研究のテーマを検討する。
国際文化専門演習 III	各自の設定した研究テーマおよび研究計画を専門領域ごとに発表しあい、研究の目的・独自性・倫理性・手法の妥当性・実証性などの観点から相互に検討した上で、卒業研究の成果物（卒業論文／卒業制作）の作成に着手する。
経営情報専門演習 III	各自の設定した研究テーマおよび研究計画を専門領域ごとに発表しあい、研究の目的・独自性・倫理性・手法の妥当性・実証性などの観点から相互に検討した上で、実証データの収集やプログラムの制作などに着手する。
観光産業専門演習 III	各研究室の研究分野に沿った卒業研究テーマを決定し、卒業研究のための資料収集、フィールド調査、論理の組み立て方、文章の書き方などについて学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
国際文化専門演習Ⅳ	収集した資料の分析結果をまとめ、中間報告を行う。資料の不備や分析・考察の妥当性などを検討し、必要に応じて修正を加えた後、卒業研究の成果物(卒業論文／卒業制作)を完成させ、最終報告を行う。
経営情報専門演習Ⅳ	収集した資料・データの分析結果を、まとめ中間報告を行う。資料の不備や分析・考察の妥当性などを検討し、必要に応じて修正を加えた後、卒業研究の成果物(卒業論文)を完成させ、最終報告を行う。
観光産業専門演習Ⅳ	演習Ⅰ～Ⅲで習得した理論と実践能力に基づき、各研究室の研究分野に沿ったテーマの卒業研究を実施する。中間発表と最終発表を行い、研究成果を論文化する。学生が主体的に研究活動を行い、進捗状況の確認と結果に関する議論を授業時間に行う。

専攻専門教育科目　人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
漢文講読	漢文の基礎的な知識を身につけることを目的としている。基本的な漢文の訓読法を学ぶ。実際に中国古典の原典を訓読して、同時にその思想的意義を考える。＜講義形態＞前半は基本的な訓読法の実例を挙げて説明する。また同様に日本人が「訓読法」を発見して以来、中国の古典、又は外交文章である所謂「漢文」を理解することが如何に便利になったかを実際「白文」と較べることにより訓読の価値を確認したい。＜目標＞代表的な故事成語の出典を教材に訓読の訓練を重ねる。
書写・書道概論	書写は、正しく整えて書くという日常的機能性の上に立ち、書道は、美しく書くという芸術的表現性の上に立っている。しかも、書写における正しく整えて書くということは、美的な表現の一要素である。文字としての正しさも構成の上での端正さも書道の表現美の観点から重要なことであるという点で、書写と書道は深く関係し合っている。この書写と書道との関係に留意して、包括的な内容及び書道における「表現と鑑賞」に関する基本的な内容について講義する。
中級英語リスニング	イングリッシュ・コミュニケーションの教材よりさらに上のレベルの英語を聴く。徐々にコンテクストや視覚教材などに頼らないで、推測能力を伸ばし聴き取れるようにする。短い単位の英語音声はある程度理解できるレベルを目指す。音声の理解の他に、語彙力もリスニング活動を通して増やすことを目的とする。言語の機能に応じたシラバスに従って、簡易な日常会話や状況別の対話や説明を理解できることを目標とする。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
中級オーラル コミュニケーション	オーラルコミュニケーションは口頭による意思伝達である。従って「聞く、話す」という２技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上をその目的とする。中級ではまず英語に対する苦手意識や抵抗感をできるだけ低くすることにより英語を話す自信をつけ、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わいながらその目的達成を目指す。
中級英語講読	広範囲なトピックについて英語で読む機会を数多く提供し、幅広い語彙力、表現力を身につけさせる。又、関連する身近な教材で、その内容を広げ、深めていく。そのため、クラスでは読むだけでなく、それに伴う語彙力を日常英語表現から養成する活動や、その内容について英語や日本語で討論したり、自分の意見を書いたり発表させたりする機会を与え、受信の技能だけでなく発信の技能も養成する。読解の技法としては、準中級での Phrase Reading、Paragraph Reading に加え、Scanning、Skimming の技術も身につける。
中級英作文	このクラスでは、受講生は様々な形式の英語のパラグラフを書く訓練を行い、最終的には説得力のある意見を含むパラグラフが書けるようにする。英文法力を向上、洗練させ、構成、つながり・まとまり、形式に注意しながらパラグラフを書く訓練を行う。最後に、受講生は何回かのクリエイティブ・ライティングのプロジェクトを通して、より自信を持ち、創造的に英語が書けるようになる。

授業科目名	講義等の内容
比較芸術論	全ての文化は、その社会の構成員の全経験を表現する媒介として、芸術を使用している。この講義は場所や時空を越えて、様々な文化に存在する芸術に対する、受講生の感性を育むことを目的としている。授業では、各文化圏の相違点は勿論の事、異なる芸術様式の特徴やそれらの相互関係も検証している。さらに、それらの文化圏に於ける社会的、宗教的、さらには経済的な関わりが、いかにその時々の思想や芸術に影響を与えたかも考察していく。この授業は時代や地域構成で進行して行くのではなく、主題や概念で構成されて行く。
比較宗教論	世界に行われている宗教を比較することで、それぞれの特質を明らかにする。比較する方法を解説するのではなく、ある問題について各々の宗教がどのように教説を述べているかを比較し、具体的な知識として提示するものである。ユダヤ教、イスラーム、ヒンドゥー教など日本人にはあまりなじみがないにもかかわらず、世界的には大きな影響力をもっている宗教については、とくに詳しくその特質を解説する。
言語と文学	「ことば」を研究するということはどういうことか。本講義は、「ことば」のなかでも言語学と文学を研究対象とする教員によるオムニバス形式の講義である。この講義では、「ことば」を専門に勉強をしていくために必要と思われる知識や技法を身につける。またこうした研究の最新の動向を伝えるものともなる。「ことば」を学ぶ基礎的な訓練をしていくことを目指す。
比較思想論	人間の社会を理解するために思想の理解はきわめて重要である。人間生活をめぐるさまざまな問題について、古来人間はどのように考え、「思想」として体系化してきたのか。どのような考えがどのような背景から生れ、対立したのか。現代の我々が真理だと思っている概念についても、それが一つの思想にすぎないことなど、広範に説明してみたい。
日本の歴史	日本は、中国や朝鮮との交流を早くから持ち、これらの国から多くの知識や文化を学んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では東アジアの国々との関係を知ることが重要である。本講義では、古文書・古記録の読解を通して、日本の政治史の展開を対外関係史との関連から考える。
英米文化概論Ⅰ	英国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献購読、討論や発表を用いながら学習する。時代は、主に、１７世紀からの初期の英国の歴史、１８世紀、１９世紀のビクトリア朝の歴史、２０世紀からの現在までを焦点化する。さらに現在の社会や経済問題やEU、移民などの問題についても学習を発展させる。
英米文化概論Ⅱ	米国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献購読、討論や発表を用いながら学習する。主に、植民地時代、独立革命、１９世紀の南北戦争、ベトナム戦争、冷戦、現代の世界的経済危機、テロとの戦い、人権運動などのテーマを扱う。学生の関心がある米国のテーマについて、理解が深められるような授業形態を工夫する講義を行う。

授業科目名	講義等の内容
異文化 コミュニケーション論	学生は外国や文化を、英語を用いて学習する。学生は興味のある国を選択して国について事実、位置や地理、首都、人口、産物、言語、宗教、気候、貨幣、歴史、料理、旅行名所などを調べ、英語で口頭発表する。学生は発表を聞いて、評価用紙に記入し、発表のあとにコメントや質問などを交わす。その後に外国人にインタビューをさせ、その結果を英語で発表させる。発表では、同様に評価用紙に記入する。
沖縄地域文化論	奄美から八重山までのいわゆる琉球文化圏には、たとえば古謡・三線民謡といった音楽文化、八月踊りやシヌグ・ウシデークといった民俗芸能文化、琉球語とも称される方言文化、宮古・八重山上布、ミンサー織といった染織文化などが根付いている。これらの民俗・文化事象について、現地実習沖縄コースやゼミフィールドワークなど、実際に現地を訪問して得た資料や写真画像を具体的事例として紹介しながら概説する。
島嶼文化論	地球上で我々人間は様々な場所で様々な生を営みながら、多様な社会や文化、歴史などを育んできている。本講義は我々が生み出している文化の多様性に着目し、その地域的特性を示しつつ、各典型例の比較対照を行うものである。特に、我々と密接に関わりのある生活文化に関する映像資料などをも駆使しながら、沖縄を足がかりに日本(本土)、韓国、中国、東南アジアなど、様々な地域に生きる人々の文化を紐解いていき、文化の多様性の認識と異文化への理解を深めていくのが講義の最大の目標である。
観光文化論	観光は今や地球規模の巨大現象であり、その経済的効果は莫大なものである。また、その影響力は新たな文化の創造という局面にまで及んでいる。本講義では、観光を生み出す仕方、観光によって作り出される文化、観光が当該社会に与える社会的・文化的影響など、観光と文化との関係を多角的な観点から考察する。
比較映像文化論	今日では、映画とビデオは最も強力な伝達手段と考えられている。 映像は、演劇とデザイン、言語と文学、さらに、音楽等の他芸術領域をも連結する媒体でもある。世界の異なる国々の重要かつ代表的な映画を通して、多様な社会やその文化を紹介する。映画鑑賞後の授業での討論や分析を通して異文化を理解することがこの講義の内容である。
言語学概論 I	言語学の基本概念を概説し、研究対象として見る「ことば」に関する諸現象を考察する。まず、ヒトがなぜ言語を使えるのか、という根本的な問題を取り上げる第 1 言語獲得理論の基本概念を考察する。更に、日本語と英語の比較も考慮し、発声のメカニズムを探る音声学、イントネーション、アクセント、音調などを扱う音韻論を概説する。次に単語が成り立つ仕組みである語形成・形態論を取り上げる。最後に、英語、あるいは日本語を中心として世界の言語の構造を分析する研究分野である統語論の基本概念を解説する。

授業科目名	講義等の内容
言語学概論Ⅱ	言語学概論Ⅰに引き続き、人間だけが使いこなせる「ことば」を研究分野として考察していく。まず、意味論を概観する。意味とは語の意味、文章の意味の両方を指す。単語の意味の変遷の歴史とその法則、can、may などの法助動詞の意味と用法、現在、過去時制、完了相、進行相などを扱う。次に、言語運用の法則としての語用論を概説する。具体的には、言外の意味、含意、前提など、表面に現れない意味、あるいは意図などを扱う。次に、言語使用の具体的場面を扱う社会言語学を解説する。具体的には、使用場面、年齢、性別による言語使用の差異を考察する。最後に、第 2 言語習得論を概観する。
日本語学概論	日本語学概論というのは、日本語を研究するに当たって、その研究分野を概説するのが普通である。たとえば、音韻、文法、語彙、文字、方言と標準語、などの研究分野について説明するという形をとる。後期という短期間でそれらをさっと概説するという方法もあろうが、それでは具体性に欠けて、よくわからないということも起こってくる。そこでこの講義では、前期の「日本の言語」の講義をさらに発展させる形で進めていき、名詞、代名詞、動詞、形容詞などの用法を新たな視点から捉え直しながら述べていく過程で、具体的に日本語学の研究分野についても理解せしめていく。そのほうが理解しやすい。
南島歌謡	南島歌謡とは、いわゆる琉球文化圏で生まれ伝承されてきたオモロをはじめとする呪詞・歌謡（おまじないや神歌・琉歌など）をさす。本講義では、奄美・沖縄・宮古・八重山諸島から、それぞれの地域に特徴的な呪詞・歌謡を取り上げて鑑賞する。なお、代表的南島歌謡の一つである琉歌に慣れ親しんでもらう為、講義前半に琉歌を紹介・概説し、講義後半では琉球カルタ（琉歌版百人一首）を実施する。
日本言語史	日本語の歴史を前期だけで見ていくのは無理である。前期後期を通しての開講が望ましいが、さしあたって前期だけの開講となれば、出発点となる上代(奈良時代)の言葉及び中古(平安時代)言葉を重視し、そこに力点を置いて講義する。基点をしっかり理解した後で、順次、中世へと進んで、日本語の変化の流れが捉えられるようにしたい。中世まで見ればある程度現代語の成立は見えてくる。そして中央語の変化の流れの中で現代方言の性格もわかるように、わかりやすく論じていく。
中南米の言語と文化	中南米を理解するには、その自然環境のほか、先住民の歴史、言語、文化さらに同地域に深く浸透しているヨーロッパ文化、とりわけスペイン・ポルトガルの歴史・言語文化を知る必要がある。中南米には 33 の国があるが、本講義ではイベロアメリカ地域を中心に、国別では日本とかかわりの深い国々を優先して学習する。ちなみに海外でもっとも多くの日本人・日系人が在住し活躍しているのは南米大陸である。

授業科目名	講義等の内容
英語音声学	この講義は主に、将来英語教師を志望する学生を対象としている。学生に単語レベルあるいは文レベルでアメリカ発音を練習させる。文節的な要素(子音や母音、さらに超文節的な要素(強勢、高さ、イントネーション、長さ)で、より英語でより自然な強勢やリズムを修得できるようにする。より自然な発音ができる様に、十分に調音音声学を学習する。講義の内容は、minimal pair の比較、英語のピッチ、リズム、イントネーションによる意味や感情表現の違い、リエゾン、音声の弱化、音声の同化などを学習する。
英文法	英語で書かれた英文法のテキストのワークブックを使って英文法の要点を解説し、より自信を持って英語を使えるようになるために必要な英語力、文法力を養成する。授業では、指名により問題を解いていくことが中心となるが、なぜその答えになるのかを考え、英語の規則を「暗記する」のではなく、「理解する」ことを目指す。また、毎回の授業の最後にコメントシートを配布し、受講生は理解不足な点を記入する。それを次回の授業で取り上げ、理解できない点が残らないよう配慮する。
イギリス文学	このクラスでは、中世、ルネッサンス期、ロマン主義、近代という各時代におけるイギリス文学の代表的な作品を読む。更に、叙事詩、叙情詩、演劇、小説のような英語で書かれる文学のジャンルについても学ぶ。最後に、英語でのクリエイティブ・ライティングの基本を学び、自分自身の文学作品を英語で書くことも試みる。
沖縄の文学	本講義は、沖縄で書かれた文学・沖縄を描いた文学について学ぶものである。明治以降沖縄県出身作家によって書かれた作品及び日本の作家によって作品化された沖縄像について、紹介しながら概説し鑑賞する。その際、作品世界の背景や、作品が発表された同時代社会の動きに目を配ることに重きを置く。
準高等英語リスニング	中級のリスニングの講義を修了した学生が受講する。リスニング活動を通して 1 分間に聴解できる語数(WPM)を増やし、視覚的な支援などに頼らず理解できる様にする。背景知識を利用し、自然な速度で話されているニュースや会議、講義等を note-taking ができるようにする。1 年次と同様に学生のレベルに応じた graded-listening を行う。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
準高等オーラル コミュニケーション	中級同様、「聞く、話す」の 2 技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上をその目的とする。英語によるコミュニケーションの楽しさを共有しつつ、準高等においては中級よりも話す内容をレベルアップさせると共により正確な情報伝達を目指す。例えば英語によるプレゼンテーションなどを導入し発信力を磨く。
準高等英語講読	授業を前半と後半に分け、前半は日本語とは異なる「英語の構造」を理解し、英語の読み方を学ぶ。内容を把握しつつ、速読する訓練を行う。英字新聞、雑誌の記事などを教材としてとりあげる。後半は研究対象としての英語、あるいは言語、言語学に関するテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味、関心を養い、言語現象に対する理解を深める。

授業科目名	講義等の内容
準高等英作文	このクラスでは、受講生は記述的・説明的、叙述的エッセイを含む様々なジャンルのエッセイを書く訓練を行う。また、文単位での英文法、基本的な修辞的技法、エッセイの構成法に関する技術を向上させる。最後に、学期全体に及ぶクリエイティブ・ライティングのプロジェクトを通して、英語における滑らかさ・流暢さを身につけ、自信を深める。
高等英語リスニング	日常生活で用いられている英語をナチュラルスピードで理解する。映画等の視覚的な補助を用い、反復して視聴することにより、理解を促進する。所用時間の短い談話やニュース、説明の理解から、所用時間の長い談話の理解ができるようにする。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
高等オーラル コミュニケーション	準高等オーラルコミュニケーションが前提科目となる。その目的は中級、準高等同様「聞く、話す」の２技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とする。しかしながら高等においては、準高等におけるプレゼンテーションなどの単なる個人の情報伝達にとどまらず、ディスカッションなどグループ内における意見発表などによりさらに高度で柔軟性のある「聞く、話す」の技能向上を目指す。
高等英語講読	準高等英語講読に続き、授業を前半と後半に分け、前半は英語の読み方を学ぶ。英語の速読力を身に着けることを目指し、新聞あるいは雑誌などの記事、エッセイ、を読み、内容を把握する訓練を行うと同時に、語彙力も養成する。後半は研究対象としての英語、あるいは言語全般を扱うテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味を養い、言語現象に対する理解を深める。
高等英作文	このクラスでは、「準高等英作文」で身に着けたエッセイ・ライティングの能力を更に向上させる。学期末までには、主張、論拠、根拠をもとに議論するための英語の書き方を学ぶ。更に、上級レベルのクラスでリサーチ・ペーパーを書くための準備も行う。受講生は英文法力を更に磨き、更なる自信・説得力を持って英語を書く方法を学ぶ。
観光実用英語Ⅰ	観光業界の現場で必要とされる英語運用能力について教授し指導する。講義では主として聴解力と英語による意思伝達能力を養成することを目標に掲げて指導を行う。受講生には、あらかじめ各単元で扱う必須の語彙や表現に関して状況に即した事例を示して理解を深めさせ、それを足がかりにして聴解力と意思伝達能力の向上を促す応用練習を継続して課す。
観光実用英語Ⅱ	先行する観光実用英語Ⅰと教授内容において連続性を共有する。但し、本講義の各単元で扱う語彙や表現、またそれらに連動する種々の応用練習の項目は、観光実用英語Ⅰで扱う内容と重複するものではない。講義を進めるにあたっては、随時一口メモのコーナーを設け、英語と日本語の本来的相違点に言及し、受講生に注意を喚起させる。この試みは先行する観光実用英語Ⅰでも同様に実施する。

授業科目名	講義等の内容
ビジュアル コミュニケーション入門	歴史上使用されてきた視覚伝達手段の様々な媒介を紹介・分析し、そして、私たちの生活に密着した身の回りの物から、ビジュアルコミュニケーションの具体的な例を探し出し、サイン、シンボル、ロゴ、ビルボード、ポスター、ミウラル、そしてテレビのコマーシャルに到るまでの視覚的伝達手段を学習していく。さらに、受講生は、バランス、リズム、ハーモニー、そして反復というような様々な視覚的イメージの基礎技法も実習を通して習得していく、ニューメディアの学校教育現場における実用化の可能性についても探求していく。
沖縄の社会	本講義は、琉球・沖縄社会の成立およびその構成要素について理解を深めること、また県内各種試験やご当地検定等で沖縄に関する基本的事項について答えられる力を身につけることを目的とする。講義では琉球・沖縄における地域社会の成立について時代毎に論じ、琉球・沖縄社会を理解する上で重要な琉球方言やグスク（城）、ウタキ（拝所）、オモロ（神歌）、エイサー、組踊、沖縄ソバなどといった文化要素についても概説する。
アジアの宗教	東南アジアに行なわれている宗教について、歴史、教義、経典、宗教生活、国家との関係など、多面的に解説する。宗教は世界中のほとんどの人間にとって当然の存在であり、日々の生活の指針として機能している。宗教について基本的なことを認識しないで外国を理解することは不可能である。本講座では基本的な知識を確実に獲得することを最大の目的として講義していきたい。
国際文化特別講義Ⅰ	国際文化専攻に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅱ	国際文化専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、自国の文化や異文化への理解を深めるための講義を提供する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
語学教育特別講義Ⅰ	語学教育専攻に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
語学教育特別講義Ⅱ	語学教育専攻に関わる専門研究領域の実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
日本史史料講読	史料とは歴史研究の素材となるもののことで、文書、遺物、伝承、建築など様々なものを含む。この講義では、それら史料のうち、古文書、古記録（日記など）、絵図などを主にとりあげる。史料の読解を通して、歴史を暗記するのではなく、歴史を考える楽しみを知ってもらいたい。なお、史料の読解に必要な漢文の読み方についても、若干の解説を行う。

授業科目名	講義等の内容
観光実用韓国語	この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた韓国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。
観光実用中国語	この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた中国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。
中南米の歴史	33 カ国あるラテンアメリカ諸国は、500 年もの間様々な文化が出会い、そこから固有の文明が生まれてきた。コロンブス以前と以後に大きく時代を分け、コロンブス以前のメソアメリカ地域のアステカ、マヤなどの古代文明や南米のインカ文明にまず焦点を当てる。続いてコロンブス以後の植民地時代から 19 世の独立、共和国時代を経て現代へ至るまでを通史的に考察する。また、新大陸到達から形成されてきたラテンアメリカと称される地域の歴史的発展過程について授業を進める。
日本古典文学史	上代から近世までの文学の展開や変化、ジャンルの特徴を捉える。また、背景となる歴史の流れ、社会や文化の構造を視野に入れながら、各時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代・時期に生きた人びとの思想・精神文化を読み解く。
日本近代文学史	日本の社会構造が「近代」に移り変わって以降の文学の変遷をみる。いわゆる幕末から現代に至る 150 年を対象とし、背景となる歴史の流れや、日本社会・文化の構造まで視野に入れながら、代表的な作家を例示しつつ講義を行う。文学作品を通じて、その時代・時期に生きた人々の思想・精神文化を読み解いていくことを目的とする。
日本古典文学概論	〝男と女〟あるいは〝笑い〟をキーワードに中世文学における随筆や説話等の代表的作品を鑑賞する。その際、前後の時代、すなわち中古と近世における関連作品も取り上げ、それぞれのジャンルの諸相をおさえつつ、中世文学の特質の一端を読み取る。
日本近代文学概論	明治から平成までにわたって日本近現代文学における代表的な作品を鑑賞し、その後、対象となる作品、作家について発表及び意見交換を行ってもらう。「小説」を「研究」することとは、「小説」がどのような背景をもって書かれたかを探ることである。また、そのアプローチは隣接する他学問領域の知識を必要とする。その大まかな作業の流れを知る講義となる。

授業科目名	講義等の内容
日本の社会	日本社会の特徴について考える際、「イエ」に注目することは重要である。この講義では、日本のイエ（家）制度の痕跡を追いつつ、日本社会の構造の一面を論じる。制度として「イエ」はなくなったものの、意識においては今日尚根強く機能している。イエ制度を持たなかった沖縄社会との比較を通じて、今日の様々な社会現象の根幹について論じていく。
日本の宗教	日本に現在行われている宗教・信仰について概観する。それぞれの宗教がどのように生じて、どのような内容の下、どのようなものを生み出してきたのか、またそれぞれがどのように関連しあっているのかについて、とくに民俗学的・宗教社会学的立場から解説する。
移民と異文化	現在、在外日系人は約 250 万人、そのうち 30 万人は沖縄県系人である。日本移民が移民国において異文化と接触しながら生活してきた経緯を説明し、移民と日本・沖縄とのかかわりについて理解を深める。移民を送り出した日本社会の歴史的背景、移民と異文化理解に関する用語、基礎的概念を説明し、現在のグローバリゼーションの中で日本・沖縄が果たす役割の意義を理解する。
中南米の社会	ラテンアメリカ地域は、一般に思われているような人種平等の世界ではなく、かといって人種抗争、民族紛争が激しく顕在化している地域でもない。そこで、この地域の住民の価値観や行動原理が、経済や政治の発展を規定する大きな要因であることは言うまでもない。また、政治生活や経済生活を通じて形成されてきた社会体系を捉えることも重要な課題である。中南米地域の人種関係や民族関係の特徴から中南米地域社会に見られる様々な社会組織(共同体、集団、群集)の定義、構造や機能を概観し、その特性について考究する。
地域文化演習	地域文化演習は、3 年の 8 月・9 月に約 2 週間前後の日程で実施される「現地実習」(4 単位)の事前授業として位置付けられる科目である。従って、当該地域にある国々の地域研究や、職業分野に関する基礎的知識を学ぶ。加えて、研修でのリスク・マネージメントも取り入れて講義する。
現地実習	3 年次夏季休暇の 8 月・9 月を利用して、約 2 週間前後の日程で沖縄コース、日本コース、アジアコース（東アジアコース、東南アジアコース）、中南米コース（ポルトガル語圏コース、スペイン語圏コース）、英語圏コース、教育支援コース、国際協力コースにわかれ、それぞれのプログラムによる集中講義などを含めた実習を行う。各地域や職業分野について座学だけでは学ぶことができない実体験を通じての理解を深く身につけることができる。国内・国外の各コースで得られる新たな刺激と学びに加えて、中南米やアジアなどでは沖縄県人会との文化交流会が用意されていることも本研修の特色である。
アジアの言語	アジア諸国と日本は、数千年間前から現在に至るまで、広く関係を持ち続けている。アジアに行なわれている言語について、とくに東南アジアを中心にその類型や実態、社会での意味や国家との関係などを、広範に解説する。言語は文化事象の基礎であり、民族意識の根源でもある。外国の諸地域理解には避けてとおれない事象であるので、ぜひ正確な理解をのぞみたい。

授業科目名	講義等の内容
英語学概論	研究対象としてとらえる英語という言語を扱う研究分野である「英語学」に関する概説書を読み、様々な英語に関する現象に興味を持ち、その現象を分析する能力を養う。具体的には、まずブリテン島の歴史から始まる英語の歴史を概観し、日本語と比較した上での英語の音声、あるいは音韻に関する音声学・音韻論を概説する。次に英単語の成り立ちに関する規則を扱う語形成・形態論を取り上げる。次に、英語学の中核をなす、英語の構造についての規則を扱う統語論を詳述する。次に単語、あるいは文章の意味、法助動詞の意味用法などを扱う意味論を概説する。その後、1 文だけでなく、談話をも含めた状況、あるいは話者の意図、含意、表面に現れない意味を分析する語用論を取り上げる。
アメリカ文学	ネイティブ・アメリカンの伝統的文学から現代の文学の中で、アメリカの伝統から生じる様々なスタイルの文学作品を読み、それらについて自分の意見を書く。特に、今までと異なる、それ故に相争う観点からアメリカ人としてのアイデンティティを確立することを試みた作家に焦点を当てる。講義、クラス内のディスカッションでは、アメリカ文学、アメリカ英語にも触れる。
アジアの文学	アジア地域の文学の発展について、主に東アジア地域に焦点を当て、近代から現代にいたるまでの文学史を紹介する。作家や文学作品だけでなく、各時代の文学潮流の形成に影響を及ぼした事件や時代的背景など、多角的方面から東アジアの文学について学ぶ。
アジアの歴史	先史時代から 20 世紀までのアジアについて、特に東南アジアを中心に歴史叙述をする。単なる事実の羅列ではなく、なぜ、その事件が起こったのかという歴史の内的な動きについて理解を図る。また、一つの事件の結果、どのような力がその後の世界に働いて、現在に至るまでの歴史を形成してきたのかという点にも力を入れて講義をする。
アジアの文化	アジアの文化について、特に日本を含めた東アジア域内の文化の交流、伝播、発展の諸相について概観する。食文化、服飾文化、家族文化、移民文化などのテーマから、日本、中国、台湾、朝鮮半島が持つ文化の違いだけでなく、歴史的にも相互に影響を与えあい融合してきたことからくる共通点も知ることで、文化という側面からわれわれが有するアジア的なつながりについて学んでいく。
通訳技法	通訳者養成において使用されるシャドーイング、ディクテーション、クイックリスポンス、パラフレージング、サマライゼーション、リテンション、サイトトランスレーションなどの技術を学び、それらの技術を駆使して英語力を養成する。その英語力を使い、さらに英語から日本語、日本語から英語への逐次通訳や同時通訳の練習を行う。上級者レベルの英語力のさらなる向上を図るとともに、ひいては日本語力の向上にも役立つ授業とする。授業は、それぞれの通訳技術に適した教材を使用し、グループ活動、ペア活動、個人活動などの形態で進める。簡単な英語のニュースを逐次通訳したり、クラスメートのスピーチを同時通訳するなどの活動を行う。

授業科目名	講義等の内容
外書講読	外国語で記された文献等を用いて、各専門領域における理論や事例等を学ぶ。併せて、専門用語や言い回し等を学びながら、各専門領域の理解を深める。本講義は、読解力の向上よりも、各専門領域に関する知識の拡充並びに理解を深めることを目指すものである。また、本講義の受講に関しては、外国語で各専門領域に関する書物等を精読することになるため、予習並びに復習が不可欠である。
小学校英語教育教授論	小学校での英語教授の基礎となる教授法や、児童発達心理学、カリキュラムなどを学習する。教授法では児童への英語学習に有効な理解能力中心のＴＰＲ等の教授法、コミュニケーションを中心とした教授法、オーディオディンガルを改良した指導法等を学ぶ。児童心理学では、ピアジェを始め、代表的な児童発達心理学を学び、年齢に応じた有効な指導法を学ぶ。さらに児童の発達段階に応じた有効な指導方法と指導内容を盛り込んだカリキュラム作成の基本を学ぶ。具体的な指導技術や教材作りなどは「小学校英語教育実践研究」の中で、学習する。
職業指導Ⅰ	本講義では、生徒への職業指導を行うにあたって役立つ知識と実践技術の修得を目的とする。生徒自身が「進路を想像する力」を発揮できるような教師の支援について学ぶとともに、キャリア教育についても考えていく。
職業指導Ⅱ	「職業指導Ⅰ」で学ぶ職業指導の理論、社会の動きの捉え方、実践技術(指導における教師の姿勢)、そしてキャリア教育のあり方について整理しつつ、学校現場で求められる職業指導、キャリア教育を自ら考え、体系的に組み立て、指導内容や方法をカリキュラムに反映させ、実行可能性について考えていく。
日本語教授法	日本語教授法についてのおおまかな知識を知り、実践する。前半では、教授法についての基礎知識(日本語教師の責任範囲、配慮すべきこと、コースデザインの方法等)を学ぶ。また、効果的に教えるための方法としてさまざまな教授法について、その変遷も含めて学ぶ。後半では、市販されている日本語教科書、日本語教育に関する副教材やウェブサイトについての知識を得、学習者に合わせてより適切な教材を選択できるようになる力を養う。
ディベート	ディベートとは何かという定義から始まり、その用語や表現を学び、論題を決定し、リサーチを行い、スピーチ原稿を仕上げ、最終的に英語によるディベートの試合を行う。目標はディベートを実際に経験することにより、そのプロセスにおいて、論題決定の際には社会問題に対する意識を深め、リサーチでは英語のリーディング力や情報収集能力をつけ、原稿書きでは論理力やライティング力、ディベート本番ではリスニング力やスピーキング力と、様々な力を養成することにある。つまり、ディベートによって、上級者レベルの英語力を総合的に向上させることにある。
現代日本語論	言葉の基本的な働きとはなにか、言葉の特性とはどういうものなのか、コミュニケーションの構造とはどうなっているかなど、言葉に関する基本的なことについて学ぶ。それを土台に、日本語の表現上の特色及びその表現に深くかかわる助詞、とりわけ重要な働きをする助詞「が」「は」「の」の表現などについて学ぶ。この講義を通して日本語の表現構造について深く理解せしめたい。

授業科目名	講義等の内容
日本近代文学論	明治以降、現在に至るまでの日本近・現代文学に描かれた「救い」について捉え直す。作家が宗教思想をどのように受容しているのか、またその思想をどのように作品化しているのかを把握する。そのために宗教を描く特徴を有するいくつかの小説作品を読むことになる。なかでも本講義ではその中心に遠藤周作の代表作『沈黙』と『深い河』を据え、この二作品をじっくり読むことで、文学における「救い」の変遷を見る。
日本古典文学論	『平家物語』全十三巻を一巻ごとに読み解く。『平家物語』は「治承・寿永の争乱」いわゆる源平合戦を主な舞台として、平家の滅びを主題としながら、さまざまな物語が織り込まれている。構想、人物形象、表現、諸本の異同、時代背景(政治・思想)などの問題に関わる先行研究の成果をできるだけ数多く取り上げながら、各巻の内容を精読する。また、古典文学研究に必要な基礎的知識の習得を図る。
中南米の民俗	民俗または民衆文化は、中南米地域を理解する上で重要なテーマである。テレビドラマやプロレスなど、一見すると研究するに値しないと思われるような日常の中の社会事象、文化事象の中に表出する当該地域の歴史、政治、経済、宗教、思想、アイデンティティなど、その背景を読み解いていく。
英語リサーチ・ ライティング	本講義は英語による研究論文執筆の方法や一般的な様式について話し合う。学生は研究の題目を提案し、研究を実施し、5～7 ページの研究論文を書く。英語での論述の過程について学習し、研究における引用や引用の要約の効果的な方法を学習する。このコースは、学生が卒業論文を英語で執筆し、卒業するための事前の講義である。
日本語教育実践演習	前置授業である「日本語教授法」で学んだ「日本語教育」に関する基本的な知識を土台にしながら、種々の日本語教授法と指導法について具体的に論じる。初級と中・上級、さらには「会話・聴解・読解・作文」のいわゆる４技能の指導に関する理論と実践が主な内容になる。また、カリキュラム構築とコース・デザインの方法についても論じる。

専攻専門教育科目　社会科学系科目

授業科目名	講義等の内容
民法と市民生活	私たちが普段何気なく過ごしている日常生活において存在する民法に関わる諸事象(商品の売買・アパートの賃貸借等の契約関係、家族制度、不法行為等)を主たる素材としながら、民法のしくみや基本原理(例えば、法的人格(権利能力)平等の原則、私的自治の原則、契約自由の原則、過失責任の原則等)について学習する。特に“法”を意識しているわけでもない普段の日常生活において、何気なく民法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話して、民法に対する関心や市民としての法的責任感を涵養していく。
簿記原理	複式簿記は会社経理に携わる人々はもちろん、経営者、職業会計人、企業アナリストに必須の知識であり、また今日の情報化社会に生きる我々の素養とさえなっている。このような社会的要請に応えるために、複式簿記の基本的知識と技能を習得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算処理、財務諸表作成までの一連の流れを学習する。
上級簿記	多様な利害関係者を有し、複雑な取引が多くみられる株式会社を対象とした複式簿記の知識と技法を習得することを目的とする。株式会社の仕組みや取引について簿記を通して理解するとともに、株式会社が公表する財務諸表を理解し、将来、株主、債権者、経営者などの立場で企業分析を行う際の基礎知識を養うことを目標とする。
経営学総論	目まぐるしく変化する今日の経済・社会と、企業の活動や私たちの日常生活との関係は、切っても切れない関係にある。ゆえに、企業の活動を理解することは、私たちの生活や社会、そして経済を理解することにつながる。企業という特定の領域を対象とする経営学の基礎知識を十分理解することを目的に進めていく。
ミクロ経済学	ミクロ経済学は、家計や企業が有限な資源や所得をどのように利用すれば、利益や幸福感を最大化できるかを学ぶ意思決定理論である。企業間では消費者の所得を得ようと激しい競争が行われているが、この授業で企業が競争に勝つための戦略の基礎を学ぶ。
マクロ経済学	マクロ経済学は、一国経済および一国経済と世界経済という枠組みで、国内総生産(GDP)がどのように決定されるのか、労働、資本などが過不足なく用いられる仕組み、およびマクロ経済における消費や投資の役割、政府の役割、外国貿易の役割、経済成長の意味、経済変動を学ぶ。
観光産業特別講義Ⅰ	観光産業専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
観光産業特別講義Ⅱ	観光産業専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。

授業科目名	講義等の内容
観光学総論	観光学の分野は、経済・経営・社会・歴史・自然・環境・文化・交通・都市計画・健康など様々な分野から構成される非常に範囲の広い学際的な学問分野である。本講義は、観光学概論の発展科目として観光学の基礎についての理解を深めることを目的とする。本講義では、まず、観光学の体系、方法論を総論的に学ぶ。その後、各論として観光産業専攻教員の研究分野をもとに、観光へのアプローチについてオムニバス講義の形態で提供する。
地誌学	地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握・記述し、各事象の複雑な関係性の中から地域特性を理解する学問である。この講義では日本の自然的、人文・社会的諸特性を概観したあと、各地域の自然や歴史、文化、風土、観光を地図や図表、写真等を多用し説明する。
レジャー・ レクリエーション論	現代社会においてレジャー・レクリエーション活動は、国民生活の重要な課題になってきている。本授業では、レジャー・レクリエーションの重要性について理解し、労働とレジャー、観光との関係について検討する。また、レジャー・レクリエーションの成立の背景と現代的意義、機能について習得する。さらに、国内外のレジャー・レクリエーション産業と活動の現状を紹介し、レジャー・レクリエーションの未来と課題について具体的に考察する。
観光関連法規	観光産業は様々な業種・業態から成る複合体であり、その範囲は広く、関連する法律や規則等も多岐に渡る。本講義においては、観光の分野における代表的な法律・規則・条令等について考える。併せて、規範・規制的な側面を有する法律と計画性を有する法律の差異や法律と観光振興の関係について考えると共に、法律や規則の果たす役割について学ぶ。
会社法	本講義では、会社法の基本的構造、基本判例及び学説等の基本的知識を確実に理解することを一義的な目的とし、加えて最先端のトピックスについても適宜とりあげつつ、実践的な思考力を涵養する。基本的に教科書・レジュメに沿って基本的知識をおさえつつ、判例集掲載のケースの検討・考察を行うことによって会社法の全体構造の修得を図る。また会社法全体の基礎的な知識を修得した後、実践的な問題についても取り組み、さらなる思考力の涵養も図りたい。会社法は初学者にとって難解と感じられる傾向がある。しかし、基本的知識をいったん修得すれば、その誤解も解ける。会社法のおもしろさを実感してほしい。
行政法	現代福祉国家において、市民生活に対する国家の行政的介入が増大している今日では、多種多様な行政活動に関する法分野の基礎知識を習得する重要性はますます高まっている。本科目では、主として沖縄県庁や市役所・町村役場における身近な行政活動を素材としながら、行政「組織」法・行政「作用」法・行政「救済」法という、行政法に関する基礎知識をなるべく分かり易くお話しする予定である。また、規制緩和、公務員制度改革、郵政民営化、市町村合併等に見られる近年のわが国の行財政改革等にも可能な限り触れていきたい。

授業科目名	講義等の内容
西欧経済史	15～16 世紀以降現代にいたる欧米諸国の経済発展についてみていく。その場合、なぜある国はいち早く近代産業社会への離陸をなしとげ、またある国はそれに遅れをとったのかについて考える。本講義では、特に「富の源泉」、イノベーション、近代化、産業化をキーワードに欧米諸国の経済を比較史的に検討する。
財政学	財政は、財産のない政府の貨幣活動である。中央政府と地方政府は、集めた税金＝貨幣を用い、国民の生活に不可欠な道路、橋、港湾などの公共施設の建設から、教育、医療や社会保障などの福祉運営を行っている。財政学は、政府の貨幣活動を、財政の仕組み、税の意味、税の徴収と経済への影響などを学ぶ。
沖縄観光	本講義は、沖縄観光の現状と問題点、課題について、マーケットの現状、観光消費が沖縄経済に波及する効果、沖縄観光の受入体制の推移、沖縄観光を取り巻く全国的な旅行市場の動向、観光地の動向等の解説を加えながら、その把握手法について講義する。
観光行動論	力動的な人間行動全般の中で観光という行動のメカニズムを理解する。特に、本講義では人間行動としての観光行動を行動科学的側面から構造を把握することを目的としている。内容としては、観光者心理、観光者の消費行動、観光者の空間体験や異文化体験、交通行動、情報行動等である。また関連する諸学問分野としては心理学・統計学・消費者行動論等の基礎知識を理解する。
流通論	生産から消費までの流通過程における基本的原理を理解する事を目的とする。生産と消費の懸隔として、空間的、時間的懸隔があげられる。この懸隔にどのように流通が関わり、解消しているのかを具体的事例をあげながら、考察する。とくに、学生の関心の高い小売業を中心に講義をすすめる。
観光開発論Ⅰ	本講義では、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。観光開発の目的を社会的更生の最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。「観光開発Ⅱ」および「観光政策論」において扱う事例や観光開発の計画評価に必要な方法論を理解するための基礎とする。
マーケティング論	マーケティングとは企業や非営利組織がおこなう対市場活動である。まずマーケティングの基本原理やマッカーシーの 4P(Product、 Price、 Place、Promotion)理論を説明し、企業が我々消費者に対しおこなっている活動を理解する。さらに、サービス経済化やグローバル化など、現代企業が抱える独自の問題にも焦点をあてていく。
観光調査法	近年、観光調査やホスピタリティ研究の分野において、統計学的データ解析は行動や構造を把握するために重要なツールになってきた。そこで本講義は、観光関連データの解析のために必要な諸分析技法の基礎知識を理解する。特に、統計上の理論よりも、むしろ利用方法に慣れることを目的とする。

授業科目名	講義等の内容
観光交通論	本講義は 2 年次以上の学生を対象として、観光交通の理論および観光地における交通の役割を体系的に学ぶ。観光および交通地理や交通手段の発達が観光地に与える影響、観光客と地域住民の領域が重複する観光地における交通の計画づくりなどについて学ぶことで、観光交通に関する理解を深める。
中小企業論	わが国の企業数の大半を占めるのが、中小企業である。この中小企業は多くの人々にとって働く場であり、中小規模という特性から人々の自己実現の場（起業）でもある。この起業の場としての注目度は、いわゆるベンチャー起業家らの活躍によりかなり高くなっている一方で、中小企業が抱える問題はかなり深刻なものとなっている。目まぐるしく進化する ICT 技術やグローバルに展開される企業競争によって、競争激化の様相となっている。本講義では、この中小企業のこれまでと今後について、理論的かつ様々な角度から実態を把握することで、理解を深めていく。
原価計算	簿記原理（商業簿記）を履修した学生を対象に、その応用として製造業において必須となった工業簿記及び原価計算の知識と技法を修得することを目的とする。
経営組織論	組織とは、ある目的を持った人々の協働体系であるが、現代の経済社会において重要な役割を果たすその組織について、存在意義や構造、特有の問題などについて学ぶ。なかでも特に企業組織の構造と特性、そして組織内部の過程（組織と構成員との関係や意思決定の流れ）、さらに組織と経営環境や経営戦略とのかかわりについて、いくつかの組織理論を事例研究と照らし合わせながら実態的に学んでいく。
経営戦略論	企業において競合他社との競争は、自らの企業の存続・成長・発展を左右するほど重要なものであると考えられる。そこで、企業における競争の戦略、成長の戦略とは何か、また戦略を考えていく上で企業が考えなければならない環境とは何か、などについて講義を行う。
会計学原理	簿記原理において日々の取引の会計処理から財務諸表の作成方法までを修得した学生に対して、財務諸表利用者、すなわち株主・債権者・経営者、そして就職先を探す学生の立場から財務諸表の読み方を学ぶ。また、企業活動のグローバル化を背景に、会計基準がグローバル化する現状も取り上げる。
イベント事業論	観光客誘客の手段として、イベントが果たす役割について学ぶ。併せて、イベントを開催するためのコンセプトの明確化、イベントの計画、準備・実施・運営方法について学ぶと共にイベントのもたらす影響について考える。本講義では知識を学ぶだけではなく、実際にイベントに参加し、対象として観察・分析することが要求される。

授業科目名	講義等の内容
エコツーリズムⅠ	エコツーリズム(Ecotourism)は Ecology(生態学)と Tourism(観光)を組み合わせた造語で、1980 年代ごろから使われ始めた比較的新しい観光の一形態を示す概念である。これが起こってきた背景には、環境破壊への批判と地球環境問題への関心の高まりがある。エコツーリズムは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。本講義では、エコツーリズムの基本的な概念、例えば、地域住民や行政、事業者・観光客の関わり方及び持続可能性等や経緯、地域の取組み等に対しての理解を深めることを目的として行われる。
国際機構論	国際連合は第二次大戦後、再び世界大戦を起こさない目的で創設された国際機構である。グローバル時代の今日、国際機構の役割について学ぶ意義は大きい。国際機構が誕生した歴史的環境、組織の内容と機能、課題と改革案などについて学ぶ。特に日本の安全保障理事会常任理事国入りなど国際社会における日本の役割も取り扱う。
ホスピタリティ概論	わが国でもさまざまな方面で広がりを見せているホスピタリティについて、その基本概念を学ぶ。歴史、サービスとの違い、三大宗教との関連などについて考察を加えつつ、なぜこれほどまでにホスピタリティという言葉が好まれ多く用いられるようになったのか、その理由も解明する。さらに発展させて、ホスピタブルな人材の育成についても論じる。
観光事業論	2 年次生を対象として、観光事業の考え方を体系的に学ぶ。観光学概論によって、観光の基礎的な知識を習得した学生に対して、これからの専門的な各分野への橋渡し的な講義として、観光学を体系的に整理し、それぞれの専門的分野の概観を詳述する。受講生が観光に関する専門的講義に慣れるとともに、これから学ぶ観光学の全体像を把握し、観光開発や観光政策の基礎を理解することなどが講義の目的となる。
国際経済論	国際経済学は、2 国間で輸出入が行われる理由、自由貿易のメリット、為替レートや国際通貨が輸出入に与える影響、国際的な貿易政策の現状と課題を歴史、制度、理論と実際から学び、私たちの生活と国際社会が貿易を通じてどのようなつながりがあるのかを経済的視点から理解する科目である。
金融論	金融論は、経済の血液と言われる貨幣の流れの仕組みを学ぶ。金融論では、貨幣と経済の関係、物々交換と貨幣経済の比較、貨幣と黒字・赤字主体、貨幣と金融機関、金融機関の役割と金融市場、金融市場と金融商品、貨幣の動きと実体経済の動き、貨幣の発行の仕組みと影響、中央銀行の役割、金融とインフレ・デフレ、金融政策、金融の新しい動きを学ぶ。
ベンチャービジネス	経済の活性化、経済発展をもたらす原動力としてベンチャービジネスの創造とその鍵となる起業家活動に、大きな期待がよせられている。もともとはスモールビジネスに原点があり、その主要な担い手は地域企業である。このような新しいビジネスの仕組みについて学ぶ。
経営特別講義Ⅰ	経営専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を学ぶ。なお、開講年によっては、講義テーマや講師が異なる場合がある。

授業科目名	講義等の内容
経営特別講義Ⅱ	グループワークやフィールドワークを通じて、自ら課題を発見し、解決する力を養成する。なお、開講年によっては、グループワークやフィールドワークのテーマやアプローチが異なる場合がある。
観光地理学	観光地理学は、観光資源が存在する地域を対象として、観光活動が行われる地域の構造や成立過程の解明が主たるテーマとなる。「観光地」をひとつの地域として捉えれば、そこに観光資源が分布し、開発の沿革や観光産業の発達過程と立地、地域の歴史や生活、文化などとの関わりなどの観光地域論的アプローチが可能となる。 本講義では、観光資源の分布を概説し、歴史的な観点からの観光地域の形成過程や観光産業の立地に関する理論を説明する。具体的には、日本各地の観光地の事例を取り扱う。観光地理学的な考察、地域特性や変容から読み取る観光地の方向性などの議論まで高めたい。
観光産業論	観光産業の現状と全般的な課題、個別観光産業の特性や問題点等を学習する。観光産業は、観光に関わる個別産業の総称であり、その事業内容や特性は各産業により大きく異なっている。本講義においては、まず観光産業を構成する個別産業（交通、宿泊、旅行、イベント、アトラクションなど）の活動実態を概観したうえで、これら産業に共通する企業経営上の重要課題やトピックスについて学習を進める。
経営管理論	経営管理論は経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報に関する分野を網羅し統括する管理論である。すなわち、ヒトに関して①人的資源管理論、モノは②生産管理論、カネについては③財務管理論、そして情報は④経営情報管理論という具合に 4 つの分野を中心に学んでいき、それらの総合的な視点で企業経営を経営管理するとはどういうことなのかを考えて行く。本講義では、4 つの視点から企業経営における特質と問題点を把握し、自分なりの解決策が提示できるよう深く考えることが求められる。
問題解決の心理学	情報化社会の進展とともに、迅速で正確な意思決定を迫られる場面が増える一方で、氾濫する情報の中から適切な情報を選択し、関連づけ、創造的なアイディアを練り上げることが求められるようになってきた。様々な問題解決場面における個人の思考プロセス、さらに集団による意思決定のダイナミックスを検討する。また効果的な問題の整理・解決の技法等についても学習する。
旅行業経営論	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義では、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験科目である旅行業法令、旅行業約款、国内旅行実務を学ぶ。
旅行業法と約款	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義は、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験直前のこの集中講義では、練習問題や過去問題を行い、合格のためのテクニックを身につける。

授業科目名	講義等の内容
人的資源管理論	本講義では、4つの経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）のうち、ヒトにポイントを絞って、理論だけでなく現代的トピックも織り交ぜながら学ぶ。具体的には理論編として、人間モデル、組織行動、キャリア開発、人材育成、人事評価、労使関係などを学び、現代的トピック編として、多様化する雇用問題を女性労働、非正規雇用、在宅勤務、ワーク・ライフ・バランスなどの視点から学んでいく。
地方自治論	地方分権の流れとともに地方自治体をめぐる出来事をメディアで取り上げることが多くなっている。「地方自治の実践は民主主義の最良の学校」とも言われるが、現代日本においてはどのように実践されているのだろうか。本授業では、地方自治の仕組みについて説明するとともに、地方自治体において争点となっている具体的な案件を紹介する。授業中には、理解の促進のため、授業で紹介した案件について受講生によるディスカッションも行う。
国際関係論	本講義は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国の国際関係を考察する。アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際情勢を、政治外交、経済協力、地域機構、民主化、社会変動、領土問題、安全保障といった多角的な視点より考察する。
国際政治論	過去３０年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをともなった相互接続(Globalization)」が顕著となってきている。本講義では、Globalization をキーワードに国際政治の動向と問題点を、実例や理論を通して深く考察する。
市場調査論	市場調査論（マーケティング・リサーチ）は、企業戦略やマーケティング戦略における諸問題を識別、把握、解決するために必要な情報を探索・収集して分析する手法の一つである。この講義では、市場調査の基本概念から、データ収集方法、分析手法、そして報告書の作成について学ぶことを目的とする。
情報系インターンシップⅠ	将来情報系分野の社会人として働くことの意味、組織のしくみや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、県内外の情報系企業の実践現場にて学ぶ。実社会を体験し、望ましい勤労観や実務能力を身につける。実習前に計画書を作成し、インターンシップ終了後、報告書の作成および報告会を行い、ふりかえりと情報の共有を行う。
病院実務Ⅰ	病院実務Ⅰでは、学生が地域における医療コミュニティの現場を体験する。具体的には、病院・診療所等で医療提供者サイドに立ち、案内、受付等の患者支援活動を行う。患者は医療情報の出発点であり帰結点ともなる存在であるが、その前に当然ながら一人の人間である。地域の患者と接しながら、医療提供者の一人として患者に貢献する喜びを実感し、病院における業務について興味、関心、学習意欲を高める。

授業科目名	講義等の内容
日米関係論	本講義は、戦後日本が諸外国と構築した二国間関係の中で最重要と位置づけられるアメリカとの関係（日米関係）を考察する。近年、東アジア地域の国際環境は劇的な変容をとげている。それに呼応するように、日本の外交・安全保障政策の基軸である「日米関係」も大きく変化してきている。本講義では、歴史、沖縄、同盟をキーワードに戦後の「日米関係」を包括的に分析する。また、ロシアや中国を含む周辺諸国が日米関係をどのように見ているのかを解説する。
アメリカ政治外交論	相対的な国力低下が指摘されて久しいが、今日においてもアメリカ合衆国はなお政治、経済、外交、軍事、エネルギー、科学、文化など多くの領域において世界をリードしている。この超大国をどう理解し、どう係わっていくべきかという問題は、日本の繁栄や安全保障、中でも特に多くの米軍基地を抱える私たち沖縄社会の平和と繁栄の将来を構想する上で、欠くことのできない重要な課題となっている。本講義では、建国から現代までのアメリカ合衆国の政治と外交を、いくつかの政策例を紹介しながら時系列的に考察する。特に、外交の基層部分をなす理念や思想を意識することで、アメリカの政治と外交の特徴や性質を明らかにしていきたい。
交通産業論	本講義は 3 年次以上の学生を対象として、交通産業における理論および観光に関する交通産業の役割を体系的に学ぶ。主に、航空産業および陸上交通産業を中心に解説し、観光における交通産業の役割と重要性に関する理解を深める。まとめとして地域における交通の役割を詳述し、これからの交通産業のあり方を考える。
経済政策	経済政策は、私達の生活にとって望ましい社会の実現、例えば安全・安心した老後、市場の失敗の緩和や除去、例えば、失業、インフレーションやデフレーションの防止などを行うために経済のどこが悪いのかの診断を行い、実践までの道筋を提供する学問である。本講義では、経済学等の理論を基礎に理想的社会の実現に向けてのプロセスと民主主義社会に生きる私たちのあるべき姿を学ぶ。
観光政策論	本講義は、観光学を学ぶ最後の総まとめとして、今まで学習した内容や、キャンパス内外で経験した内容を整理しながら、観光政策について学ぶ。観光政策は、観光の供給、需要の両面から、地域がめざす将来像(ビジョン)に向かっていくためのシナリオを作成する作業である。本講義では、観光政策の考え方と方法について、政策科学と観光学を基礎として理論と事例によって学習をすすめていく。
地域経済学	これまで日本は、キャッチアップ型経済の中で国土利用とか、産業の最適配置という問題を国民経済の視点から考えてきた。しかし、経済のグローバル化、高度情報化(IT 革命)の急速な進展に伴って中央集権的タテワリ行政システムの見直し、地域住民のニーズ、地域の経済自立のための施策等、地域からの視点(「地方の時代」)がより重要になってきている。本講義では地域の経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、経済学の基本的概念、理論を用いて地域経済について考えていく。

授業科目名	講義等の内容
観光経済学	観光は経済学、経営学、マーケティング論、ホテル・レストラン経営論、交通論、社会学等と多かれ少なかれ関わっており、極めて学際的な研究領域である。本講義においては観光を経済学的視点から、経済学の基本的概念、理論を用いて複雑な観光現象を分析し解明する事を試みる。
観光開発論Ⅱ	観光事業論および観光開発論Ⅰで学んだ観光開発の概念や仕組み、地域に与える影響などを基礎として観光開発および観光振興の計画評価に必要な方法論を解説する。観光振興の目的や方向性、戦略などを解説し、日本国内を中心とした観光振興の先進的な地域を事例として取り上げ、理論と実践、現実の意味連関を論じる。
ホテル計画論	ホテルづくりの基礎理論を「夢のホテル、マイプラン作成」のグループワークを通して具体的に履修する。レストランやブチィックなどの事業計画にも幅広く応用される理論であり、起業を志す学生にも受講を奨励する。
グローバル・ビジネス論	近年、企業の活動の拠点として、市場の対象（販売先）あるいは供給先として「海外」が注目されていることは周知の事実となっている。このような行動は大企業だけのものではなく、中小規模の企業においても盛んに取り組まれているのが現状である。そこで企業における「海外」活動つまりグローバルなビジネスとは、どのような意味があり、どのような効果をもたらすのかについて学んでいく。
産業情報論	産業界では次々と革新される情報技術を用いて、積極的に改革を進めている。本講義では最新の情報技術を用いた情報システム化の動向を学習する。特にインターネットを中心とする情報ネットワーク化の飛躍的な発展に伴うオフィスや業務の形態に関しても学習する。
ホスピタリティ マーケティング論	この講義では、1・2 年次に学んだ観光学概論や経営学のマーケティングに関する基礎知識をふまえ、観光産業やホスピタリティ産業の経営全般について、その現代マーケティング理論がどのような役割と関連性を持っているのかについて概論的に理解する。週に 2 回連続授業を行う。
経営分析論	複式簿記の基本的知識と技能を修得した学生を対象に、企業の経営活動の良否の判断に役立つ経営分析の手法を学ぶ。具体的には、企業が公表する財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を用いて、安全性・収益性・成長性・生産性の分析を行う
ホテル実務	ホテル業は観光ホスピタリティ産業の中核であり、そこに従事するホテリエは幅広い知識と教養に加え、専門的な実務能力を有していなければならない。そのための機会を提供すべく、沖縄県内の複数の著名ホテルと提携した。これら提携先ホテルにおいて基本実務を体験的に学び、最終的にレポートにまとめる。
海外インターンシップ	海外の企業などで一定期間研修を行うことにより、国際感覚と語学力を養い、ビジネスマナーや職業意識を身に付けさせる。事前学習として海外研修のために必要な予備知識・能力を得るための授業を行なうとともに、国内企業での事前研修も実施する。なお、派遣学生は選考の上決定する。

授業科目名	講義等の内容
エコツーリズムⅡ	エコツーリズム(Ecotourism)は、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。基本的な概念については、「エコツーリズムⅠ」の中で述べてきた。本講義では、「エコツーリズムⅠ」の内容をより深め、現状(特に沖縄県の事例)の理解と体験を通して、より実態に近いエコツーリズムの理解を深めることを目的として行われる。
ホテル経営論	ホテルの経営のなかでも、特に人的資源管理に焦点をあてその基礎理論を学ぶ。研究対象は国際級ホテルとする。導入として、国際級ホテルの魅力や特性について事例を挙げて考察する。その際、ホテルの国際的かつ客観的評価にも触れる。そして、国際級ホテルの人的資源管理、なかでも、有為な人材の採用、配属・異動、能力開発のための教育訓練について論じる。
国際コンベンション ビジネス	コンベンションビジネスとは何か、コンベンションビジネスが立脚するために必要な要素や昨今話題に上る MICE、観光産業との関係、コンベンションビジネスによる地域への波及効果について本講義を通して学習する。また、国内外の事例などを通して、地域におけるコンベンションビジネスについて考える。
ホスピタリティ マネジメント論	ホスピタリティ関連企業における経営の基礎理論を学ぶ。導入として、研究対象であるホスピタリティ関連企業の特性について考察する。また、今日では一般企業や各種団体などの経営（運営）においてもホスピタリティが重要視されているが、その現状や課題などについて事例を挙げて論じる。
観光資源論	観光資源の概要を解説し、観光地における資源マネジメントの理論を説明する。具体的には、世界または全国的な観光資源の事例を取り扱い、観光資源に関する文化および歴史的な背景と特徴を概観し、まちづくりや観光振興における活用方法を考察する。
アジアの政治と社会	アジアにおける社会的、政治的問題に焦点を当て、近現代アジア、特に東アジアの社会と政治にみられる共通する特徴と同時に、それぞれの国が抱える個別の問題についても理解を深めることを目的とする。主要テーマは、東アジアにおける統治の構造と民族、支配と被支配、国際環境と国内政治などを中心に、国別に時系列で検討していく。
組織心理学	産業・組織場面における人間行動について、心理学的な観点から分析・考察することを目標とする。具体的には職業適性、キャリア発達と人材開発、職場内の対人行動や仕事への動機づけなど、産業・組織心理学研究の知見を紹介する。また、組織デザインの観点から組織風土とリーダーシップについても取り上げ、効果的な組織運営について論じる。
対人コミュニケーション論	情報化社会においても対人コミュニケーションの重要性は変わらない。この授業科目では、他者の意見や行動を変え、他者の持つ印象を操作し、他者を欺き、他者と交渉し、他者とのうわさを楽しむといった対人コミュニケーション研究に焦点を当て、専門用語及び理論展開について論じる。

授業科目名	講義等の内容
チームマネジメントの心理学	この授業科目では、産業・組織心理学的観点からチームマネジメントについて検討する。社会人基礎力の主たる要素として強調されるようになった「チームで働く力」について、リーダーシップ、モチベーション、コンピテンシーなどの概念と結びつけながら具体的に考察していく。さらに実践を通して、チームマネジメントのための課題分析とリーダーシップの向上を目指す。
余暇社会学	この授業では、現代社会における余暇の意味と機能等を社会学的な観点から学ぶ。また、余暇と労働の関係、余暇の社会理論、近代、脱近代における余暇の意義について理解する。さらに、余暇と観光の関係、観光社会学について学習する。
地域マーケティング論	都市・地域再生やまちづくりについて、マーケティングの理論を援用しつつ、現状と課題、今後の取り組みについて理解することが本講義の大きな目的である。近年の人口減少と少子高齢化社会の中で、多くの都市や地域が活性化、再生、まちづくりというキーワードを掲げ、様々な取り組みにも関わらず疲弊する一途である一方で、活性化への活路を見出しているところもある。このような都市・地域が抱える問題や取り組みについて、理論と実践の両面より受講生の皆さんと一緒に考えていくことを目的とする。
観光関連実務	沖縄県の観光はその優位性からリーディング産業と位置付けられ、県経済発展に大きく貢献してきている。近年の入域観光客の増加によりリーディング産業としての役割はこれまで以上に大きくなっている。本県では数多くの観光振興策やリゾート開発プロジェクトが県全域において計画・運営されているが、この分野に関わる人材が量・質ともに不足しており、観光産業の振興をリードするスペシャリストの育成が急務となっている。本講義では、様々な観光関連企業等で長期間にわたる実務（実習）を通し、観光産業の発展に貢献できる人材育成をすることを目的として実施する。これにより、「理論」と「実践」を備えた、観光業界のニーズに対応できる学生を育成する。
情報系インターンシップⅡ	将来 IT を活用したビジネス分野の社会人として働くことの意味、組織のしくみや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、県内外の情報系企業の実践現場にて学ぶ。実際に当該業界で IT を活用したビジネス現場を体験し、望ましい勤労観や実務能力を身につける。実習前に計画書を作成し、インターンシップ終了後、報告書の作成および報告会を行い、ふりかえりと情報の共有を行う。
病院実務Ⅱ	病院実務Ⅱの目的は、学生が在学中に病院実習（病院実務Ⅲ）を行う前に、社会や病院・組織の実状を知り、仕事に対する興味、関心、学習意欲を高め、ビジネスマナーや職業意識を身につけることである。具体的には、業界研究、実習先研究、自己分析、履歴書作成などを行う。
病院実務Ⅲ	社会人として働くことの意味、組織の仕組みや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、病院実習を通して実践現場にて学ぶ。実習終了後、報告書の作成および報告会を行い、振り返りと情報共有を行う。

授業科目名	講義等の内容
観光産業系 インターンシップⅠ	観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。 本科目では 3 日以上のインターンシップが対象である。
観光産業系 インターンシップⅡ	観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。 本科目では 5 日以上のインターンシップが対象である。
観光心理学	観光者は、どのような動機に基づき何を求めて旅に出るのか、訪問先では何に対しどのよう感じるのか、旅の経験をどのように評価し、またその評価は次の旅行と関連しているのか、このような観光旅行者の心理について理解することは、観光という事象を理解する上で重要であるといえる。当科目では、観光現象を社会的な人間行動の形態として、その行動の理由や仕組みについて心理学的な側面から理解することを目的とする。具体的には、観光旅行の過程について取り上げ、旅行前、旅行準備段階、旅行中、旅行後の一連のプロセスについて理解を深めることを目指す。本科目については、講義形式での提供となる。

専攻専門教育科目　自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
プログラミング入門	演習を通じてプログラミングの基礎について学ぶ。実際にプログラムをつくりながら、プログラムが動くしくみ、プログラム開発の手順、統合開発環境の使い方について学習する。また、演習問題を通じて、変数の使い方、プログラムの 3 つの基本構造である「順次処理」「分岐処理」「繰り返し」について学習する。
コンピュータ・ グラフィックス	統合 3 次元 CG ソフトウェアを用い、コンピュータグラフィックスの演習を行う。具体的には、モデリングから、表面の設定(色、模様、反射の特徴など)、照明とアニメーションの設定までを含む。静止画や動画として出力する方法も学ぶ。
ウェブデザイン	ウェブページ作成に必要な様々な基礎知識と技法を学習し、ウェブページの作成を通して知識と技術の理解を深める。
ウェブグラフィックス	インターネット上に視覚的に魅力的なサイトを構築するために、ウェブグラフィックスに関する知識が重要である。本講義では、ウェブデザインに必要な様々なグラィックス技法を学習する。
診療情報管理論 I	患者が受診すると必ず診療録が作成され、診療の過程で発生した身体状況、病状、治療などに関する情報が記録される。近年、診療情報管理を適切に行うことが医療の質の向上につながることから、診療情報管理の重要性についての認識が高まってきている。そのため、診療情報に関する理解を深め、記録のあり方とそこから発生する情報の活用、管理体制や管理手法、診療情報管理業務を円滑に行うための組織づくりなどを学ぶ。
人体構造・機能及び 医療用語	原則として人体は、細胞とその間質と水分から構成されている。細胞は、役割ごとに集団を作り組織となる。組織が集まって器官(臓器)となり機能を発現する。器官、臓器がいかに他の臓器と連携し、人体としての営みに関わっているかを理解する。専門分野におけるコミュニケーションに対応して聴くためには、医療用語の知識が必要である。頻度の高い医療用語を修得し診療記録を適切に理解できることを目的とする。
医療概論及び臨床医学総論	＜医療概論＞医学と医療に関する歴史的変遷を知ったうえで、医の倫理に関して理解を深める。また、社会保障制度の原則と実態を知り、医療の社会的役割を総合的に理解する。 ＜臨床医学総論＞医学は人体の仕組みを明らかにし、健康を維持するための学問であり、基礎医学と臨床医学に分かれている。両者は渾然一体となって人間の病を癒し、生命を助けるという明確な目的を持った学問であることを学習する。
臨床医学各論 I (感染症･寄生虫症・新生物)	個々の感染症・寄生虫症についてその原因微生物、疫学、検査方法、治療についての知識を深め、各種診療記録の内容を理解することを目指す。 新生物は、身体すべての臓器・組織に発生する疾患として、全診療科で扱われる重要な疾患群である。わが国における主要な新生物を中心に、適切な国際疾病分類に結びつける基本的な知識を修得することを目的とする。

授業科目名	講義等の内容
医療管理総論	医療の成立における社会資源の必要性を理解し、「人的資源」「物的資源」「財的資源」「情報資源」を具体的に理解する。わが国の特徴的である医療保険制度を理解し、実務に対応するための知識を得る。後半では、病院管理・診療情報管理に求められる姿を理解し、医療サービスの提供に関する組織、運営の実態を理解し、診療情報の活用に関する考察を深めることを目的とする。
医療管理各論	わが国における社会保険制度としての医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度および診療報酬請求業務までを学ぶ。旧来の出来高請求から、診断群分類（DPC）を活用した包括評価請求業務全般を知り、診療情報管理の重要性への理解を深める。また、質の高い安全な医療を提供するためには医療安全と医療の質管理はきわめて重要であり、診療報酬請求制度におけるデータ活用は医療の質や経営の質および病院の将来を決定する計画策定のための重要な指標となることから、必要な基礎知識を深めつつ対応できる力を備える。
保健医療情報学	保健医療情報学とは、情報通信技術（Information and Communication Technology,ICT）の、保健医療分野への利活用を研究し応用するための学問である。診療情報の電子化がますます進み、医療機関内の情報化から地域医療の情報化へ、また医療のみならず、保健・介護・福祉分野間の ICT による情報的連携が実現しつつある中、ICT を活用して有効かつ的確に診療情報を管理・二次利用できる能力は重要である。ここでは、医療情報システムの実際、その標準化の動向、情報セキュリティ管理、個人情報保護の方法などについて学習することで、ICT を活用した的確な診療情報管理の重要性への理解を深める。
ゴルフⅠ	ゴルフの初級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を身につけるためテーマ別にレッスンを組み立てる。ゴルフのスコアメイクに最も重要な技術であるアプローチ方法のピッチ＆ラン(ピッチング)などの各種アプローチショット、グリーン上におけるパッティング(パター)、砂場から放つバンカーショットの技術習得に努めるとともに、スウィングの基本であるボディターンを身に付け、効率よいスウィングプレーンを習得する。
ゴルフⅡ	前学期に学んだゴルフⅠを踏まえたゴルフの中級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を復習・完成させるためにテーマ別にレッスンを組み立てる。ミドルアイアン(7 番)のショット、アプローチのテクニック、ランニングアプローチ、フェアウエーウッド、ドライバーにけるスウィングおよびショットの完成度を高め、目標に向け正確にショットできることを目指す。
スクーバダイビング	本講習はダイビングが初めてという人のための入門コースである。講習カリキュラムは、①学科講習、②限定水域実習(浅瀬での訓練)、③海洋実習(オープンウォーター)から構成されている。規定の講習を修了すると、PADI スクーバーダイバーの C カード(認定証)が取得できる。

授業科目名	講義等の内容
野外活動演習	近年、一人ひとりの個性を生かした豊かな人間性や創造性を育む教育の必要性、生きる力の涵養、それに伴う体験学習の充実が教育課題になっている。こうした課題に応える野外活動、特に組織キャンプについて学ぶ。授業内容は、理論と実技。理論ではキャンプの意義・目的、組織キャンプの組織・運営、指導者の役割、ルール・マナー、環境教育、安全管理等について学ぶ。実技面は、2 泊 3 日のキャンプ実習を通して、自然体験、野外生活技術を身につける。教育目標は、組織キャンプについての基礎的理解を基に、キャンプ実習では“為すことによって学ぶ”をモットーに自らの問題解決能力、野外生活技術を高める。
救急処置	生活の中での思わぬ事故・ケガ、または体育・スポーツ活動中の事故・ケガに対し、応急処置の知識があれば適切な対応が可能である。本講義は応急処置の基本から実践までを学ぶ。
データ処理入門	様々な分野においてデータを処理するスキルが求められている。この演習では、表計算ソフトを使用し、応用的なデータ処理方法を解説する。データの取り扱いや統計処理の考え方、データを処理し、理解しやすい表現にする方法を学習する。
地球の環境とその保全	地球規模や地域レベルの環境問題が深刻になり、いまや環境問題は各国や地方自治体の政策決定にも重要な影響を及ぼしつつある。いわゆる環境問題といわれるものは人間と環境との関わり方の問題であり、この問題の解決には人間が自然環境を理解し、如何にこれら環境に接していくかが重要である。本講義では自然環境を保全して行くにはどうすればよいのか考えて行く。
診療情報管理特別講義 I	診療情報管理専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
診療情報管理特別講義 II	診療情報管理専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
沖縄の植物と保護	1)琉球列島の自然環境の概要、2)植物分類学・生態学の基礎、3)琉球列島の維管束植物、4)沖縄県の植物の保護についての理解を深め、植物と人間の生活のかかわりについて考察する。
自然地理学概論	現在の地球はどのような歴史的変遷を経て成立してきたのか。地球の誕生からプレートテクトニクスによる大陸の離合集散、第四紀の氷河性海水準変動、自然環境と人類の関わり合いの歴史を通して学ぶ。自然環境の具体例として、日本列島の火山、山と川、森林などの「風景」が、どのようにしてできたのか理解する。また、自然環境の開発と保全、災害、資源利用など、自然と人間の関わり方について学ぶ。現在の沖縄の自然環境と、その開発・保全の問題についても考えていきたい。

授業科目名	講義等の内容
国際ネットワーク論	通信ネットワーク、インターネット・コミュニケーションの基礎を学び、それらが世の中でどのように利用されているかについて考察する。また、インターネットに接続するためのハードウェアやその設定、またインターネットの仕組みやセキュリティなどについて学ぶ。
ネットワークの構築と運用	実際的なネットワーク構築と管理をテーマとする。サーバ管理者として、基本 OS やアプリケーションのインストールを体験し、ユーザアカウント作成・管理、ネットワーク設定及びセキュリティ管理を行う。
プログラミング言語論	コンピュータでのプログラミング演習を行いながらプログラミングの方法やプログラミング言語を学んでいく。内容としては、プログラミング言語の基本、基本データ型と変数、演算、制御構造、配列、及びアプリケーションの仕組みと作成手順等について講義する。
上級プログラミング	プログラミングの経験者を対象に、プログラミングスキルを磨き、オブジェクト指向プログラミングの構築法とその応用について学習する。さらに、本格的なアプリケーションの開発を行う。
アルゴリズム論	問題解決の手順をアルゴリズムという。それぞれのアルゴリズムには個性があり、得意不得意がある。本講義では、基本的なアルゴリズムを学習しながら、より効率的なアルゴリズムについての理解を深める。
データベース概論	データベースとは、管理された情報の有機的集合をいう。但し、ただ単に情報の収集、蓄積をしただけではデータベースを構築した事にはならない。多次元での結合、意味付けされた組み合わせを行う工程が必要となる。この講義では、データベースの概念や仕組みを学習し、データベースを設計する事によって理解を深める。
データベース実践	本講義では、データベース概論を基本に、より実践に近いデータベース設計・構築方法を教授し、実際に SQL 言語を使用した演習を行い、リレーショナル・データベースの知識を深める。
ネットワーク技術 I	ネットワークの基本的な概念とテクノロジーをテーマとし、情報のデジタル表現、ネットワーク機器、データ通信プロトコルを学習する。
ネットワーク技術 II	ルーティングの理論と技術を学び、簡単な LAN を設計できるようにする。実際にルータを設定して確実なルーティングを行うにはどうしたらいいか、ネットワーク・プロトコルや経路制御プロトコルについて学び、ルータの基本的な設定と構成が分かるようにする。
ウェブコンテンツ実践	本講義は、WEB サイトの構造やデザインを記述する技術や方法を基礎から解説する。受講生は、WEB サイトのテーマや目的の設定の具体例を学び、模擬的な WEB サイトを構築しながら、WEB コンテンツ制作に関する知識と技術を習得する。

授業科目名	講義等の内容
臨床医学各論Ⅱ (血液･代謝･内分泌等、 精神・脳神経･感覚器系)	血液・造血器、栄養・代謝、内分泌系等の障害により、病態が全身に関わる疾病について重要な全身疾患として、基本的知識を習得する。精神・脳神経・感覚器系については、主として部位別、臓器別疾病分類となっている。各疾患についての概要を学び、診療記録の記載などを理解し、傷病名に繋げる知識の習得を目的とする。ここでは、神経系の疾患、眼、耳など感覚系疾患についても学ぶ。
臨床医学各論Ⅲ (呼吸器･循環器、消化器 ･泌尿器)	生命の維持に関わる呼吸器・循環器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な傷病名につなげる知識の修得を目指す。腹部に位置する消化器系および泌尿器系の疾病についても、その特徴、症状・所見、診断法、その概要を学び、適切な傷病名につなげる知識を修得する。
臨床医学各論Ⅳ (周産期系、皮膚・筋骨格系)	周産期に発生する病態について、その特徴、概要を学ぶ。また、“妊娠の成立”という現象で、母体の変化、胎児の発育、分娩までの基本を学び、周産期の障害、奇形、染色体異常などについて理解する。身体の形態、運動器官に関わる皮膚、骨、筋肉、関節等の疾病についての概要を学び、各種診療記録の記載を理解し、適切な傷病名につなげる知識を修得する。
診療情報管理論Ⅱ	従来の一般的な診療情報管理士の業務は、「医師や他の職種から発生する各患者の診療記録を集め法的なルールを守りつつ、一定の方式で整理し、必要なときに直ちに提供できるように管理する」ことが中心であり、実務としては診療記録の管理を診療情報管理室で行っていた。しかし、近年、診療情報管理業務が拡大し、また組織内の様々な部門での活躍が期待されるようになっている。ここでは診療情報管理士の関与が重視されている DPC 業務や医師事務作業補助者業務、がん登録業務等について、医療現場において求められる内容を学習する。
国際統計分類 I	国の将来の人口の動態事象を把握することは行政施策においてとても重要である。ここでは、まずわが国の人口動態統計の仕組みと意義を理解する。また、人口動態統計に用いられる国際疾病分類（ICD）の歴史と現状、関連する国際機能分類（ICF）などの国際統計分類群（ファミリー）に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。そして、わが国に導入されている DPC/PDPS 制度における ICD の利用について理解する。
空手	沖縄が発祥の地である空手道について、その歴史的背景と文化的背景を講義し、実技指導を通して実践的に空手道を学び学校教育の中でも指導できる能力を養成する。活力ある国際社会の形成者として時代の変化に対応し得る教育の方法を追求する。実技を通して健康の維持･増進や体力の向上を図る。講義と実技を併用して実施する旨、トレーニングウェアで参加する（空手道着が望ましい）。講義及び実技は体育館にて行う。(講義については必要に応じて資料配付)
スポーツ産業論	スポーツに親しむ人々の動機や目的も「健康志向」が目立ってきており、従来のスポーツ産業と健康産業がクロスオーバーする新たな「健康スポーツ産業」の領域が生まれた。スポーツ経営学を基盤にし、産業としての健康スポーツ施設経営の現状と課題について学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
ウェルネス概論	ヘルス・フォー・オールの理念を実現するために不可欠な 21 世紀の健康戦略としてのヘルスプロモーション・ウエルネスと PHC(Primary Health Care)について概説し、21 世紀に向けた健康社会実現への健康思想の構築を図る。また、沖縄県で全国に先駆けて行っているドルフィンセラピーについても解説する。ヘルスプロモーション・ウエルネスの理論を学び、健康社会構築のマネージメント力を身につける。
環境調査法	環境について様々な側面から理解するために用いられる測定・分析の方法と、それらの特徴・適用性について講義する。さらに、実習を通してこれら測定技術を身に付けるとともに環境を科学的に分析・記録・考察する姿勢を学習する。
情報システムズ特別講義Ⅰ	情報システムズ専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
情報システムズ特別講義Ⅱ	情報システムズ専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
医療統計学	この授業科目では、診療記録(カルテ)に含まれる医療の質に関わる情報、傷病名等、必要な医療情報から統計的方法による分類と要約、図表を用いた視覚化を学習するとともに、基本的な記述統計学及び推測統計学の用語ならびに仮説検定の方法を修得し、病院の統計資料について適切な解釈ができることをめざす。
環境アセスメント論Ⅰ	国内外における環境アセスメント制度の成立背景と経緯・趣旨を解説し、現行の制度とその意義、さらに運用の現状と今後の課題について講義する。
環境アセスメント論Ⅱ	環境アセスメント制度が立脚する環境関連法制度と、環境影響評価で用いられる基本的な環境測定および影響予測のための技術体系について、国内外における環境アセスメントの事例を参照しながら現状と今後の課題について解説する。
健康と長寿	健康な状態で長生きしたいということは多くの人々の共通の願いであり、これから生きていく上で重要な課題になっている。本講義では、健康と長寿に関する理解と現代社会における健康と長寿の重要性について検討する。また、健康長寿の秘訣を食文化、生活習慣、生き方等の観点から説明する。さらに、ヘルスツーリズム、ウェルネスツーリズム、メディカルツーリズムに関する知識を習得し、健康とツーリズムの関係について理解する。
自然観察指導法	自然観察を指導するインタープリターには、多様な参加者と観察対象の状況に配慮した安全で内容豊富な適切なガイドを行う力量が求められる。さまざまな自然環境の中で、観察対象として何を取り上げ、分かりやすく、興味深く感じるようにガイドするかが重要である。本講義では、野外で自ら自然観察を行い、また他の受講生に自然観察を指導する実践的学習を行う。

授業科目名	講義等の内容
システム設計論	情報システムの開発の手順、方法、その内容を理解することが当講義の目的である。当講義では、適用業務システムの開発工程とは何かを学習し、開発工程(外部設計、内部設計、プログラム開発、テスト)に沿ってシステム開発の方法を学習する。同時にシステム開発で使われている各種の開発技法についても学習する。
ネットワーク技術Ⅲ	実際にルータを設定して確実なルーティングを行い、ネットワーク・プロトコルや経路制御プロトコルについて学び、スイッチ･ルータの基本的な設定と構成が分かるようにする．LAN 設計･ネットワーク管理についても学ぶ。
国際統計分類Ⅱ	これまでに学習した人体構造（解剖生理）、医学各論の知識を生かし、国際統計分類Ⅰの学習と関連付けながら、ICD-10 の疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類が出来るよう理解を深める。また、単純な疾病のコーディングだけでなく、退院時要約等を用いて診療記録の記載内容を理解し把握した上で、主傷病等の診断名および原死因の統計上必要なコードを正確に選択するための知識を習得する。

Ⅴ　履修計画の作成と登録制度

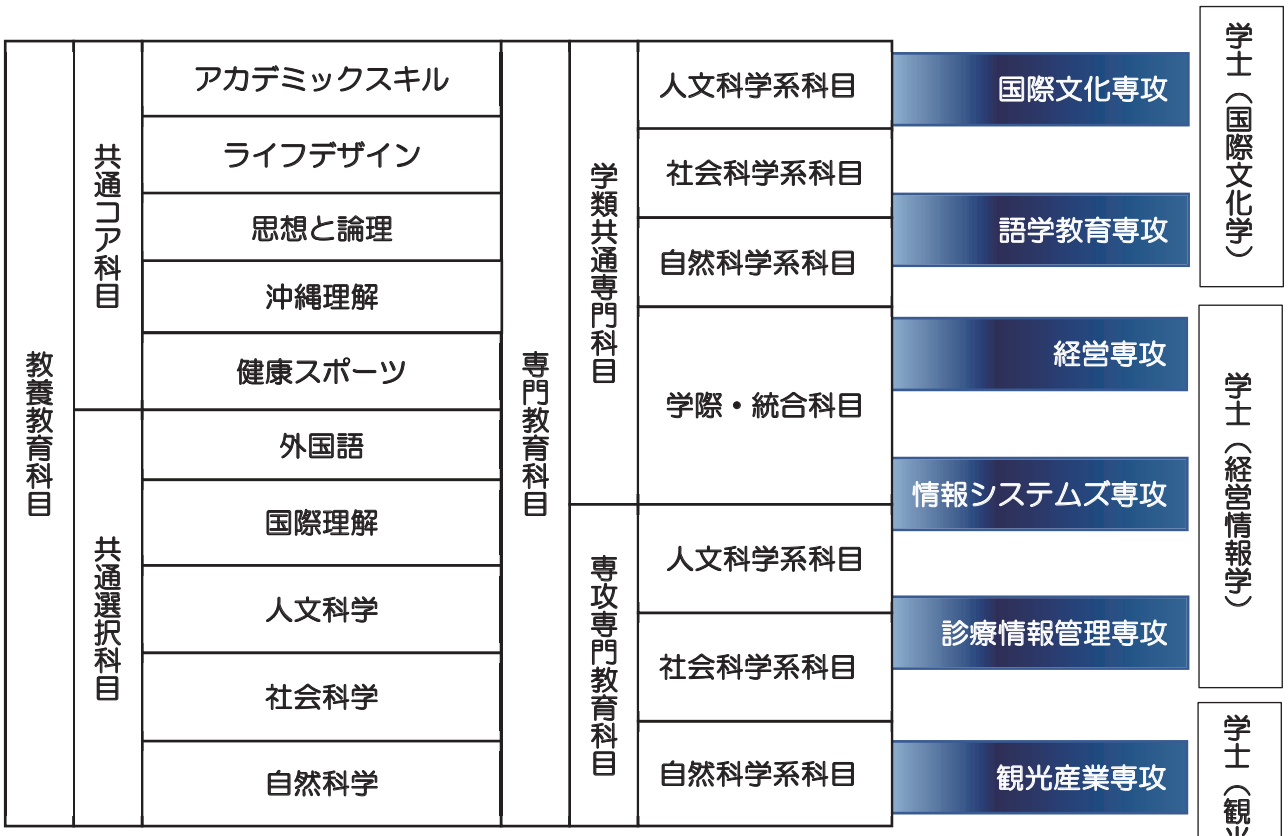
☞国際学群生としての見取り図

国際学群 国際学類　入学から卒業まで
４年間の大まかな流れ



教養教育科目を中心に履修

専攻が決定し専門教育科目を中心に履修



※主専攻決定に向けて１年次から履修計画を立てて構いません。

＋

教職課程	中学校一種（英語）、高等学校一種（英語、商業、情報）
副 専 攻	国際貢献、英語、ビジネスマネジメント、ネットワーク技術、システム開発、情報管理、デジタルコンテンツ、観光ビジネス、名桜大学副専攻（地域マネジメント）
特別課程	診療情報管理士、観光実務士、日本語教師

履修指導制度・支援体制

名桜大学のアカデミック・アドバイザリー制度

アカデミック・アドバイザリー制度とは、専任教員がアカデミック・アドバイザーとして学生一人ひとりを担当し、学生の成績（GPA）や履修状況等を考慮しながら、履修相談や学生指導を行う制度のことです。

名桜大学では、初年次教育に携わるクラス担当教員から、3・4年次の専門演習を担当するゼミ指導教員まで、4年間に渡り各学生の学びを支援する「指導教員」を配置しています。学生の皆さんが修学面や生活面で困ったり、進路について悩んだりした時に、真っ先に相談できるのが指導教員です。

国際学群：「指導教員」の役割

国際学群では、入学からの２年間は年次担当の指導教員が教養演習等を担当しつつ履修指導と学生支援を行っています。３年次で主専攻配置された後には各専攻会議のもと専門演習（ゼミ）担当教員が指導教員として履修指導と学生支援を引き継ぎます。各指導教員は学期ごとに履修登録確認シートに基づき履修状況に関する面談指導を行う他、各種相談に対応しています。

国際学群における指導教員の主な役割は次の通りです。

⑴履修・成績に関すること
⑵健康状態を含む学生生活に関すること
⑶留学・就職・資格に関すること
⑷学生の課外活動や緊急時における連絡対応に関すること
⑸授業料に関すること
⑹その他、学生からの相談への対応。

以上について１～２年次では年次会議において、３～４年次では学系・専攻会議において情報共有を図りながら支援・指導を行っています。

名桜大学の特色あるピア・アドバイザリー制度（ピア・サポート）

ピア・アドバイザリー制度とは、先輩として自らの経験を踏まえて、アカデミック・アドバイザーとともに学生の履修相談や学修相談、学生生活相談に対応する学生をいいます。

名桜大学では、それら一連の取り組みを「ピア・サポート」と呼んでいます。例えば、全学の初年次教育において**「ウェルカムナビゲーション（通称ウェルナビ）」**という学生組織が教員と連携して各種初年次向け研修行事の企画運営に関わり、初年次学生相談のピア窓口、教養演習Ⅰ・Ⅱの授業におけるチューター業務をボランティアで担っています。履修の進め方などなんでも話せる雰囲気で、キャンパスライフに関する疑問や不安を気軽に相談できます。時にはウェルナビスタッフが学生と先生の間の調

整役を担うこともあります。総勢100名のメンバーは、何かと頼りになる存在です。

またヘルスサポート（通称ヘルサポ）は、健康科学に関する知見を応用したヘルスプロモーション活動を推進し、学生の健康の維持・増進をサポートする学生組織です。学内において JOYBEAT（CGエクササイズ）プログラムを展開し、自由気ままにエクササイズを楽しめる環境も提供しています。自治体とも連携しながら地域の健康増進活動に取り組むユニークな特徴もあり、健康支援を通して地域との関わりを深めることができるのも大きな強みです。人間健康学部だけでなく国際学群の学生も多く所属しています。

その他、初年次対象の授業科目、コンピュータ・リテラシー、簿記原理などではＳＡ（Student Assistants）を積極的に雇用し、受講生は先輩学生からのアドバイスを貰いながら受講できる体制としています。

【国際学群】

国際学群では２年次後期にオープンゼミ週間を設け、主専攻・ゼミ選択を控えた学生達が３・４年次からゼミ活動の内容や卒業研究に関するアドバイスを受けられる機会としています。

【スポーツ健康学科】

スポーツ健康学科「学生リーダー」は、各種オリエンテーション、オープンキャンパス、教育プログラムなど学科内の様々な行事の企画や運営に主体的に携わっていく学生組織です。また、教員と学生の橋渡しの役目を担い、学生の意見やアイディアなどを取りまとめ教員に伝える役割も兼ねる組織です。また、スポーツ健康学科では、特色ある実技プログラムとして、PA（Project Adventure）体験、スノーケリング実習、登山実習、沖縄芸能（現代版組踊、エイサー）体験があります。初年次教育チューターは、これらの初年次教育に関して、ピア・サポートの観点から先輩学生が新入生を支援する取り組みです。新入生にとっては支援者が学生であることで気軽なサポートが受けられ、支援を行なう先輩学生は、サポートを通じて自らを成長させる機会が得られます。

【看護学科】

看護学科の「学年役員定例会」は、各学年役員が主体となり月1回開催しています。会では、全学年共通課題や学生生活に関する問題等の解決策、学年を超えた情報交換を実施。さらに、新入生歓迎球技大会（ＢＢＱ）、大学祭、国家試験応援事業、4年生を送る会等の年間行事の企画や学年会独自の主催行事も展開しています。学生サポート委員会は、学習環境整備や自治活動を見守る役割を担っています。

学習支援センターにおける学習支援とピア・サポートの取り組み

（1）言語学習センター（LLC：Language Learning Center）の学習支援

①教養科目および専門科目（英語・中国語、スペイン語、日本語など）の授業連携がありますが、その学期と個々の担当教員によって支援内容は異なります。

②チューターによる語学支援あるいは異文化理解に関するワークショップの実施

③英検二次対策として面接練習の対応を積極的に行っています。（年３回）

④ピア・チュートートレーニングの実施（16 のトピックについてそれぞれ学生主体（先輩と後輩）でトレーニング情報収集・計画・実施をおこなっており、レベル３（4 セッション）については教員が担当しています。

（2）数理学習センター（MSLC：Mathematical Science Learning Center）の学習支援

①教養科目（数学、統計学、自然科学特別講義　統計学基礎）の連携授業では、１セメスター15回通して授業の予習・復習課題の点検及びチュータリング、中間試験・期末試験対策等の学習支援
②電卓講座やエクセル講座、数学検定や統計検定対策等のチューターによる講座の実施
③SPI非言語分野の問題や上級就職試験の非言語分野の就職試験対策のための学習支援
④専門科目（診療情報科目：５科目）の授業連携では、診療情報管理士認定試験対策の学習支援
⑤専門科目（情報処理科目：情報処理論、コンピュータ概論）では、ＩＴパスポート試験対策の支援
⑥チューターによるワークショップ「卒論のための統計」を学群、学科別に開催（2018 年度後期）
⑦校外に出て北部やんばるの地形や土壌、植物、動物等の自然体験学習のチューター講座の実施
⑧チューター育成：ピア･チュータートレーニングの実施（事前研修会2日間、毎週１回定期研修）
チューターのための講座：エクセル講座・数学検定対策講座・統計検定対策講座を実施

（3）ライティングセンター（MWC：Meio Writing Center）における学習支援

①活動概要：主たる活動は、学部１年次必修科目である「アカデミックライティングⅠ」、「大学と人生」と連携し、課題レポート作成の支援を行うことです。その他、チュータリングで見出された課題に焦点を絞ったワークショップを開催し、学生が文章作成過程で抱える弱点に、よりアプローチする事を試みています。
②チューター育成：チューターは採用後、「ピアで学び合う」姿勢に基づいて、文章作成を支援するために、a)アカデミックなライティングのスキル、b)チュータリングのための対話スキルの２点を中心に研修を行い、実際のチュータリングによって技術を向上することを目的としています。

国際交流センターにおける外国人留学生支援の取り組み

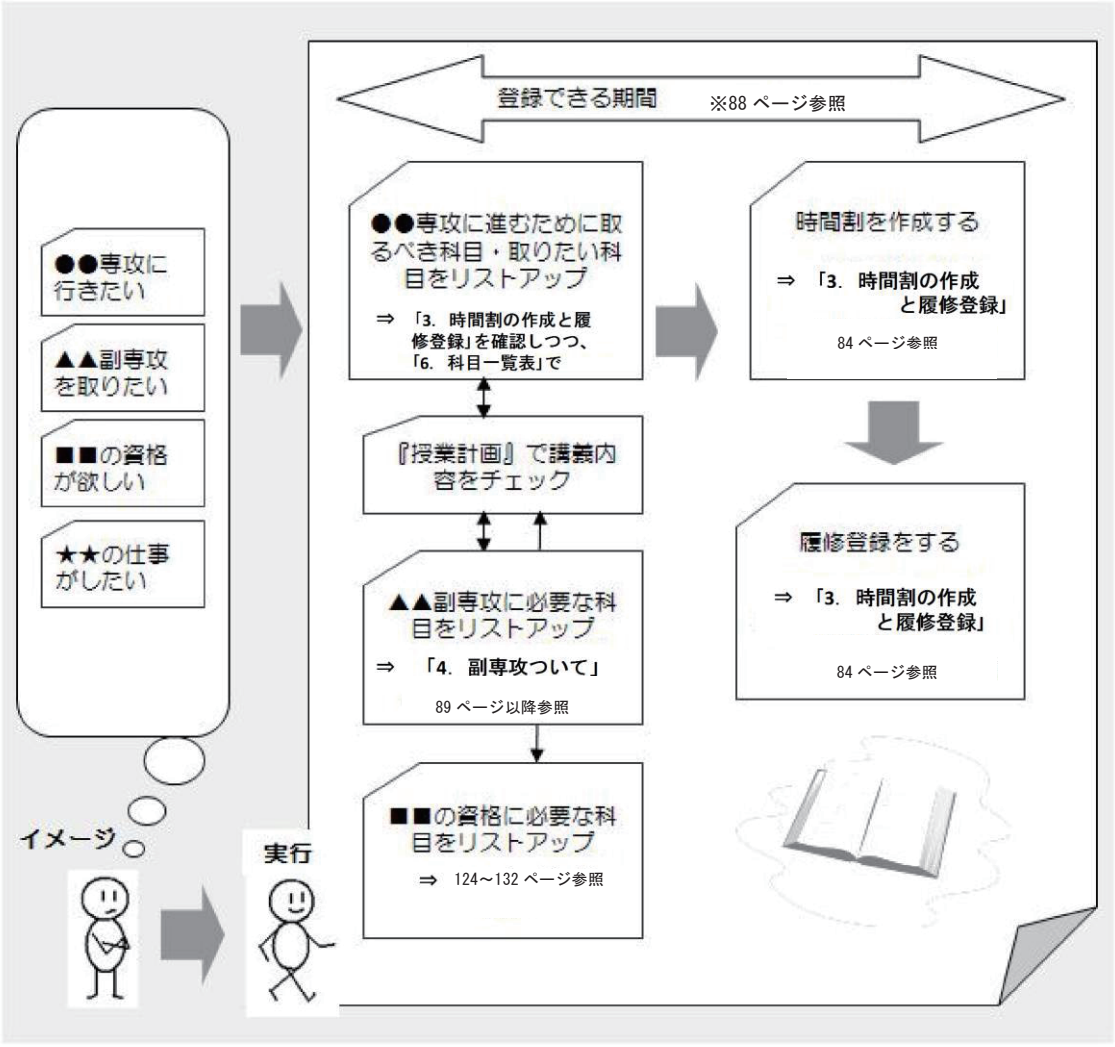
本学の外国人留学生の大学生活を支援するために、MOS（留学生会）を設立し、名桜大学留学生センターRA（レジデント・アシスタント）制度を導入しています。MOS は、主に留学生センターに RA として入居している日本人学生で構成されています。彼らは積極的に新入留学生歓迎会やフィールド・トリップなど様々なイベントの企画運営をするほかに、留学生が安心して円滑な学生生活を送れるように勉学及び寮生活の親身な助言・指導を行っています。

1．履修計画とは
４年間でどのように単位を修得していくかを決めること

履修計画とは？

履修計画とは、**卒業までの４年間でどのような科目を選び、どのように単位を修得していくか**を決めることです。大学では、将来の職業などを考えて、皆さん自身が受講したい授業科目を選択し、履修計画を立てます。将来の進路、専攻、自分の興味・関心、適性を考慮しながら、系統的に選択し、学習する必要があります。

履修計画のイメージ



2．授業科目の区分と卒業に必要な単位数
履修計画のために知っておくべきこと

授業科目の区分と卒業に必要な単位数

国際学群が開設する授業科目は、大きく**「教養教育科目」**と**「専門教育科目」**に分けられ、これらの科目はさらに小さく区分されています。卒業するためには、合計で 124 単位以上が必要ですが、**それぞれの科目区分ごとに取らなければならない単位数**があり、このルールを守らなければ卒業することはできません。なお、それぞれの科目区分から取るべき単位数を越えて修得した単位は、**「自由選択科目」**としてカウントされます。

授業科目の区分			必要単位数
教養教育科目	共通コア科目	アカデミックスキル科目	8
		ライフデザイン科目	2
		思想と論理科目	2
		沖縄理解科目	2
		健康スポーツ科目	2
	共通選択科目	外国語科目	10
		国際理解科目	4
		人文科学科目	4
		社会科学科目	4
		自然科学科目	4
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	2
		社会科学系科目	2
		自然科学系科目	2
		学際・統合系科目	10
	専攻専門教育科目	人文科学系科目	40
		社会科学系科目	
		自然科学系科目	
自由選択科目			26
合　　計			124

取るべき単位数。
科目区分の「X単位以上」を守らなければ、
仮に 124 単位を修得しても卒業できない。

【教養教育科目】

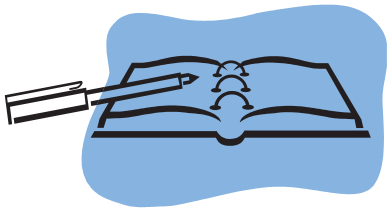
本学における学習に必要な最低限の知識と技能を身につけ、専攻分野の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成するための学習領域です。

【専門教育科目】

専門性の高い学習領域で、「学類共通専門教育科目」と「専攻専門教育科目」により構成されています。

必修科目と選択科目

授業科目のうち、**卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目**を**「必修科目」**といいます。また、**指定された授業科目群の中から選択して単位を修得する科目**を**「選択科目」**といいます。





3．時間割の作成と履修登録
時間割を作成し、履修登録するために

時間割作成の手順

履修計画と時間割は、自分の学年や進みたい専攻をしっかり把握した上で作成しなければなりません。

☞**「教養教育科目」の一覧表**　☞94～96 ページ　表１

★ 専攻に関わらず、1･2 年次に必要な共通の教養教育科目を学年ごとに載せた表です。

☞**「専門教育科目」の一覧表**

★ **専攻ごとの指定科目**だけを学年ごとに載せた表です。

国際文化専攻	98～　99 ページ　表２	語学教育専攻	100～101 ページ　表３
経営専攻	102～103 ページ　表４	情報システムズ専攻	104～105 ページ　表５
診療情報管理専攻	106～107 ページ　表６	観光産業専攻	108～110 ページ　表７

☞**その他「副専攻科目」**111～120 ページ　　**「資格」**124～132 ページ

ステップ1

2つの表を使う！！

教養教育科目一覧表
94～96 ページ
表１

表１ 教養教育科目一覧から、自分の学年で取れる、区分ごとに必要な科目をリストアップする。＋

専門教育科目一覧表
98～110 ページ
表２～７
（専攻ごと）

表２～７専門教育科目一覧から、希望する専攻の表を選び、自分の学年で取れる、区分ごとに必要な科目をリストアップする。

ステップ2



Web 上で公開されている『授業計画（シラバス）』で講義内容を確認する。

1年次は教養教育科目が優先！

ステップ3



Web 上で公開されている『授業時間割』を見て、開講学期を確認し、時間のダブりなどがないかを確かめて時間割を作成する。

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

履修登録制度とは？

自分で組み立てた時間割に沿って授業を受けるためには、**教員と教務課に届け出て許可をもらう必要**があります。これが履修登録制度です。

履修登録制度にももちろん細かな**ルール**があります。ルールを守らなければ、登録が受理されずに単位が修得できないなど、皆さんの履修計画に支障が出ることもありますので、熟読して正しい登録方法を身につけてください。

時間割作成と登録に必要な書類

時間割作成と登録には、以下の書類が必要です。特に**「履修登録確認シート」**は、**登録状況の確認期間内に指導教員に提出する必要がある**重要書類です。

必要なもの	概　　要
履修ガイド	４年間の履修に必要なガイド本（この冊子）。※原則ひとり一冊配付
授業計画（シラバス）	Web 上で科目の授業計画や講義内容が公開されています。
学業成績通知書（成績表）	前学期までの成績を累積して記載した表で、**学期始めに配付**されます。
授業時間割表	学期ごとの科目の開講時間と教室・担当者などが、Web 上で公開されています。
履修登録確認シート	学期ごとに Web 履修登録システムで登録したカードで、成績表と同時に配付されます。必要事項を記入後、指導教員に提出する。ただし、1 年次前学期の登録方法は異なりますので、新入生ガイダンスにて案内します。



１つの学期に登録できる単位数

１つの学期で登録できる単位の上限は **20 単位**です。ただし、次の場合は 20 単位を超えて登録することができます。

１．　２年次対象の専攻系基礎演習
２．　体育実技（１単位に限り）※『体育実技Ⅰ』と『体育実技Ⅱ』を同時履修することはできません。
３．　専攻専門教育科目に含まれるスポーツ実技科目（１単位に限り）
４．　集中講義および教職に関する科目

開講学期と時期

科目は、前期のみ開講されるもの、後期のみ開講されるもの、前後期とも開講されるもの、さらには、隔年や数年置きにしか開講されないもの、あるいは集中講義など、**開講学期・時期がさまざま**です。自分の履修計画に沿って、**履修したい科目がいつ開講されるのか**を確認した上で、時間割を作成するようにしてください。

開講学期は、Web 上で公開されている『授業時間割表』に掲載されています。

また、集中講義の日程は不確定で、中には直前にならなければ確定しない科目もあるため、随時**教務課**で情報収集を行ってください。日程については、確定次第掲示が出され、ほとんどの場合が予約登録制ですので、集中講義を受講したい場合は速やかに**教務課**にて登録手続きを行ってください。



前提科目・前提条件とは？

ある科目を履修するために、知っておかなければならない分野や科目を指定し、修得していなければならない科目を**「前提科目」**あるいは**「前提条件」**といいます。例えば、「情報科学と社会」を修得していなければ「コンピュータ概論」を登録することができない、などといった制度です。自分が取りたい科目にこの前提科目や前提条件がある場合は、その前提科目を修得した後に取るようにしてください。

なお、同時履修（同じ学期に、当該科目とその前提科目を取ること）が認められる場合もありますので、その科目の担当教員に確認をとるようにしてください。

前提科目は、この履修ガイドの「科目一覧表」（備考欄）やシラバスなどに、掲載されています。

履修計画の立て方

① 受講年次

科目は、その内容にしたがって履修にふさわしい年次（学年）が決まっています。これを**「受講年次」**といいます。登録したい科目の受講年次が自分の年次より上の場合は登録することができません（下の場合は登録できます）。講義内容はその年次を対象に作られていますので、特に必修科目の場合はできるだけその年次に履修することが望ましいです。

受講年次は、この履修ガイドの「科目一覧表」（94～110 ページ）、「Ⅷ　学則・諸規程」、Web 上で公開されている『授業時間割表』に掲載されています。

② 科目一覧表

94～96 ページの表１は、「教養教育科目」の一覧表です。１年次では、「教養教育科目」を中心に履修計画を立てることが望ましいので、この表１を見ながら、必修科目を優先的に、各科目区分から必要な単位数を履修していくことを心がけてください。なお、「教養教育科目」だけで 1 学期の 20 単位は埋められないので、足りない分は「専門教育科目」から履修します。

98～110 ページの表２～７は、専攻ごとの「専門教育科目」の一覧表です。１・２年次では、３年次の専攻選択を念頭に置きながら履修計画を立てることが望ましいので、できるだけ希望する専攻の「専門教育科目」一覧表に載っている科目を選択し、専攻決定に備えます。

そして３年次・４年次では、卒業後の進路を念頭に置き、「専攻専門教育科目」を中心に履修計画を立てることが望ましいので、自分の専攻の表を見ながら、必修科目を優先的に、各科目区分から必要な単位数を履修していくことを心がけてください。

授業の登録・取消方法

(1)授業の登録方法

登録方法は、学期末に次の学期の登録を行う **Web 履修登録システム（UNIVERSAL PASSPORT）を利用した登録**があります。

登録は、学期末に前もって次の学期の科目登録ができるものです。便利な制度ですが、登録をしたからといって、必ずしもその科目が登録されるとは限らないため、確認と注意が必要です。また、登録をしていても、授業の初回と２回目を欠席すると、登録を取消されることもあります。登録を行った科目は、学期開始時に配付する履修登録確認シートに科目名が印字されます。

また、登録ができる期間は決まっています。この期間を**「登録期間」**といい、学期末に登録を行い、この期間内は何度でも科目の登録及び取消しが可能です。

登録は、原則この期間内でしか認められないため、忘れずに、そして期限を守って登録を行ってください。

(2)登録の取消方法

登録した科目を取消したい場合は、学期開始の履修登録取消期間に UNIVERSAL PASSPORT から取消しを行ってください。

取消しは、原則この期間内でしか認められないため、忘れずに、そして期限を守って行い、必ず取消されているか確認してください。

※Web 登録期間及び登録方法の詳細については、年度又は学期ごとに公表する「履修科目登録実施要項」を確認して実施してください。



4．副専攻について
副専攻科目一覧表の見方

副専攻とは？

副専攻とは、主専攻のほかに、**他**専攻が提供するある特定の科目群の中から一定の単位数を履修することで、その専門性を修了したことを認定する制度です。指定された単位数を修得した後、卒業年次に申請書類を提出し、主専攻の学位記とともに副専攻の認定証が授与されます。なお、副専攻は卒業要件ではありません。また、卒業後には申請できません。

副専攻科目の履修上の注意点

⑴ 副専攻の取得にも、科目区分のルール（ある科目区分から何単位以上という決まり）がありますが、これまで見てきた大学の指定するルールと異なります。
基本的には、副専攻が指定するいくつかの「分野」ごとに科目が区分され、その「分野」から何単位以上履修するといったルールが設けられています。それらの「分野」ごとの最低修得単位を全て修得し、副専攻が指定する合計単位数を満たせば、副専攻として認められることになります。
（詳しくは次のページの表の見方を参照。）

※ なお、科目区分や取るべき単位数は、副専攻ごとに違います。
副専攻の科目区分のルールや科目一覧については、111～120 ページの各副専攻の科目一覧（表８～16）と、その中の「履修条件」欄をよく読んでください。

※ 表の表示形式も見方も、これまでのものとは異なりますので注意してください。

⑵ 副専攻はあくまで 2 次的な専門性の追求ですので、他の必修科目や主専攻の科目を優先的に履修することを忘れないでください。84 ページの時間割作成のステップ（1～3）にしたがって、ある程度取るべき科目が決まり、時間割が埋まってきたら、**1 つの学期に取れる残りの単位数を副専攻や資格のための科目にあてる**と良いでしょう。

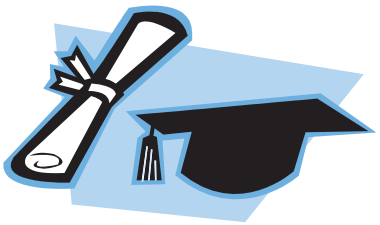
副専攻の申請について

副専攻は申請による認定制度です。申請しなければ副専攻として認められません。
なお、申請時期を 4 年次の“前学期”並びに“後学期”の登録調整期間とし、申請先は**教務課**です。
卒業後に副専攻の申請はできませんので、注意してください。

副専攻科目一覧表の見方

111～120 ページの表 8～16 は、副専攻ごとの科目の一覧表です。これらの科目一覧と科目区分のルールは、副専攻としての科目区分と必要な単位数であって、大学の卒業のために必要な単位数の区分ではありません。また、科目区分も単位数も、副専攻ごとに違うので十分に注意してください。

基本的には、副専攻が指定するいくつかの「分野」の中から何単位以上を履修するといったルールが設けられています。それら全ての「分野」の最低修得単位以上を修得し、副専攻が指定する合計単位数を満たせば、副専攻として認められます。



☞ 講義を受けるとは？

5．受講と単位修得
授業を受ける方法

授業への出席と欠席の手続き

登録が終了したら、いよいよ授業に出席し、科目の内容を学習することになります。

休講や補講、教室変更、学期末試験日程などの通知は講義棟の掲示板で伝達されるので、毎日必ず見るようにしてください。

もし何らかの理由で授業を欠席しなければならない場合は、欠席届を提出します。いずれの科目も、学期中に開かれる授業回数の３分の２以上出席しなければ成績評価の対象とされず、単位が与えられません。また、指定された感染症や就職活動、サークル活動での遠征、忌引きなどの場合は公欠席願を教務課に提出してください（学期中に１科目２回まで）。公欠席が認められると、補講等を受ける必要がありますので、授業担当教員へ確認してください。

学期終了時に、各科目のシラバスに記載された基準によって成績が評価され、「可」以上の評価を得られればその科目の単位が与えられます。

学期末試験と追試験・再試験

多くの授業科目では、成績評価のために学期末試験が実施されます。病気等止むを得ない理由で学期末試験が受けられなかった場合、診断書等必要書類を添えて定められた期限内に教務課に申し出れば、追試験を受けることができます。

また、その学期で卒業する見込みの学生は、成績評価が不合格になった科目（2 科目以内）について、期限内に教務課に申し出ることにより再試験を受けることができます。ただし、再試験には受験料が必要です。

学生証と受験許可証

試験を受ける場合は、学生証の提示が必要になります。学生証を忘れてしまった場合には、学生課で受験許可証（手数料:100 円）を発行してもらい、試験に臨んでください。

なお、学生証または、受験許可証のいずれもない場合には、受験することができません。

不正行為

試験における不正行為については、不正行為と見なされれば、該当セメスターに履修している全ての科目の成績評価が「不可」とされます。

学業成績通知書の見方

学業成績通知書（成績表）は、前・後期ごとに、その期の成績とそれまでの成績を累積して表示したものが発行されます。科目区分の表のうち、【教養教育科目】、【学類共通専門教育科目】、【専攻専門教育科目】ごとに、さらにその中の科目区分ごとに成績が載っています。

授業科目の区分			必要単位数
教養教育科目	共通コア科目	アカデミックスキル科目	8
		ライフデザイン科目	2
		思想と論理科目	2
		沖縄理解科目	2
		健康スポーツ科目	2
	共通選択科目	外国語科目	10
		国際理解科目	4
		人文科学科目	4
		社会科学科目	4
		自然科学科目	4
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	2
		社会科学系科目	2
		自然科学系科目	2
		学際・統合系科目	10
	専攻専門教育科目	人文科学系科目	40
		社会科学系科目	
		自然科学系科目	
自由選択科目			26
合計			124

ここでどの科目区分が何単位足りないのか確認しながら、卒業までの履修計画を練り直していく。

学 業 成 績 通 知 書

所属	国際学群　国際学類	フリガナ	ｷｮｳﾑ ﾀﾛｳ	性別	男	入学日	XXXX年X月X日
学生番号	XXXXXXX	氏名	教務　太郎	生年月日	1994年4月1日	卒業予定日	

履修科目	単位	評価	修得年	履修科目	単位	評価	修得年	履修科目	単位	評価	修得年
【共通コア科目】				日本文化概論	2	良	20XX前				
アカデミックスキル科目				社会科学系科目							
教養演習Ⅰ	2	秀	20XX前	観光学概論	2	良	20XX前				
教養演習Ⅱ	2	優	20XX後	学際・統合系科目							
コンピュータ・リテラシー	2	優	20XX前	語学教育系基礎演習	1	良	20XX前				
アカデミックライティングⅠ	2	良	20XX前	観光産業系基礎演習	1	優	20XX後				
ライフデザイン科目				【専攻専門教育科目】							
大学と人生	2	良	20XX前	人文科学系科目							
思想と論理				中級英語リスニング	2	良	20XX前				
人間と環境	2	可	20XX前	中級英語講読	2	優	20XX後				
科学入門	2	不	20XX後	中級英作文	2	可	20XX後				
沖縄理解				社会科学系科目							
沖縄学	2	優	20XX後	観光開発論Ⅰ	2	可	20XX後				
スポーツ・健康				自然科学系科目							
体育実技Ⅰ	1	優	20XX前	野外活動演習	2	良	20XX前				
体育実技Ⅱ	1	可	20XX後								
【共通選択科目】											
外国語科目											
ベーシック・イングリッシュ	2	優	20XX前								
イングリッシュ・コミュニケーション	2	可	20XX後								
中国語Ⅰ	2	良	20XX前								
中国語Ⅱ	2	可	20XX後								
アカデミック英語基礎	2	良	20XX前								
国際理解科目											
国際社会と日本	2	良	20XX後								
国際コミュニケーション論	2	可	20XX前								
人文科学											
教育学	2	秀	20XX前								
生活と音楽	2	秀	20XX後								
社会科学											
憲法	2	良	20XX後								
経済学	2	不	20XX前								
自然科学											
生物学	2	可	20XX前								
情報科学と社会	2	良	20XX後								
【学類共通専門教育科目】											
人文科学系科目											

注　評価欄の「※」は履修中を表しています。

それぞれの科目区分のうち、どれだけ取れているかが確認できる。

←何年（20XX 年）の前・後期のどちらに、秀・優・良・可・不可のどれが取れたかが記されている。

卒業要件		
科目区分	卒業単位	修得単位
【共通コア科目】	16	16
ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙ科目	8	8
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ科目	2	2
思想と論理科目	2	2
沖縄理解科目	2	2
健康スポーツ科目	2	2
【共通選択科目】	26	24
外国語科目	10	10
国際理解科目	4	4
人文科学科目	4	4
社会科学科目	4	2
自然科学科目	4	4
【学類共通専門教育科目】	16	14
人文科学系科目	2	2
社会科学系科目	2	2
自然科学系科目	2	
学際・統合系科目	10	2
【専攻専門教育科目】	40	10
人文科学系科目		6
社会科学系科目		2
自然科学系科目		2
【自由選択科目】	26	
修得単位数合計	124	56

評定平均値（GPA）	2.12

※ 教職科目,単位認定は除く。

評価基準			修得科目数
評価	基準	GPA	
秀	100～90	（4）	3
優	89～80	（3）	7
良	79～70	（2）	12
可	69～60	（1）	8
不可	59以下	（0）	2
認定		（－）	

年　月　日　名桜大学

学長　砂川　昌範

連絡事項の伝達と各種相談について

履修関係の情報提供や変更事項の伝達は、本部棟教務課横及び講義棟 108 教室前の「掲示板」に掲示されるので、常に見るように心がけることが重要です。

履修計画の確認や時間割作成のサポート、授業内容に関する相談は、各教員に直接面談を求めるか、教務課を利用してください。ただし、教員は所用で研究室にいないことも多いので、シラバスに書かれているオフィスアワーに訪ねるか、電話やメールなどで事前に連絡を取ってから訪ねるようにしてください。

また、体調不良の場合は保健センター、その他悩みごとなどはカウンセリングルームを気軽に利用してください。

大学生としての基本的なメールマナー

メールで連絡をする場合には、失礼のないよう大学生として適切な内容を送信することが大切です。

＜全般＞

基本的には大学から配布された公的なメールアドレス（s1420XXX@mail.meio-u.ac.jp）を使用しましょう。パソコンからのメールを受け付けなかったり添付ファイルを受信できなかったりするので、携帯電話のメールアドレス（〇〇〇〇@i.softbank.jp 等）の使用は避けてください。

①件　名：必ず記載しましょう。また、分かりやすい表現を心がけましょう。
②宛　名：誰宛にメールを指しているのか記載することは基本的なマナーです。必ず記載しましょう。
③冒頭文：まず、あいさつ文を記載します。続けて学生番号、氏名等を名乗ります。
（署名欄に十分な情報が記載されていて重複する場合には、省略することもあります。）
④内　容：できるだけ簡潔に記載してください。
依頼や質問、アポイントメントを取る場合には、自分の都合のみを主張しないで、相手の都合に配慮しながら書きましょう。
「私の都合を申し上げて大変勝手でございますが７月中は試験があり、８月の前半でお願いできましたら幸いです。」等
⑤結び文：「お手数をお掛けして申し訳ございません。宜しくお願い致します。」等
⑥署　名：所属、氏名、連絡先等を記載します。
⑦添付ファイル：メールに何のファイルを添付したのか記載し、添付忘れやメール、パソコン環境の違い等による送受信トラブルを避けるようにしましょう。
本文中に明確な記載がある場合、省略することもあります。



6．科目一覧
教養科目から副専攻科目まで

表１　教養教育科目一覧

共通コア科目

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
アカデミックスキル科目	共ア 101	教養演習Ⅰ	1	2			
	共ア 102	教養演習Ⅱ	1	2			
	共ア 103	コンピュータ・リテラシー	1	2			
	共ア 104	アカデミックライティングⅠ	1	2			
	共ア 105	アカデミックライティングⅡ	1		2		
	共ア 106	アカデミックスキル特別講義	1		2		
	備考	・必修科目を含め、８単位以上を修得すること。					
ライフデザイン科目	共ラ 101	大学と人生	1	2			
	共ラ 102	ライフデザイン特別講義	1		2		
	共ラ 203	キャリアデザイン	2		2		
	共ラ 204	プロジェクト学習	2		2		
	備考	・必修科目を含め、２単位以上修得すること。					
思想と論理科目	共思 101	人間と環境	1		2		
	共思 102	生命と倫理	1		2		
	共思 103	科学入門	1		2		
	共思 104	論理学	1		2		
	共思 105	現代思想	1		2		
	共思 106	思想と論理特別講義	1		2		
	備考	・２単位以上を修得すること。					
沖縄理解科目	共沖 101	沖縄学	1		2		
	共沖 102	沖縄の自然	1		2		
	共沖 103	沖縄の言語	1		2		
	共沖 104	沖縄理解特別講義	1		2		
	備考	・２単位以上を修得すること。					
健康スポーツ科目	共健 101	体育実技Ⅰ	1		1		
	共健 102	体育実技Ⅱ	1		1		
	共健 103	健康・スポーツ科学	1		2		
	共健 104	健康スポーツ特別講義	1		2		
	共健 105	健康スポーツ特別実技	1		1		
	備考	・２単位以上を修得すること。					

共通選択科目

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
外国語科目	共外101	ベーシック・イングリッシュ	1	2			
	共外102	イングリッシュ・コミュニケーション	1	2			
	共外103	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	共外104	ドイツ語Ⅱ	1		2		ドイツ語Ⅰ
	共外105	フランス語Ⅰ	1		2		
	共外106	フランス語Ⅱ	1		2		フランス語Ⅰ
	共外107	スペイン語Ⅰ	1		2		
	共外108	スペイン語Ⅱ	1		2		スペイン語Ⅰ
	共外109	ポルトガル語Ⅰ	1		2		
	共外110	ポルトガル語Ⅱ	1		2		ポルトガル語Ⅰ
	共外111	中国語Ⅰ	1		2		
	共外112	中国語Ⅱ	1		2		中国語Ⅰ
	共外113	韓国語Ⅰ	1		2		
	共外114	韓国語Ⅱ	1		2		韓国語Ⅰ
	共外115	タイ語Ⅰ	1		2		
	共外116	タイ語Ⅱ	1		2		タイ語Ⅰ
	共外117	外国語特別講義Ⅰ	1		2		
	共外118	外国語特別講義Ⅱ	1		2		
	共外218	アカデミック英語基礎	2	2			
	共外219	プラクティカル・イングリッシュⅠ	2		2		
	共外220	プラクティカル・イングリッシュⅡ	2		2		
	共外221	ビジネス英語Ⅰ	2		2		
	共外222	ビジネス英語Ⅱ	2		2		
	備考	・必修科目を含め１０単位以上修得すること。 ・国際文化専攻及び語学教育専攻を希望する学生は、英語以外の外国語（同言語の外国語科目４単位）を履修しなければならない。 ・経営専攻、情報システムズ専攻、診療情報管理専攻、観光産業専攻を希望する者は、英語を含めて、同言語の外国語科目４単位以上を履修すること。					
国際理解科目	共国101	国際学入門	1		2		
	共国102	異文化接触論	1		2		
	共国103	国際社会と日本	1		2		
	共国104	人権と平和	1		2		
	共国105	国際コミュニケーション論	1		2		
	共国106	海外スタディツアー	1		2		
	共国107	国際理解特別講義	1		2		
	備考	・４単位以上修得すること。					
人文科学科目	共人101	音楽の歴史と鑑賞	1		2		
	共人102	美術の歴史と鑑賞	1		2		
	共人103	哲学	1		2		
	共人104	心理学	1		2		
	共人105	歴史学	1		2		
	共人106	教育学	1		2		
	共人107	ヒューマンケアリング	1		2		
	共人108	文学	1		2		
	共人109	人文科学特別講義	1		2		
	備考	・４単位以上修得すること。					

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
社会科学科目	共社101	法学	1		2		
	共社102	憲法	1		2		
	共社103	政治学	1		2		
	共社104	経済学	1		2		
	共社105	経営学	1		2		
	共社106	社会学	1		2		
	共社107	人文地理学	1		2		
	共社108	社会科学特別講義	1		2		
	備考	・4単位以上修得すること。					
自然科学科目	共自101	数学	1		2		
	共自102	統計学	1		2		
	共自103	物理学	1		2		
	共自104	化学	1		2		
	共自105	生物学	1		2		
	共自106	地学	1		2		
	共自107	情報科学と社会	1		2		
	共自108	自然科学特別講義	1		2		
	備考	・4単位以上修得すること。					

外国人留学生対象科目（外国語教育科目）

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
日本語・日本事情	外日 101	総合日本語	1		2		
	外日 102	初級日本語会話 I	1		2		
	外日 103	初級日本語読解 I	1		2		
	外日 104	初級日本語作文 I	1		2		
	外日 105	初級日本語文法 I	1		2		
	外日 106	初級日本語会話 II	1		2		
	外日 107	初級日本語読解 II	1		2		
	外日 108	初級日本語作文 II	1		2		
	外日 109	初級日本語文法 II	1		2		
	外日 110	中・上級日本語会話 I	1		2		
	外日 111	中・上級日本語会話 II	1		2		
	外日 112	中・上級日本語読解 I	1		2		
	外日 113	中・上級日本語作文 I	1		2		
	外日 114	中・上級日本語作文 II	1		2		
	外日 115	中・上級日本語文法 I	1		2		
	外日 116	留学生のためのアカデミックライティング	1		2		
	外日 117	日本語演習	1		2		
	外日 118	日本事情 I	1		2		
	外日 119	日本事情 II	1		2		
	外日 120	日本事情 III	1		2		
	外日 121	日本事情 IV	1		2		
	備考	・外国人留学生対象科目（外国人留学生のみ） ・外国人留学生は、外国人留学生対象科目のうち6単位は、外国語科目のベーシック・イングリッシュ、イングリッシュ・コミュニケーション、アカデミック英語基礎の6単位として認められる。 ・英語圏外からの留学生は、一般学生と同様に、外国語科目のベーシック・イングリッシュ，イングリッシュ・コミュニケーション、アカデミック英語基礎から6単位修得することも可能である。 ・外国語科目のうち4単位は、以下の科目を除いた外国語科目から、同一言語で履修する必要がある。 除外科目：母語、外国人留学生対象科目、ベーシック・イングリッシュ、イングリッシュ・コミュニケーション、アカデミック英語基礎 ・日本語能力試験（JLPT）の合格者で、日本語または日本事情の履修を希望しない留学生は、外国語教育主任と相談のうえ、別の外国語履修計画を立てることも可能である。					

表２　国際文化専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人101	日本語理解論	1		2		
			類人102	日本史入門	1		2		
			類人201	日本文化概論	2	2			
			類人202	文化人類学	2		2		
			類人204	人間関係論	2		2		
			類人206	日本語表現論	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社101	経営統計学	1		2		
			類社102	観光学概論	1		2		
			類社203	地域研究方法論	2	2			
			類社204	社会調査法	2		2		
			類社205	経営情報論	2		2		
			類社206	地域社会論	2		2		
			類社207	社会心理学	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自101	コンピュータ概論	1		2		情報科学と社会
			類自202	情報処理論	2		2		
			類自203	情報化社会論	2		2		
			類自204	自然保護論	2		2		
			類自205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自206	島嶼環境論	2		2		
			類自207	情報と職業	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際101	国際学群特別講義	1		2		
			類際202	国際文化系基礎演習	2	1			注1
			類際203	語学教育系基礎演習	2		1		注1
			類際204	経営系基礎演習	2		1		注1
			類際205	情報システムズ系基礎演習	2		1		注1
			類際206	診療情報管理系基礎演習	2		1		注1
			類際207	観光産業系基礎演習	2		1		注1
			類際301	国際文化専門演習Ⅰ	3	2			
			類際304	国際文化専門演習Ⅱ	3	2			
			類際401	国際文化専門演習Ⅲ	4	2			国際文化専門演習Ⅱ
			類際404	国際文化専門演習Ⅳ	4	2			国際文化専門演習Ⅲ
			備考	・注1　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「国際文化専門演習Ⅰ」及び「国際文化専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	専攻専門教育科目	人文科学系科目	専人108	比較芸術論	1		2		
			専人109	比較宗教論	1		2		
			専人210	比較思想論	2		2		
			専人212	日本の歴史	2		2		
			専人216	沖縄地域文化論	2		2		
			専人219	比較映像文化論	2		2		
			専人223	日本語学概論	2		2		
			専人224	南島歌謡	2		2		
			専人227	中南米の言語と文化	2		4		
			専人233	沖縄の文学	2		2		
			専人244	ビジュアルコミュニケーション入門	2		2		
			専人245	沖縄の社会	2		2		
			専人246	アジアの宗教	2		2		
			専人262	アジアの歴史	2		2		
			専人263	アジアの文化	2		2		
			専人247	国際文化特別講義Ⅰ	2		2		
			専人248	国際文化特別講義Ⅱ	2		2		
			専人250	日本史史料講読	2		2		
			専人253	中南米の歴史	2		2		
			専人258	日本の社会	2		2		
			専人259	日本の宗教	2		2		
			専人315	異文化コミュニケーション論	3		2		
			専人354	移民と異文化	3		2		
			専人355	中南米の社会	3		2		
			専人356	地域文化演習	3	2			
			専人357	現地実習	3	4			地域文化演習
			専人358	アジアの言語	3		2		
			専人361	アジアの文学	3		2		
			専人371	現代日本語論	3		2		
			専人374	中南米の民俗	3		2		
		社会科学系科目	専社229	国際機構論	2		2		
			専社243	国際関係論	2		2		
			専社244	国際政治論	2		2		
			専社363	アジアの政治と社会	3		2		
			専社248	日米関係論	2		2		
			専社249	アメリカ政治外交論	2		2		
		自然科学系科目	専自104	ウェブグラフィックス	1		2		
		備考							

表３　語学教育専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人101	日本語理解論	1		2		
			類人102	日本史入門	1		2		
			類人201	日本文化概論	2		2		
			類人202	文化人類学	2		2		
			類人204	人間関係論	2		2		
			類人206	日本語表現論	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社101	経営統計学	1		2		
			類社102	観光学概論	1		2		
			類社203	地域研究方法論	2		2		
			類社204	社会調査法	2		2		
			類社205	経営情報論	2		2		
			類社206	地域社会論	2		2		
			類社207	社会心理学	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自101	コンピュータ概論	1		2		情報科学と社会
			類自202	情報処理論	2		2		
			類自203	情報化社会論	2		2		
			類自204	自然保護論	2		2		
			類自205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自206	島嶼環境論	2		2		
			類自207	情報と職業	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際101	国際学群特別講義	1		2		
			類際202	国際文化系基礎演習	2		1		注１
			類際203	語学教育系基礎演習	2	1			注１
			類際204	経営系基礎演習	2		1		注１
			類際205	情報システムズ系基礎演習	2		1		注１
			類際206	診療情報管理系基礎演習	2		1		注１
			類際207	観光産業系基礎演習	2		1		注１
			類際301	国際文化専門演習Ⅰ	3	2			
			類際304	国際文化専門演習Ⅱ	3	2			
			類際401	国際文化専門演習Ⅲ	4	2			国際文化専門演習Ⅱ
			類際404	国際文化専門演習Ⅳ	4	2			国際文化専門演習Ⅲ
			備考	・注１　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「国際文化専門演習Ⅰ」及び「国際文化専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	専攻専門教育科目	人文科学系科目	専人102	漢文講読	1		2		
			専人103	書写・書道概論	1		2		
			専人104	中級英語リスニング	1		2		
			専人105	中級オーラルコミュニケーション	1		2		
			専人106	中級英語講読	1		2		
			専人107	中級英作文	1		2		
			専人110	言語と文学	1	2			
			専人210	比較思想論	2		2		
			専人213	英米文化概論Ⅰ	2		2		
			専人214	英米文化概論Ⅱ	2		2		
			専人215	異文化コミュニケーション論	3		2		
			専人216	沖縄地域文化論	2		2		
			専人220	言語学概論Ⅰ	2		2		
			専人221	言語学概論Ⅱ	2		2		
			専人223	日本語学概論	2		2		
			専人224	南島歌謡	2		2		
			専人226	日本言語史	2		2		
			専人228	英語音声学	2		2		
			専人229	英文法	2		2		
			専人230	イギリス文学	2		2		
			専人233	沖縄の文学	2		2		
			専人234	準高等英語リスニング	2		2		
			専人235	準高等オーラルコミュニケーション	2		2		
			専人236	準高等英語講読	2		2		
			専人237	準高等英作文	2		2		
			専人238	高等英語リスニング	2		2		準高等英語リスニング
			専人239	高等オーラルコミュニケーション	2		2		準高等オーラルコミュニケーション
			専人240	高等英語講読	2		2		準高等英語講読
			専人241	高等英作文	2		2		準高等英作文
			専人249	語学教育特別講義Ⅰ	2		2		
			専人260	語学教育特別講義Ⅱ	2		2		
			専人254	日本古典文学史	2		2		
			専人255	日本近代文学史	2		2		
			専人256	日本古典文学概論	2		2		
			専人257	日本近代文学概論	2		2		
			専人356	地域文化演習	3		2		
			専人357	現地実習	3		4		地域文化演習
			専人359	英語学概論	3		2		
			専人360	アメリカ文学	3		2		
			専人364	通訳技法	3		2		
			専人365	外書講読	3		2		
			専人366	小学校英語教育教授論	3		2		
			専人369	日本語教授法	3		2		
			専人370	ディベート	3		2		
			専人371	現代日本語論	3		2		
			専人372	日本近代文学論	3		2		
			専人373	日本古典文学論	3		2		
			専人375	英語リサーチ・ライティング	3		2		
			専人376	日本語教育実践演習	3		2		
			備考						

表４　経営専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人101	日本語理解論	1		2		
			類人102	日本史入門	1		2		
			類人201	日本文化概論	2		2		
			類人202	文化人類学	2		2		
			類人204	人間関係論	2		2		
			類人206	日本語表現論	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社101	経営統計学	1		2		
			類社102	観光学概論	1		2		
			類社203	地域研究方法論	2		2		
			類社204	社会調査法	2		2		
			類社205	経営情報論	2		2		
			類社206	地域社会論	2		2		
			類社207	社会心理学	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自101	コンピュータ概論	1		2		情報科学と社会
			類自202	情報処理論	2		2		
			類自203	情報化社会論	2		2		
			類自204	自然保護論	2		2		
			類自205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自206	島嶼環境論	2		2		
			類自207	情報と職業	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際101	国際学群特別講義	1		2		
			類際202	国際文化系基礎演習	2		1		注1
			類際203	語学教育系基礎演習	2		1		注1
			類際204	経営系基礎演習	2	1			注1
			類際205	情報システムズ系基礎演習	2		1		注1
			類際206	診療情報管理系基礎演習	2		1		注1
			類際207	観光産業系基礎演習	2		1		注1
			類際302	経営情報専門演習Ⅰ	3	2			
			類際305	経営情報専門演習Ⅱ	3	2			
			類際402	経営情報専門演習Ⅲ	4	2			経営情報専門演習Ⅱ
			類際405	経営情報専門演習Ⅳ	4	2			経営情報専門演習Ⅲ
			備考	・注1　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「経営情報専門演習Ⅰ」及び「経営情報専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
						必修	選択	自由	
専門教育科目	専攻専門教育科目	社会科学系科目	専社101	民法と市民生活	1		2		
			専社102	簿記原理	1	4			
			専社103	上級簿記	1		4		簿記原理
			専社104	経営学総論	1	2			
			専社105	ミクロ経済学	1		2		
			専社106	マクロ経済学	1		2		
			専社211	会社法	2		2		
			専社212	行政法	2		2		
			専社214	財政学	2		2		
			専社217	流通論	2		2		
			専社219	マーケティング論	2	2			
			専社222	中小企業論	2		2		
			専社223	原価計算	2		2		簿記原理
			専社224	経営組織論	2		2		
			専社225	経営戦略論	2		2		
			専社226	会計学原理	2		2		簿記原理
			専社232	国際経済論	2		2		
			専社233	金融論	2		2		
			専社234	ベンチャービジネス	2		2		
			専社235	経営特別講義Ⅰ	2		2		
			専社246	経営特別講義Ⅱ	2		2		
			専社238	経営管理論	2		2		
			専社239	問題解決の心理学	2		2		
			専社336	人的資源管理論	3		2		
			専社242	地方自治論	2		2		
			専社245	市場調査論	2		2		
			専社341	経済政策	3		2		
			専社347	グローバル・ビジネス論	3		2		
			専社348	産業情報論	3		2		
			専社350	経営分析論	3		2		
			専社364	組織心理学	3		2		
			専社365	対人コミュニケーション論	3		2		
			専社366	チームマネジメントの心理学	3		2		
			専社368	地域マーケティング論	3		2		
			備考						

表５　情報システムズ専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人101	日本語理解論	1		2		
			類人102	日本史入門	1		2		
			類人201	日本文化概論	2		2		
			類人202	文化人類学	2		2		
			類人204	人間関係論	2		2		
			類人206	日本語表現論	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社101	経営統計学	1		2		
			類社102	観光学概論	1		2		
			類社203	地域研究方法論	2		2		
			類社204	社会調査法	2		2		
			類社205	経営情報論	2	2			
			類社206	地域社会論	2		2		
			類社207	社会心理学	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自101	コンピュータ概論	1	2			情報科学と社会
			類自202	情報処理論	2	2			
			類自203	情報化社会論	2	2			
			類自204	自然保護論	2		2		
			類自205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自206	島嶼環境論	2		2		
			類自207	情報と職業	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて６単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際101	国際学群特別講義	1		2		
			類際202	国際文化系基礎演習	2		1		注1
			類際203	語学教育系基礎演習	2		1		注1
			類際204	経営系基礎演習	2		1		注1
			類際205	情報システムズ系基礎演習	2	1			注1
			類際206	診療情報管理系基礎演習	2		1		注1
			類際207	観光産業系基礎演習	2		1		注1
			類際302	経営情報専門演習Ⅰ	3	2			
			類際305	経営情報専門演習Ⅱ	3	2			
			類際402	経営情報専門演習Ⅲ	4	2			経営情報専門演習Ⅱ
			類際405	経営情報専門演習Ⅳ	4	2			経営情報専門演習Ⅲ
			備考	・注1　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「経営情報専門演習Ⅰ」及び「経営情報専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	専攻専門教育科目	人文科学系科目	専人365	外書講読	3		2		
			備考						
		社会科学系科目	専社234	ベンチャービジネス	2		2		
			専社235	経営特別講義Ⅰ	2		2		
			専社246	経営特別講義Ⅱ	2		2		
			専社239	問題解決の心理学	2		2		
			専社247	情報系インターンシップⅠ	2		2		注2
			専社348	産業情報論	3		2		
			専社370	情報系インターンシップⅡ	3		2		注2
			備考	・注2　ビジネスマナー研修を受けていること、もしくは実習に必要なビジネスマナーを身につけていると認められる者に限る。					
		自然科学系科目	専自101	プログラミング入門	1	2			
			専自102	コンピュータ・グラフィックス	1		2		
			専自103	ウェブデザイン	1		2		コンピュータ・リテラシー
			専自104	ウェブグラフィックス	1		2		
			専自119	データ処理入門	1		2		コンピュータ・リテラシー
			専自225	国際ネットワーク論	2	2			注3
			専自226	ネットワークの構築と運用	2		2		
			専自227	プログラミング言語論	2	2			プログラミング入門　注4
			専自228	上級プログラミング	2		4		プログラミング言語論
			専自229	アルゴリズム論	2		2		注4
			専自230	データベース概論	2	2			
			専自231	データベース実践	2		2		データベース概論
			専自232	ネットワーク技術Ⅰ	2		2		注3
			専自233	ネットワーク技術Ⅱ	2		2		ネットワーク技術Ⅰ
			専自234	ウェブコンテンツ実践	2		2		ウェブデザイン
			専自247	情報システムズ特別講義Ⅰ	2		2		
			専自248	情報システムズ特別講義Ⅱ	2		2		
			専自353	システム設計論	3	2			
			専自354	ネットワーク技術Ⅲ	3		2		ネットワーク技術Ⅱ
			備考	・注3「ネットワーク技術Ⅰ」は、「国際ネットワーク論」と同時に履修することが望ましい。 ・注4「アルゴリズム論」は、「プログラミング言語論」と同時に履修することが望ましい。					

表６　診療情報管理専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人101	日本語理解論	1		2		
			類人102	日本史入門	1		2		
			類人201	日本文化概論	2		2		
			類人202	文化人類学	2		2		
			類人204	人間関係論	2		2		
			類人206	日本語表現論	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社101	経営統計学	1		2		
			類社102	観光学概論	1		2		
			類社203	地域研究方法論	2		2		
			類社204	社会調査法	2		2		
			類社205	経営情報論	2	2			
			類社206	地域社会論	2		2		
			類社207	社会心理学	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自101	コンピュータ概論	1	2			情報科学と社会
			類自202	情報処理論	2		2		
			類自203	情報化社会論	2		2		
			類自204	自然保護論	2		2		
			類自205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自206	島嶼環境論	2		2		
			類自207	情報と職業	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際101	国際学群特別講義	1		2		
			類際202	国際文化系基礎演習	2		1		注1
			類際203	語学教育系基礎演習	2		1		注1
			類際204	経営系基礎演習	2		1		注1
			類際205	情報システムズ系基礎演習	2		1		注1
			類際206	診療情報管理系基礎演習	2	1			注1
			類際207	観光産業系基礎演習	2		1		注1
			類際302	経営情報専門演習Ⅰ	3	2			
			類際305	経営情報専門演習Ⅱ	3	2			
			類際402	経営情報専門演習Ⅲ	4	2			経営情報専門演習Ⅱ
			類際405	経営情報専門演習Ⅳ	4	2			経営情報専門演習Ⅲ
			備考	・注1　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「経営情報専門演習Ⅰ」及び「経営情報専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	専攻専門教育科目	社会科学系科目	専社102	簿記原理	1		4		
			専社104	経営学総論	1		2		
			専社223	原価計算	2		2		簿記原理
			専社225	経営戦略論	2		2		
			専社226	会計学原理	2		2		簿記原理
			専社248	病院実務Ⅰ	2	1			
			専社348	産業情報論	3		2		
			専社350	経営分析論	3		2		
			専社371	病院実務Ⅱ	3	1			注2
			専社372	病院実務Ⅲ	3	4			病院実務Ⅰ、病院実務Ⅱ
			備考	・注2「病院実務Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。					
		自然科学系科目	専自101	プログラミング入門	1		2		
			専自103	ウェブデザイン	1		2		コンピュータ・リテラシー
			専自105	診療情報管理論Ⅰ	1	2			医療管理総論
			専自106	人体構造・機能及び医療用語	1	2			
			専自107	医療概論及び臨床医学総論	1	2			
			専自108	臨床医学各論Ⅰ	1	2			人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
			専自109	医療管理総論	1	2			
			専自110	医療管理各論	1	2			
			専自111	保健医療情報学	1	2			
			専自119	データ処理入門	1		2		コンピュータ・リテラシー
			専自249	医療統計学	2	2			統計学
			専自222	診療情報管理特別講義Ⅰ	2		2		
			専自250	診療情報管理特別講義Ⅱ	2		2		
			専自227	プログラミング言語論	2		2		プログラミング入門　注3
			専自229	アルゴリズム論	2		2		注3
			専自230	データベース概論	2		2		
			専自235	臨床医学各論Ⅱ	2	2			人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
			専自236	臨床医学各論Ⅲ	2	2			人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
			専自237	臨床医学各論Ⅳ	2	2			人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
			専自238	診療情報管理論Ⅱ	2	2			人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
			専自239	国際統計分類Ⅰ	2	2			診療情報管理論Ⅱ
			専自355	国際統計分類Ⅱ	3	2			国際統計分類Ⅰ
			備考	・注3「プログラミング言語論」と「アルゴリズム論」は同時履修することが望ましい。					

表７　観光産業専攻　専門教育科目一覧

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	学類共通専門教育科目	人文科学系科目	類人 101	日本語理解論	1		2		
			類人 102	日本史入門	1		2		
			類人 201	日本文化概論	2		2		
			類人 202	文化人類学	2		2		
			類人 204	人間関係論	2		2		
			類人 206	日本語表現論	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		社会科学系科目	類社 101	経営統計学	1		2		
			類社 102	観光学概論	1	2			
			類社 203	地域研究方法論	2		2		
			類社 204	社会調査法	2		2		
			類社 205	経営情報論	2		2		
			類社 206	地域社会論	2		2		
			類社 207	社会心理学	2		2		
			備考	・専攻が定めた必修を含めて２単位以上修得すること。					
		自然科学系科目	類自 101	コンピュータ概論	1		2		情報科学と社会
			類自 202	情報処理論	2		2		
			類自 203	情報化社会論	2		2		
			類自 204	自然保護論	2		2		
			類自 205	沖縄の天然記念物	2		2		
			類自 206	島嶼環境論	2		2		
			類自 207	情報と職業	2		2		
			備考	・２単位以上修得すること。					
		学際・統合系科目	類際 101	国際学群特別講義	1		2		
			類際 202	国際文化系基礎演習	2		1		注1
			類際 203	語学教育系基礎演習	2		1		注1
			類際 204	経営系基礎演習	2		1		注1
			類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		注1
			類際 206	診療情報管理系基礎演習	2		1		注1
			類際 207	観光産業系基礎演習	2	1			注1
			類際 303	観光産業専門演習Ⅰ	3	2			
			類際 306	観光産業専門演習Ⅱ	3	2			
			類際 403	観光産業専門演習Ⅲ	4	2			観光産業専門演習Ⅱ
			類際 406	観光産業専門演習Ⅳ	4	2			観光産業専門演習Ⅲ
			備考	・注1　専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上修得すること。 ・「観光産業専門演習Ⅰ」及び「観光産業専門演習Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・必修９単位以上、選択１単位以上、計１０単位以上修得すること。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修前提科目等
専門教育科目	専攻専門教育科目	人文科学系科目	専人217	島嶼文化論	2		2		
			専人218	観光文化論	2		2		
			専人242	観光実用英語Ⅰ	2		2		
			専人243	観光実用英語Ⅱ	2		2		観光実用英語Ⅰ
			専人251	観光実用韓国語	2		2		韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ
			専人252	観光実用中国語	2		2		中国語Ⅰ、中国語Ⅱ
			専人365	外書講読	3		2		
			備考						
		社会科学系科目	専社107	観光産業特別講義Ⅰ	1		2		
			専社108	観光産業特別講義Ⅱ	1		2		
			専社109	観光学総論	1		2		
			専社208	地誌学	2		2		
			専社209	レジャー・レクリエーション論	2		2		
			専社210	観光関連法規	2		2		
			専社213	西欧経済史	2		2		
			専社215	沖縄観光	2		2		
			専社216	観光行動論	2		2		
			専社218	観光開発論Ⅰ	2		2		
			専社220	観光調査法	2		4		
			専社221	観光交通論	2		2		
			専社227	イベント事業論	2		2		
			専社228	エコツーリズムⅠ	2		2		
			専社230	ホスピタリティ概論	2		2		
			専社231	観光事業論	2		2		
			専社236	観光地理学	2		2		
			専社237	観光産業論	2		2		
			専社240	旅行業経営論	2		4		
			専社241	旅行業法と約款	2		2		旅行業経営論
			専社338	交通産業論	3		2		
			専社342	観光政策論	3		2		
			専社343	地域経済学	3		2		
			専社344	観光経済学	3		2		
			専社345	観光開発論Ⅱ	3		2		観光開発論Ⅰ
			専社346	ホテル計画論	3		4		
			専社349	ホスピタリティマーケティング論	3		4		
			専社351	ホテル実務	3		6		
			専社373	観光産業系インターンシップⅠ	3		1		注2
			専社374	観光産業系インターンシップⅡ	3		2		注2
			専社354	海外インターンシップ	3		4		注2
			専社356	エコツーリズムⅡ	3		2		エコツーリズムⅠ
			専社359	ホテル経営論	3		2		ホスピタリティ概論
			専社360	国際コンベンションビジネス	3		2		
			専社361	ホスピタリティマネジメント論	3		2		
			専社362	観光資源論	3		2		
			専社367	余暇社会学	3		2		
			専社369	観光関連実務	3		6		
			専社375	観光心理学	3		2		
			備考	・注2「観光産業系インターンシップⅠ」、「観光産業系インターンシップⅡ」及び「海外インターンシップ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。					

区分			科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
						必修	選択	自由	
専門教育科目	専攻専門教育科目	自然科学系科目	専自 112	ゴルフⅠ	1		1		
			専自 113	ゴルフⅡ	1		1		ゴルフⅠ
			専自 114	スクーバダイビング	1		1		
			専自 115	野外活動演習	1		2		
			専自 118	救急処置	1		2		
			専自 120	地球の環境とその保全	1		2		
			専自 223	沖縄の植物と保護	2		2		
			専自 224	自然地理学概論	2		2		
			専自 240	空手	2		1		
			専自 241	スポーツ産業論	2		2		
			専自 242	ウェルネス概論	2		2		
			専自 245	環境調査法	2		4		
			専自 348	環境アセスメント論Ⅰ	3		2		
			専自 349	環境アセスメント論Ⅱ	3		2		環境アセスメント論Ⅰ
			専自 350	健康と長寿	3		2		
			専自 352	自然観察指導法	3		4		
			備考						

■ 副専攻の紹介

副専攻は、他の専攻に所属している学生でも、ある特定の目的に沿って専攻教育科目などの履修を終えると、卒業時に大学がその専門性を認定する制度です。
所属している専攻が提供している副専攻は、認定できません。

※ 副専攻プログラムは卒業要件ではありません。

副専攻	説明（教育目標・内容）	提供専攻
1. 国際貢献	アジアや環太平洋地域で活躍する人材を育成するため、沖縄・日本の文化社会の理解とあわせて「国際系」の諸科目を履修する。	国際文化専攻
2. 英語	現代の国際社会で英語の習得は必須です。IT 産業や観光産業にも役に立つ英語を用いて職場や日常生活、会議等で通用する実践的な英語力を身につけことを目標とします。24 単位を履修することにより副専攻が認められます。	語学教育専攻
3. ビジネスマネジメント	ビジネスの基礎理論と、簿記や情報処理、マーケティングリサーチなどの応用・実践のスキルに関する授業科目を履修する。	経営専攻
4. ネットワーク技術	LAN／インターネット接続型ネットワークの構築・管理・運営の高度なスキルを有する人材を育成する。	情報システムズ専攻
5. システム開発	イントラネットとデータベース知識を有し、それらの管理・運営とコンピュータによる問題の発見とその解決を行える人材を育成する。	情報システムズ専攻
6. 情報管理	プログラミングやシステム設計の知識を有し、コンピュータによる問題の発見とその解決を行える人材を育成する。	情報システムズ専攻
7. デジタルコンテンツ	Web コンテンツやWebアプリケーションを作成する知識と技術を有し、それらの管理・運営を行える人材を育成する。	情報システムズ専攻
8. 観光ビジネス	地域社会及び国際社会において観光産業の振興に貢献できる実践能力を備えた人材を育成する。	観光産業専攻
9. 名桜大学副専攻（地域マネジメント）	地域の現状や課題を理解し、地域の維持と発展に主体的に関わり、行動できる人材を育成する。	—

表８　国際貢献　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	共沖101	沖縄学	1	2			４単位修得すること。
	類人201	日本文化概論	2	2			
国際理解に関する科目	共国101	国際学入門	1		2		１６単位以上修得すること。
	共国103	国際社会と日本	1		2		
	共国105	国際コミュニケーション論	1		2		
	類人202	文化人類学	2		2		
	専人212	日本の歴史	2		2		
	専人213	英米文化概論Ⅰ	2		2		
	専人227	中南米の言語と文化	2		4		
	専社229	国際機構論	2		2		
	専社232	国際経済論	2		2		
	専社243	国際関係論	2		2		
	専社244	国際政治論	2		2		
	専人258	日本の社会	2		2		
	専人259	日本の宗教	2		2		
	専人262	アジアの歴史	2		2		
	専人357	現地実習	3		4		
	専社363	アジアの政治と社会	3		2		
その他の科目	共国102	異文化接触論	1		2		４単位以上修得すること。
	類社203	地域研究方法論	2		2		
	類自204	自然保護論	2		2		
	専人216	沖縄地域文化論	2		2		
	専人365	外書講読	3		2		

履修条件に沿って２４単位以上修得すること。

表９　英語　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	専人234	準高等英語リスニング	2	2			１６単位修得すること。
	専人235	準高等オーラルコミュニケーション	2	2			
	専人236	準高等英語講読	2	2			
	専人237	準高等英作文	2	2			
	専人238	高等英語リスニング	2	2			
	専人239	高等オーラルコミュニケーション	2	2			
	専人240	高等英語講読	2	2			
	専人241	高等英作文	2	2			
異文化理解に関する科目	専人213	英米文化概論Ⅰ	2		2		２単位以上修得すること。
	専人214	英米文化概論Ⅱ	2		2		
	専人315	異文化コミュニケーション論	3		2		
言語に関する科目	専人220	言語学概論Ⅰ	2		2		２単位以上修得すること。
	専人228	英語音声学	2		2		
	専人229	英文法	2		2		
実践的分野の科目	共外219	プラクティカル・イングリッシュⅠ	2		2		４単位以上修得すること。
	共外220	プラクティカル・イングリッシュⅡ	2		2		
	共外221	ビジネス英語Ⅰ	2		2		
	共外222	ビジネス英語Ⅱ	2		2		
	専人364	通訳技法	3		2		
	専人370	ディベート	3		2		

履修条件に沿って２４単位以上修得すること。

表１０　ビジネスマネジメント　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
ビジネスマネジメント	専社104	経営学総論	1		2		６単位以上修得すること。
	専社219	マーケティング論	2		2		
	専社217	流通論	2		2		
	専社226	会計学原理	2		2		
	専社211	会社法	2		2		
	専社225	経営戦略論	2		2		
	専社224	経営組織論	2		2		
	専社222	中小企業論	2		2		
	専社234	ベンチャービジネス	2		2		
	専社238	経営管理論	2		2		
	専社336	人的資源管理論	3		2		
	専社368	地域マーケティング論	3		2		
ビジネススキル	類社101	経営統計学	1		2		６単位以上修得すること。
	専社102	簿記原理	1		4		
	共自102	統計学	1		2		
	類社204	社会調査法	2		2		
	専社220	観光調査法	2		4		
	専社245	市場調査論	2		2		
	専社350	経営分析論	3		2		
ビジネスと情報	共自107	情報科学と社会	1		2		６単位以上修得すること。
	専自119	データ処理入門	1		2		
	専自101	プログラミング入門	1		2		
	類自203	情報化社会論	2		2		
	類自202	情報処理論	2		2		
	専自230	データベース概論	2		2		
	専自231	データベース実践	2		2		
ビジネスとコミュニケーション	類人204	人間関係論	2		2		４単位以上修得すること。
	類社207	社会心理学	2		2		
	専社239	問題解決の心理学	2		2		
	専社365	対人コミュニケーション論	3		2		
	専社366	チームマネジメントの心理学	3		2		
ビジネスと現代社会	類社102	観光学概論	1		2		４単位以上修得すること。
	専社105	ミクロ経済学	1		2		
	専社106	マクロ経済学	1		2		
	専自249	医療統計学	2		2		
	専社349	ホスピタリティマーケティング論	3		4		
	専社343	地域経済学	3		2		

履修条件に沿って２６単位以上修得すること。

表１１　ネットワーク技術　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	類自 101	コンピュータ概論	1	2			１８単位修得すること。
	類自 202	情報処理論	2	2			
	類自 203	情報化社会論	2	2			
	専自 103	ウェブデザイン	1	2			
	専自 225	国際ネットワーク論	2	2			
	専自 226	ネットワークの構築と運用	2	2			
	専自 232	ネットワーク技術Ⅰ	2	2			
	専自 233	ネットワーク技術Ⅱ	2	2			
	専自 354	ネットワーク技術Ⅲ	3	2			
選択科目	類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		１０単位以上修得すること。
	専自 101	プログラミング入門	1		2		
	専自 227	プログラミング言語論	2		2		
	専自 102	コンピュータ・グラフィックス	1		2		
	専自 229	アルゴリズム論	2		2		
	専自 230	データベース概論	2		2		
	専自 231	データベース実践	2		2		
	専自 119	データ処理入門	1		2		
	専社 234	ベンチャービジネス	2		2		
	専社 239	問題解決の心理学	2		2		

履修条件に沿って２８単位以上修得すること。

表１２　システム開発　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	類自 202	情報処理論	2	2			１８単位修得すること。
	専自 101	プログラミング入門	1	2			
	専自 227	プログラミング言語論	2	2			
	専自 228	上級プログラミング	2	4			
	専自 229	アルゴリズム論	2	2			
	専自 230	データベース概論	2	2			
	専自 231	データベース実践	2	2			
	専自 353	システム設計論	3	2			
選択科目	類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		１０単位以上修得すること。
	類自 101	コンピュータ概論	1		2		
	専自 225	国際ネットワーク論	2		2		
	類自 203	情報化社会論	2		2		
	類社 205	経営情報論	2		2		
	専自 232	ネットワーク技術Ⅰ	2		2		
	専自 233	ネットワーク技術Ⅱ	2		2		
	専自 226	ネットワークの構築と運用	2		2		
	専自 102	コンピュータ・グラフィックス	1		2		
	専社 239	問題解決の心理学	2		2		

履修条件に沿って２８単位以上修得すること。

表１３　情報管理　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	類社101	経営統計学	1	2			１８単位修得すること。
	類社205	経営情報論	2	2			
	類自101	コンピュータ概論	1	2			
	類自202	情報処理論	2	2			
	類自203	情報化社会論	2	2			
	専自101	プログラミング入門	1	2			
	専自225	国際ネットワーク論	2	2			
	専自230	データベース概論	2	2			
	専自232	ネットワーク技術Ⅰ	2	2			
選択科目	類際205	情報システムズ系基礎演習	2		1		１０単位以上修得すること。
	専自227	プログラミング言語論	2		2		
	専社234	ベンチャービジネス	2		2		
	専社348	産業情報論	3		2		
	専自119	データ処理入門	1		2		
	専自226	ネットワークの構築と運用	2		2		
	類社207	情報と職業	2		2		
	専自229	アルゴリズム論	2		2		
	専社239	問題解決の心理学	2		2		
	専自231	データベース実践	2		2		

履修条件に沿って２８単位以上修得すること。

表１４　デジタルコンテンツ　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	類自 101	コンピュータ概論	1	2			１８単位修得すること。
	類自 202	情報処理論	2	2			
	類自 203	情報化社会論	2	2			
	専自 101	プログラミング入門	1	2			
	専自 102	コンピュータ・グラフィックス	1	2			
	専自 103	ウェブデザイン	1	2			
	専自 225	国際ネットワーク論	2	2			
	専自 227	プログラミング言語論	2	2			
	専自 234	ウェブコンテンツ実践	2	2			
選択科目	類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		１０単位以上修得すること。
	専自 104	ウェブグラフィックス	1		2		
	専自 230	データベース概論	2		2		
	専自 231	データベース実践	2		2		
	専自 353	システム設計論	3		2		
	専社 234	ベンチャービジネス	2		2		
	専自 232	ネットワーク技術Ⅰ	2		2		
	専自 226	ネットワークの構築と運用	2		2		
	類社 205	経営情報論	2		2		
	類社 207	情報と職業	2		2		

履修条件に沿って２８単位以上修得すること。

表１５　観光ビジネス　副専攻科目一覧

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修条件
				必修	選択	自由	
必修科目	類社102	観光学概論	1	2			６単位修得すること。
	専社231	観光事業論	2	2			
	専社237	観光産業論	2	2			
観光基礎関連分野	専社109	観光学総論	1		2		６単位以上修得すること。
	専社210	観光関連法規	2		2		
	専社228	エコツーリズムⅠ	2		2		
	専社356	エコツーリズムⅡ	3		2		
	専社342	観光政策論	3		2		
	専人218	観光文化論	2		2		
	専社236	観光地理学	2		2		
	専社218	観光開発論Ⅰ	2		2		
	専社216	観光行動論	2		2		
	専社209	レジャー・レクリエーション論	2		2		
	専社344	観光経済学	3		2		
	専社360	国際コンベンションビジネス	3		2		
観光ビジネス関連分野	専社230	ホスピタリティ概論	2		2		８単位以上修得すること。
	専社240	旅行業経営論	2		4		
	専社241	旅行業法と約款	2		2		
	専社349	ホスピタリティマーケティング論	3		4		
	専社346	ホテル計画論	3		4		
	専社359	ホテル経営論	3		2		
	専社227	イベント事業論	2		2		
	専社220	観光調査法	2		4		
	専社338	交通産業論	3		2		
ビジネス実務関連分野	共ア103	コンピュータ・リテラシー	1		2		６単位以上修得すること。
	共社105	経営学	1		2		
	共自102	統計学	1		2		
	専人242	観光実用英語Ⅰ	2		2		
	専人243	観光実用英語Ⅱ	2		2		
	専人251	観光実用韓国語	2		2		
	専人252	観光実用中国語	2		2		
	共外221	ビジネス英語Ⅰ	2		2		
	共外222	ビジネス英語Ⅱ	2		2		
	専社351	ホテル実務	3		6		
	専社373	観光産業系インターンシップⅠ	3		1		
	専社374	観光産業系インターンシップⅡ	3		2		
	専社354	海外インターンシップ	3		4		
	専社369	観光関連実務	3		6		

履修条件に沿って２６単位以上修得すること。

表１６　名桜大学副専攻（地域マネジメント）　科目一覧

区分		科目番号	科目名	受講年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修条件
共通コア	アカデミックスキル	共ア 101	教養演習Ⅰ	1	2			８単位以上修得すること。
	ライフデザイン	共ラ 101	大学と人生	1	2			
		共ラ 204	プロジェクト学習	2	2			
	沖縄理解	共沖 101	沖縄学	1		2		
		共沖 102	沖縄の自然	1		2		
		共沖 103	沖縄の言語	1		2		
		共沖 104	沖縄理解特別講義	1		2		
学類共通	社会科学	類社 102	観光学概論	1		2		４単位以上修得すること。
	自然科学	類自 205	沖縄の天然記念物	2		2		
		類自 206	島嶼環境論	2		2		
	学際・統合	類際 101	国際学群特別講義	1		2		
		類際 301	国際文化専門演習Ⅰ	3		2		
		類際 302	経営情報専門演習Ⅰ	3		2		
		類際 303	観光産業専門演習Ⅰ	3		2		
		類際 304	国際文化専門演習Ⅱ	3		2		
		類際 305	経営情報専門演習Ⅱ	3		2		
		類際 306	観光産業専門演習Ⅱ	3		2		
		類際 401	国際文化専門演習Ⅲ	4		2		
		類際 402	経営情報専門演習Ⅲ	4		2		
		類際 403	観光産業専門演習Ⅲ	4		2		
		類際 404	国際文化専門演習Ⅳ	4		2		
		類際 405	経営情報専門演習Ⅳ	4		2		
		類際 406	観光産業専門演習Ⅳ	4		2		
専門教育	人文科学	専人 216	沖縄地域文化論	2		2		１２単位以上修得すること。
		専人 224	南島歌謡	2		2		
		専人 233	沖縄の文学	2		2		
		専人 245	沖縄の社会	2		2		
		専人 217	島嶼文化論	2		2		
		専人 354	移民と異文化	3		2		
		専人 357	現地実習	3		4		
	社会科学	専社 109	観光学総論	1		2		
		専社 209	レジャー・レクリエーション論	2		2		
		専社 215	沖縄観光	2		2		
		専社 217	流通論	2		2		
		専社 219	マーケティング論	2		2		
		専社 222	中小企業論	2		2		
		専社 225	経営戦略論	2		2		
		専社 234	ベンチャービジネス	2		2		
		専社 341	経済政策	3		2		
		専社 218	観光開発論Ⅰ	2		2		
		専社 345	観光開発論Ⅱ	3		2		
		専社 228	エコツーリズムⅠ	2		2		
		専社 356	エコツーリズムⅡ	3		2		
		専社 343	地域経済学	3		2		
		専社 231	観光事業論	2		2		
		専社 236	観光地理学	2		2		
		専社 237	観光産業論	2		2		
		専社 342	観光政策論	3		2		
		専社 344	観光経済学	3		2		
		専社 351	ホテル実務	3		6		
		専社 368	地域マーケティング論	3		2		
		専社 247	情報系インターンシップⅠ	2		2		
		専社 370	情報系インターンシップⅡ	3		2		
		専社 248	病院実務Ⅰ	2		1		
		専社 371	病院実務Ⅱ	3		1		
		専社 372	病院実務Ⅲ	3		4		
		専社 373	観光産業系インターンシップⅠ	3		1		
		専社 374	観光産業系インターンシップⅡ	3		2		
		専社 369	観光関連実務	3		6		
	自然科学	専自 240	空手	2		1		
		専自 242	ウェルネス概論	2		2		

履修条件に沿って２４単位以上修得すること。

Ⅵ　留学・資格等について

1．留学等について

海外交流協定に基づく留学

海外交流協定校への留学を希望する学生は、海外協定大学派遣交換留学生の公募に応募し、書類審査・留学試験・面接、合否判定会議を経て選考される。

交換留学は、在学扱いの派遣であるため、授業料は通常どおり本学へ納入することになる。但し、欧米圏（英語圏）の協定校の場合、留学先によっては本学と留学先の授業料の差額分について個人負担となる場合がある。南米・アジア圏の場合は、授業料の相互免除制度が確立されているため、留学先の大学への授業料納入は不要。また、その留学に係る旅費、諸保険加入費用、滞在費等は全て自己負担となる。

1　公募期間

前期派遣留学：　7月～9月に掲示にて公募

後期派遣留学：１１月～１月に掲示にて公募

2　応募要件及び応募

本学に１年以上在学した者

総合評定平均値（GPA）が 2.5 以上（原則）を有する者

留学を希望する言語圏において、定められた外国語能力を満たす者

3　選考

総合評定平均値

留学試験

面接

※ 上記の３つを、30%、30%、40%の比重で評価し合否を判定する。

4　留学期間

１年以内

5　授業料等について

授業料は通常通り本学に納入する。ただし、欧米圏（英語圏）の場合は留学先と本学との交流状況等により、留学先の大学への授業料の差額分を納入しなければならない場合もある。

6　留学報告書の提出

学期末ごとに「留学現状報告書」、留学終了後は「留学終了報告書」を国際交流センターへ提出しなければならない。

7　単位認定

留学先の大学で修得した単位は、学生本人が学年担当教員と面接のうえ、「単位互換（認定）申請書」を作成し、教務課へ提出する。提出された「単位互換申請書（留学先の成績証明書とシラバスを添付）」は、当該学部等の教務委員会の審議を経て学長が単位を認定する。

≪ 海外交流協定校派遣一覧 ≫

	大学名	国・地域名		大学名	国・地域名
英語圏	ナイアガラ大学	米国	中国語圏	大仁科技大学	台湾
	ハワイ大学ヒロ校	米国		開南大学	台湾
	サウスイースト・ミズリー州立大学	米国		中州科技大学	台湾
	グアム大学	米国		国立高雄大学	台湾
	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ	米国	ポルトガル語圏	ロンドリーナ州立総合大学	ブラジル
	セントラル・ランカシャー大学	英国	スペイン語圏	産業社会科学大学	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ
	ウーロンゴン大学	豪州		パシフィコ大学	ペルー
	ブロック大学	カナダ		サン・マルティン・デ・ポレス大学	ペルー
	レスブリッジ大学	カナダ		メキシコ国立自治大学	メキシコ
韓国語圏	啓明大学校	韓国		ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学	ボリビア
	国立済州大学校	韓国		アルカラ大学	スペイン
	明知大学校	韓国	東南アジア圏	メーファールァング大学	タイ
	国立釜慶大学校	韓国		サイアム大学	タイ
中国語圏	北京連合大学旅遊学院	中国		スラーターニー・ラーチャパット大学	タイ
	湖南農業大学	中国		マラヤ大学	ﾏﾚｰｼｱ
	山東大学	中国		デ・ラ・サール大学	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ
	吉林外国語大学	中国		ベトナム国家大学ハノイ外国語大学	ベトナム
	黒龍江大学	中国			

※ 海外協定大学は変更される場合がある。
派遣を希望する場合は、必ず国際交流センターまで問い合わせること。

国内交流単位互換協定に基づく留学

国内交流単位互換協定校への留学を希望する学生は、本学および派遣を希望する大学の書類審査の上、国内交流単位互換協定大学へ特別聴講学生として留学できる。留学期間中は在学扱いとなり、留学先の大学で修得した単位は、本学で修得した単位とみなし認定される。

なお、授業料等は通常どおり本学へ納入することになるが、留学に係る諸費用は全て本人負担となる。

1 募集時期

後学期留学の募集時期： ４月 ～ ５月末

前学期留学の募集時期：１０月 ～ １１月末

※ 申請窓口は教務課となります。

2　募集要件

本学に１年以上在籍した者

要件となる修得単位数及びGPAポイントは、下表のとおり。

派遣年次	申請年次	修得単位数	GPAポイント
２年次前学期	１年次後学期	１年次前学期終了時点で　15単位以上	2.3以上
２年次後学期	２年次前学期	１年次後学期終了時点で　30単位以上	〃
３年次前学期	２年次後学期	２年次前学期終了時点で　45単位以上	〃
３年次後学期	３年次前学期	２年次後学期終了時点で　60単位以上	〃
４年次前学期	３年次後学期	３年次前学期終了時点で　80単位以上	〃

3　選考

合否判定は、提出された願書に基づき当該学部等の教務委員会等の審議を経て決定される。

※ 学内選考に合格しても受入先の大学の選考で不合格となる場合がある。

4　留学期間

半年間又は１年間

5　授業料等について

通常通り本学へ納入する。

6　単位認定

留学先の大学で修得した単位は、当該学部等の教務委員会の審議を経て、可能な限り本学の単位として認定される。

国内交流単位互換協定校一覧

	大　学　名	所在地		大　学　名	所在地
1	札幌国際大学	北海道	11	静岡産業大学	静岡県
2	東海大学 札幌キャンパス	北海道	12	朝日大学	岐阜県
3	はこだて未来大学	北海道	13	奈良県立大学	奈良県
4	桜美林大学	東京都	14	大阪国際大学	大阪府
5	文京学院大学	東京都	15	関西国際大学	兵庫県
6	法政大学	東京都	16	高知県立大学	高知県
7	多摩大学	東京都･神奈川県	17	環太平洋大学 短期大学部	愛媛県
8	文教大学 湘南キャンパス	神奈川県	18	沖縄工業高等専門学校	沖縄県
9	横浜商科大学	神奈川県			
10	開智国際大学	千葉県			

2.「診療情報管理士」の受験資格について

国際学群では、社団法人日本病院会認定の「診療情報管理士」の課程を設置し、その**受験資格**を取得することができます。

※診療情報管理専攻を主専攻としない学生も対象となります。

1．診療情報管理士とは

診療情報管理士とは、診療記録及び情報を適切に管理し、そこに含まれるデータを加工、分析、編集し活用することにより医療の安全管理、質の向上、及び病院の経営管理に寄与する専門的職業です。診療情報管理士認定試験に合格すると、四病院団体（社団法人日本病院会、社団法人全日本病院協会、社団法人日本医療法人協会、社団法人日本精神科病院協会）及び財団法人医療研修推進財団の認定する診療情報管理士として登録されます。

2．受験資格取得の対象となる学生

（1）「診療情報管理士」受験資格取得に必要な科目を修得した学生。（本学を卒業した学生を含む。）

※ カリキュラム（科目一覧）と受験資格取得に必要な単位数については、126 ページの表 17 を参照すること。

3．認定試験受験から認定証交付までの流れ

（1）3年次受験の場合

3 年次前期終了後、認定試験申込時（10 月）に必修 16 科目（病院実務Ⅲを含む）を履修済みの学生は、① 10月に認定試験の申込み、② 翌年２月に受験、③ ３月に合否判定。合格通知書が送付される。

診療情報管理士認定は、診療情報管理士認定試験合格と、大学卒業が条件となっているので、4 年次卒業まで合格通知を各自保管する。診療情報管理士認定証の交付は、３月卒業、９月卒業生共に卒業確定後（社）日本病院会へ申請をし、３月卒業生は５月、９月卒業生は９月卒業後に授与される。

（2）４年次受験の場合

4 年次前期終了後、認定試験申込時（10 月）に必修 16 科目（病院実務Ⅲを含む）を履修済みの学生は、① 10月に認定試験の申込み、② 翌年２月に受験、③ ３月に合否判定。合格通知書が送付される。

診療情報管理士認定は、診療情報管理士認定試験合格と、大学卒業が条件となっている。３月卒業、９月卒業共に卒業確定後（社）日本病院会へ申請し、３月卒業生は５月、９月卒業生は９月に授与される。

※１年次より受験資格修得に必要な科目を履修した学生は、早くて３年次に受験することができます。
２年次より受験資格修得に必要な科目を履修した学生は、早くて４年次に受験することができます。
３年次より受験資格取得に必要な科目を履修した学生は、卒業後に受験することができます。

4．診療情報管理士資格取得に係る受験費用および認定証交付費用

（1）認定試験の受験費用は以下のとおりです。（下記の金額は、受験費用として**申請者が日本病院会に支払います**。）

試験名称	対象学生	受験費用	備　考
診療情報管理士認定試験	国際学群に所属する学生	１０，０００円	（社）日本病院会が指定する科目を履修済みの学生

※ 上記金額については、申請時に変更となる場合もある。

（2）本件の称号が得られる学生及び認定証交付費用は以下のとおりです。（下記の金額は、認定証交付費用として**申請者本人が日本病院会に支払います**。）

称　　号	対象学生	認定証交付費用	備　考
診療情報管理士	診療情報管理士認定試験合格者	３０，０００円	

※ 上記金額については、申請時に変更となる場合もある。

5．受験日時

２月中旬

6．試験方法

診療情報管理士として必要な知識・技能について、基礎・専門の各分野ついて試験を行います。
試験は、原則として多肢選択方式で出題します。

7．留意事項

本資格（「診療情報管理士」）の認定証交付条件は、認定試験合格と大学卒業が条件となります。（3年次に認定試験合格しても、卒業後に認定証交付となります。）

申請年度に本資格（「診療情報管理士」）卒業対象者の卒業判定（卒業年度の3月上旬頃実施）に「不合格」となった場合、資格申請は取り下げとなり、交付費用の返還はできませんので、そのことを承知の上で申請申込を行ってください。

文中の日程や費用については、令和元年１１月現在の情報を基に作成しています。

表 17　診療情報管理士課程

診療情報管理士課程 （最低修得単位数）	授業科目名	単位数	備　　考
必修科目（34）	診療情報管理論Ⅰ	2	【受験資格を取得する要件】 診療情報管理士課程における必修単位数（34 単位）を修得済みであること。
	人体構造・機能及び医療用語	2	
	医療概論及び臨床医学総論	2	
	臨床医学各論Ⅰ	2	
	医療管理総論	2	
	医療管理各論	2	
	保健医療情報学	2	
	医療統計学	2	
	臨床医学各論Ⅱ	2	
	臨床医学各論Ⅲ	2	
	臨床医学各論Ⅳ	2	
	診療情報管理論Ⅱ	2	
	国際統計分類Ⅰ	2	
	国際統計分類Ⅱ	2	
	病院実務Ⅰ	1	
	病院実務Ⅱ	1	
	病院実務Ⅲ	4	

3.「観光実務士」について

国際学群では、全国大学実務教育協会認定の「観光実務士」の課程を設置し、この資格を取得することができます。

1．資格取得の対象となる学生

「観光実務士」の資格取得に必要な科目の成績が『良』以上の学生。

※　カリキュラム（科目一覧）と資格取得に必要な単位数については、表 18 を参照すること。

※　この表が示す科目区分や必修指定は、大学の卒業要件としての科目区分や必修指定とは異なるので注意すること。

2．資格取得申請の時期および資格認定証の交付

申請年度の３月に取得希望の場合は１０月下旬頃に申請を行い、９月に取得希望の場合は６月下旬頃に申請を行います。申請手続きは**教務課窓口**で行います。

3．資格取得に係る費用

本件の申請費用は以下のとおりです。

称　　号	対象学生	申請費用	備　考
観光実務士	国際学群	７，０００円	・申請費用は１件あたりの額。 （令和２年３月１日現在）

※ 上記申請費用については、申請時に変更となる場合もある。

4．留意事項

（１）　申請学期に履修中の科目がある学生については、「良」以上の成績が得られるものと見込んで申請を行うこと。（当該科目の成績が最終的に「不可」や「可」で要件を満たせなかった場合も、事前に同協会へ支払った申請費用は返還できませんので注意してください。）

（２） 本資格は、卒業前に申請が必要です。卒業後に大学に申請しても資格を取得することはできませんので注意してください。

表 18　観光実務士課程

科目区分	授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	備　　考
領域１ 観光ビジネス実務の基礎となる知識・スキル・基本能力の領域	観光学概論	2		【資格取得要件】 ①各科目区分の必修科目を含め**合計２０単位以上**修得すること。 ②成績は全て**「良」以上**の科目のみを対象とする。（例えば、「可」の場合は、本資格の申請の単位としてカウントされない。） ③領域ごとの単位に関しては特に指定なし。
	観光学総論		2	
	レジャー・レクリエーション論		2	
	観光政策論		2	
	観光経済学		2	
	観光行動論		2	
	観光開発論Ⅰ		2	
	観光地理学		2	
	観光実用英語Ⅰ		2	
	教養演習Ⅰ		2	
	教養演習Ⅱ		2	
	観光実用韓国語		2	
	観光実用中国語		2	
	観光文化論		2	
領域２ 観光ビジネス実務を支える専門知識・スキルとその活用力の領域	観光事業論	2		
	観光産業論	2		
	エコツーリズムⅠ		2	
	エコツーリズムⅡ		2	
	旅行業経営論		4	
	ホテル計画論		4	
	交通産業論		2	
	観光関連法規		2	
	観光調査法		4	
	ホスピタリティマーケティング論		4	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	観光資源論		2	
	ホテル経営論		2	
	イベント事業論		2	
	国際コンベンションビジネス		2	
領域３ 観光実務の総合的実践力と学修継続力の領域	観光産業専門演習Ⅰ	2		
	観光産業専門演習Ⅱ	2		
	海外インターンシップ		4	
	ホテル実務		6	
	観光関連実務		6	
	観光産業専門演習Ⅲ		2	
	観光産業専門演習Ⅳ		2	

4.「日本語教育（日本語教師養成課程）」修了証について

国際学群では、文部科学省の基準及び解釈指針に準じた「日本語教育（日本語教師養成課程）」修了証を授与します。

1.「日本語教育（日本語教師養成課程）」修了証取得の対象となる学生

「日本語教育（日本語教師養成課程）」修了証取得に必要な単位をすべて取得し、実習科目を含む内容の科目である「日本語教育実践演習」の単位を取得した学生。

※カリキュラムと必要な単位数については表１９を参照すること。
※この表が示す科目区分や必修指定は、大学の卒業要件としての科目区分や必修指定とは異なるので注意すること。

2. 修了証取得の申請の時期及び修了証の交付

申請時期は、卒業年度の前学期並びに後学期の登録調整期間とします。申請続きは**教務課窓口**で行います。

3. 留意事項

（１） 本資格は、卒業前に申請が必要です。卒業後に大学に申請しても資格を取得することができませんので、ご注意ください。

（２） 各区分の必要単位数を満たした上で合計 26 単位以上を修得する必要があります。

（３） 成績はすべて「良」以上の科目のみを対象とします。（例えば、「可」の場合は、本資格の申請の単位としてカウントされません。）

（４） 「日本語教育実践演習」の履修に関しては、必修科目であるほかの４科目をすべて修得済みで、かつ成績がすべて「優」以上である者のみ履修を認めます。

（５） 必修科目である５科目は、本学で履修した者に限ります。

※ その他の資格取得については、**キャリア支援課**に問い合わせること。

※ 教育職員免許状については、教員養成支援センターに問い合わせること。

表１９　日本語教師養成課程

科目区分	授業科目名	単位数		備　　考
		必修	選択	
言語 （必修科目を含め10単位以上）	日本語学概論	2		【履修条件】 ①各区分の必要単位数を満たした上で**合計２６単位以上**を修得すること。 ②成績はすべて**「良」以上**の科目のみを修了証取得の対象とする。 ③「日本語教育実践演習」の履修は、**必修科目４科目が「優」以上**である者のみ履修を認める。 ④必修科目である５科目は、本学で履修した者に限る。
	日本言語史	2		
	現代日本語論	2		
	日本語理解論		2	
	言語と文学		2	
	言語学概論Ⅰ		2	
	言語学概論Ⅱ		2	
言語と教育 （必修科目を含め6単位以上）	日本語教授法	2		
	日本語教育実践演習	2		
	国際コミュニケーション論		2	
	日本語表現論		2	
社会・文化・地域 （４単位以上）	沖縄学		2	
	漢文講読		2	
	日本文化概論		2	
	日本の歴史		2	
	日本古典文学論		2	
言語と社会 （４単位以上）	国際社会と日本		2	
	英米文化概論Ⅰ		2	
	沖縄の文学		2	
	国際政治論		2	
	沖縄の社会		2	
	日本近代文学論		2	
言語と心理 （２単位以上）	異文化接触論		2	
	問題解決の心理学		2	
	社会心理学		2	
	人間関係論		2	

4．その他の単位認定について

大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

国際学群では、文部科学大臣の認定を受けた技能審査のうち、表 20 に示す資格について、本学で履修したとみなす授業科目に単位を読み替えることができます。

1　単位認定を申請できる学生

（1）本学入学前（再入学、編入学及び転入学を含む）に、表 20 に定める資格に合格している学生
（2）本学在学中に、表 20 に定める資格に合格している学生

2　申請方法

大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書（201 ページ）に合格証等の写しを添え、**教務課**に提出します。

期限は各学期の終了する１ヶ月前までとします。厳守すること。

表 20　文部科学省大臣の認定を受けた主な資格のうち、本学で履修したものとみなす授業科目

資　格　名	本学の授業科目	単位
実用英語技能検定２級以上	ビジネス英語Ⅰ プラクティカル・イングリッシュⅡ	2 2
ＴＯＥＩＣ５１９ 点 以上	ビジネス英語Ⅰ プラクティカル・イングリッシュⅠ	2 2
実用フランス語技能検定４級以上	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	2 2
実用スペイン語検定４級以上	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	2 2
日本中国語検定４級以上	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	2 2
HSK（４級、５級、６級）	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	2 2
ハングル能力検定４級以上	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	2 2
韓国語能力検定初級（旧１級、２級）	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	2 2
日本商工会議所簿記検定試験３級または 全国商業高等学校協会簿記検定２級または 全国経理教育協会簿記能力検定２級（商業簿記）	簿記原理	4
日本商工会議所簿記検定試験２級以上または 全国商業高等学校協会簿記検定１級（会計･原価計算）または 全国経理教育協会簿記能力検定１級 （商業簿記・会計学及び原価計算・工業簿記）以上	簿記原理 上級簿記 原価計算	4 4 2
全国経理教育協会簿記能力検定１級（商業簿記･会計学のみ合格）	簿記原理 上級簿記	4 4
全国経理教育協会簿記能力検定１級（原価計算･工業簿記のみ合格）	簿記原理 原価計算	4 2
IT パスポート	情報処理論 コンピュータ概論	2 2
基本情報技術者	情報処理論 コンピュータ概論 プログラミング入門	2 2 2
CG クリエーター検定（ベーシック）または 画像処理エンジニア検定（ベーシック）または マルチメディア検定（ベーシック）	コンピュータ・グラフィックス	2
CG クリエーター検定（エキスパート）または 画像処理エンジニア検定（エキスパート）または マルチメディア検定（エキスパート）	コンピュータ・グラフィックス ウェブグラフィックス	2 2
ドットコムマスター（シングルスター以上）	国際ネットワーク論	2
数学検定２級	数学	2

Ⅶ　諸手続きについて

証明書・願書・届出等の手続きについて

証明書

証明書の種類	担当窓口	交付日	手数料	備　考
成績証明書	教務課	即日	200 円	※ 証明書の交付は、原則として所定の日とする。ただし、至急の場合は、相談に応じる。 ※ 手数料は、全て１通あたりの金額である。 ※ 手数料等について、各年度で変更する場合がありますので窓口でご確認ください。
在学証明書			200 円	
卒業証明書			200 円	
卒業見込証明書			200 円	
在学期間証明書		３日後	200 円	
各種英文証明書			300 円	
学力に関する証明書			300 円	
健康診断受診証明書		即日	100 円	
受験許可証		即時	100 円	
学生証（再発行）	学生課	翌　日の午後	1,000 円	

願書

願書の種類	担当窓口	提出期限	備　考
休学願	教務課	随時	１回の願い出で休学できる期間は、１年間に限る。１年間を超えて休学を申請する場合は、再度、「休学願」の提出が必要である。
復学願		次学期開始の１ヶ月前	休学者が復学する際に提出する。
退学願		随時	退学する際も学長の許可を得なければならないため、「退学願」の提出が必要である。
再入学願		次学期開始の60 日前	退学者・除籍者が再入学する際に提出。ただし、懲戒的な理由により退学・除籍となった者は対象外である。
転学部等願		１月末まで	他の学部等への異動を希望する際は、当該学部等及び転学部等の許可を得なければならない。なお、転学部等は、学年度の始め（４月）に限る。
転学科願		次学期開始の１ヶ月前	他の学科への異動を希望する際は、当該学科及び転学科の許可を得なければならない。（人間健康学部のみ。）
学業成績通知送付先変更願		随時	成績通知先の住所を変更する場合は、速やかに提出してください。 ※引越し等での変更も同様です。

願書の種類	担当窓口	提出期限	備　　考
単位認定願	教務課	各学期終了 １ヶ月以内	資格取得又は他の教育機関で修得した単位の認定を希望する際に提出すること。
科目等履修生願書		前期：２月末まで 後期：８月末まで	卒業後に特定の科目（教職科目等）の単位を修得したい場合に提出する。
留学願（国内交流）		所定の日	国内交流を希望する場合は、教務課へ相談すること。
健康診断受診証明書発行願		随時	４月の健康診断受診者で医師の問診を受けた者に対して発行する。 （手数料 100 円）
学割証 （学校生徒旅客運賃割引証）		随時	ＪＲ、船舶利用時の運賃の割引（２割引）に利用。ただし、枚数制限及び有効期限がある。
留学願（海外交流）	国際交流センター	所定の日	海外交流を希望する場合は、国際交流センターへ相談すること。
寄宿舎入居願			入居者を募集する際は、掲示にて周知する。
学生証再発行願	学生課	随時	学生証を紛失又は破損した場合は、速やかに再発行を願い出ること。 （手数料 1,000 円）
施設使用許可願		３日前	学内施設を利用したい場合に提出する。ただし、必ずしも許可されるとは限らない。
備品借用願		３日前	貸出し用備品に限る。
奨学生願書		所定の日	奨学生を募集する際は、掲示にて周知する。
教育職員免許状授与願	教員養成支援ｾﾝﾀｰ	教育職員免許状取得の要件を満たした卒業年次の学生に対しては、教員養成支援センターが本人に代わり一括申請を行なう。個人申請を希望する者は、各自、問い合わせること。	

届出等

届出等の種類	担当窓口	手続き日	備　　考
学生情報記載事由変更届	教務課	随時	改姓、住所又は保証人等に変更が生じた場合、提出すること。
学生団体設立届	学生課	随時	責任者３名、団体員名簿、団体規約及び設立届けに顧問教職員の押印が必要である。学年度内有効である。
学生団体継続届		原則として４月末	団体を継続する場合は、学年度ごとに継続届の提出が義務付けられている。手続き日に変更がある場合は、掲示にて周知する。
学外活動届		１週間前	団体として学外で活動する場合は、必ず提出しなければならない。（保険に関わる。）
学生集会届		１週間前	学長の許可が必要である。
文書配布届		３日前	学長の許可が必要である。
遺失物・拾得物届		随時	事実発生後速やかに届け出ること。
紛失届		随時	事実発生後速やかに届け出ること。
図書館資料紛失届	図書館	随時	事実発生後速やかに届け出ること。
欠席届	科目担当教員	原則として事前。病欠の場合は事後でも良い。	教員へ直接手渡すか、専任教員の場合は、研究室のメールボックスに投函してもよい。
求職カード	キャリア支援課	所定の日	掲示にて周知する。ゼミ担当教員のサインが必要である。

☞学内での「？」は…

こんな時はここへ

事　　項	担当窓口	摘　　要
授業の内容について相談したい。	教務課	オフィスアワーを利用して、科目担当教員へ問い合わせるか、当該科目のシラバスを参照すること。
履修方法がよく分からない。		「履修ガイド」を熟読し、なお、不明な点がある場合は、指導（学年担当）教員へ問い合わせること。
単位認定を受けたい。		教務課で申請書を受取り、指導（学年担当）教員と面談の上、「単位認定申請書」を作成し、提出すること。
学期末試験の日程が知りたい。		事前に掲示にて周知する。 （原則として電話での問い合わせには応じていない。）
休講・補講について知りたい。		事前に掲示にて周知する。 （原則として電話での問い合わせには応じていない。）
授業を欠席したい。		教務課へ備え付けの「欠席届」に必要事項を記入し、必要書類を添付して当該科目担当教員へ提出すること。ただし、欠席はあくまでも欠席であり出席扱いではない。
休学したい。		教務課で「休学願」（書類）を受取り、必要事項を記入の上、指導（学年担当）教員の面談を経て提出すること。
退学したい。		教務課で「退学願」（書類）を受取り、必要事項を記入うえ、指導（学年担当）教員の面談を経て提出すること。
再入学したい。		教務課で「再入学願」（書類）を受取り、必要事項を記入うえ、再入学する年次の指導（学年担当）教員の面談を経て提出すること。ただし、懲戒的な理由で退学・除籍となった者は対象外である。
公欠席を適用したい。		インフルエンザ等の感染症又は教育実習、就職試験、サークルの学外遠征等に関する公欠席は、教務課へ提出すること。 ※ 公欠席は、１科目に付き１コ学期内に２回まで認められる ※「欠席及び成績評価の対象等に関する申し合わせ」の別表（第３条関係）「公欠席」対象項目と手続き等を参照
国内留学をしたい。		国内交流協定校への留学を希望する際は、教務課へ問い合わせること。
本人又は家族の住所が変更になった。		速やかに「学生情報記載事由変更届」を提出すること。
保証人等が変更になった。		速やかに「学生情報記載事由変更届」を提出すること。
船舶等の学割を得たい。		自動証明書発行機から発行する。 ＪＲ、船舶利用時の運賃の割引（2 割引）に利用。ただし、枚数制限及び有効期限がある。

事　　項	担当窓口	摘　　要
海外留学をしたい。	国際交流センター	海外交流協定校への留学を希望する際は、国際交流センターへ問い合わせること。
学生証を紛失又は破損した。	学生課	「学生証再発行願」を提出すること。（発行手数料 1,000 円）
学内で落とし物を拾った。		速やかに届け出ること。
学内に忘れ物をした。		速やかに問い合わせること。
サークルに入部したい。		直接、当該サークル室を訪ねるか、学生課へ問い合わせること。
新しいサークルを設立したい。		「学生団体設立届」に顧問教職員の確認印を受け、「団体員名簿」、「団体規約」を添えて提出すること。
サークルを継続したい。		「学生団体継続届」に顧問教職員の確認印を受け、「団体員名簿」を添えて提出すること。
サークルで学外合宿、遠征試合等、学外活動をしたい。		必要書類（大会要項等）を添えて「学外活動届」を提出すること。
その他サークルに関する諸問題		先輩、顧問教職員又は学生課へ問い合わせること。
学内施設を利用したい。		「施設使用許可願」を提出すること。
貸出備品を借用したい。		「備品借用願」を提出すること。
学内で集会をしたい。		集会の内容が記載された書類を提出し、許可を得ること。
学内に掲示をしたい。		掲示物を提出し、認印を受けること。
学内でビラを配布したい。		配布するビラを提出し、許可を得ること。
奨学金の申請がしたい。		奨学生の募集は、事前に掲示にて周知する。
アルバイトを紹介してほしい。		掲示板又は学生課にファイリングされた求人票を参照すること。なお、面接を受ける際は、本人が直接募集先へ問い合わせること。
アパートを紹介してほしい。		学生課にファイリングされた物件を参照し、本人が直接不動産業者に問い合わせること。
交通事故にあった。		被害者、加害者に関わらず速やかに連絡すること。
学生保険の適用を受けたい。		事由発生後は、速やかに届け出ること。
学内で怪我をした、体調を崩した。	学生課 保健ｾﾝﾀｰ	保健センター又は学生課へ連絡すること。必要があれば病院を紹介する。
悩みがある。	保健ｾﾝﾀｰ	カウンセリングの申込みをすること。
就職について相談したい。	キャリア支援課	窓口へ問い合わせること。
リクルート情報が欲しい。		分野別に整えられた豊富な資料から自由に閲覧が可能。なお、不明な点は、係員へ問い合わせること。
大学院へ進学したい。		指導教員又は窓口へ問い合わせること。
卒業後の進路（就職・進学等）が決定した。		速やかに報告すること。
貸出図書を紛失又は破損した。	図書館	「資料の紛失届」を提出すること。
参考文献を入手したい。		図書館カウンターへ問い合わせること。
教職について知りたい。	教員養成支援ｾﾝﾀｰ	係員へ問い合わせること。

Ⅷ　学則・諸規程

名桜大学学則

（平成６年４月１日制定）

第１章　総則

第１節　目的

（目的）

第１条　本学は，教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し，幅広い知識を授け，世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

第２節　組織

（学群及び学部）

第２条　本学に次の学群及び学部（以下「学部等」という。）を置く。

国際学群

人間健康学部

２　前項の学部等に置く学科等及びその入学定員，編入学定員，収容定員は，次のとおりとする。ただし，編入学定員は３年次定員とする。

学群・学部	学類・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
国際学群	国際学類	２８０人	１５人	１１５０人
人間健康学部	スポーツ健康学科	９５人	５人	３９０人
	看護学科	８０人	５人	３３０人
計		４５５人	２５人	１８７０人

３　前項に規定する国際学群の入学定員中１５人は外国人留学生とする。

（大学院）

第２条の２　本学に大学院を置く。

２　大学院に関する規程は，別に定める。

（助産学専攻科）

第２条の３　本学に助産学専攻科を置く。

２　助産学専攻科に関する規程は，別に定める。

（附属図書館）

第３条　本学に附属図書館を置く。

２　附属図書館に関し必要な事項は，別に定める。

第３条の２　本学に附属研究所を置く。

２　附属研究所に関し必要な事項は，別に定める。

（事務局）

第４条　本学に事務局を置く。
２　事務局の組織に関し必要な事項は，別に定める。

第３節　職員

（職員）
第５条　本学に学長，副学長，教授，准教授，講師，助教，助手，事務職員及びその他必要な職員を置く。
２　職制に関し必要な事項は，別に定める。
（学長）
第５条の２　学長は，校務をつかさどり，職員を統督する。
（副学長）
第５条の３　副学長は，学長を助け，命を受けて校務をつかさどる。
２　副学長に関し必要な事項は，別に定める。

第４節　教育研究審議会及び教授会

（教育研究審議会）
第６条　本学の教育研究に関する重要事項を審議するため，教育研究審議会を置く。
２　教育研究審議会の運営に関する規定は，別に定める。
（教授会）
第６条の２　本学の学部等に教授会を置く。
２　教授会の組織及び運営に関する事項は，別に定める。

第５節　学年，学期及び休業日

（学年）
第７条　本学の学年は４月１日に始まり，翌年３月３１日に終わる。
（学期）
第８条　学年を次の２学期に分け，学期ごとに授業科目を開設し，第１５条に定めるところにより単位の認定を行う。
前学期　４月１日から９月３０日まで
後学期　１０月１日から翌年の３月３１日まで
２　学長は，前項の学期の期間を必要に応じて変更することができる。
（休業日）
第９条　休業日は次のとおりとする。
(1)　日曜日及び土曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律１７８号）に規定する休日
(3)　沖縄県慰霊の日　６月２３日
(4)　創立記念日　１２月２１日

(5)　夏季休業　８月１日から９月３０日まで
(6)　冬季休業　１２月２１日から翌年１月４日まで
(7)　春季休業　３月１日から３月３１日まで
２　学長は，前項の休業日を必要に応じて変更することができる。
３　臨時休業日は，その都度学長が定める。
４　休業日の期間中でも必要な実習その他を課することができる。

第２章　修業年限及び在学期間

（修業年限）
第１０条　本学の修業年限は，４年とする。
２　前項の規定にかかわらず，学生が職業を有している等の事情により，修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは，支障のない場合に限り，その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。
３　長期履修の取扱いに関する細則は，別に定める。
（在学期間）
第１１条　学生は，修業年限の２倍を超えて在学することができない。
２　前項の規定に関わらず，第２３条の規定により入学した者は，４年を超えて在学することができない。
３　第１項の規定に関わらず，第２４条第１項及び第２５条第１項の規定により入学した者は，入学後の在学すべき年数の２倍を超えて在学することができない。

第３章　教育課程

（教育課程の編成方針）
第１２条　本学は，学部等及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し，学部等及び学科等ごとに体系的な教育課程を編成するものとする。
（人材養成の目的）
第１２条の２　学部等の人材養成の目的を次のとおり定める。
(1)　国際学群・国際学類
平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と国際的な言語文化，情報及び観光分野で活躍できる有為な人材を養成する。
(2)　人間健康学部
平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と調和のとれた知・徳・体をそなえた人材及び心身の健康を支援する有為な人材を養成する。
ア　スポーツ健康学科
人間の「こころ」と「からだ」を科学的に研究し，人格の尊重，生命の尊厳を指導できる資質をそなえた健康支援の人材を養成する。

イ　看護学科

人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し，自己評価能力・自己教育力を身につけ，広く社会に貢献できる看護職者を養成する。

（教育研究上の目的）

第１２条の３　学部等の教育研究上の目的を次のとおり定める。

(1)　国際学群・国際学類

地域の自然と文化及び歴史的，地理的，社会的背景を基礎に，グローバル化する国際情勢に対応して，学際的，理論的，実践的及び比較的研究を通じ，その応用を展開する。

(2)　人間健康学部

ア　スポーツ健康学科

人間理解，健康理解を基礎として，食生活・栄養，運動・スポーツ，心理，社会福祉，保健・医療の幅広い視点に立った多面的角度から「スポーツと健康」を探求・究明する。

イ　看護学科

地域に根ざしたケアリング文化を発掘・継承・発展させ，人類の健康増進に務め且つ看護学のグローバルな発展に寄与することを目的に教育研究活動を推進する。

（授業科目の名称及び単位数等）

第１３条　本学における授業科目の名称並びに単位数は別表１から別表４のとおりとする。

２　授業科目は，必修科目，選択科目及び自由科目とする。

３　外国人留学生対象の外国語教育科目の種類及び単位数は,別表５のとおりとする。

４　卒業に必要な単位数は，別表６－１及び別表６－２のとおりとする。

（単位の計算方法）

第１４条　授業科目の単位の計算方法は，１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業及び授業時間外に必要な学修を考慮し，次の基準により単位数を計算するものとする。

(1)　講義及び演習については,１５時間から３０時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験,実習及び実技については，３０時間から４５時間の授業をもって１単位とする。

(3)　講義又は演習及び実験,実習又は実技の二つ以上の方法で構成される授業科目については，上記(1)及び(2)を勘案し，１６時間から４５時間をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，卒業論文等の授業科目については，必要な学修の成果を考慮して，単位数を定めることができる。

（単位の授与）

第１５条　授業科目を履修した者には，試験及び出席状況その他によって認定の上，単位を与える。

（成績評価）

第１６条　授業科目の成績は，秀（１００～９０点），優（８９～８０点），良（７９～７０点），可（６９～６０点）及び不可（５９点以下）の５種類の評語をもって表し，秀，優，良及び可を合格とし不可を不合格とする。ただし，実習の場合は，合格又は不合格の評語をもって表すことができる。

（授業日数）

第１７条　学年の授業日数は，定期試験の日数も含め，３５週にわたることを原則とする。

第４章　入学，編入学，転入学及び再入学

（入学）

第１８条　入学の時期は，学年の始めとする。ただし，再入学及び外国人学生の入学については，学期の始めとすることができる。

（入学資格）

第１９条　本学の入学資格は，次のとおりとする。

(1)　高等学校を卒業した者

(2)　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者

(3)　外国において，学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　文部科学大臣の指定した者

(6)　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）

(7)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(8)　学校教育法第９０条第２項の規定により大学に入学した者であって，当該者をその後に入学させる大学において，大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

(9)　大学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，１８歳に達したもの

（入学志願手続）

第２０条　入学を志願する者は，所定の期日までに入学願書に入学検定料及び別に定

める書類を添えて願い出なければならない。

（入学者の選抜）

第２１条　入学志願者に対しては，選抜試験を行う。

（入学手続及び入学許可）

第２２条　選抜試験の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，誓約書，保証書その他必要な書類を提出しなければならない。

２　学長は，前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（編入学）

第２３条　編入学の入学資格は，次のとおりとする。

(1)　大学を卒業した者又は大学に２年以上在学し６０単位以上を修得した者

(2)　短期大学，高等専門学校，国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(3)　学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）第９２条の３に定める従前の規定による高等学校，専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し又は卒業した者

２　編入学を志願する者は，所定の期日までに編入学願書に編入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

３　編入学志願者に対しては，選抜試験を行う。

４　選抜試験の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，誓約書，保証書その他必要書類を提出しなければならない。

５　学長は，前項の編入学手続を完了した者に編入学を許可する。

（転入学）

第２４条　他の大学に在学中の者で，本学に転入学を志願する者があるときは，欠員のある場合に限り，学長は，相当年次に入学を許可することができる。

２　転入学を希望する者は，現に在学する大学の学長の許可書を願書に添付しなければならない。

３　前２項に定めるもののほか，転入学に関し必要な事項は別に定める。

（再入学）

第２５条　次の各号の一に該当する者で，同一学科に再入学を志願する者があるときは，学長は，相当年次に入学を許可することができる。

(1)　第２８条による退学者

(2)　第２９条第５号，第６号及び第７号の規定により除籍された者

２　前項に定めるもののほか，再入学に関し必要な事項は別に定める。

第５章　休学，復学，退学，除籍，転学部等，転学科及び転学

（休学）

第２６条　病気その他の理由により修学を中止しようとする者は，医師の診断書又は理由書を添えて願い出，学長の許可を得て休学することができる。

２　学長は，病気その他の理由により修学が不適当と認められる者に対して，必要な期間休学を命ずることができる。
３　休学期間は，当該学期又は学年の終わりまでとする。ただし，特別の理由があるときは，休学期間を延長することができる。
４　休学期間は通算して４年を超えることはできない。
５　前項の規定に関わらず，第２３条の規定により入学した学生の休学期間は，通算して２年を超えることはできない。
６　第４項の規定に関わらず，第２４条第１項及び第２５条第１項の規定により入学した学生の休学期間は，入学後の在学すべき年数を超えることができない。
７　休学期間は，第１０条に規定する修業年限及び第１１条に規定する在学期間に算入しない。

（復学）

第２７条　休学期間を満了した者，又は休学期間満了前にその理由が消滅した者は，所定の期日までに願い出，学長の許可を得て復学することができる。
２　病気による休学者が復学しようとするときは，医師の診断書を添付するものとする。

（退学）

第２８条　退学しようとする者は，学長の許可を得なければならない。

（除籍）

第２９条　次の各号の一に該当する者は，学長が，これを除籍する。
(1)　長期間にわたり行方不明の者
(2)　在学期間を超えた者
(3)　第２６条第４項,第５項及び第６項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
(4)　病気その他の理由により，成業の見込みがないと認められる者
(5)　休学期間満了後督促してもなお所定の手続きをしない者
(6)　授業料の納付を怠り，督促してもなお納付しない者
(7)　卒業に要する最終学年を除く一学年の修得単位(第３５条により認定された単位は除く。）が１６単位未満の者

（転学部等）

第３０条　本学の学生で，他の学部等への転出（以下「転学部等」という。）を志望する者があるときは，学長は，相当年次に転学部等を許可することができる。
２　前項に規定するもののほか，転学部等については，別に定める。

（転学科）

第３０条の２　本学の学生で，転学科を志願する者があるときは，学長は，相当年次に転学科を許可することができる。
２　前項に規定するもののほか，転学科については，別に定める。

（転学）

第３１条　本学の学生で他の大学へ入学又は転入学しようとする者は，学長の許可を

得なければならない。

第６章　卒業及び学位

（卒業）

第３２条　本学に第１０条に規定する修業年限在学し，第１３条第４項に規定する単位を修得した者には，学長が卒業を認定する。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）

第３３条　学長は，教育上有益と認めるときは，学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，６０単位を超えない範囲で，本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第３４条　学長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。

２　前項に与えることができる単位数は，前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位の認定）

第３５条　学長は，教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位（第３９条及び第４０条の規定により履修した単位を含む。）を，本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　学長は，教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を，本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，編入学，転学等の場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，第３３条第１項及び第２項並びに前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

（教員の免許状授与の所要資格の修得）

第３５条の２　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和２４年法律第１４７号）及び教育職員免許法施行規則（昭和２９年文部省令第２６号）の定めるところに従い，別表７の授業科目を履修し，単位を修得しなければならない。

２　本学において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は，別表８に掲げるとおりとする。

（学位）
第３６条　本学を卒業したものには，学士の学位を授与する。
２　学位に関し必要な事項は，別に定める。

第７章　学費

（学費及びその他の納入金）
第３７条　本学の学費は，諸納入金の種類及び額等については，公立大学法人名桜大学学費及び諸納入金に関する規程の定めるところによる。

第８章　研究生，科目等履修生，委託生，特別聴講学生及び聴講生

（研究生）
第３８条　本学において，特定の専門事項について研究しようとする者があるときは，教育研究に支障のない場合に限り，学長は，当該学部等の教授会の議を経て研究生として入学を許可することができる。
２　研究生に関し必要な事項は，別に定める。
（科目等履修生）
第３９条　本学において，授業科目の履修を希望する者があるときは，教育に支障のない場合に限り，学長は，当該学部等の教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することができる。
２　科目等履修生に関し必要な事項は，別に定める。
（委託生）
第４０条　本学に，官庁，公共団体その他の団体より委託生受け入れの要請があるときは，教育に支障のない場合に限り，学長は，当該学部等の教授会の議を経て委託生として入学を許可することができる。
２　委託生に関し必要な事項は，別に定める。
（特別聴講学生）
第４１条　他の大学等との協議に基づき，当該大学等の学生に授業科目の履修を認めることができる。
２　前項の規定により授業科目の履修が認められた学生は，特別聴講学生と称する。
（聴講生）
第４１条の２　学外者が本学の授業科目の聴講を希望する場合，学長は，聴講生として受け入れることができる。
２　聴講生に関し必要な事項は，別に定める。

第９章　公開講座

（公開講座）

第４２条　大学の教育を広く社会に開放し,生涯学習に対する要望に応えるとともに,文化の向上に資するため，本学に公開講座を開設することができる。

第１０章　賞罰

（表彰）

第４３条　学生として表彰に価する行為があった者は，学長は，これを表彰する。

（懲戒）

第４４条　学生が，本学の規則に違反し，または学生としての本分に反する行為があったときは，学長は，これを懲戒する。

２　前項の懲戒の種類は，訓告，停学又は退学とする。

３　前項の退学は，次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)　学業を怠り，成業の見込みがないと認められる者

(3)　本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者

第１１章　寄宿舎

（寄宿舎）

第４５条　本学に寄宿舎を置く。

２　寄宿舎に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この学則は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成８年４月１日から施行する。

附　則（平成１０年３月２７日）

１　この学則は，平成１０年４月１日から施行する。

２　平成１０年３月３１日に在学する者には,改正後の第１３条の規定にかかわらず,従前の規定を適用する。

附　則（平成１１年３月２６日）

１　この学則は，平成１１年４月１日から施行する。

２　平成１１年３月３１日に在学する者には,改正後の第１３条の規定にかかわらず,従前の規定を適用する。

附　則（平成１２年３月２９日）

1　この学則は，平成１２年４月１日から施行する。

2　改正後の第２条第２項の規定にかかわらず，国際学部の国際文化学科，経営情報学科及び観光産業学科の平成１２年度から平成１４年度までの収容定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	平成１２年度	平成１３年度	平成１４年度
国際学部	国際文化学科	４７０人	４７０人	４６５人
	経営情報学科	４７０人	４７０人	４６５人
	観光産業学科	４７０人	４７０人	４６５人
計		１４１０人	１４１０人	１３９５人

3　平成１２年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

4　改正後の第３７条の３及び別表５の規定は，平成１２年４月１日を休学及び入学の始期とする者から適用する。

附　則（平成１３年３月２８日）

1　この学則は，平成１３年４月１日から施行する。

2　平成１３年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１４年３月２９日）

1　この学則は，平成１４年４月１日から施行する。

2　平成１４年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１４年７月３１日）

この学則は，平成１４年７月３１日から施行し，改正後の第３７条の２及び第３７条の４の規定は，平成１４年４月１日から適用する。

附　則（平成１５年３月２８日）

1　この学則は，平成１５年４月１日から施行する。

2　平成１５年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１６年３月２８日）

1　この学則は，平成１６年４月１日から施行する。

2　平成１６年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１７年３月２９日）

1　この学則は，平成１７年４月１日から施行する。

2　平成１７年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１８年３月２９日）

1　この学則は，平成１８年４月１日から施行する。

2　平成１８年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成１９年３月２７日）

1　この学則は，平成１９年４月１日から施行する。

2　平成１９年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２０年３月２７日）

1　この学則は，平成２０年４月１日から施行する。

2　平成２０年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２０年１１月２８日）

1　この学則は，平成２１年４月１日から施行する。

2　平成２１年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２２年３月４日）

1　この学則は，平成２２年４月１日から施行する。

2　平成２２年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２３年１月２６日）

1　この学則は，平成２３年４月１日から施行する。

2　平成２３年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２３年９月２８日）

1　この学則は，平成２４年４月１日から施行する。

2　平成２４年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２４年１０月２４日）

1　この学則は，平成２５年４月１日から施行する。

2　平成２５年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２５年１０月２４日）

1　この学則は，平成２６年４月１日から施行する。

2　平成２６年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２６年９月２７日）

1　この学則は，平成２７年４月１日から施行する。

2　平成２７年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２７年３月２８日）

1　この学則は，平成２７年４月１日から施行する。

2　国際学部国際文化学科，経営情報学科，観光産業学科は，平成２７年３月３１日をもって廃止する。

附　則（平成２７年９月３０日）

1　この学則は，平成２８年４月１日から施行する。

2　平成２８年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２８年９月２７日）

1　この学則は，平成２９年４月１日から施行する。

2　平成２９年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２８年１２月２１日）

1　この学則は，平成２９年４月１日から施行する。

2　平成２９年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成２９年９月２９日）

1　この学則は，平成３０年４月１日から施行する。

2　平成３０年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成３０年３月２９日）

1　この学則は，平成３０年４月１日から施行する。

2　平成３０年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（平成３１年２月１５日）

1　この学則は，平成３１年４月１日から施行する。

2　平成３１年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

附　則（令和２年２月１７日）

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　令和２年３月３１日に在学する者には，改正後の第１３条の規定にかかわらず，従前の規定を適用する。

別表１　国際学群　教養教育科目（第１３条第１項関係）

共通コア科目

アカデミックスキル科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
教養演習Ⅰ	2		
教養演習Ⅱ	2		
コンピュータ・リテラシー	2		
アカデミックライティングⅠ	2		
アカデミックライティングⅡ		2	
アカデミックスキル特別講義		2	

ライフデザイン科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
大学と人生	2		
ライフデザイン特別講義		2	
キャリアデザイン		2	
プロジェクト学習		2	

思想と論理科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
人間と環境		2	
生命と倫理		2	
科学入門		2	
論理学		2	
現代思想		2	
思想と論理特別講義		2	

沖縄理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
沖縄学		2	
沖縄の自然		2	
沖縄の言語		2	
沖縄理解特別講義		2	

健康スポーツ科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
体育実技Ⅰ		1	
体育実技Ⅱ		1	
健康・スポーツ科学		2	
健康スポーツ特別講義		2	
健康スポーツ特別実技		1	

共通選択科目

外国語科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ベーシック・イングリッシュ	2		
ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2		
ドイツ語Ⅰ		2	
ドイツ語Ⅱ		2	
フランス語Ⅰ		2	
フランス語Ⅱ		2	
スペイン語Ⅰ		2	
スペイン語Ⅱ		2	
ポルトガル語Ⅰ		2	
ポルトガル語Ⅱ		2	
中国語Ⅰ		2	
中国語Ⅱ		2	
韓国語Ⅰ		2	
韓国語Ⅱ		2	
タイ語Ⅰ		2	
タイ語Ⅱ		2	
外国語特別講義Ⅰ		2	
外国語特別講義Ⅱ		2	
アカデミック英語基礎	2		
ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ		2	
ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ		2	
ビジネス英語Ⅰ		2	
ビジネス英語Ⅱ		2	

国際理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
国際学入門		2	
異文化接触論		2	
国際社会と日本		2	
人権と平和		2	
国際コミュニケーション論		2	
海外スタディツアー		2	
国際理解特別講義		2	

人文科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
音楽の歴史と鑑賞		2	
美術の歴史と鑑賞		2	
哲学		2	
心理学		2	
歴史学		2	
教育学		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ヒューマンケアリング		2	
文学		2	
人文科学特別講義		2	

社会科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
法学		2	
憲法		2	
政治学		2	
経済学		2	
経営学		2	
社会学		2	
人文地理学		2	
社会科学特別講義		2	

自然科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
数学		2	
統計学		2	
物理学		2	
化学		2	
生物学		2	
地学		2	
情報科学と社会		2	
自然科学特別講義		2	

別表２　国際学群専門教育科目（第１３条第１項関係）

学類共通専門教育科目

人文科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
日本語理解論		2	
日本史入門		2	
日本文化概論		2	
文化人類学		2	
人間関係論		2	
日本語表現論		2	

社会科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
経営統計学		2	
観光学概論		2	
地域研究方法論		2	
社会調査法		2	
経営情報論		2	
地域社会論		2	
社会心理学		2	

自然科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
コンピュータ概論		2	
情報処理論		2	
情報化社会論		2	
自然保護論		2	
沖縄の天然記念物		2	
島嶼環境論		2	
情報と職業		2	

学際・統合系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
国際学群特別講義		2	
国際文化系基礎演習		1	
語学教育系基礎演習		1	
経営系基礎演習		1	
情報システムズ系基礎演習		1	
診療情報管理系基礎演習		1	
観光産業系基礎演習		1	
国際文化専門演習Ⅰ	2		
経営情報専門演習Ⅰ	2		
観光産業専門演習Ⅰ	2		
国際文化専門演習Ⅱ	2		
経営情報専門演習Ⅱ	2		
観光産業専門演習Ⅱ	2		

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
国際文化専門演習Ⅲ	2		
経営情報専門演習Ⅲ	2		
観光産業専門演習Ⅲ	2		
国際文化専門演習Ⅳ	2		
経営情報専門演習Ⅳ	2		
観光産業専門演習Ⅳ	2		

専攻専門教育科目

人文科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
漢文講読		2	
書写・書道概論		2	
中級英語リスニング		2	
中級オーラルコミュニケーション		2	
中級英語講読		2	
中級英作文		2	
比較芸術論		2	
比較宗教論		2	
言語と文学		2	
比較思想論		2	
日本の歴史		2	
英米文化概論Ⅰ		2	
英米文化概論Ⅱ		2	
異文化コミュニケーション論		2	
沖縄地域文化論		2	
島嶼文化論		2	
観光文化論		2	
比較映像文化論		2	
言語学概論Ⅰ		2	
言語学概論Ⅱ		2	
日本語学概論		2	
南島歌謡		2	
日本言語史		2	
中南米の言語と文化		4	
英語音声学		2	
英文法		2	
イギリス文学		2	
沖縄の文学		2	
準高等英語リスニング		2	
準高等オーラルコミュニケーション		2	
準高等英語講読		2	
準高等英作文		2	
高等英語リスニング		2	
高等オーラルコミュニケーション		2	
高等英語講読		2	
高等英作文		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
観光実用英語Ⅰ		2	
観光実用英語Ⅱ		2	
ビジュアルコミュニケーション入門		2	
沖縄の社会		2	
アジアの宗教		2	
国際文化特別講義Ⅰ		2	
国際文化特別講義Ⅱ		2	
語学教育特別講義Ⅰ		2	
語学教育特別講義Ⅱ		2	
日本史史料講読		2	
観光実用韓国語		2	
観光実用中国語		2	
中南米の歴史		2	
日本古典文学史		2	
日本近代文学史		2	
日本古典文学概論		2	
日本近代文学概論		2	
日本の社会		2	
日本の宗教		2	
移民と異文化		2	
中南米の社会		2	
地域文化演習		2	
現地実習		4	
アジアの言語		2	
英語学概論		2	
アメリカ文学		2	
アジアの文学		2	
アジアの歴史		2	
アジアの文化		2	
通訳技法		2	
外書講読		2	
小学校英語教育教授論		2	
職業指導Ⅰ		2	
職業指導Ⅱ		2	
日本語教授法		2	
ディベート		2	
現代日本語論		2	
日本近代文学論		2	
日本古典文学論		2	
中南米の民俗		2	
英語リサーチ・ライティング		2	
日本語教育実践演習		2	

社会科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
民法と市民生活		2	
簿記原理		4	
上級簿記		4	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
経営学総論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
観光産業特別講義Ⅰ		2	
観光産業特別講義Ⅱ		2	
観光学総論		2	
地誌学		2	
レジャー・レクリエーション論		2	
観光関連法規		2	
会社法		2	
行政法		2	
西欧経済史		2	
財政学		2	
沖縄観光		2	
観光行動論		2	
流通論		2	
観光開発論Ⅰ		2	
マーケティング論		2	
観光調査法		4	
観光交通論		2	
中小企業論		2	
原価計算		2	
経営組織論		2	
経営戦略論		2	
会計学原理		2	
イベント事業論		2	
エコツーリズムⅠ		2	
国際機構論		2	
ホスピタリティ概論		2	
観光事業論		2	
国際経済論		2	
金融論		2	
ベンチャービジネス		2	
経営特別講義Ⅰ		2	
経営特別講義Ⅱ		2	
観光地理学		2	
観光産業論		2	
経営管理論		2	
問題解決の心理学		2	
旅行業経営論		4	
旅行業法と約款		2	
人的資源管理論		2	
地方自治論		2	
国際関係論		2	
国際政治論		2	
市場調査論		2	
情報系インターンシップⅠ		2	
病院実務Ⅰ		1	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
日米関係論		2	
アメリカ政治外交論		2	
交通産業論		2	
経済政策		2	
観光政策論		2	
地域経済学		2	
観光経済学		2	
観光開発論Ⅱ		2	
ホテル計画論		4	
グローバル・ビジネス論		2	
産業情報論		2	
ホスピタリティマーケティング論		4	
経営分析論		2	
ホテル実務		6	
海外インターンシップ		4	
エコツーリズムⅡ		2	
ホテル経営論		2	
国際コンベンションビジネス		2	
ホスピタリティマネジメント論		2	
観光資源論		2	
アジアの政治と社会		2	
組織心理学		2	
対人コミュニケーション論		2	
チームマネジメントの心理学		2	
余暇社会学		2	
地域マーケティング論		2	
観光関連実務		6	
情報系インターンシップⅡ		2	
病院実務Ⅱ		1	
病院実務Ⅲ		4	
観光産業系インターンシップⅠ		1	
観光産業系インターンシップⅡ		2	
観光心理学		2	

自然科学系科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
プログラミング入門		2	
コンピュータ・グラフィックス		2	
ウェブデザイン		2	
ウェブグラフィックス		2	
診療情報管理論Ⅰ		2	
人体構造・機能及び医療用語		2	
医療概論及び臨床医学総論		2	
臨床医学各論Ⅰ		2	
医療管理総論		2	
医療管理各論		2	
保健医療情報学		2	
ゴルフⅠ		1	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ゴルフⅡ		1	
スクーバダイビング		1	
野外活動演習		2	
救急処置		2	
データ処理入門		2	
地球の環境とその保全		2	
診療情報管理特別講義Ⅰ		2	
診療情報管理特別講義Ⅱ		2	
沖縄の植物と保護		2	
自然地理学概論		2	
国際ネットワーク論		2	
ネットワークの構築と運用		2	
プログラミング言語論		2	
上級プログラミング		4	
アルゴリズム論		2	
データベース概論		2	
データベース実践		2	
ネットワーク技術Ⅰ		2	
ネットワーク技術Ⅱ		2	
ウェブコンテンツ実践		2	
臨床医学各論Ⅱ		2	
臨床医学各論Ⅲ		2	
臨床医学各論Ⅳ		2	
診療情報管理論Ⅱ		2	
国際統計分類Ⅰ		2	
空手		1	
スポーツ産業論		2	
ウェルネス概論		2	
環境調査法		4	
情報システムズ特別講義Ⅰ		2	
情報システムズ特別講義Ⅱ		2	
医療統計学		2	
環境アセスメント論Ⅰ		2	
環境アセスメント論Ⅱ		2	
健康と長寿		2	
自然観察指導法		4	
システム設計論		2	
ネットワーク技術Ⅲ		2	
国際統計分類Ⅱ		2	

別表３－１　人間健康学部　スポーツ健康学科　教養教育科目（第１３条第１項関係）

共通コア科目

アカデミックスキル科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
教養演習Ⅰ	2		
教養演習Ⅱ	2		
コンピュータ・リテラシー	2		
アカデミックライティングⅠ	2		
アカデミックライティングⅡ		2	
アカデミックスキル特別講義		2	

ライフデザイン科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
大学と人生	2		
ライフデザイン特別講義		2	
キャリアデザイン		2	
プロジェクト学習		2	

思想と論理科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
人間と環境		2	
生命と倫理		2	
科学入門		2	
論理学		2	
現代思想		2	
思想と論理特別講義		2	

沖縄理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
沖縄学		2	
沖縄の自然		2	
沖縄の言語		2	
沖縄理解特別講義		2	

健康スポーツ科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
体育実技Ⅰ		1	
体育実技Ⅱ		1	
健康・スポーツ科学		2	
健康スポーツ特別講義		2	
健康スポーツ特別実技		1	

共通選択科目

外国語科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ベーシック・イングリッシュ	2		
ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2		
ドイツ語Ⅰ		2	
ドイツ語Ⅱ		2	
フランス語Ⅰ		2	
フランス語Ⅱ		2	
スペイン語Ⅰ		2	
スペイン語Ⅱ		2	
ポルトガル語Ⅰ		2	
ポルトガル語Ⅱ		2	
中国語Ⅰ		2	
中国語Ⅱ		2	
韓国語Ⅰ		2	
韓国語Ⅱ		2	
タイ語Ⅰ		2	
タイ語Ⅱ		2	
外国語特別講義Ⅰ		2	
外国語特別講義Ⅱ		2	
アカデミック英語基礎	2		
ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ		2	
ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ		2	
ビジネス英語Ⅰ		2	
ビジネス英語Ⅱ		2	

国際理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
国際学入門		2	
異文化接触論		2	
国際社会と日本		2	
人権と平和		2	
国際コミュニケーション論		2	
海外スタディツアー		2	
国際理解特別講義		2	

人文科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
音楽の歴史と鑑賞		2	
美術の歴史と鑑賞		2	
哲学		2	
心理学		2	
歴史学		2	
教育学		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ヒューマンケアリング		2	
文学		2	
人文科学特別講義		2	

社会科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
法学		2	
憲法		2	
政治学		2	
経済学		2	
経営学		2	
社会学		2	
人文地理学		2	
社会科学特別講義		2	

自然科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
数学		2	
統計学		2	
物理学		2	
化学		2	
生物学		2	
地学		2	
情報科学と社会		2	
自然科学特別講義		2	

別表３－２　人間健康学部　看護学科　教養教育科目（第１３条第１項関係）

共通コア科目

アカデミックスキル科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
教養演習Ⅰ	2		
教養演習Ⅱ	2		
コンピュータ・リテラシー	2		
アカデミックライティングⅠ	2		
アカデミックライティングⅡ		2	
アカデミックスキル特別講義		2	

ライフデザイン科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
大学と人生	2		
ライフデザイン特別講義		2	
キャリアデザイン		2	
プロジェクト学習		2	

思想と論理科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
人間と環境		2	
生命と倫理		2	
科学入門		2	
論理学		2	
現代思想		2	
思想と論理特別講義		2	

沖縄理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
沖縄学		2	
沖縄の自然		2	
沖縄の言語		2	
沖縄理解特別講義		2	

健康スポーツ科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
体育実技Ⅰ		1	
体育実技Ⅱ		1	
健康・スポーツ科学		2	
健康スポーツ特別講義		2	
健康スポーツ特別実技		1	

共通選択科目

外国語科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ベーシック・イングリッシュ	2		
ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		2	
ドイツ語Ⅰ		2	
ドイツ語Ⅱ		2	
フランス語Ⅰ		2	
フランス語Ⅱ		2	
スペイン語Ⅰ		2	
スペイン語Ⅱ		2	
ポルトガル語Ⅰ		2	
ポルトガル語Ⅱ		2	
中国語Ⅰ		2	
中国語Ⅱ		2	
韓国語Ⅰ		2	
韓国語Ⅱ		2	
タイ語Ⅰ		2	
タイ語Ⅱ		2	
外国語特別講義Ⅰ		2	
外国語特別講義Ⅱ		2	
アカデミック英語基礎		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ		2	
ﾌﾟﾗﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ		2	
ビジネス英語Ⅰ		2	
ビジネス英語Ⅱ		2	

国際理解科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
国際学入門		2	
異文化接触論		2	
国際社会と日本		2	
人権と平和		2	
国際コミュニケーション論		2	
海外スタディツアー		2	
国際理解特別講義		2	

人文科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
音楽の歴史と鑑賞		2	
美術の歴史と鑑賞		2	
哲学		2	
心理学		2	
歴史学		2	
教育学		2	
ヒューマンケアリング		2	
文学		2	
人文科学特別講義		2	

社会科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
法学		2	
憲法		2	
政治学		2	
経済学		2	
経営学		2	
社会学		2	
人文地理学		2	
社会科学特別講義		2	

自然科学科目

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
数学		2	
統計学	2		
物理学		2	
化学		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
生物学		2	
地学		2	
情報科学と社会		2	
自然科学特別講義		2	

別表４　人間健康学部　専門教育科目（第１３条第１項関係）

専門基礎教育科目【スポーツ健康学科】

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
スポーツ健康学総論	2		
スポーツ健康演習	2		
人体機能学		2	
発育発達学	2		
救急処置	2		
社会福祉概論		2	
生涯スポーツ論	2		
ウェルネス概論	2		
医学一般		2	
解剖学		2	
生理学・運動生理学		2	
衛生学・公衆衛生学		2	
栄養学		2	

専門教育科目【スポーツ健康学科】

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
体育原理		2	
スポーツ健康学特別講義Ⅰ		2	
スポーツ健康学特別講義Ⅱ		2	
スポーツ健康学特別実技Ⅰ		1	
スポーツ健康学特別実技Ⅱ		1	
運動学		2	
体育心理学		2	
体育社会学		2	
体育経営管理学		2	
コーチ学		2	
トレーニング論		2	
体力・健康測定と評価		2	
スポーツ指導論		2	
スポーツ栄養学		2	
スポーツマネジメント		2	
スポーツ障害と予防		2	
運動処方論		2	
安全管理論及び方法		2	
野外教育論		2	
レジャー・レクリエーション論		2	
空手・古武道概論		2	
体育・スポーツ史		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
スポーツバイオメカニクス		2	
球技論		2	
健康教育		2	
学校保健		2	
精神保健		2	
養護概説		2	
看護学Ⅰ		2	
看護学Ⅱ		2	
学校救急看護学		2	
健康相談活動の理論及び方法		2	
医学一般Ⅱ		2	
病理学		2	
免疫学		2	
微生物学		2	
薬理概論		2	
健康心理学		2	
心の健康		2	
保健衛生学		2	
労働衛生学概論		2	
労働法規Ⅰ		2	
労働法規Ⅱ		2	
介護概論		2	
社会福祉援助技術		2	
児童福祉		2	
障害者・高齢者福祉		2	
グローバルヘルス		2	
生理学・運動生理学演習		2	
衛生学・公衆衛生学演習		2	
動作学演習		2	
スポーツ心理学演習		2	
トレーニング論演習		2	
海洋スポーツ演習		2	
看護臨床実習Ⅰ		1	
看護臨床実習Ⅱ		3	
運動負荷試験		1	
健康産業施設等現場実習		2	
コーチング演習		2	
体つくり運動		1	
器械運動		1	
陸上競技		1	
水泳		1	
バスケットボール		1	
ハンドボール		1	
サッカー		1	
バレーボール		1	
卓球		1	
ソフトボール		1	
柔道		1	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
剣道		1	
空手		1	
舞踊		1	
琉球舞踊		1	
エアロビクスⅠ		1	
エアロビクスⅡ		1	
レクリエーション実技		1	
ゴルフⅠ		1	
ゴルフⅡ		1	
ウインドサーフィン		1	
スクーバダイビングⅠ		1	
スクーバダイビングⅡ		1	
スキー・スノーボード		1	
テーピングマッサージ		1	
インターンシップⅠ		2	
インターンシップⅡ		2	
地域ウェルネスプロジェクト		2	
卒業研究演習Ⅰ	2		
卒業研究演習Ⅱ	2		
卒業研究演習Ⅲ	2		
卒業研究演習Ⅳ	2		

専門基礎教育科目【看護学科】

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
解剖生理学	2		
病態生理学（含：病理学）	2		
生化学	2		
人間関係論	1		
生涯発達論	1		
家族社会学(含:ジェンダー論)		2	
精神保健	2		
健康相談活動の理論と方法		2	
病態治療学Ⅰ（内科系疾患）	2		
病態治療学Ⅱ（外科系疾患）	2		
病態治療学Ⅲ（小児疾患）	1		
病態治療学Ⅳ（母性疾患）	1		
病態治療学Ⅴ（精神疾患）	1		
老年学	1		
薬理学	2		
免疫学		2	
微生物学	2		
栄養学Ⅰ	1		
栄養学Ⅱ	1		
養護概説		2	
公衆衛生学	2		
保健統計学		2	
疫学		2	

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
保健福祉行政論	2		
看護と福祉	1		
学校保健		2	
産業看護学	1		
保健医療と法	1		
医療英語	2		
保健行動論		1	

専門教育科目【看護学科】

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
看護学概論	2		
看護援助論	1		
基礎看護技術Ⅰ	2		
基礎看護技術Ⅱ	2		
看護実践方法論	1		
フィジカルアセスメント	2		
基礎看護実習Ⅰ	1		
基礎看護実習Ⅱ	2		
成人看護学概論	2		
成人看護学方法論Ⅰ	2		
成人看護学方法論Ⅱ	2		
リハビリテーション看護論	1		
ターミナルケア論		1	
成人看護実習Ⅰ	3		
成人看護実習Ⅱ	3		
精神看護学概論	2		
精神看護方法論	2		
精神看護実習	2		
小児看護学概論	2		
小児看護方法論	2		
小児看護実習	2		
母性看護学概論	2		
母性看護方法論	2		
母性看護実習	2		
高齢者看護学概論	2		
高齢者看護方法論	2		
高齢者看護実習	2		
在宅ケア論	2		
在宅ケア実習	1		
ケアリング文化実習	2		
感染看護	2		
看護研究方法	2		
卒業研究	2		
島嶼・過疎地看護論		1	
沖縄の文化と看護		1	
総合実習	2		

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
看護実践と理論		1	
看護管理		1	
看護政策論		1	
家族看護学	1		
看護教育論		1	
国際看護学Ⅰ	1		
国際看護学Ⅱ		1	
災害看護論		1	
公衆衛生看護学概論	2		
公衆衛生看護活動論		2	
公衆衛生看護方法論Ⅰ		2	
公衆衛生看護方法論Ⅱ		2	
公衆衛生看護管理論		2	
公衆衛生看護実習Ⅰ	1		
公衆衛生看護実習Ⅱ		1	
公衆衛生看護実習Ⅲ		3	

別表５　外国人留学生対象科目（第１３条第３項関係）

国際学群及び人間健康学部共通（外国語教育科目）

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
総合日本語		2	
初級日本語会話Ⅰ		2	
初級日本語読解Ⅰ		2	
初級日本語作文Ⅰ		2	
初級日本語文法Ⅰ		2	
初級日本語会話Ⅱ		2	
初級日本語読解Ⅱ		2	
初級日本語作文Ⅱ		2	
初級日本語文法Ⅱ		2	
中・上級日本語会話Ⅰ		2	
中・上級日本語会話Ⅱ		2	
中・上級日本語読解Ⅰ		2	
中・上級日本語作文Ⅰ		2	
中・上級日本語作文Ⅱ		2	
中・上級日本語文法Ⅰ		2	
留学生のためのアカデミックライティング		2	
日本語演習		2	
日本事情Ⅰ		2	
日本事情Ⅱ		2	
日本事情Ⅲ		2	
日本事情Ⅳ		2	

別表６－１　卒業に必要な単位数（第１３条第４項関係）

【国際学群】

授業科目の区分		単位数
教養教育科目		４２単位以上
専門教育科目	（必修科目）	８単位
	（選択科目）	４８単位以上
自由選択科目		２６単位以上
合計		１２４単位以上

【備考】自由選択科目に教職に関する科目（１免許に係る教育法，教育実践研究，教育実習）を含めることができる。

別表６－２　卒業に必要な単位数（第１３条第４項関係）

【人間健康学部　スポーツ健康学科】

授業科目の区分		単位数
教養教育科目		３２単位以上
専門基礎教育科目	（必修科目）	１２単位
	（選択科目）	１０単位以上
専門教育科目	（必修科目）	８単位
	（選択科目）	５２単位以上
自由選択科目		１０単位以上
合計		１２４単位以上

【備考】自由選択科目にライフデザイン科目，専門基礎教育科目，専門教育科目及び教職に関する科目を含めることができる。

【人間健康学部　看護学科】

授業科目の区分	単位数
教養教育科目	２８単位以上
専門基礎教育科目	３３単位以上
専門教育科目	６８単位以上
合計	１２９単位以上

別表７　教科及び教職に関する科目（第３５条の２第１項関係）

科目名	単位数		
	必修	選択	自由
教職概論			2
教育原理			2
教育心理学			2
教育制度論			2
特別支援教育			2
教育課程論			2
英語科教育法Ⅰ			4
英語科教育法Ⅱ			4
商業科教育法Ⅰ			2
商業科教育法Ⅱ			2
情報科教育法Ⅰ			2
情報科教育法Ⅱ			2
保健体育科教育法Ⅰ			2
保健体育科教育法Ⅱ			2
保健体育科教育法Ⅲ			2

科　目　名	単位数		
	必修	選択	自由
保健体育科教育法Ⅳ			2
道徳教育の理論と方法			2
特別活動の指導法			2
総合的な学習の時間の指導法			2
教育方法			2
生徒指導の理論及び方法			2
進路指導論			2
教育相談			2
英語教育実践研究			2
商業教育実践研究			2
情報教育実践研究			2
中学校教育実習事前指導			1
中学校教育実習			4
高等学校教育実習事前指導			1
高等学校教育実習			2
養護実習事前指導			1
養護実習			4
教職実践演習（中・高）			2
教職実践演習（養護）			2
介護等体験			1

別表８　取得できる教員の免許状の種類（第３５条の２第２項関係）

学群・学部	学類・学科	免許状の種類	免許教科
国際学群	国際学類	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語 商業 情報
人間健康学部	スポーツ健康学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
		養護教諭一種免許状	養護

名桜大学国際学群履修規程

（平成６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定）第１３条及び第３２条の規定に基づき、授業科目の名称、単位数等卒業に必要な単位数その他授業科目の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

（授業科目の名称、単位数等）

第２条　開設する授業科目の名称、単位数等は、次のとおりとする。

(1)　教養教育科目（共通コア・共通選択科目）別表１
(2)　専門教育科目（学類共通専門教育科目）　別表２
(3)　専門教育科目（専攻専門教育科目）　別表３
(4)　外国人留学生対象科目（外国語教育科目）別表４
(5)　専攻の履修要件を示す科目　別表５－１～別表５－６
(6)　副専攻の履修要件を示す科目　別表６－１～別表６－９
(7)　３年次進級の履修要件を示す科目　別表７

（卒業に必要な単位数）

第３条　卒業に必要な単位数は、別表８のとおりとする。

（登録）

第４条　学生は、履修しようとする授業科目の登録を行わなければならない。

２　一個学期で登録できる単位数は、２０単位を上限とする。ただし、履修科目登録実施要項に示された授業科目については、２０単位を超えて登録ができるものとする。

３　授業科目の登録方法及び登録調整期間については、年度又は学期毎に策定する履修科目登録実施要項に定める。

（学期末試験）

第５条　学期末試験は、期間を定めて行う。試験科目、時間等については、試験開始日の１週間前に公示する。

２　前項の規定にかかわらず、授業科目の担当教員は、必要に応じて試験を行うことができる。

（追試験）

第６条　追試験は、学期末試験時の受験資格を有しながら、次のやむを得ない理由により受験できなかった者について願出により試験を行うことがある。

(1)　病気で受験できなかった場合（ただし、医師の診断書が必要）
(2)　２親等以内の親族の死亡による忌引きの場合（ただし、往復の日時を含め最短日数とする。）
(3)　公共交通機関が運休又は遅延した場合（ただし、遅延の場合は、当局の発行した遅延証明書が必要）
(4)　大学が認めた就職試験を受験した場合（ただし、証明書が必要）

(5)　大学が認めた遠征試合等に参加した場合
(6)　その他全学教務委員長が必要と認めた場合

2　前項の規定により追試験を受験する場合は、事前又は理由発生当日を含めて直ちに証明書等を添付し、全学教務委員長の認印を得て追試験許可願（様式第２号）を教務課に提出しなければならない。

3　追試の許可は、全学教務委員長が行う。

4　全学教務委員長が許可を行った場合は、担当教員及び学生に通知する。

（再試験）

第７条　再試験は、卒業見込み者で学期末の成績評価において不合格になった科目（２科目以内）について再試験を実施する。ただし、再試験を希望する者は、その授業科目の担当教員の認印を得て再試験許可願（様式第３号）を教務課に提出しなければならない。

2　再試験の日程については、３月卒業予定者又は９月卒業予定者にその都度通知する。

3　再試験の評価は、８０点以上を与えることはできない。

4　再試験を受ける者は、受験料（１科目４、０００円）を納入しなければならない。

（単位の授与）

第８条　登録した授業科目については、試験その他の成績、学習状況及び出席状況により成績を評価し、合格した科目については、単位を授与する。

（成績評価の基準）

第９条　成績の評価は、秀（１００～９０点）、優（８９～８０点）、良（７９～７０点）、可（６９～６０点）及び不可（５９点以下）とする。

（進級）

第１０条　進級は、科目の履修、単位の修得及び在学期間、国際学群が定める要件を満たした者に対して、学年を一つ上げる制度を指し、１年次から始まり、最終学年を４年次とする。

（進級の要件）

第１１条　学生の進級に関する要件を次の各号に掲げる。

(1)　２年次への進級は、入学後通算２セメスタを超過する在学期間をもってこれを認める。

(2)　３年次への進級は、入学後通算４セメスタを超過する在学期間及び６０単位以上の単位修得、かつ別表７に掲げる特定の科目の単位修得をもってこれを認める。ただし、進級の時期は年度の始め（４月）とする。

(3)　４年次への進級は、入学後通算６セメスタを超過（３年次編入学生の場合は、編入学後通算２セメスタを超過）する在学期間及び所属する専攻の専門演習Ⅰ・Ⅱの単位修得をもってこれを認める。

2　３年次編入学生のうち、３年次への進級要件を満たしていない者は、前項第２号の規定に準じ、編入学後１年以内の学修において、当該学年への進級要件

を満たさなくてはならない。満たさない場合は、４年次への進級を認めない。

３　修得単位が６０単位未満の海外派遣留学生及び国内派遣留学生の３年次への進級は、第１項第２号の規定とは別に、国際学群教務委員会の議を経て、国際学群長がこれを認めることができる。

（改廃）

第１２条　この規程の改廃は、国際学群教授会の議を経て学長が定める。

附　則

この規程は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１０年４月１日から施行する。ただし、平成１０年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１１年２月２３日）

この規程は、平成１１年４月１日から施行する。ただし、平成１１年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１２年３月２９日）

この規程は、平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１２年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１３年３月２８日）

この規程は、平成１３年４月１日から施行する。ただし、平成１３年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１４年３月２９日）

この規程は、平成１４年４月１日から施行する。ただし、平成１４年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１５年３月３１日）

この規程は、平成１５年４月１日から施行する。ただし、平成１５年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１５年１１月１９日）

この規程は、平成１６年４月１日から施行し、改正後の第８条及び第９条の規定は、平成１５年１０月１日から適用する。

附　則（平成１６年３月１７日）

この規程は、平成１６年４月１日から施行する。ただし、平成１６年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１７年３月２９日）

この規程は、平成１７年４月１日から施行する。ただし、平成１７年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１８年３月２９日）

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成１９年３月２７日）

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２０年３月１２日）

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。ただし、平成１９年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２１年５月１３日）

この規程は、平成２１年４月１日から施行する。ただし、平成２０年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２２年３月１０日）

この規程は、平成２２年４月１日から施行する。ただし、平成２１年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２３年３月１６日）

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２２年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２５年１２月１８日）

この規程は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２６年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２７年３月１９日）

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２８年１月２０日）

この規程は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成２９年１月１８日）

この規程は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成３０年１月１７日）

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（平成３０年２月２８日）

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用するが、別表６－２については、平成２９年４月１日に入学した者にも適用する。

附　則（平成３１年２月２８日）

この規程は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３１年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

附　則（令和２年２月１９日）

この規程は、令和２年４月１日から施行する。ただし、令和２年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用するが、第４条（登録）については、全在学生に適用する。

附　則（令和２年３月１９日）

この規程は、令和２年４月１日から施行する。ただし、令和２年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の規程を適用する。

【別表１】教養教育科目（第２条関係）・・・94 ページ参照

【別表２】専門教育科目（学類共通専門教育科目）（第２条関係）

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
人文科学系科目	類人 101	日本語理解論	1		2		
	類人 102	日本史入門	1		2		
	類人 201	日本文化概論	2		2		
	類人 202	文化人類学	2		2		
	類人 204	人間関係論	2		2		
	類人 206	日本語表現論	2		2		
	備考	・選択２単位以上修得すること。					
社会科学系科目	類社 101	経営統計学	1		2		
	類社 102	観光学概論	1		2		
	類社 203	地域研究方法論	2		2		
	類社 204	社会調査法	2		2		
	類社 205	経営情報論	2		2		
	類社 206	地域社会論	2		2		
	類社 207	社会心理学	2		2		
	備考	・選択２単位以上修得すること。					
自然科学系科目	類自 101	コンピュータ概論	1		2		情報科学と社会
	類自 202	情報処理論	2		2		
	類自 203	情報化社会論	2		2		
	類自 204	自然保護論	2		2		
	類自 205	沖縄の天然記念物	2		2		
	類自 206	島嶼環境論	2		2		
	類自 207	情報と職業	2		2		
	備考	・選択２単位以上修得すること。					
学際・統合系科目	類際 101	国際学群特別講義	1		2		
	類際 202	国際文化系基礎演習	2		1		
	類際 203	語学教育系基礎演習	2		1		
	類際 204	経営系基礎演習	2		1		
	類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		
	類際 206	診療情報管理系基礎演習	2		1		
	類際 207	観光産業系基礎演習	2		1		
	類際 301	国際文化専門演習Ⅰ	3	2			
	類際 302	経営情報専門演習Ⅰ	3	2			
	類際 303	観光産業専門演習Ⅰ	3	2			
	類際 304	国際文化専門演習Ⅱ	3	2			
	類際 305	経営情報専門演習Ⅱ	3	2			
	類際 306	観光産業専門演習Ⅱ	3	2			
	類際 401	国際文化専門演習Ⅲ	4	2			国際文化専門演習Ⅱ
	類際 402	経営情報専門演習Ⅲ	4	2			経営情報専門演習Ⅱ
	類際 403	観光産業専門演習Ⅲ	4	2			観光産業専門演習Ⅱ
	類際 404	国際文化専門演習Ⅳ	4	2			国際文化専門演習Ⅲ
	類際 405	経営情報専門演習Ⅳ	4	2			経営情報専門演習Ⅲ
	類際 406	観光産業専門演習Ⅳ	4	2			観光産業専門演習Ⅲ
	備考	・専攻系基礎演習は、希望する主専攻の専攻系基礎演習を含めて２単位以上履修すること。 （例えば、前学期に「国際文化系基礎演習」を履修した場合、後学期はその他の専攻系基礎演習を履修すること。）					

【別表３】専門教育科目（専攻専門教育科目）（第２条関係）

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
人文科学系科目	専人 102	漢文講読	1		2		
	専人 103	書写・書道概論	1		2		
	専人 104	中級英語リスニング	1		2		
	専人 105	中級オーラルコミュニケーション	1		2		
	専人 106	中級英語講読	1		2		
	専人 107	中級英作文	1		2		
	専人 108	比較芸術論	1		2		
	専人 109	比較宗教論	1		2		
	専人 110	言語と文学	1		2		
	専人 210	比較思想論	2		2		
	専人 212	日本の歴史	2		2		
	専人 213	英米文化概論Ⅰ	2		2		
	専人 214	英米文化概論Ⅱ	2		2		
	専人 315	異文化コミュニケーション論	3		2		
	専人 216	沖縄地域文化論	2		2		
	専人 217	島嶼文化論	2		2		
	専人 218	観光文化論	2		2		
	専人 219	比較映像文化論	2		2		
	専人 220	言語学概論Ⅰ	2		2		
	専人 221	言語学概論Ⅱ	2		2		
	専人 223	日本語学概論	2		2		
	専人 224	南島歌謡	2		2		
	専人 226	日本言語史	2		2		
	専人 227	中南米の言語と文化	2		4		
	専人 228	英語音声学	2		2		
	専人 229	英文法	2		2		
	専人 230	イギリス文学	2		2		
	専人 233	沖縄の文学	2		2		
	専人 234	準高等英語リスニング	2		2		
	専人 235	準高等オーラルコミュニケーション	2		2		
	専人 236	準高等英語講読	2		2		
	専人 237	準高等英作文	2		2		
	専人 238	高等英語リスニング	2		2		準高等英語リスニング
	専人 239	高等オーラルコミュニケーション	2		2		準高等ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	専人 240	高等英語講読	2		2		準高等英語講読
	専人 241	高等英作文	2		2		準高等英作文
	専人 242	観光実用英語Ⅰ	2		2		
	専人 243	観光実用英語Ⅱ	2		2		観光実用英語Ⅰ
	専人 244	ビジュアルコミュニケーション入門	2		2		
	専人 245	沖縄の社会	2		2		
	専人 246	アジアの宗教	2		2		
	専人 247	国際文化特別講義Ⅰ	2		2		
	専人 248	国際文化特別講義Ⅱ	2		2		
	専人 249	語学教育特別講義Ⅰ	2		2		
	専人 260	語学教育特別講義Ⅱ	2		2		
	専人 250	日本史史料講読	2		2		

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
人文科学系科目	専人251	観光実用韓国語	2		2		韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ
	専人252	観光実用中国語	2		2		中国語Ⅰ、中国語Ⅱ
	専人253	中南米の歴史	2		2		
	専人254	日本古典文学史	2		2		
	専人255	日本近代文学史	2		2		
	専人256	日本古典文学概論	2		2		
	専人257	日本近代文学概論	2		2		
	専人258	日本の社会	2		2		
	専人259	日本の宗教	2		2		
	専人354	移民と異文化	3		2		
	専人355	中南米の社会	3		2		
	専人356	地域文化演習	3		2		
	専人357	現地実習	3		4		地域文化演習
	専人358	アジアの言語	3		2		
	専人359	英語学概論	3		2		
	専人360	アメリカ文学	3		2		
	専人361	アジアの文学	3		2		
	専人262	アジアの歴史	2		2		
	専人263	アジアの文化	2		2		
	専人364	通訳技法	3		2		
	専人365	外書講読	3		2		
	専人366	小学校英語教育教授論	3		2		
	専人367	職業指導Ⅰ	3		2		
	専人368	職業指導Ⅱ	3		2		職業指導Ⅰ
	専人369	日本語教授法	3		2		
	専人370	ディベート	3		2		
	専人371	現代日本語論	3		2		
	専人372	日本近代文学論	3		2		
	専人373	日本古典文学論	3		2		
	専人374	中南米の民俗	3		2		
	専人375	英語リサーチ・ライティング	3		2		
	専人376	日本語教育実践演習	3		2		
	備考						
社会科学系科目	専社101	民法と市民生活	1		2		
	専社102	簿記原理	1		4		
	専社103	上級簿記	1		4		簿記原理
	専社104	経営学総論	1		2		
	専社105	ミクロ経済学	1		2		
	専社106	マクロ経済学	1		2		
	専社107	観光産業特別講義Ⅰ	1		2		
	専社108	観光産業特別講義Ⅱ	1		2		
	専社109	観光学総論	1		2		
	専社208	地誌学	2		2		
	専社209	レジャー・レクリエーション論	2		2		
	専社210	観光関連法規	2		2		
	専社211	会社法	2		2		
	専社212	行政法	2		2		

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
社会科学系科目	専社213	西欧経済史	2		2		
	専社214	財政学	2		2		
	専社215	沖縄観光	2		2		
	専社216	観光行動論	2		2		
	専社217	流通論	2		2		
	専社218	観光開発論Ⅰ	2		2		
	専社219	マーケティング論	2		2		
	専社220	観光調査法	2		4		
	専社221	観光交通論	2		2		
	専社222	中小企業論	2		2		
	専社223	原価計算	2		2		簿記原理
	専社224	経営組織論	2		2		
	専社225	経営戦略論	2		2		
	専社226	会計学原理	2		2		簿記原理
	専社227	イベント事業論	2		2		
	専社228	エコツーリズムⅠ	2		2		
	専社229	国際機構論	2		2		
	専社230	ホスピタリティ概論	2		2		
	専社231	観光事業論	2		2		
	専社232	国際経済論	2		2		
	専社233	金融論	2		2		
	専社234	ベンチャービジネス	2		2		
	専社235	経営特別講義Ⅰ	2		2		
	専社246	経営特別講義Ⅱ	2		2		
	専社236	観光地理学	2		2		
	専社237	観光産業論	2		2		
	専社238	経営管理論	2		2		
	専社239	問題解決の心理学	2		2		
	専社240	旅行業経営論	2		4		
	専社241	旅行業法と約款	2		2		
	専社336	人的資源管理論	3		2		
	専社242	地方自治論	2		2		
	専社243	国際関係論	2		2		
	専社244	国際政治論	2		2		
	専社245	市場調査論	2		2		
	専社246	情報系インターンシップⅠ	2		2		
	専社247	病院実務Ⅰ	2		1		注1
	専社248	日米関係論	2		2		
	専社249	アメリカ政治外交論	2		2		
	専社338	交通産業論	3		2		
	専社341	経済政策	3		2		
	専社342	観光政策論	3		2		
	専社343	地域経済学	3		2		
	専社344	観光経済学	3		2		
	専社345	観光開発論Ⅱ	3		2		観光開発論Ⅰ
	専社346	ホテル計画論	3		4		
	専社347	グローバル・ビジネス論	3		2		
	専社348	産業情報論	3		2		
	専社349	ホスピタリティマーケティング論	3		4		
	専社350	経営分析論	3		2		

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
社会科学系科目	専社351	ホテル実務	3		6		
	専社354	海外インターンシップ	3		4		注2
	専社356	エコツーリズムⅡ	3		2		エコツーリズムⅠ
	専社359	ホテル経営論	3		2		
	専社360	国際コンベンションビジネス	3		2		
	専社361	ホスピタリティマネジメント論	3		2		
	専社362	観光資源論	3		2		
	専社363	アジアの政治と社会	3		2		
	専社364	組織心理学	3		2		
	専社365	対人コミュニケーション論	3		2		
	専社366	チームマネジメントの心理学	3		2		
	専社367	余暇社会学	3		2		
	専社368	地域マーケティング論	3		2		
	専社369	観光関連実務	3		6		
	専社370	情報系インターンシップⅡ	3		2		注1
	専社371	病院実務Ⅱ	3		1		注3
	専社372	病院実務Ⅲ	3		4		病院実務Ⅰ、病院実務Ⅱ
	専社373	観光産業系インターンシップⅠ	3		1		注2
	専社374	観光産業系インターンシップⅡ	3		2		注2
	専社375	観光心理学	3		2		
	備考	・注1　ビジネスマナー研修を受けていること、もしくは実習に必要なビジネスマナーを身につけていると認められる者に限る。 ・注2「観光産業系インターンシップⅠ」、「観光産業系インターンシップⅡ」及び「海外インターンシップ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。 ・注3「病院実務Ⅱ」の履修は、６０単位以上の単位を修得した者に限る。					
自然科学系科目	専自101	プログラミング入門	1		2		
	専自102	コンピュータ・グラフィックス	1		2		
	専自103	ウェブデザイン	1		2		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・ﾘﾃﾗｼｰ
	専自104	ウェブグラフィックス	1		2		
	専自105	診療情報管理論Ⅰ	1		2		医療管理総論
	専自106	人体構造・機能及び医療用語	1		2		
	専自107	医療概論及び臨床医学総論	1		2		
	専自108	臨床医学各論Ⅰ	1		2		人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
	専自109	医療管理総論	1		2		
	専自110	医療管理各論	1		2		
	専自111	保健医療情報学	1		2		
	専自112	ゴルフⅠ	1		1		
	専自113	ゴルフⅡ	1		1		ゴルフⅠ
	専自114	スクーバダイビング	1		1		
	専自115	野外活動演習	1		2		
	専自118	救急処置	1		2		
	専自119	データ処理入門	1		2		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・ﾘﾃﾗｼｰ
	専自120	地球の環境とその保全	1		2		
	専自222	診療情報管理特別講義Ⅰ	2		2		
	専自250	診療情報管理特別講義Ⅱ	2		2		
	専自223	沖縄の植物と保護	2		2		
	専自224	自然地理学概論	2		2		
	専自225	国際ネットワーク論	2		2		注1
	専自226	ネットワークの構築と運用	2		2		
	専自227	プログラミング言語論	2		2		プログラミング入門　注2

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			履修前提科目等
				必修	選択	自由	
自然科学系科目	専自228	上級プログラミング	2		4		プログラミング言語論
	専自229	アルゴリズム論	2		2		注2
	専自230	データベース概論	2		2		
	専自231	データベース実践	2		2		データベース概論
	専自232	ネットワーク技術Ⅰ	2		2		注1
	専自233	ネットワーク技術Ⅱ	2		2		ネットワーク技術Ⅰ
	専自234	ウェブコンテンツ実践	2		2		ウェブデザイン
	専自235	臨床医学各論Ⅱ	2		2		人体構造・機能及び医療用語 医療概論及び臨床医学総論
	専自236	臨床医学各論Ⅲ	2		2		
	専自237	臨床医学各論Ⅳ	2		2		
	専自238	診療情報管理論Ⅱ	2		2		
	専自239	国際統計分類Ⅰ	2		2		診療情報管理論Ⅱ
	専自240	空手	2		1		
	専自241	スポーツ産業論	2		2		
	専自242	ウェルネス概論	2		2		
	専自245	環境調査法	2		4		
	専自247	情報システムズ特別講義Ⅰ	2		2		
	専自248	情報システムズ特別講義Ⅱ	2		2		
	専自249	医療統計学	2		2		統計学
	専自348	環境アセスメント論Ⅰ	3		2		
	専自349	環境アセスメント論Ⅱ	3		2		環境アセスメント論Ⅰ
	専自350	健康と長寿	3		2		
	専自352	自然観察指導法	3		4		
	専自353	システム設計論	3		2		
	専自354	ネットワーク技術Ⅲ	3		2		ネットワーク技術Ⅱ
	専自355	国際統計分類Ⅱ	3		2		国際統計分類Ⅰ
	備考	・注1「ネットワーク技術Ⅰ」は、「国際ネットワーク論」と同時に履修することが望ましい。 ・注2「アルゴリズム論」は、「プログラミング言語論」と同時に履修することが望ましい。					

【別表４】外国人留学生対象科目（外国語教育科目）・・ 97 ページ参照
【別表５－１】　国際文化専攻・・・・・・・・・・・・ 98 ページ参照
【別表５－２】　語学教育専攻・・・・・・・・・・・・100 ページ参照
【別表５－３】　経営専攻・・・・・・・・・・・・・・102 ページ参照
【別表５－４】　情報システムズ専攻・・・・・・・・・104 ページ参照
【別表５－５】　診療情報管理専攻・・・・・・・・・・106 ページ参照
【別表５－６】　観光産業専攻・・・・・・・・・・・・108 ページ参照
【別表６－１】　国際貢献副専攻・・・・・・・・・・・112 ページ参照
【別表６－２】　英語副専攻・・・・・・・・・・・・・113 ページ参照
【別表６－３】　ビジネスマネジメント副専攻・・・・114 ページ参照
【別表６－４】　ネットワーク技術副専攻・・・・・・115 ページ参照
【別表６－５】　システム開発副専攻・・・・・・・・116 ページ参照
【別表６－６】　情報管理副専攻・・・・・・・・・・117 ページ参照
【別表６－７】　デジタルコンテンツ副専攻・・・・・118 ページ参照
【別表６－８】　観光ビジネス副専攻・・・・・・・・119 ページ参照
【別表６－９】　名桜大学副専攻（地域マネジメント）・120 ページ参照

【別表７】３年次進級要件科目（第２条、第１１条関係）

教養教育科目

区分		科目番号	科目名	受講年次	単位数			進級要件
					必修	選択	自由	
共通コア科目	アカデミックスキル科目	共ア 101	教養演習Ⅰ	1	2			１４単位修得すること。
		共ア 102	教養演習Ⅱ	1	2			
		共ア 103	コンピュータ・リテラシー	1	2			
		共ア 104	アカデミックライティングⅠ	1	2			
	ライフデザイン科目	共ラ 101	大学と人生	1	2			
共通選択科目	外国語科目	共外 101	ベーシック・イングリッシュ	1	2			
		共外 102	イングリッシュ・コミュニケーション	1	2			

専門教育科目（学類共通専門教育科目）

区分	科目番号	科目名	受講年次	単位数			進級要件
				必修	選択	自由	
学際・統合系科目	類際 202	国際文化系基礎演習	2		1		１単位以上修得すること。 ※卒業要件を必ず確認すること。
	類際 203	語学教育系基礎演習	2		1		
	類際 204	経営系基礎演習	2		1		
	類際 205	情報システムズ系基礎演習	2		1		
	類際 206	診療情報管理系基礎演習	2		1		
	類際 207	観光産業系基礎演習	2		1		

【別表８】卒業に必要な単位数（第３条関係）

<table>
<tr><th colspan="4">授業科目の区分</th><th>単位数</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="15">国際学群</td><td rowspan="10">教養教育科目</td><td rowspan="5">共通コア科目</td><td>アカデミックスキル科目</td><td>８単位以上</td><td rowspan="10">４２単位以上</td></tr>
<tr><td>ライフデザイン科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>思想と論理科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>沖縄理解科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>健康スポーツ科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">共通選択科目</td><td>外国語科目</td><td>１０単位以上</td></tr>
<tr><td>国際理解科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>社会科学科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目</td><td rowspan="4">学類共通専門教育科目</td><td>人文科学系科目</td><td>２単位以上</td><td rowspan="5">（必修科目）
８単位以上

（選択科目）
４８単位以上</td></tr>
<tr><td>社会科学系科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>学際・統合系科目</td><td>必修　８単位以上
選択　２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻専門教育科目</td><td>人文科学系科目</td><td rowspan="3">４０単位以上</td></tr>
<tr><td>社会科学系科目</td></tr>
<tr><td>自然科学系科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">自由選択科目</td><td>２６単位以上</td><td>２６単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">合計</td><td>１２４単位以上</td><td>１２４単位以上</td></tr>
</table>

様式第１号（第６条関係）

令和　　年　　月　　日

追試験許可願

名桜大学長　　殿

申請者　学　生　番　号：

学　類・学科名：

氏　　名：

連　　絡　　先：
（自宅又は携帯電話番号等の連絡先）

全学教務委員長：　　印

令和＿＿年度＿＿学期末試験に係る下記科目の追試験を許可して下さいますよう、お願い致します。

記

１．理由

注意
１）病気が追試験許可願の理由の場合、医師の診断書を添付すること。
２）その他やむを得ない事情があった場合、その旨の証明書を添付すること。

２．追試験科目

No.	科目名	クラス	単位数	曜日	時限	教員名
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

※試験の実施時期は，掲示又は本人に電話連絡する。

様式第２号（第７条関係）

令和　　年　　月　　日

再試験許可願

名桜大学長　　殿

申請者　学　生　番　号：

学　類・学科名：

氏　　名：

連　絡　先：

（自宅又は携帯電話番号等の連絡先）

全学教務委員長：　　印

科　目　名		科 目 コ ー ド	
ク　ラ　ス		単　位　数	
担 当 教 員	印		
試 験 区 分	１．通年　２．前学期　３．後学期　４．集中講義		
必修・選択	１．必修　２．選　択　３．自　由		
試 験 期 日	令和　　年　　月　　日　（　　曜日）		
場　　所			

※ 再試験科目の受験料（１科目４，０００円）は，科目毎に申請すること。

提出年月日　　年　　月　　日

会　計　課　納　入　印
金額　４，０００円

欠席及び成績評価の対象等に関する申合せ

（平成６年７月２７日制定）

（趣旨）

第１条　この申合せは、名桜大学（以下「本学」という。）における授業等の欠席及び期末試験等の受験資格等に関し定めるものとする。

（授業への出席及び欠席、公欠届提出期限及び学修）

第２条　学生は、登録した科目の授業に常に出席しなければならない。

２　やむを得ず欠席する場合は、原則として事前に欠席届（様式第１号）を担当教員に提出しなければならない。

３　病気又はその他の理由で１週間以上欠席する場合は、医師の診断書（又は写し）又は欠席理由書（様式第２号）を添えるものとする。

４　次の事由による欠席については、これを公欠席として許可し、通常の欠席とはしない。ただし、第１号、第２号、第３号、第４号及び第７号の場合は事前に、また第５号及び第６号の場合は事由後、１週間以内に公欠席願（様式第３号）を提出しなければならない。また、公欠席願の提出は、第５号及び第６号を除き学期末試験期間が始まる前の、講義が行われる日の最終日を提出期限とする。

(1)　教育課程としての実習等

(2)　本学、沖縄県及び国を代表して参加する競技会等（県レベル大会以上）

(3)　資格試験の受験、大学等が企画する就職活動（合同企業説明会など）

(4)　就職試験の受験（受験票がない場合は、大学指定様式を提出する）

(5)　忌引

１親等は７日以内（休日等を含む。）

２親等は５日以内（休日等を含む。）

(6)　学校保健安全法施行規則（昭和３３年文部省令第１８号）で定められた感染症

(7)　その他本学が正当と認めた事由

５　前項第１号、第２号、第３号及び第４号の公欠席は、沖縄県内の場合は当該期日のみ、また、沖縄県外の場合は往復に係る必要最小日数（往路１日、復路１日を含む）を許可する。

６　授業担当教員は、第４項の各号に掲げる公欠席があった場合、当該学生に対し必要な学修を課すものとする。

（公欠席と手続）

第３条　公欠席となる事由等については、別表のとおりとする。

２　公欠席は、各科目とも学期中に、授業回数の２回までとする。

３　公欠席は、原則として学生本人が願い出るものとするが、集団で行う実習又は遠征等の場合は、実習担当教員又はその団体を代表する者が一括で願い出ることができる（様式第４号）。

（成績評価の対象）

第４条　成績評価の対象者は、原則として授業時間の３分の２以上出席した者とする。

（不正行為）

第５条　学期末試験において、次の各号のいずれかに該当する行為を行った者は、当該学期に履修してい

る全ての授業科目の成績評価を「不可」とする。

(1)　受験を他人に代行させた者

(2)　不正行為により答案を作成した者

(3)　不正に他人の答案作成を助けた者

(4)　試験監督者の注意又は指示に従わない者

（改廃）

第６条　この申合せの改廃は、全学教務委員会の議を経て学長が定める。

附　則

この申合せは、平成６年７月２７日から施行し、平成６年４月１日から適用する。

附　則

この申合せは、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この申合せは、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この申合せは、平成２０年１２月４日から施行する。

附　則

この申合せは、平成２２年６月１０日から施行する。

附　則

この申合せは、平成２３年３月１日から施行する。

附　則（平成２６年２月１７日）

この申合せは、平成２６年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年１月２７日）

この申合せは、平成２８年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年１２月２６日）

この申合せは、平成２８年１２月２６日から施行し、平成２８年９月２８日から適用する。

様式第１号（第２条関係）

年　　月　　日

欠　　席　　届

授業担当教員

殿

学類・学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 生 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電 話 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

次のとおり、授業を欠席することになりましたので、届出いたします。

欠席日	年　月　日 年　月　日	欠席の期間 (長期欠席の場合)	自：　年　月　日 至：　年　月　日
授業科目		クラス	
欠席理由 (長期欠席は様式第2号)			

備考１　この届け出は、受講科目ごとに担当教員に提出すること。
　　２　病気その他の理由で１週間以上欠席する場合は、医師の診断書(写しも可)又は欠席理由書(様式第２号)を添付する。

様式第２号（第２条関係）

年　　月　　日

欠　　席　　理　　由　　書

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 生 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

欠席の期間が１週間を超えますので、その理由について次のとおり説明します。

欠席の期間	年　月　日 ～　年　月　日
欠席の理由（詳細に）	

様式第３号（第２条関係）

年　　月　　日

公　　欠　　席　　願

名桜大学長　　殿

学類・学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 生 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電 話 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

次のとおり「公欠席」として、授業を欠席させていただきますようお願いいたします。

欠席日	年　月　日 年　月　日	欠席の期間 (長期欠席の場合)	自：　年　月　日 至：　年　月　日
授業科目		クラス	
欠席理由			

備考１　届出が許可された場合は、学部長名で受講科目ごとに担当教員に通知される。

２　公欠席は、１科目で１学期内に２回まで認められる。

３　別表を参考にして公欠席の理由を証明する関係書類を添付すること。また、事後の報告が条件となる場合もあります。公欠席に該当しない場合は、通常の欠席になります。

この願出を『公欠席』として（　許可　不許可　）してよいか伺います。

学群・学部長	事務局長	教務部長	課　長	係　長	主　任	係　員

様式第４号（第３条関係）

年　　月　　日

公　　欠　　席　　願

名桜大学長　　殿

科目担当教員又は
団体代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電　話　番　号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

別紙名簿の学生の実習(遠征)について、「公欠席」として、授業を欠席させていただきますようお願いします。

実習(遠征)の名称	
期　　間	年　月　日 ～　　年　月　日
備　　考	

備考１　届出が許可された場合は、学群長・学部長名で受講科目ごとに担当教員に通知される。

２　公欠席は、１科目で１学期内に２回まで認められる。

３　別表を参考にして公欠席の理由を証明する関係書類を添付すること。また、事後の報告が条件となる場合もあります。公欠席に該当しない場合は、通常の欠席になります。

この願出を『公欠席』として（　許可　不許可　）してよいか伺います。

学群・学部長	事務局長	教務部長	課　長	係　長	主　任	係　員

別表（第３条関係）

「公欠席」対象項目と手続等

公欠席対象項目	事前手続	添付資料	対象者	備　　考
教育課程の実習等				
教育実習	○	計画表	3・4年次	対象限定
インターンシップ	○	計画表	〃	対象限定
学外セミナー等	○	計画表	1～4年次	単位選定の対象のセミナー等
課外活動				
対外競技大会等	○	大会要項	競技者 マネジャー	県大会以上(本学、県及び国代表)、個人戦でも可能
就職活動				
企業訪問活動	○	計画表(写し)	4年次	事後に報告書提出
就職の翼	○	実施要項	3・4年次	
合同企業説明会	○	開催案内	4年次	対象説明会限定：就職室指定、会場で確認
採用試験の受験	○	計画表(写し)	〃	
資格取得試験	○	計画表(写し)	1～4年次	
忌引	＊○		1～4年次	*事後でも良い
感染症＊		診断書、または感染したことが確認できる書類	1～4年次	*学校保健安全法施行規則で定められた感染症。 事後に診断書等を添付し申請
その他				
ボランティア活動	○	計画書	1～4年次	事後に報告書提出
学校・行政機関の派遣要請	○	派遣依頼等	〃	
災害派遣	○	計画書(写)	〃	事後に報告書提出
裁判（証人）	○	関係資料	〃	
事件・事故等	＊○		〃	*緊急時は電話、事後提出可

暴風時の講義等の取扱いに関する申合せ

（平成６年７月２７日制定）

（趣旨）

第１条　この申合せは、暴風時における講義等の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（暴風警報発令の場合の講義等の取扱い）

第２条　暴風による事故の発生を防止するため、暴風雨時の場合の講義等の取扱いは次のとおりとする。

(1)　午前７時現在、暴風警報（以下「警報」という。）が発令されている場合（沖縄本島の一部に警報が発令されている場合も含む。）は、午前中の講義等は休講とする。ただし、午前１０時までに警報が解除された場合は、３時限目から講義等を行う。

(2)　午前１０時までに警報が解除されない場合は、当該日の全ての講義等を休講とし、構内への入構を禁ずる。

(3)　講義中に警報が発令された場合は、直ちに講義等を中止する。

(4)　その他この取扱い以外に緊急事態が生じた場合は、学長は速やかに適切な措置をとる。

附　則

この申合せは、平成６年７月２７日から施行する。

附　則（平成２４年６月２７日）

この申合せは、平成２４年６月２７日から施行する。

名桜大学研究生規程

（平成６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定）第３８条第２項の規定に基づき、研究生に関し必要な事項を定めるものとする。
（入学資格）
第２条　研究生として入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　大学を卒業した者
(2)　前号に定める者と同等以上の学力を有すると認められた者
（出願書類）
第３条　研究生として入学を志願する者は、次の書類を提出しなければならない。
(1)　研究生願書
(2)　履歴書
(3)　学力判定に必要な書類
(4)　指導教員の推薦書
(5)　所属長の推薦書（在職中の者のみ）
（研究生の選考）
第４条　研究生の選考は、教授会が行う。
（入学手続及び入学許可）
第５条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学の手続を行わなければならない。
２　学長は、前項の手続を完了した者に研究生として入学を許可する。
（入学の時期）
第６条　研究生の入学時期は、学期の始めとする。
（研究生の期間）
第７条　研究生の在学期間は、１年とする。
（検定料、入学金、授業料等）
第８条　研究生の検定料、入学金及び授業料の額は、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程（平成２６年９月２７日制定）の定めるところによる。
２　実験及び実習等に要する経費は、別に負担させることがある。
（論文の提出）
第９条　研究生は、指導教官の指示に従い、研究計画及び論文を提出しなければならない。
（修了証書の授与）
第１０条　学長は、教授会の成績審査に合格した者に修了証書を授与する。
（検定料、入学金及び授業料の取扱い）
第１１条　既納の検定料、入学金及び授業料は、還付しない。
（学内規則等の準用）
第１２条　研究生については、この規程に定めるもののほか、学内規則等を準用する。
（補則）
第１３条　この規程に定めるもののほか、研究生に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て学長が別に定める。

附　則
この規程は、平成６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１２年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年３月１０日）
この規程は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則（平成２９年２月２２日）
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

名桜大学科目等履修生規程

（平成６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定。以下「学則」という。）第３９条第２項の規定、名桜大学大学院学則（平成１３年４月１日制定。以下「大学院学則」という。）第４７条に規定する科目等履修生及び名桜大学助産学専攻科規則（平成２９年４月１日制定。以下「専攻科規則」という。）第１８条に規定する科目等履修生に関し必要な事項を定める。
（入学資格）
第２条　国際学群及び人間健康学部（以下「学部等」という。）の科目等履修生として入学することのできる者は、学則第１９条に規定する入学資格を有する者とする。
２　大学院の科目等履修生として入学することのできる者は、大学院学則第１７条に規定する入学資格のうち、当該研究科の課程の入学資格を有する者とする。
３　助産学専攻科（以下「専攻科」という。）の科目等履修生として入学することのできる者は、専攻科規則第９条に規定する入学資格を有する者とする。
（出願書類）
第３条　科目等履修生として入学を志願する者は、次の書類を提出しなければならない。
(1)　科目等履修生願書
(2)　履歴書
(3)　学力判定に必要な書類
（科目等履修生の選考）
第４条　学部等科目等履修生の選考は、当該学部等教授会が行う。
２　大学院科目等履修生の選考は、当該研究科委員会が行う。
３　専攻科科目等履修生の選考は、人間健康学部教授会が行う。
（入学手続き及び入学許可）
第５条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学の手続きを行わなければならない。
２　学長は、前項の手続きを完了した者に科目等履修生として入学を許可する。
（入学の時期）
第６条　科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。
（科目等履修生の期間）
第７条　科目等履修生の在学期間は、当該学期限りとする。
（検定料、履修料等）
第８条　科目等履修生の検定料及び履修料の額は、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程の定めるところによる。
２　実験及び実習等に要する経費は、別に負担させることがある。
（単位の授与）
第９条　科目等履修生が履修した授業科目については、試験及び出席状況その他によって認定の上、単位を与える。
（検定料及び履修料の取扱い）
第１０条　既納の検定料及び履修料は、還付しない。
（学内規則等の準用）
第１１条　科目等履修生については、この規程に定めるもののほか、学内規則等を準用する。
（補則）
第１２条　この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て学長が別に定める。

附　則
この規程は、平成６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成８年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１２年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年３月１０日）
この規程は，平成２２年４月１日から施行する。
附　則（平成２９年２月２２日）
この規程は，平成２９年４月１日から施行する。
附　則（平成３１年３月１８日）
この規程は，平成３１年４月１日から施行する。

名桜大学国際学群単位認定基準

（平成７年７月１９日制定）

（趣旨）

第１条　この基準は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定。以下「学則」という。）第３３条から第３５条までの規定に定める認定に関し必要な事項を定めるものとする。

（単位認定の方針、単位の認定）

第２条　学則第３３条に定める大学等の協議に基づき履修させた授業科目については、原則として本学で修得した単位として認める。

２　学則第３４条に定める大学以外の教育施設等における学修については、大学教育に相当する水準を有すると認めたものについて行うものとする。

３　学則第３５条に定める既修得単位の認定は、次のとおりとする。

(1)　教養教育科目は、原則として科目区分ごとに一括して単位を認定することができる。

(2)　専門教育科目は、原則として科目区分ごとに一括して単位を認定することができる。

(3)　前２号の規定において入学以前に履修した科目の内容が本学の開設する科目の内容と合致する場合は、本学の開設する科目の名称に読み替え単位を認定することができる。

(4)　一括認定ができず、また、入学以前に履修した科目の内容が本学の開設する科目の内容と合致しない場合は、自由科目として単位を認定することができる。

４　第１項、第２項並びに第３項で認定された科目等の評価は、「認定」で表示するものとする。

（単位認定の通知）

第３条　学長は、認定した単位及び授業科目について、単位認定結果を学生へ通知する。

（単位認定に伴う指導）

第４条　単位認定を行った場合は、認定した単位に代えて他の選択科目の履修を行わせるなど学習内容の充実を図るよう適切な指導を行うものとする。

（補則）

第５条　この基準に定めるもののほか、単位の認定に関し必要な事項は、国際学群教務委員会並びに教授会の議を経て学長が別に定める。

附　則

この基準は、平成７年７月１９日から施行する。

附　則

この基準は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この基準は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この基準は、平成２６年４月１日から施行する。

名桜大学国際学群が定める大学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する取扱要項

（平成１５年１１月１９日制定）

（趣旨）

第１条　名桜大学学則（平成６年４月１日制定）第３４条の規定に基づき、文部科学大臣が定める学修を名桜大学（以下「本学」という。）における授業科目の履修とみなし、本学の卒業に必要な単位として認定する場合の学修の範囲、単位数及び手続に関する事項については、この取扱要項に定めるところによる。

（単位を認定することができる学修の範囲等）

第２条　本学が教育上有益と認め、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる学修は、別表に定めるものとする。

２　前項に規定する単位認定を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とし、申請する場合は、大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書（様式第１号）に合格証等の写しを添え、各学期の終了する１か月前までに、教務課に提出するものとする。

(1)　本学入学（再入学、編入学及び転入学を含む。）前に、前項に定める学修に合格している者

(2)　本学在学中に、前項に定める学修に合格している者

３　前項の規定による単位認定の申請に基づき、本学において履修したとみなす授業科目及び認定する単位数は、別表に定めるものとする。

（単位の認定及び評価）

第３条　単位の認定は、教務委員会及び教授会の議を経て学長が行う。

２　本学が履修したとみなす授業科目の成績の評価は、秀、優、良又は可に替えて「認定」とする。

（認定の通知）

第４条　学長は、認定した授業科目及び単位について認定した結果を学生に通知する。

（補則）

第５条　この取扱要項に定めるもののほか、文部科学大臣が定める学修に関し必要な事項は、教務委員会が別に定める。

２　この取扱要項の改正及び廃止は、教授会の議を経て学長が定める。

附　則（平成１５年１１月１９日）

この取扱要項は、平成１５年１１月１９日から施行する。

附　則（平成１６年３月１７日）

この取扱要項は、平成１６年３月１７日から施行する。

附　則（平成１７年３月２９日）

この取扱要項は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則（平成１９年３月２７日）

この取扱要項は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平成２３年３月１６日）

この取扱要項は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則（平成２５年１２月１８日）

この取扱要項は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則（平成２９年１２月２０日）

この取扱要項は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前に入学し、引き続き在学する者には、従前の取扱要項を適用する。

別表（第２条関係）

１　文部科学大臣が定める学修のうち、本学で履修したとみなす授業科目

２　単位の認定及び改廃については、教務委員会の審議を経て教授会が決定する。

資　格　名	本学の授業科目	単位
実用英語技能検定２級以上	ビジネス英語Ⅰ プラクティカル・イングリッシュⅡ	2 2
ＴＯＥＩＣ５１９点以上	ビジネス英語Ⅰ プラクティカル・イングリッシュⅠ	2 2
実用フランス語技能検定４級以上	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	2 2
実用スペイン語検定４級以上	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	2 2
日本中国語検定４級以上	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	2 2
HSK（４級、５級、６級）	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	2 2
ハングル能力検定４級以上	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	2 2
韓国語能力検定初級（旧１級、２級）	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	2 2
日本商工会議所簿記検定試験３級又は 全国商業高等学校協会簿記検定２級若しくは 全国経理教育協会簿記能力検定２級（商業簿記）	簿記原理	4
日本商工会議所簿記検定試験２級以上又は 全国商業高等学校協会簿記検定１級（会計・原価計算）若しくは 全国経理教育協会簿記能力検定１級 （商業簿記・会計学及び原価計算・工業簿記）以上	簿記原理 上級簿記 原価計算	4 4 2
全国経理教育協会簿記能力検定１級（商業簿記・会計学のみ合格）	簿記原理 上級簿記	4 4
全国経理教育協会簿記能力検定１級（原価計算・工業簿記のみ合格）	簿記原理 原価計算	4 2
IT パスポート	情報処理論 コンピュータ概論	2 2
基本情報技術者	情報処理論 コンピュータ概論 プログラミング入門	2 2 2
CG クリエーター検定３級又は 画像処理エンジニア検定（ベーシック）若しくは マルチメディア検定（ベーシック）	コンピュータ・グラフィックス	2
CG クリエーター検定２級又は 画像処理エンジニア検定（エキスパート）若しくは マルチメディア検定（エキスパート）	コンピュータ・グラフィックス ウェブグラフィックス	2 2
ドットコムマスター（シングルスター以上）	国際ネットワーク論	2
数学検定２級	数学	2

様式第１号（第２条関係）

大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書

年　　月　　日

名　桜　大　学　長　　殿

（申請者）　学　籍　番　号

学類・学科名

氏　　名

連絡先（電話番号）

名桜大学学則第３４条（大学以外の教育施設等における学修）に定める単位として認定していただきたく、所定の書類を添えて申請します。

学修の種類及び級等	
認定機関	
合格した年月	年　　月　　日
本学の授業科目・単位数	

名桜大学転学部等規程

（平成１７年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定）第３０条第２項に基づき、名桜大学に在学する学生の他学群及び学部（以下「学部等」という。）への転出（以下「転学部等」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（転学部）

第２条　転学部等による学生の受入れは、学年の始めとする。

（出願）

第３条　転学部等の出願は、入学した学部で１年以上の修業期間及び３０単位以上の単位取得が見込まれる学生から行うことができる。

（出願書類）

第４条　転学部等を志願する者は、次の書類及び検定料を１月末までに教務課に提出しなければならない。

(1)　転学部等願書（別記様式）

(2)　所属学部等の長の転学部等承諾書

(3)　転学部等検定料

（選考方法）

第５条　転学部等の選考は、在学中の成績、入学した際の入学試験の成績及び転学部等をしようとする学部等（以下「当該学部等」という。）が行う試験、面接等の結果を総合して判定する。

（転学部等の許可）

第６条　転学部等は、当該学部等の教授会の議を経て学長が許可する。

（修業年限及び修得単位の取扱い）

第７条　転学部等を許可された者の修業年限及び修得した単位は、当該学部等の教授会の議を経て、学長が決定する。

（授業料等の取扱い）

第８条　転学部等を許可された者の授業料等は、当該学部等の相当年次の学生と同額とする。

（補則）

第９条　この規程に定めるもののほか、転学部等に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て学長が別に定める。

附　則（平成１７年３月２９日）

この規程は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則（平成１９年２月２８日）

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平成２２年３月１０日）

この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

名桜大学再入学規程

（平成７年７月１９日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、名桜大学学則（平成６年４月１日制定）第２５条第２項の規定に基づき、再入学に関し必要な事項を定めるものとする。
（出願書類）
第２条　再入学を志願しようとする者は、学期の始まる６０日前までに、次の書類等を提出しなければならない。なお、再入学を志願できる期限は除籍・退学後３年以内とする。
(1)　再入学願書
(2)　履歴書
(3)　面談票
(4)　入学検定料
（再入学の許可）
第３条　再入学は、当該学部等の教授会の議に基づき、学長が許可する。
２　再入学は、原則として１回に限りこれを認める。
（再入学の時期）
第４条　再入学の時期は、学期の始めとする。ただし、除籍・退学確定後、直近の一個学期は再入学することはできない。
（単位の認定）
第５条　再入学を許可された者が名桜大学において修得した単位は、原則としてそのまま認める。
（在学期間）
第６条　再入学を許可された者の在学すべき年数及び年次は、当該学部等の教授会の議を経て学長が決定する。
（授業料）
第７条　再入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。
（補則）
第８条　この規程に定めるもののほか、再入学に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て学長が別に定める。

附　則
この規程は、平成７年７月１９日から施行する。
附　則
この規程は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年３月１０日）
この規程は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則（平成２６年２月２７日）
この規程は、平成２６年４月１日から施行し、平成２６年度入学者から適用する。
附　則（平成２９年２月２２日）
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程

（平成２６年９月２７日制定）

（趣旨）

第１条　公立大学法人名桜大学、名桜大学大学院及び専攻科（以下「本学」という。）における入学金、授業料、諸経費（以下「学費等」という。）、検定料等及びその他の諸納入金に関し別に定めるもののほか、この規程で定めるものとする。

（学費等）

第２条　本学の学費等は別表１のとおりとし、学費等の納入については、各項に定めるところによる。

２　本学に入学、編入学、再入学又は転入学（以下「入学等」という。）を志願する者は、志願手続の際に別表１に基づく入学検定料を納入しなければならない。

３　入学等の合格通知を受けた者は、学費等を入学前の指定の期日までに納入しなければならない。転入学については、別表１の編入学の表を読み替えるものとする。

４　入学等の合格の通知を受けた者が納入した学費等は返還しない。ただし、その者が所定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除く学費等を返還することができるものとする。

５　入学金の決定については、「地域内」、「地域外」の区分によるものとする。

⑴「地域内」とは、名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村（以下、「沖縄本島北部１２市町村」という。）とする。

⑵「地域内」に該当する者とは、次のいずれかに該当する者をいう。

(ｱ)　入学する者の卒業した出身高等学校が、沖縄本島北部１２市町村に所在していること。

(ｲ)　入学する者の住所が沖縄本島北部１２市町村にあり、志願年度の前年度３月３１日以前から１年以上継続して在住していること。

(ｳ)　入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄本島北部１２市町村にあり、志願年度の前年度３月３１日以前から１年以上継続して在住していること。

⑶「地域外」に該当する者とは、前項の規定に該当しない者とする。

６　学則第１９条第１項第３号及び大学院学則第１７条第１項第３号、第５号、第６号、第１０号並びに第１７条第２項第４号の規定において「留学」の在留資格により入国し、本学に外国人留学生（以下「留学生」という。）として入学する場合の入学金は、「地域外」の半額とする。

７　本学学群・学部卒業生、本学修士課程修了生及び本学博士後期課程修了生が本学大学院並びに専攻科に入学する場合の入学金は、「地域内」に基づく入学金の半額とする。

８　再入学する場合の入学金は、学群・学部入学時の入学金の半額とする。

９　在学生は、授業料を前学期及び後学期の２期に区分し、それぞれ年額の２分の１

を次の期日までに納入しなければならない。

前学期　４月３０日まで

後学期　１０月３１日まで

１０　授業料は、前項の規定に基づく期日に学生が指定する金融機関の口座から引き落とす方法により徴収するものとする。ただし、これにより難い場合は、本学の指定する口座への振込又は現金により徴収するものとする。

（休学期間の授業料及び学籍料）

第３条　休学を希望する者が、休学する学期の開始までに休学を願い出て許可された場合の休学期間にかかる授業料は免除することとし、既に納入された授業料等は、返還するものとする。なお、休学前に第３項に規定する学籍料を徴収するものとする。

２　学期中途で休学する者の授業料は、当該学期の授業料額を６で除した額に、当該学期開始から休学を願い出た日の属する月までの経過月数を乗じた額及び第３項に規定する学籍料を休学前に徴収するものとする。なお、当該学期の授業料を全額納入していた場合は、算出した授業料及び第３項に規定する学籍料を徴収し、差額を返還するものとする。ただし、休学の時期が前学期は７月末、後学期は１月末を超える場合は、原則として授業料は返還しない。

３　休学を許可された者は、別表２に掲げるいずれかに該当する学籍料を、休学前に納入しなければならない。

（退学、除籍及び停学の場合の授業料）

第４条　学期中途において、退学又は除籍された者の授業料は、第３条第２項の規定により算出した額とし、これを徴収する。なお、この場合において「休学」とあるのは「退学」と読み替えるものとする。

２　前項の規定は、学則第２９条第１号、第６号及び死亡による除籍の場合は、これを適用しない。

３　停学期間中の授業料等は徴収する。

（授業料の未納により除籍した場合の授業料）

第５条　授業料等の未納により、名桜大学の授業料免除及び徴収猶予取扱規程（平成６年７月２７日制定）に定めるところの選考機関及び教授会の議を経て除籍の決定がなされた場合は、未納の授業料等の徴収を免除することができる。

（授業料の徴収猶予）

第６条　学生が、次のいずれかに該当する場合は、授業料の徴収を猶予することができる。

(1)　経済的理由によって納付期限までに授業料の納付が困難であると認められる場合

(2)　行方不明の場合

(3)　学資負担者の死亡

(4)　学生又は学資負担者が災害を受け納付困難と認められる場合

(5)　その他やむを得ない事由があると認められる場合

２　前項の規定により授業料の徴収猶予を受けようとする者は、所定の期間において、

次の書類を学長に提出しなければならない。

(1)　授業料徴収猶予許可申請書（様式第１号）

(2)　その他本学が必要と認める書類

３　前項に規定する所定の期間とは、次のとおりとする。

前学期　３月１日から４月中旬まで

後学期　９月１日から１０月中旬まで

４　第１項に規定する授業料の徴収猶予は､授業料の納入期ごとに許可するものとし、猶予期間は、当該年度を超えないものとする。徴収猶予の最終期限日は、前項に掲げる授業料徴収猶予許可申請期間前に教育研究審議会において決定するものとする。

（徴収猶予中退学した場合の授業料）

第７条　授業料の徴収猶予を許可されている者が退学を願い出て退学を許可された場合の授業料は、当該学期の授業料額を６で除した額に当該学期開始から退学を願い出た日の属する月までの経過月数を乗じた額を徴収し、退学の翌月以降に納入すべき授業料を免除するものとする。

（授業料の免除）

第８条　経済的理由により授業料の納付が困難であると認められる者又はその他特別な事情があると認められる者に対しては、名桜大学の授業料免除及び徴収猶予取扱規程（平成６年７月２７日制定）の定めるところの選考機関の議を経て授業料を免除することができる。

（学費督促による納入期限）

第９条　学費未納者に対し学費督促を行い、納入期限は次のとおりとする。なお、最終期限日は、第６条第４項の規定により決定するものとする。

督促回数	前学期	後学期
督促１回目	５月下旬	１１月下旬
督促２回目 （最終期限）	７月中旬	翌年１月中旬

（特別聴講学生）

第１０条　特別聴講学生の授業料は、大学間の交流協定書による。

（研究生）

第１１条　研究生の学費等については、別表３の定めるところによる。

（科目等履修生及び委託生）

第１２条　科目等履修生及び委託生の学費等については、別表４の定めるところによる。

（転学部及び転学科の検定料等）

第１３条　転学部及び転学科の検定料等については、別表５の定めるところによる。

（その他の諸納入金）

第１４条　教育実習費及び証明書発行手数料等の諸納入金については、別表６の定めるところによる。

（改廃）

第１５条　この規程の改廃は、経営審議会及び理事会の議を経て理事長が行う。ただし、前条の諸納入金、公益財団法人日本国際教育支援協会及び一般社団法人日本看護学校協議会共済会の定めるところの学生保険料の改定に伴う改正については、理事長が行う。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年３月２６日）

この規程は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年１２月２１日）

この規程は、平成２９年２月１日から施行する。

附　則（平成２９年６月２９日）

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。

附　則（平成３１年３月２８日）

この規程は、平成３０年１０月１日から施行する。

附　則（令和元年５月１０日）

この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則（令和元年１２月２５日）

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

別表１（第２条関係）

【学費等】

□学群・学部学生　（単位：円）

学群・学部名				国際学群	人間健康学部	
学類・学科名				国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料				17,000	17,000	17,000
1年次	学費	入学金	地域内	125,000	125,000	125,000
			地域外	250,000	250,000	250,000
		授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900	267,900
	諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時（4年間）	3,300	3,300	3,300
		学研災付帯賠償責任保険		1,360	1,360	2,000
		看護学生保険「Will」		―	―	18,000
		後援会費		40,000	40,000	40,000
次年度以降	学費	授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900	267,900

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。

※　留学生は、後援会費を免除する。

□学群・学部学生：３年次編入学　（単位：円）

学群・学部名				国際学群	人間健康学部	
学類・学科名				国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料				17,000	17,000	17,000
3年次	学費	入学金	地域内	125,000	125,000	125,000
			地域外	250,000	250,000	250,000
		授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900	267,900
	諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時（2年間）	1,750	1,750	1,750
		学研災付帯賠償責任保険		680	680	1,000
		看護学生保険「Will」		―	―	9,000
		後援会費		20,000	20,000	20,000

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。

※　留学生は、後援会費を免除する。

□学群・学部学生：２年次編入学　（単位：円）

学群・学部名				国際学群	人間健康学部
学類・学科名				国際学類	スポーツ健康学科
入学検定料				17,000	17,000
２年次	学費	入学金	地域内	125,000	125,000
			地域外	250,000	250,000
		授業料	前学期	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900
	諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時（3年間）	2,600	2,600
		学研災付帯賠償責任保険		1,020	1,020
		看護学生保険「Will」		―	―
		後援会費		30,000	30,000

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。
※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。
※　留学生は、後援会費を免除する。

□学群・学部学生：４年次再入学　（単位：円）

学群・学部名			国際学群	人間健康学部	
学類・学科名			国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料			9,800	9,800	9,800
学費	入学金	地域内	62,500	62,500	62,500
		地域外	125,000	125,000	125,000
	授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
		後学期	267,900	267,900	267,900
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	1,000	1,000	1,000
	学研災付帯賠償責任保険		340	340	500
	看護学生保険「Will」		―	―	4,500

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

□学群・学部学生：３年次再入学　（単位：円）

学群・学部名			国際学群	人間健康学部	
学類・学科名			国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料			9,800	9,800	9,800
学費	入学金	地域内	62,500	62,500	62,500
		地域外	125,000	125,000	125,000
	授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
		後学期	267,900	267,900	267,900
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	1,750	1,750	1,750
	学研災付帯賠償責任保険		680	680	1,000
	看護学生保険「Will」		―	―	9,000

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

□学群・学部学生：２年次再入学　（単位：円）

学群・学部名			国際学群	人間健康学部	
学類・学科名			国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料			9,800	9,800	9,800
学費	入学金	地域内	62,500	62,500	62,500
		地域外	125,000	125,000	125,000
	授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
		後学期	267,900	267,900	267,900
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	2,600	2,600	2,600
	学研災付帯賠償責任保険		1,020	1,020	1,500
	看護学生保険「Will」		―	―	13,500

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

□学群・学部学生：１年次再入学　（単位：円）

学群・学部名			国際学群	人間健康学部	
学類・学科名			国際学類	スポーツ健康学科	看護学科
入学検定料			9,800	9,800	9,800
学費	入学金	地域内	62,500	62,500	62,500
		地域外	125,000	125,000	125,000
	授業料	前学期	267,900	267,900	267,900
		後学期	267,900	267,900	267,900
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	3,300	3,300	3,300
	学研災付帯賠償責任保険		1,360	1,360	2,000
	看護学生保険「Will」		―	―	18,000

※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。

□修士課程　（単位：円）

研究科・専攻名				国際文化研究科 国際文化システム専攻	看護学研究科 看護学専攻
入学検定料				30,000	30,000
1年次	学費	入学金	地域内	125,000	125,000
			地域外	250,000	250,000
		授業料	前学期	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900
	諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時（2年間）	1,750	1,750
		学研災付帯賠償責任保険		―	―
		看護学生保険「Will」		―	―
		後援会費		20,000	20,000
次年度以降	学費	授業料	前学期	267,900	267,900
			後学期	267,900	267,900

※　本学学群・学部卒業生が本学修士課程に入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。
※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。
※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。
※　留学生は、後援会費を免除する。

□博士後期課程　　（単位：円）

<table>
<tr><td colspan="4">研究科・専攻名</td><td>国際文化研究科
国際地域文化専攻</td></tr>
<tr><td colspan="4">入学検定料</td><td>30,000</td></tr>
<tr><td rowspan="7">1年次</td><td rowspan="4">学費</td><td rowspan="2">入学金　※</td><td>地域内</td><td>125,000</td></tr>
<tr><td>地域外</td><td>250,000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業料</td><td>前学期</td><td>267,900</td></tr>
<tr><td>後学期</td><td>267,900</td></tr>
<tr><td rowspan="3">諸経費</td><td>学生教育研究災害傷害保険</td><td rowspan="3">入学手続時
(3年間)</td><td>2,600</td></tr>
<tr><td>学研災付帯賠償責任保険</td><td>－</td></tr>
<tr><td>後援会費</td><td>30,000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">次年度以降</td><td rowspan="2">学費</td><td rowspan="2">授業料</td><td>前学期</td><td>267,900</td></tr>
<tr><td>後学期</td><td>267,900</td></tr>
</table>

※　本学学群・学部卒業生及び本学修士課程修了生が本学博士後期課程に入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。
※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。
※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。
※　留学生は、後援会費を免除する。

□助産学専攻科　　（単位：円）

<table>
<tr><td colspan="3">専攻科名</td><td colspan="2">助産学専攻科</td></tr>
<tr><td colspan="3">入学検定料　※</td><td colspan="2">18,000</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学　費</td><td rowspan="2">入学金　※</td><td>地域内</td><td colspan="2">125,000</td></tr>
<tr><td>地域外</td><td colspan="2">250,000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授　業　料</td><td>前学期</td><td colspan="2">267,900</td></tr>
<tr><td>後学期</td><td colspan="2">267,900</td></tr>
<tr><td rowspan="4">諸経費</td><td>学生教育研究災害傷害保険</td><td rowspan="4">入学手続時</td><td colspan="2">1,000</td></tr>
<tr><td>学研災付帯賠償責任保険</td><td colspan="2">500</td></tr>
<tr><td>看護学生保険「Will」</td><td colspan="2">4,500</td></tr>
<tr><td>後援会費</td><td colspan="2">10,000</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　　計</td><td>納入総額</td><td>676,800</td><td>801,800</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">納入総額内訳</td><td>入学手続時納入金</td><td>408,900</td><td>533,900</td></tr>
<tr><td>後学期納入金</td><td colspan="2">267,900</td></tr>
</table>

※　入学検定料は、一般選抜地域枠に出願・受験した者が同一般枠を受験することになった場合、それを免除する。
※　本学学群・学部卒業生、本学修士課程修了生及び本学博士後期課程修了生が本学専攻科を入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。
※　入学時の納入金額は、入学金、授業料、諸経費の合計金額である。
※　後援会費は、名桜大学後援会からの受託徴収である。

別表２（第３条関係）

□学籍料

(1)　学期休学の場合	２５，０００円
(2)　学年休学の場合	５０，０００円

別表３（第１１条関係）

□研究生　（単位：円）

学群・学部名			国際学群	人間健康学部		大学院	
学類・学科名			国際学類	スポーツ健康学科	看護学科	国際文化研究科	看護学研究科
入学検定料			9,800				
学費	入学金		30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
	授業料	前学期	100,000	119,000	137,000	100,000	100,000
		後学期	100,000	119,000	137,000	100,000	100,000
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

別表４（第１２条関係）

□科目等履修生・委託生　（単位：円）

学群・学部名	国際学群	人間健康学部		大学院		助産学専攻科
学類・学科名	国際学類	スポーツ健康学科	看護学科	国際文化研究科	看護学研究科	
入学検定料	5,000					
履修料（１単位の額）	15,000					
合計	15,000×単位数					

別表５（第１３条関係）

□各種検定料等　（単位：円）

種別	区　分	項　目	金　額	備　考
各種検定料等	学群・学部学生	転学部検定料	９，８００	
		転学科検定料	９，８００	
		再試験受験料	４，０００	１科目につき

別表６（第１４条関係）

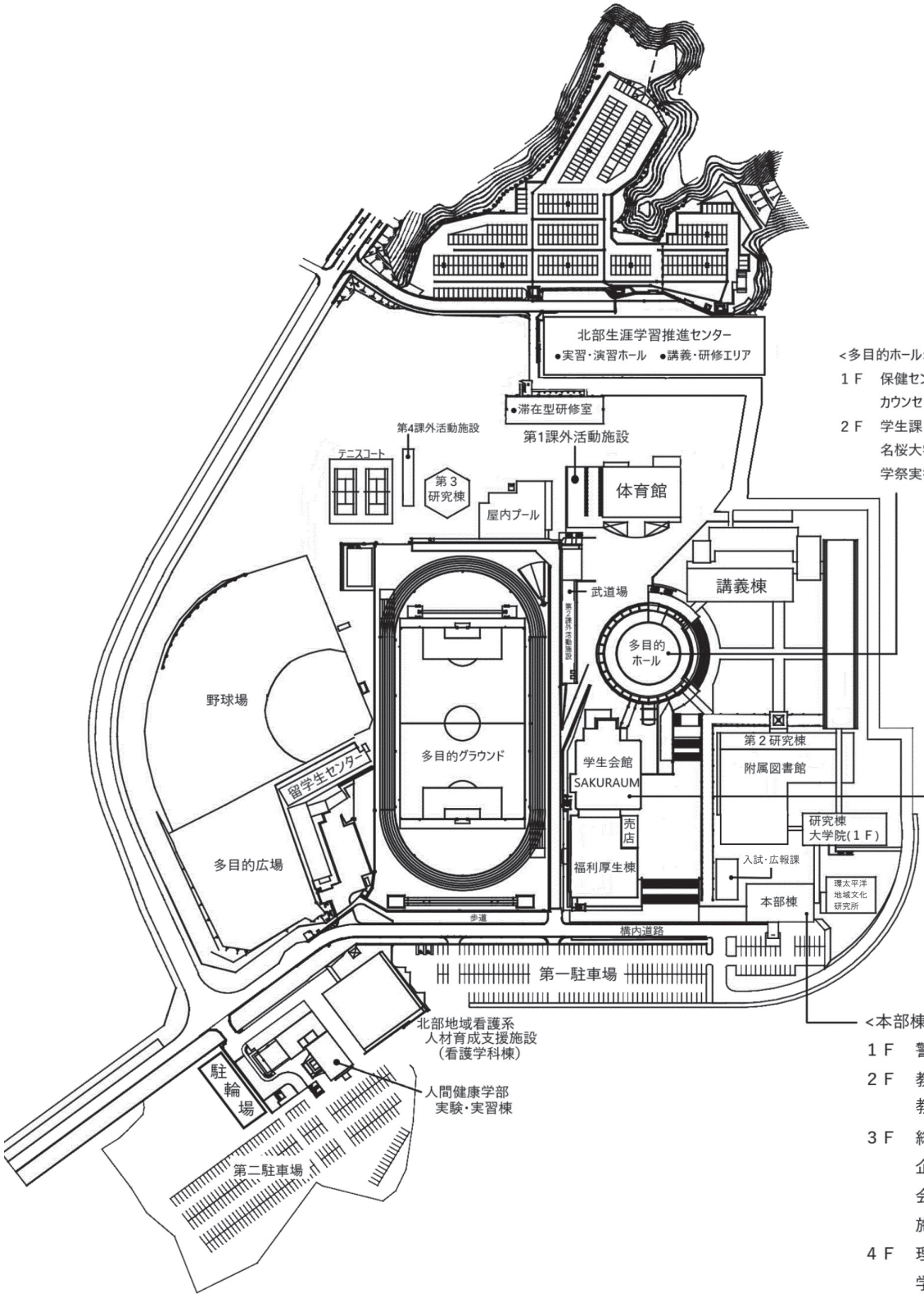
【その他の諸納入金】

□履修料・手数料　（単位：円）

種別	区　分	項　目	金　額	備　考
履修料	教育実習	教育実習費	実習教科により異なる	１週間につき１，０００円
	一般聴講学生		７，０００	１科目につき
	シニアシティズン	１科目	免除	
		２科目以上	７，０００	１科目につき
手数料	証明書等発行手数料	証明書（和文）	２００	
		証明書（英文）	３００	
		基礎資格・単位修得証明書	３００	
		健康診断書	１００	
		学生証再発行	１，０００	
		受験許可証	１００	
		トレーニングルーム利用者証再発行	３００	

Ⅸ　付録

名桜大学　建物配置図

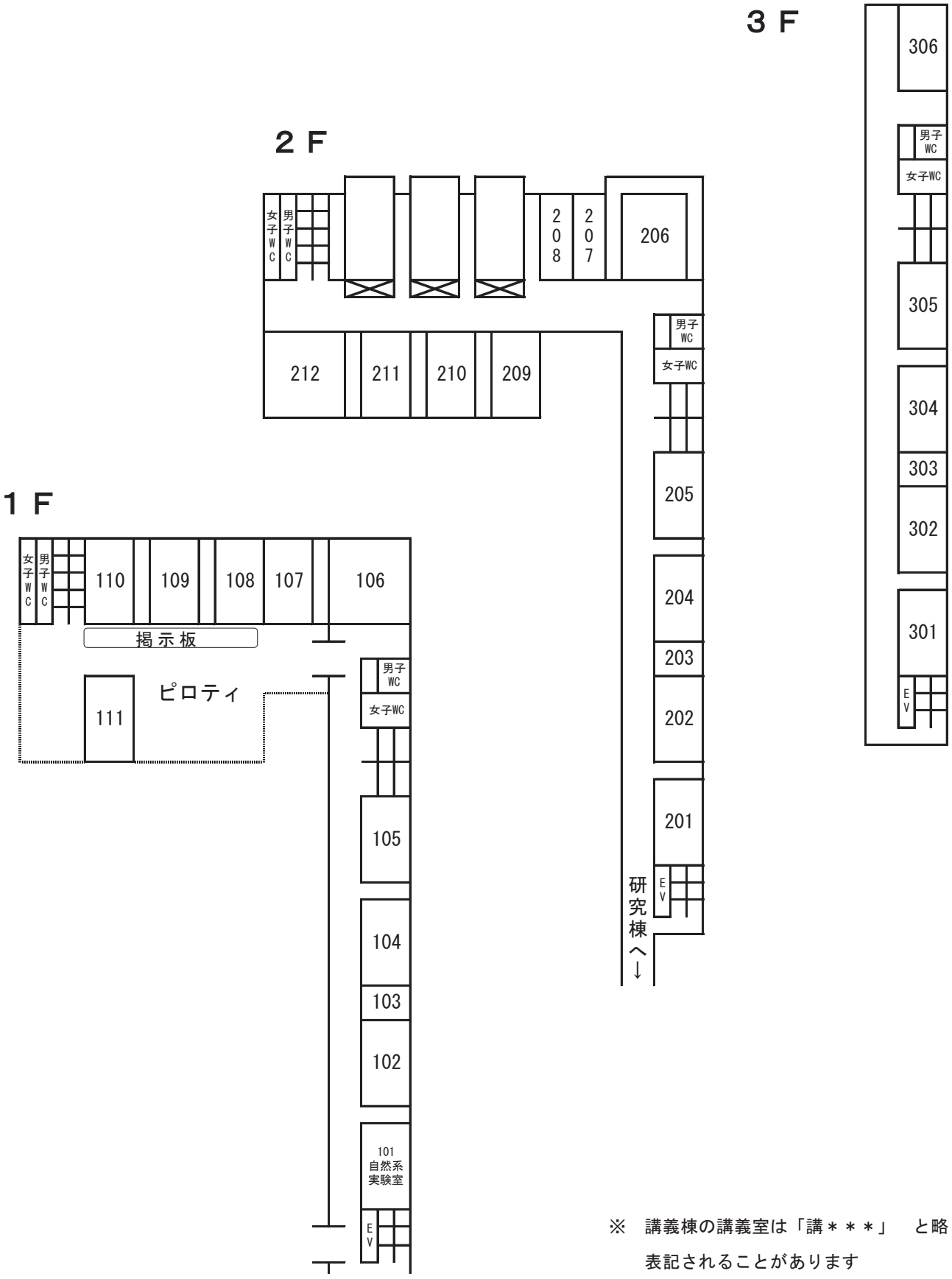


<多目的ホール>
１Ｆ　保健センター
　　カウンセリング室
２Ｆ　学生課
　　名桜大学学習支援教室
　　学祭実行委員会

<学生会館>
１Ｆ　総合窓口　ウェルカムホール
２Ｆ　カフェ
３Ｆ　大講義室
４Ｆ　数理学習センター
　　言語学習センター
　　ライティングセンター
　　ウェルナビ
５Ｆ　キャリア支援室
　　国際交流センター
　　学生会館運営室
　　S-CUBE
６Ｆ　スカイホール

<本部棟>
１Ｆ　警備員室
２Ｆ　教務課
　　教員養成支援センター
３Ｆ　総務課
　　企画課
　　会計課
　　施設課
４Ｆ　理事長室
　　学長室
　　副学長室

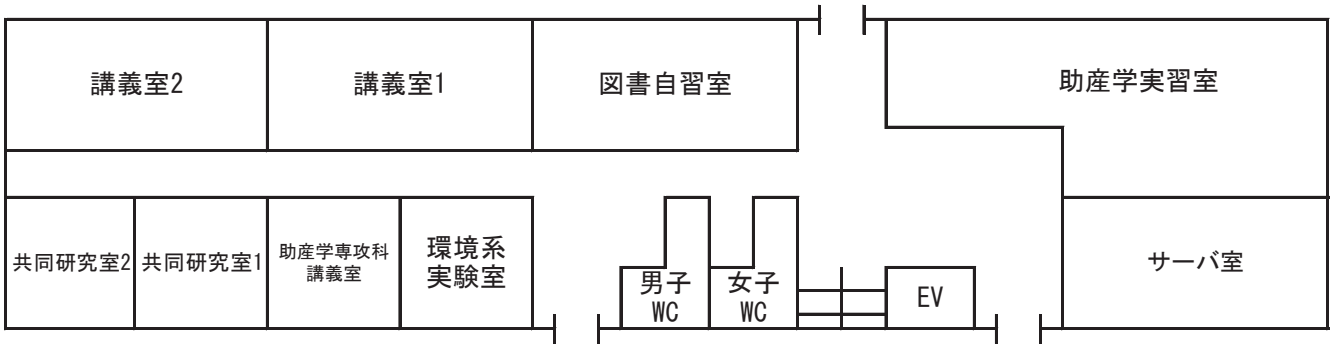
講義棟



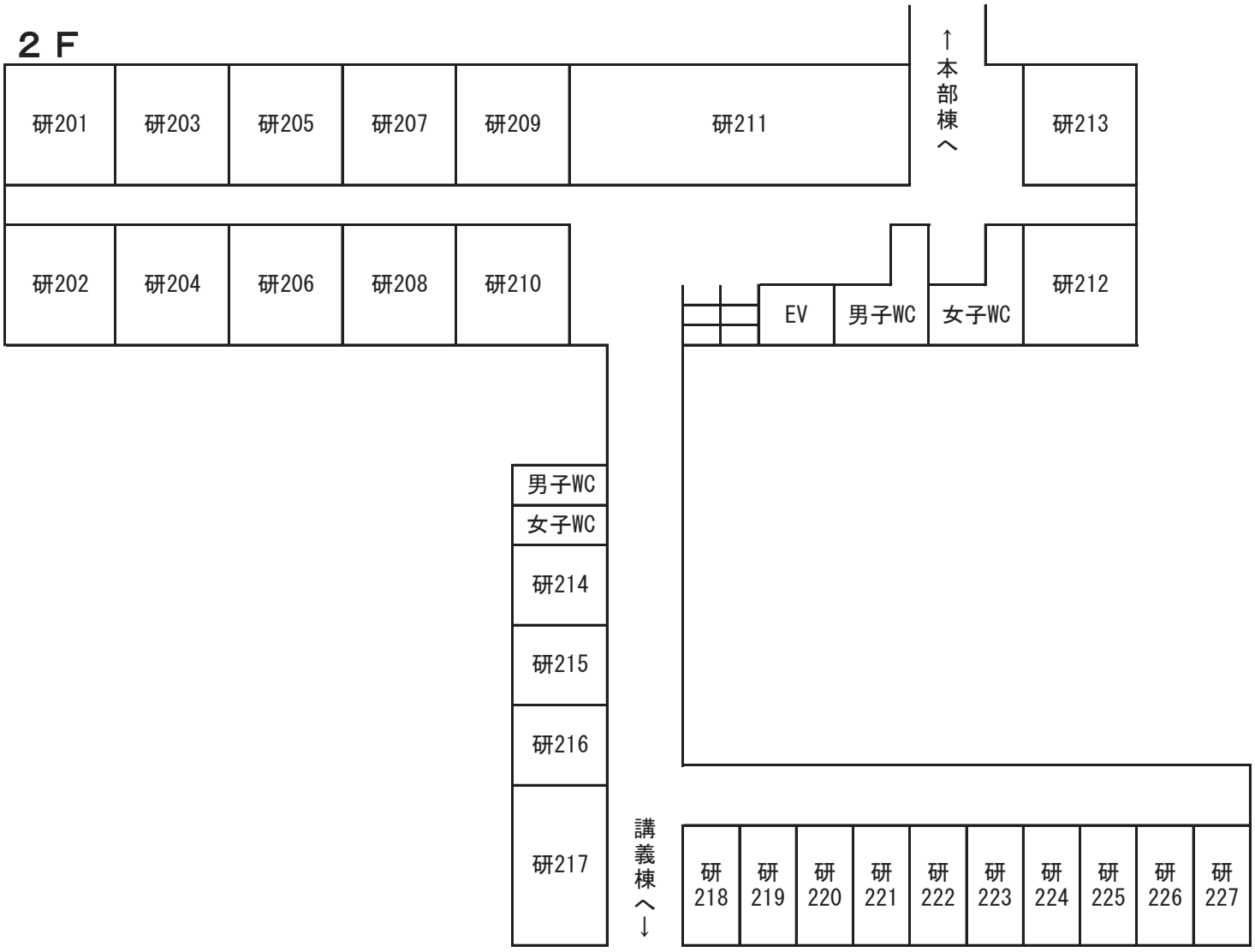
※　講義棟の講義室は「講＊＊＊」　と略して
　　表記されることがあります

研究棟

１Ｆ（大学院・専攻科）

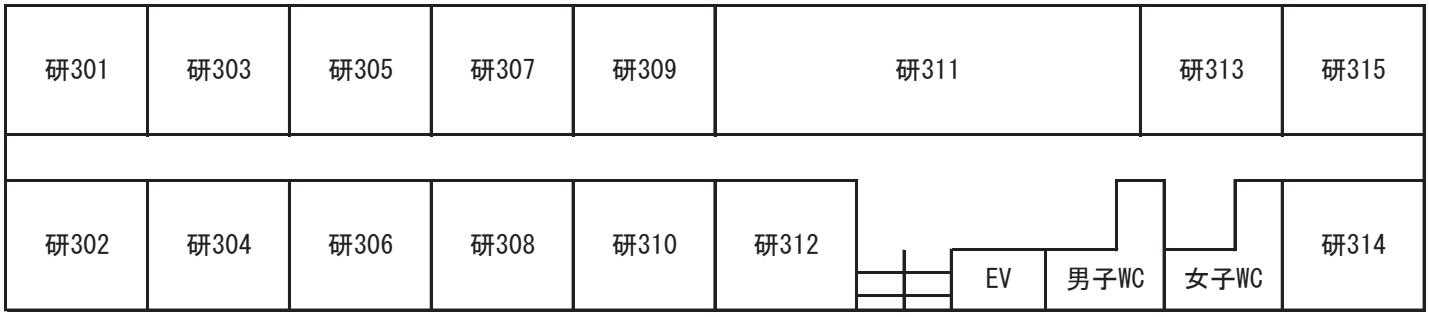


２Ｆ

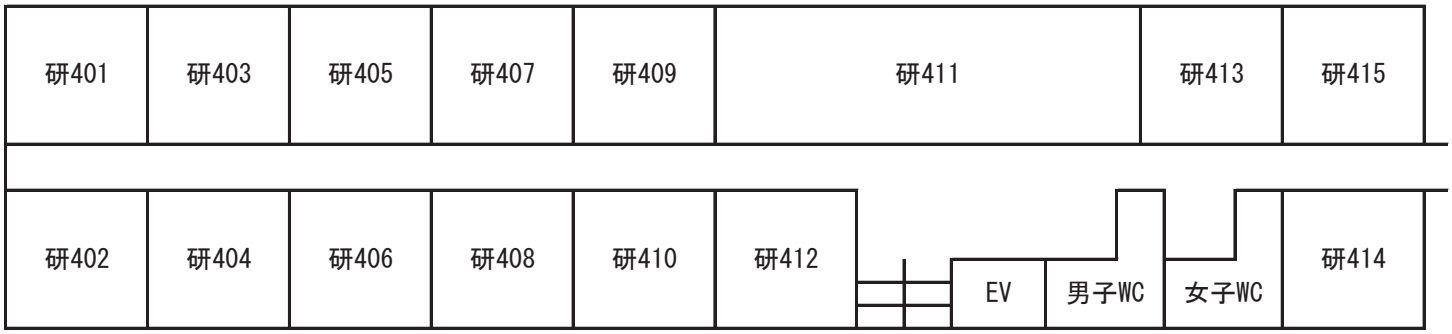


※　教員の研究室は「研＊＊＊」以外に「人研＊＊＊」「看研＊＊＊」等あり、
「人研＊＊＊」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研＊＊＊」は看護学科棟にあります

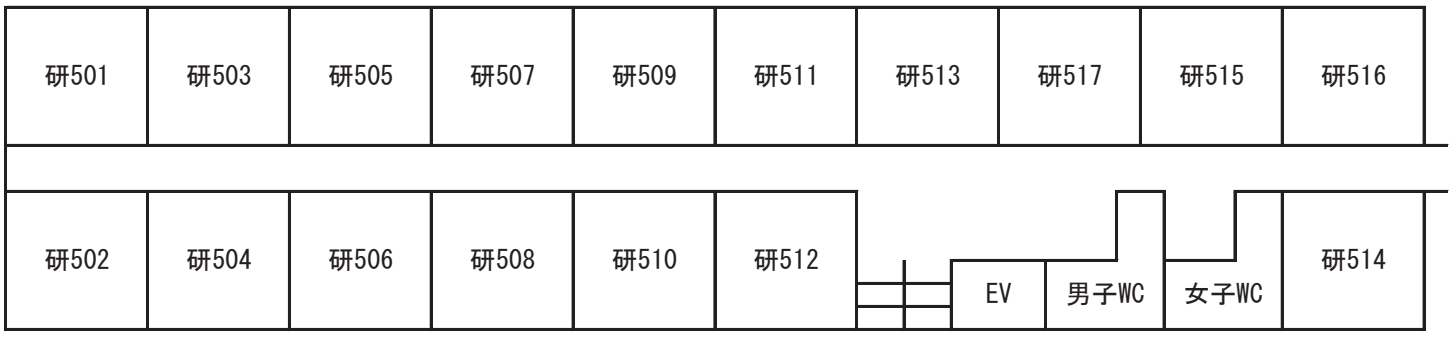
３Ｆ



４Ｆ

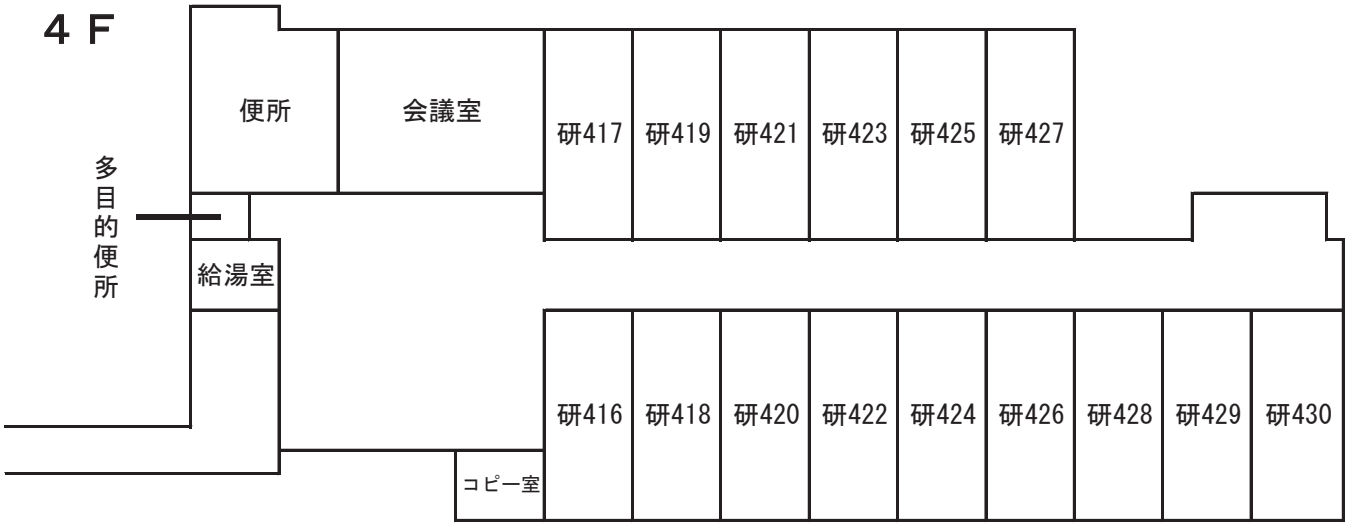


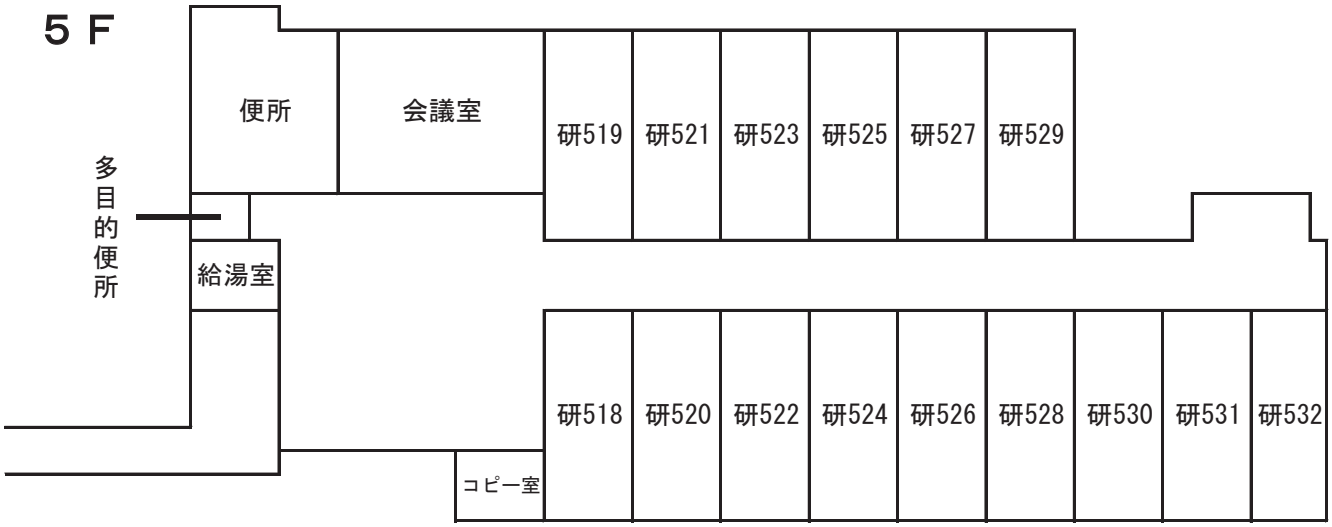
５Ｆ



※　教員の研究室は「研＊＊＊」以外に「人研＊＊＊」「看研＊＊＊」等あり、
「人研＊＊＊」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研＊＊＊」は看護学科棟にあります

附属図書館

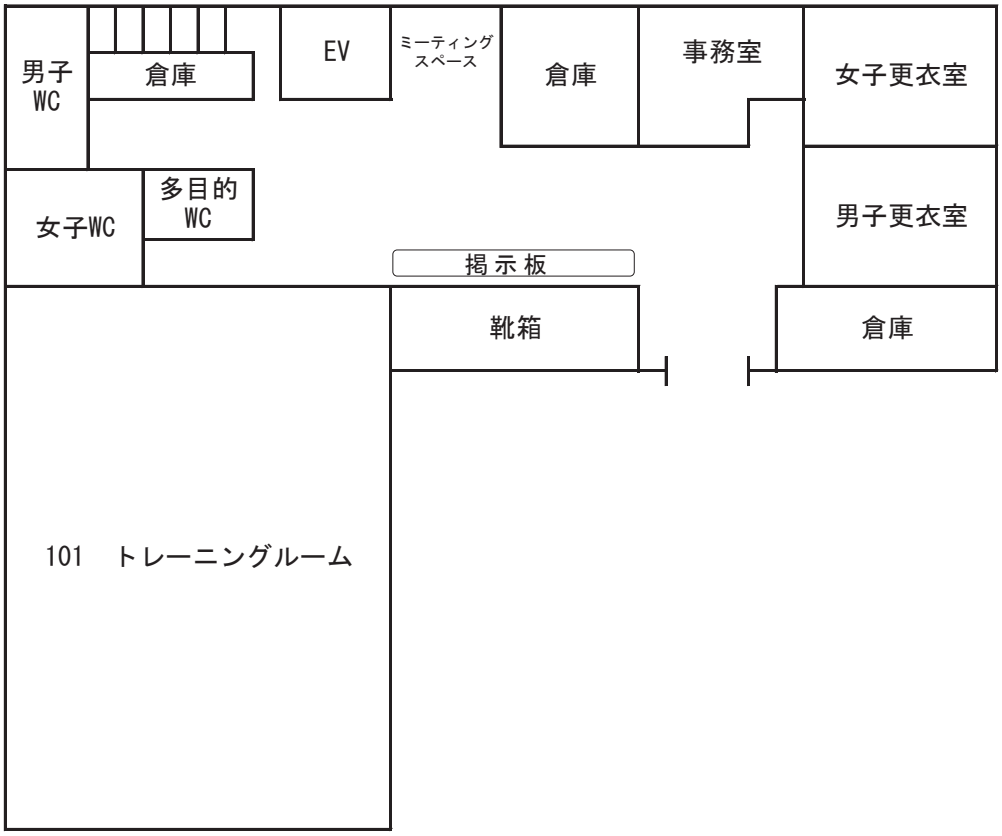




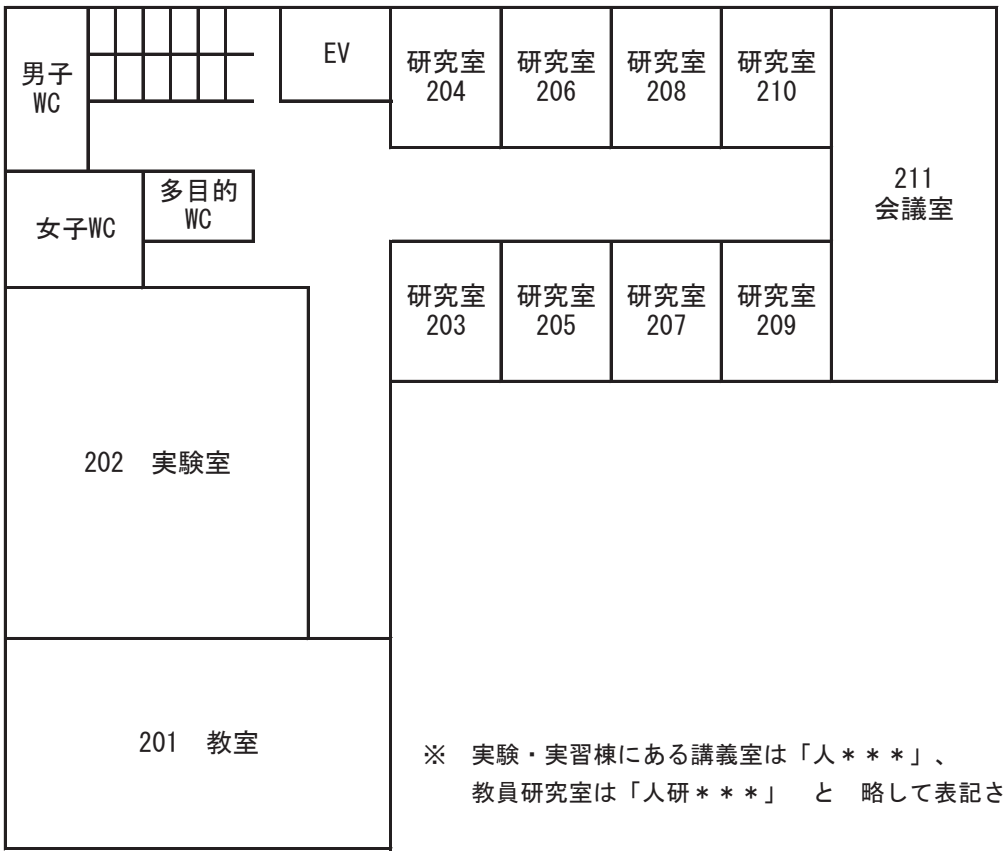
※　教員の研究室は「研＊＊＊」以外に「人研＊＊＊」「看研＊＊＊」等あり、
「人研＊＊＊」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研＊＊＊」は看護学科棟にあります

人間健康学部 実験・実習棟

１Ｆ

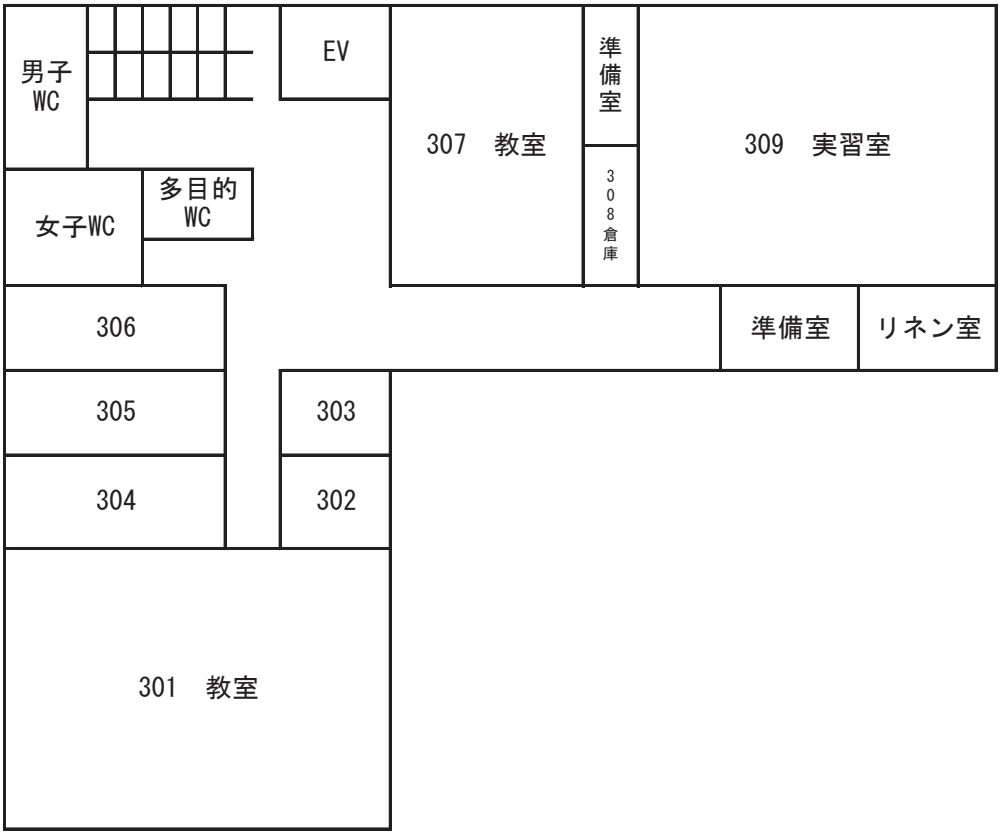


２Ｆ

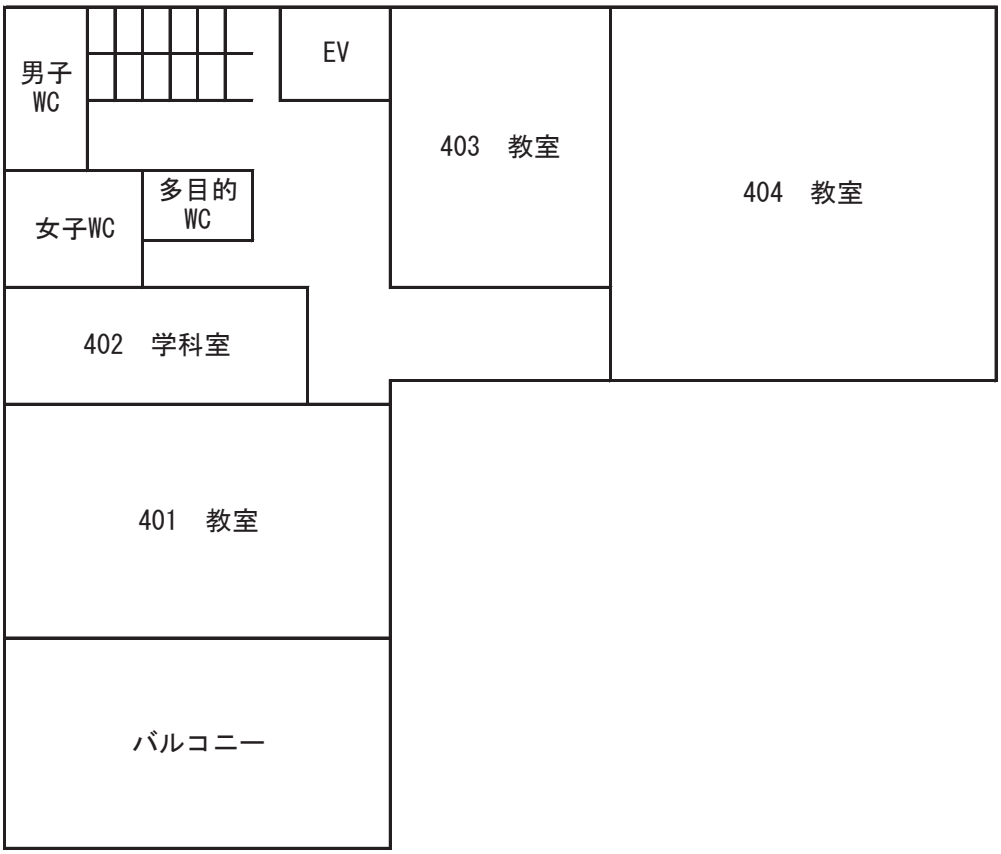


※　実験・実習棟にある講義室は「人＊＊＊」、
　　教員研究室は「人研＊＊＊」　と　略して表記されることがあります

３Ｆ

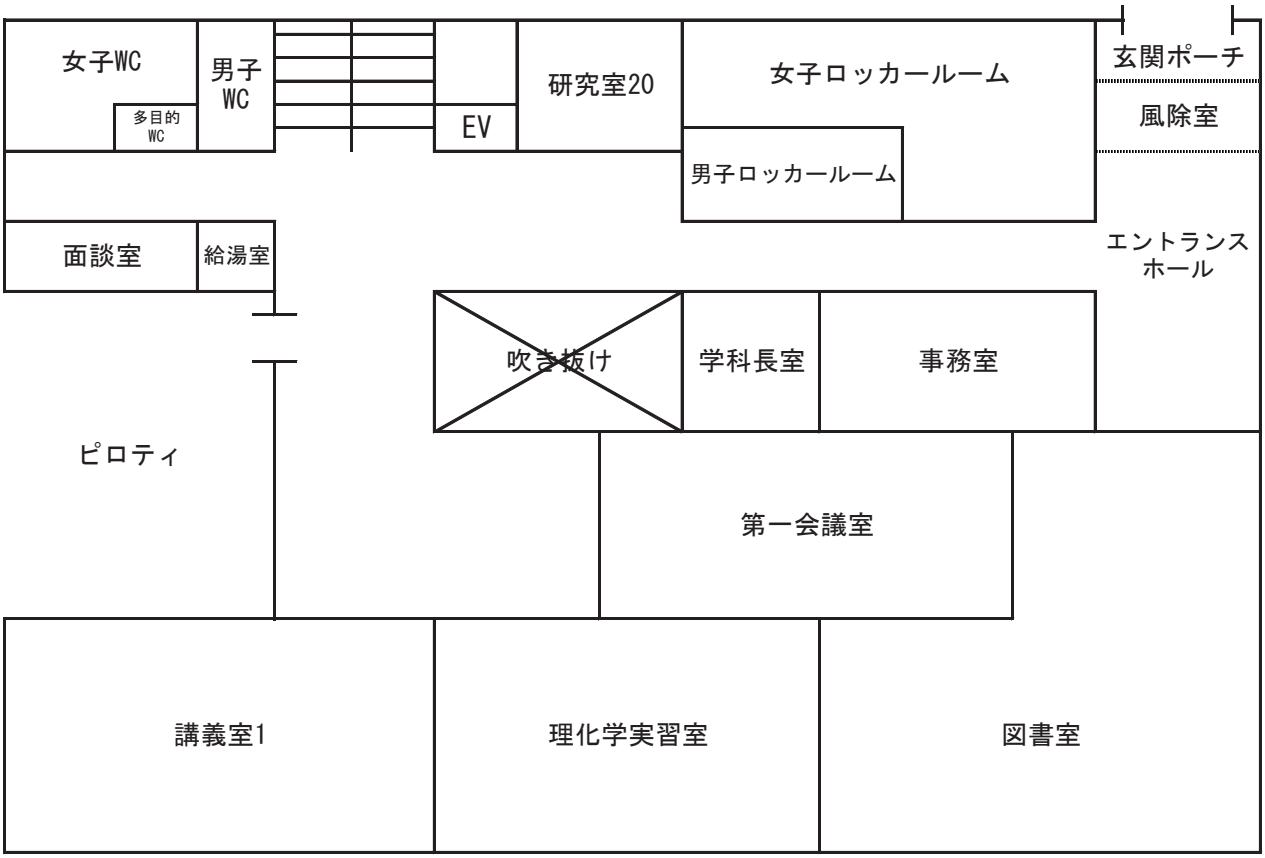

男子
WC
EV
307　教室
準
備
室
309　実習室
3
0
8
倉
庫
女子WC
多目的
WC
306
準備室
リネン室
305
303
304
302
301　教室

４Ｆ

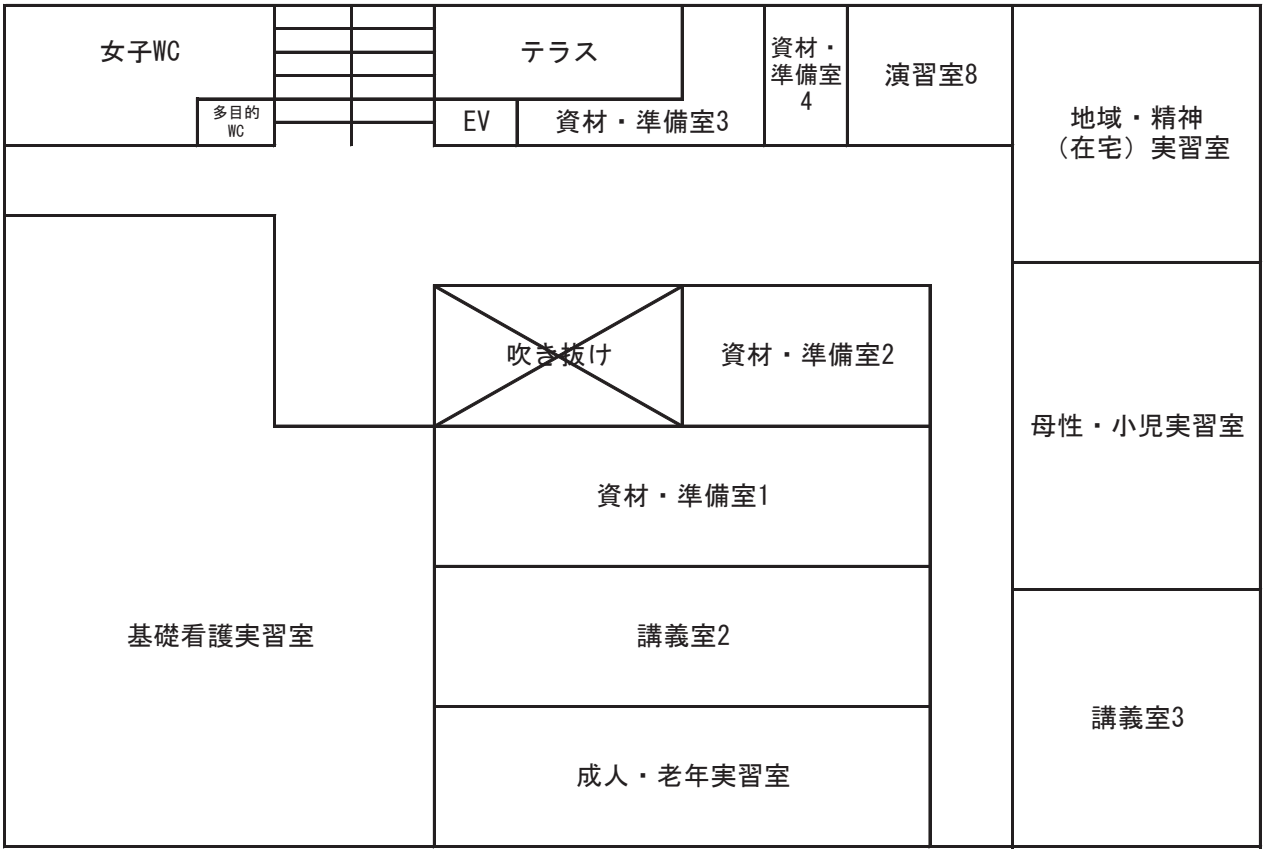

男子
WC
EV
403　教室
404　教室
女子WC
多目的
WC
402　学科室
401　教室
バルコニー

北部地域看護系人材育成支援施設（看護学科棟）

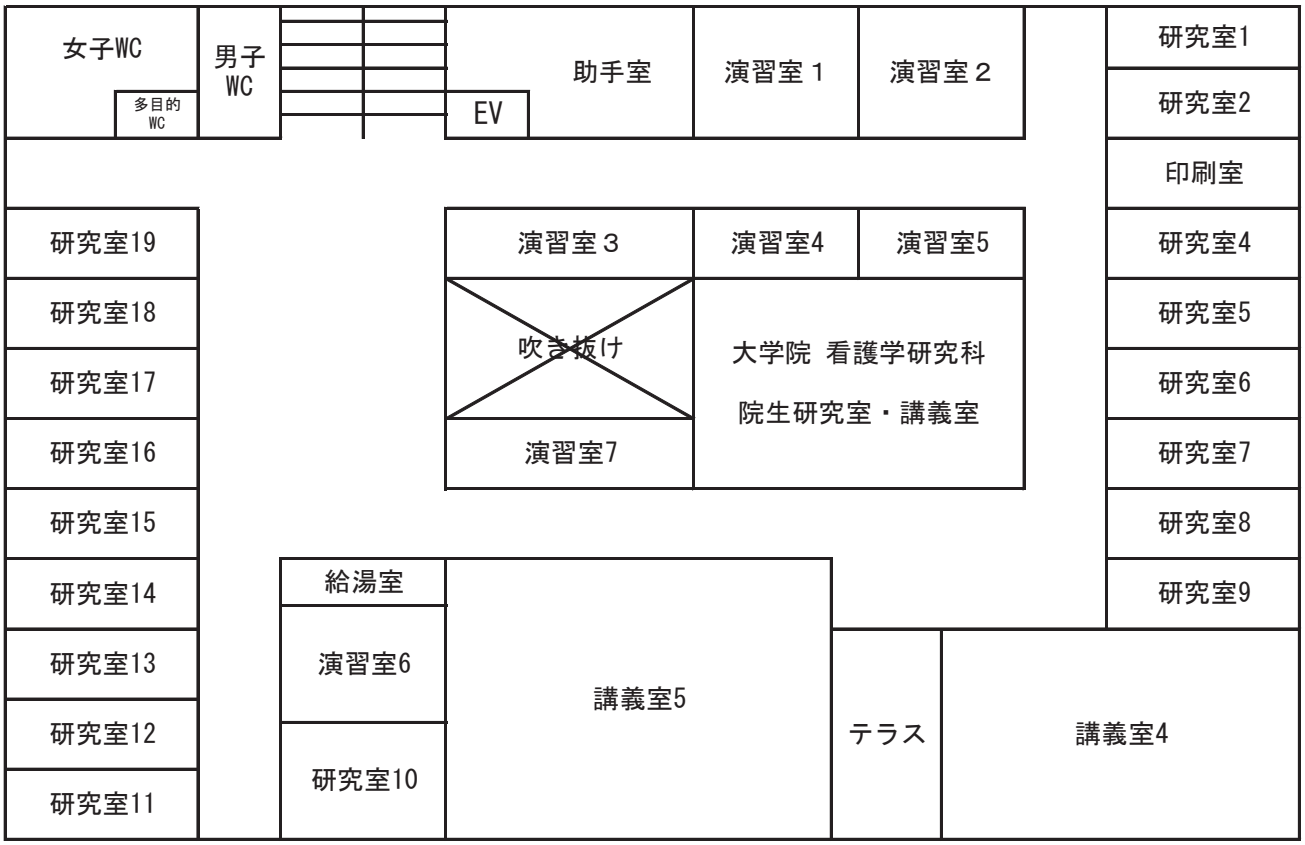
１Ｆ



２Ｆ



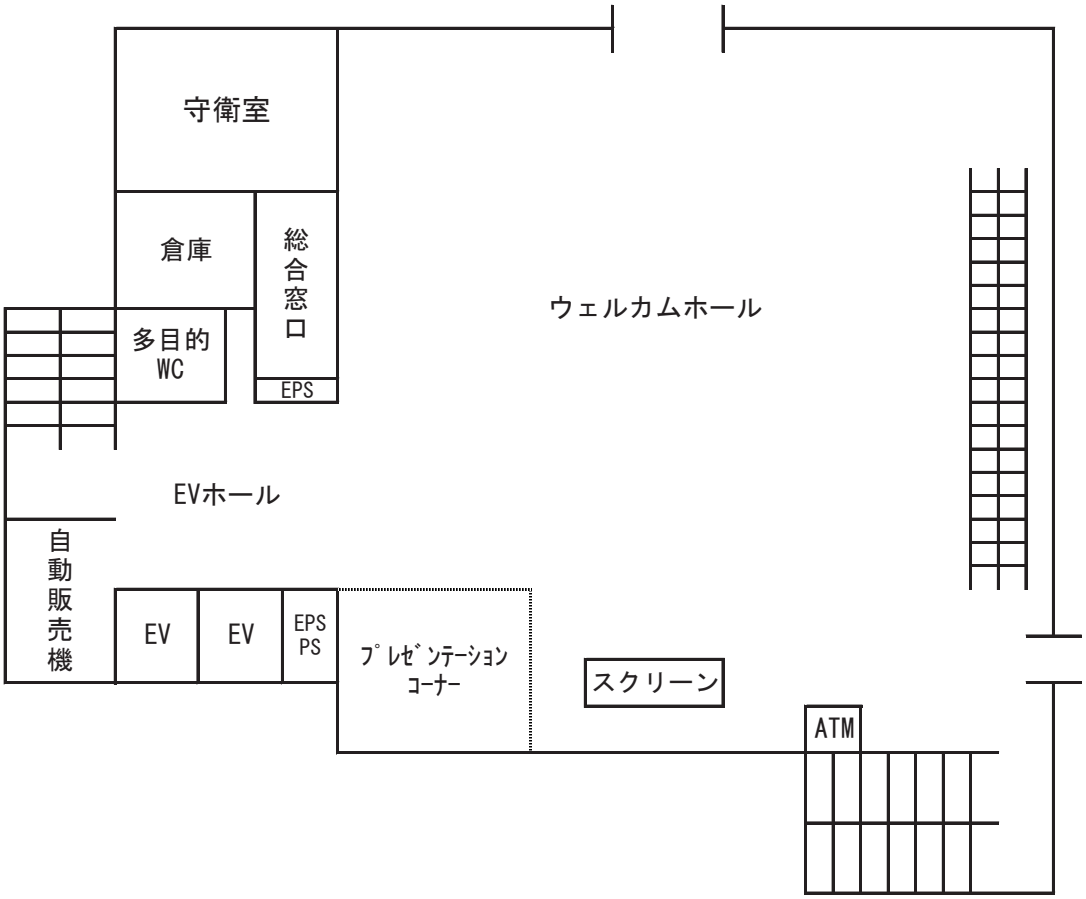
３Ｆ



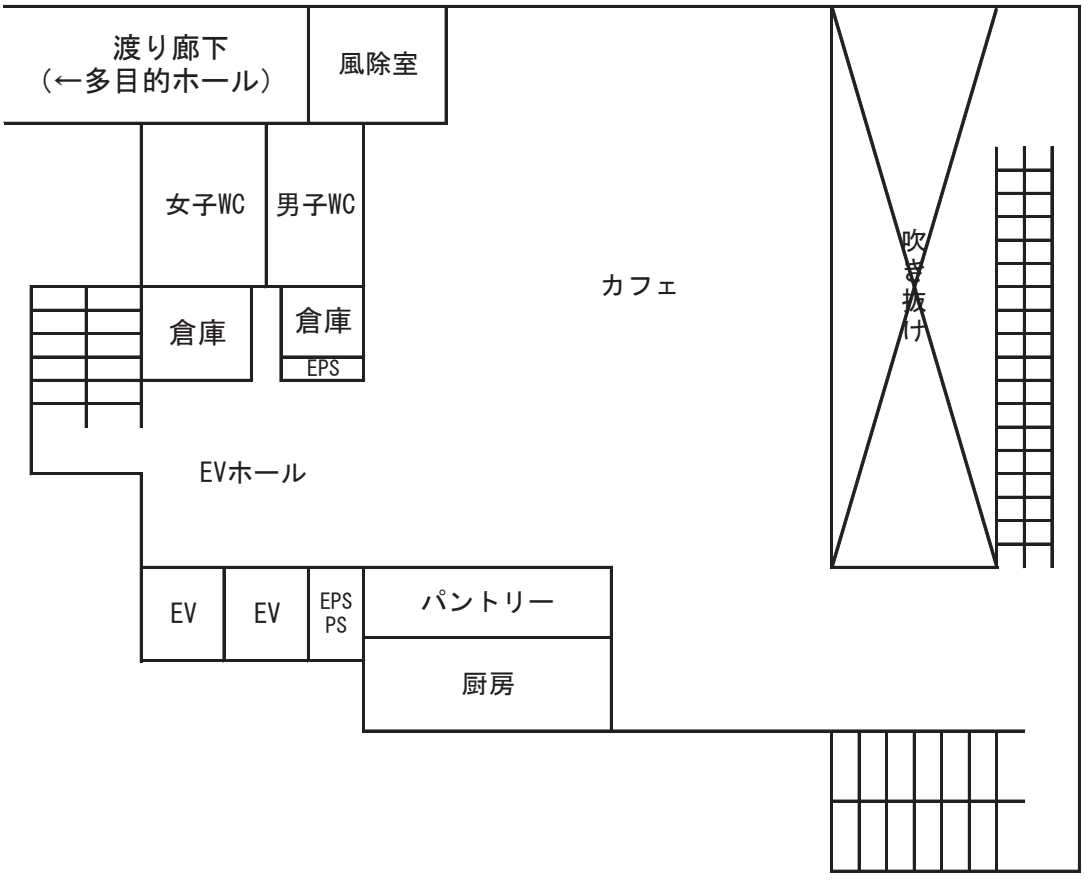
※　看護学科棟にある教員研究室は「看研＊＊＊」　と　略して表記されることがあります

学生会館　SAKURAUM

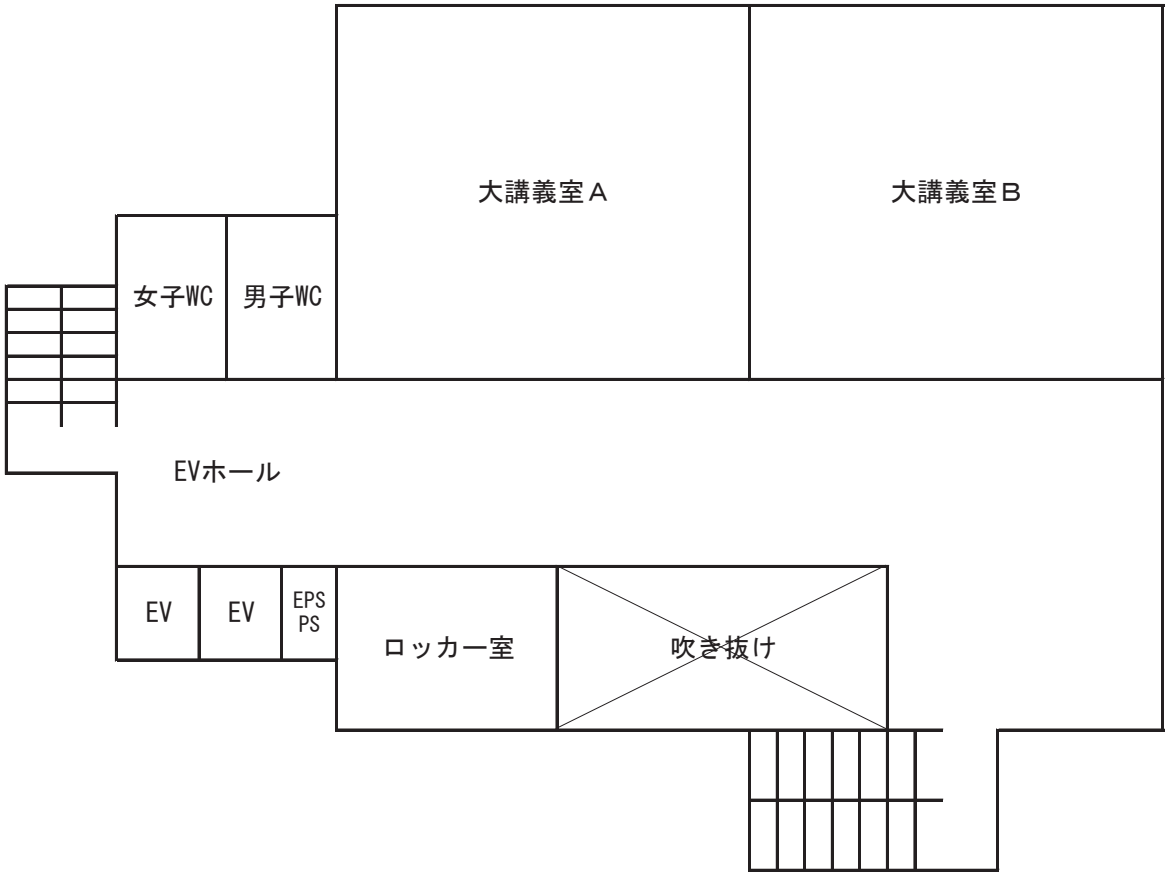
１Ｆ



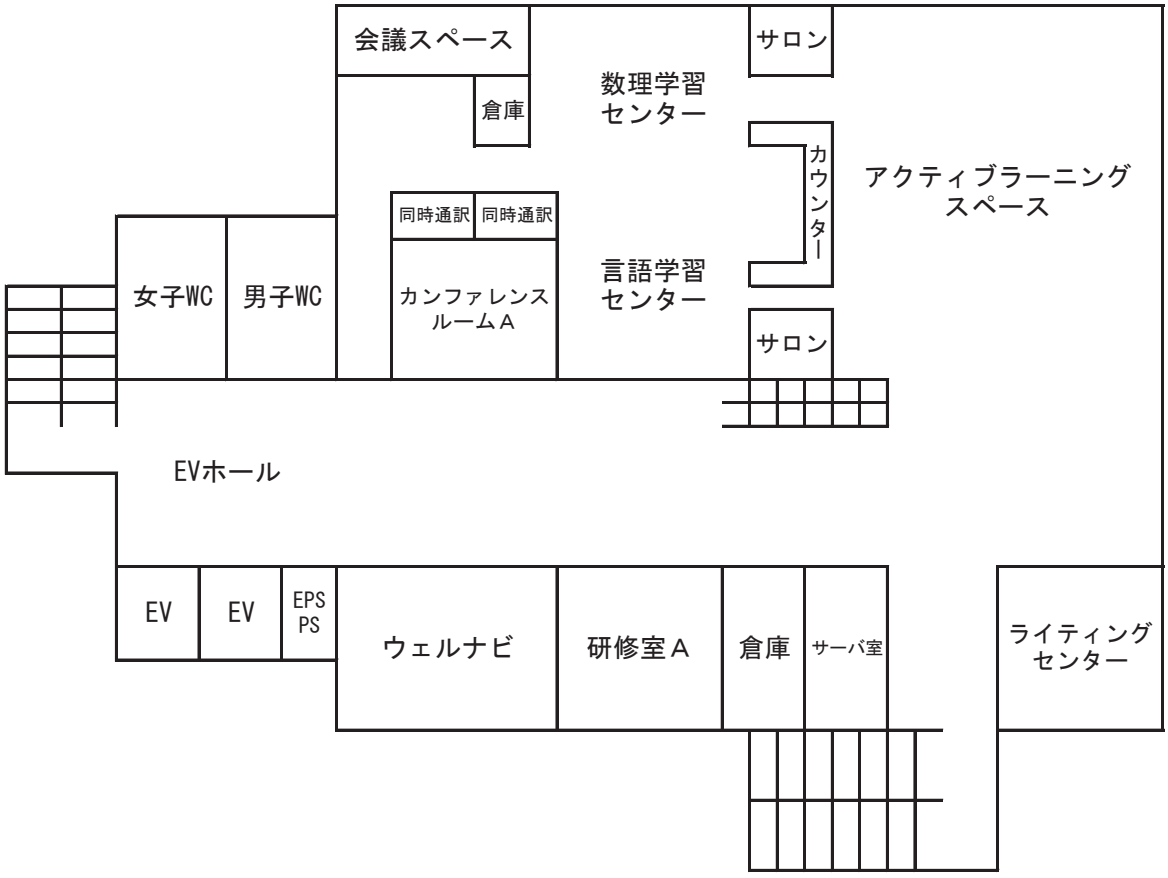
２Ｆ



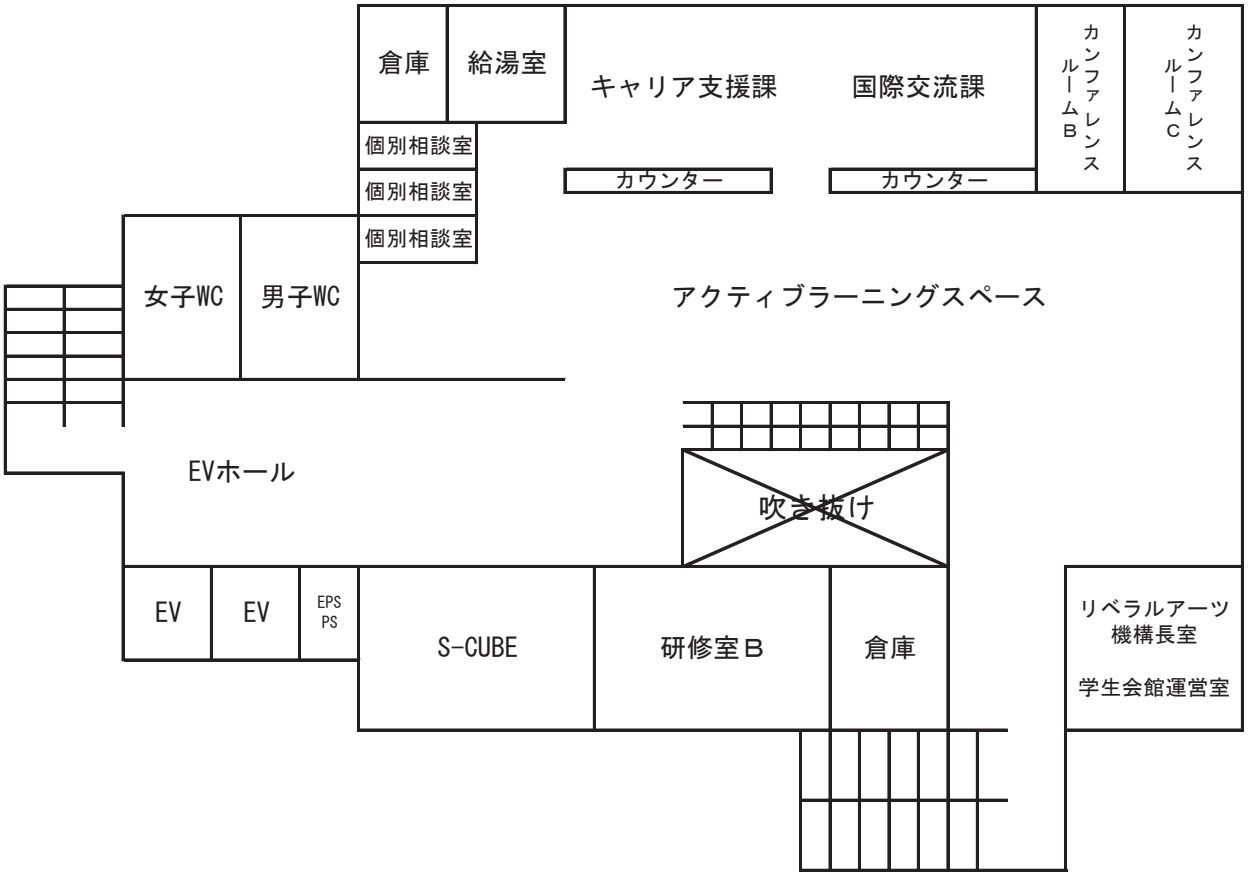
３Ｆ


大講義室Ａ
大講義室Ｂ
女子WC
男子WC
EVホール
EV
EV
EPS
PS
ロッカー室
吹き抜け

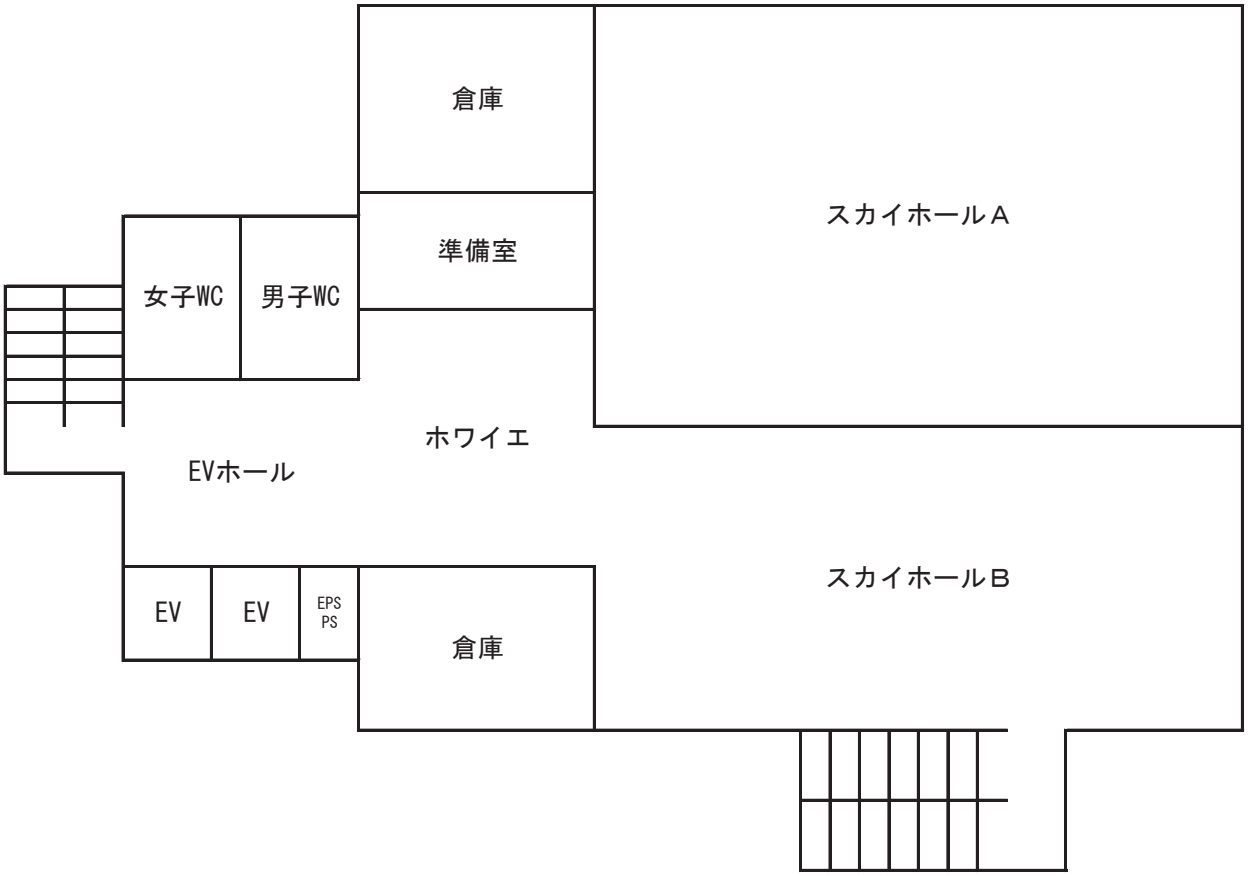
４Ｆ


会議スペース
倉庫
数理学習
センター
サロン
カウンター
アクティブラーニング
スペース
同時通訳
同時通訳
女子WC
男子WC
カンファレンス
ルームＡ
言語学習
センター
サロン
EVホール
EV
EV
EPS
PS
ウェルナビ
研修室Ａ
倉庫
サーバ室
ライティング
センター

５Ｆ


倉庫
給湯室
キャリア支援課
国際交流課
カンファレンスルームＢ
カンファレンスルームＣ
個別相談室
個別相談室
個別相談室
カウンター
カウンター
女子WC
男子WC
アクティブラーニングスペース
EVホール
吹き抜け
EV
EV
EPS
PS
S-CUBE
研修室Ｂ
倉庫
リベラルアーツ
機構長室
学生会館運営室

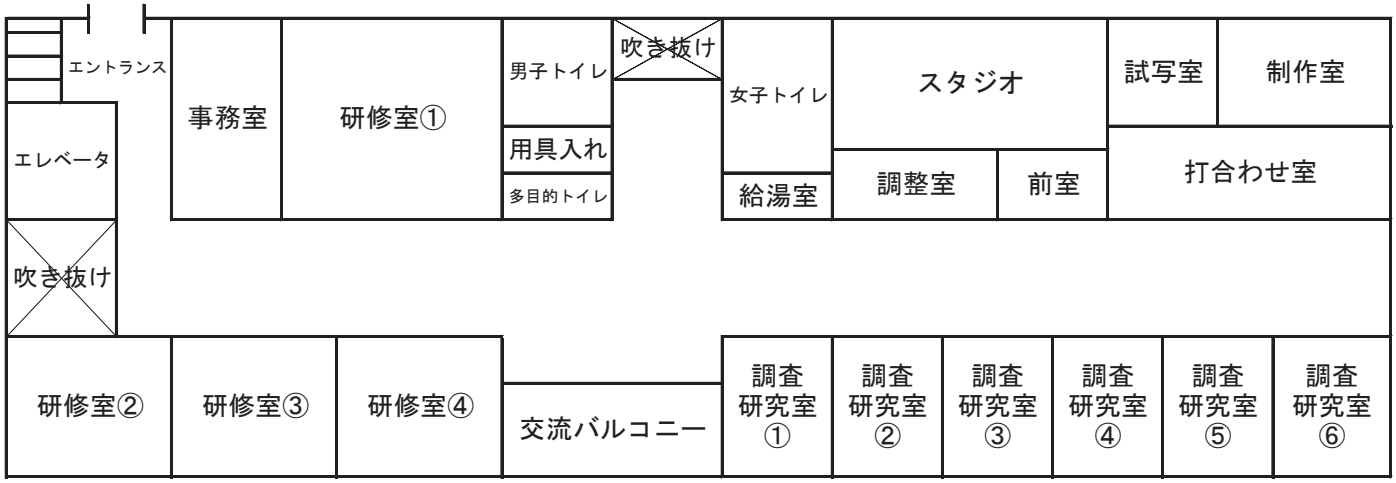
６Ｆ


倉庫
スカイホールＡ
準備室
女子WC
男子WC
ホワイエ
EVホール
スカイホールＢ
EV
EV
EPS
PS
倉庫

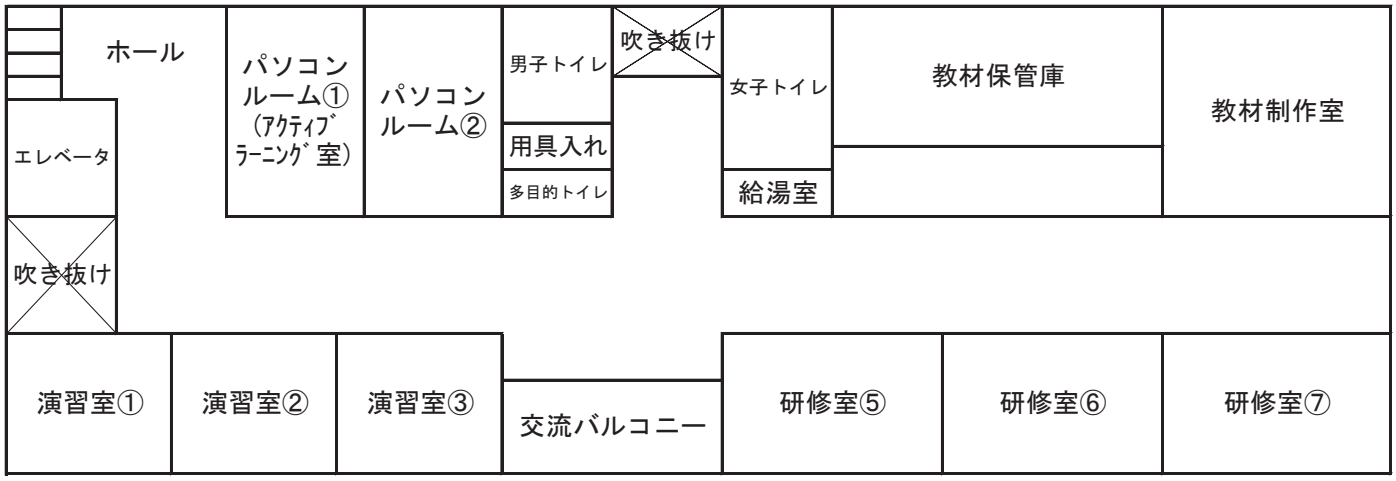
北部生涯学習推進センター

（講義・研修エリア）
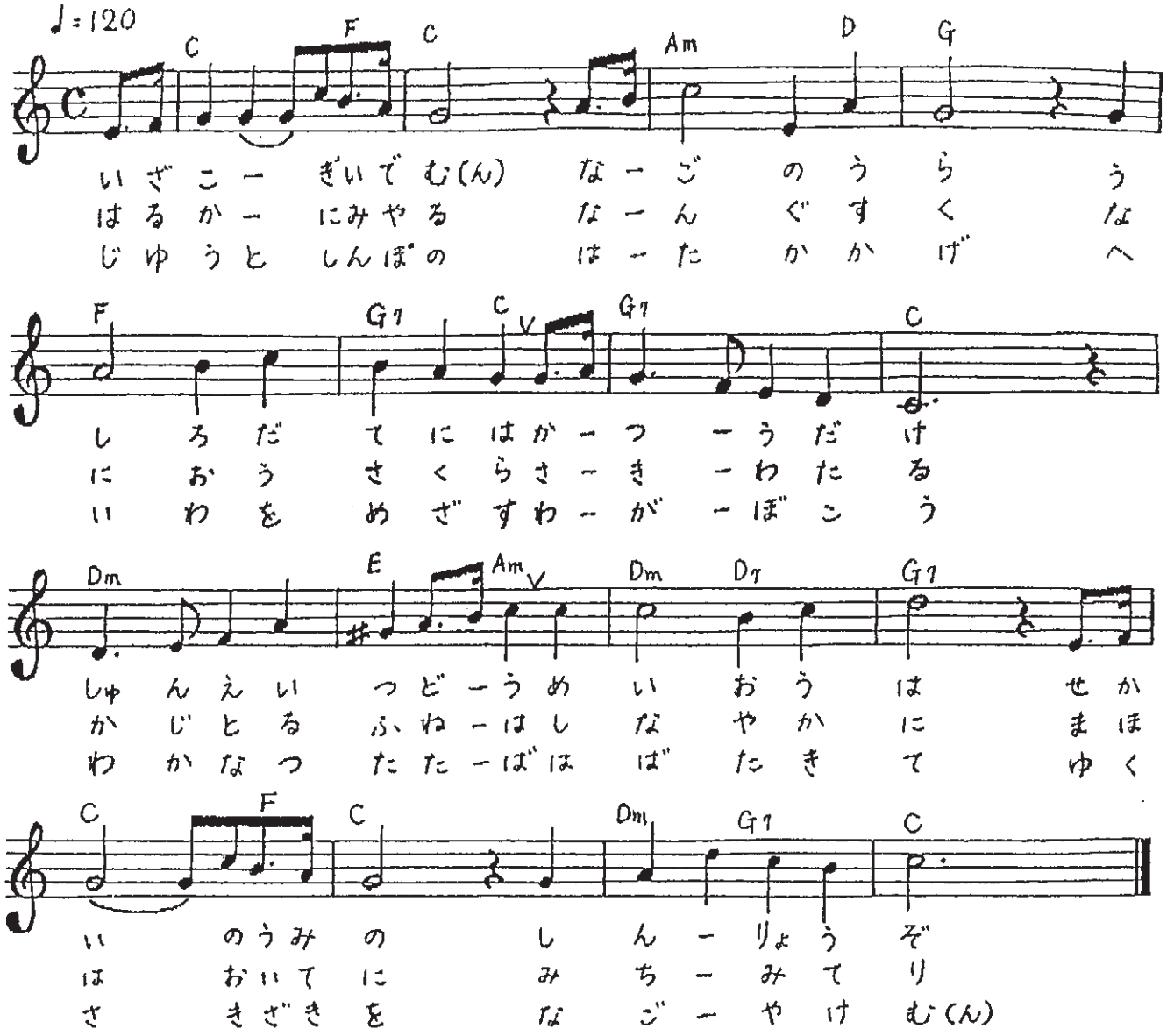
１Ｆ



２Ｆ



名桜大学校歌



名桜大学校歌
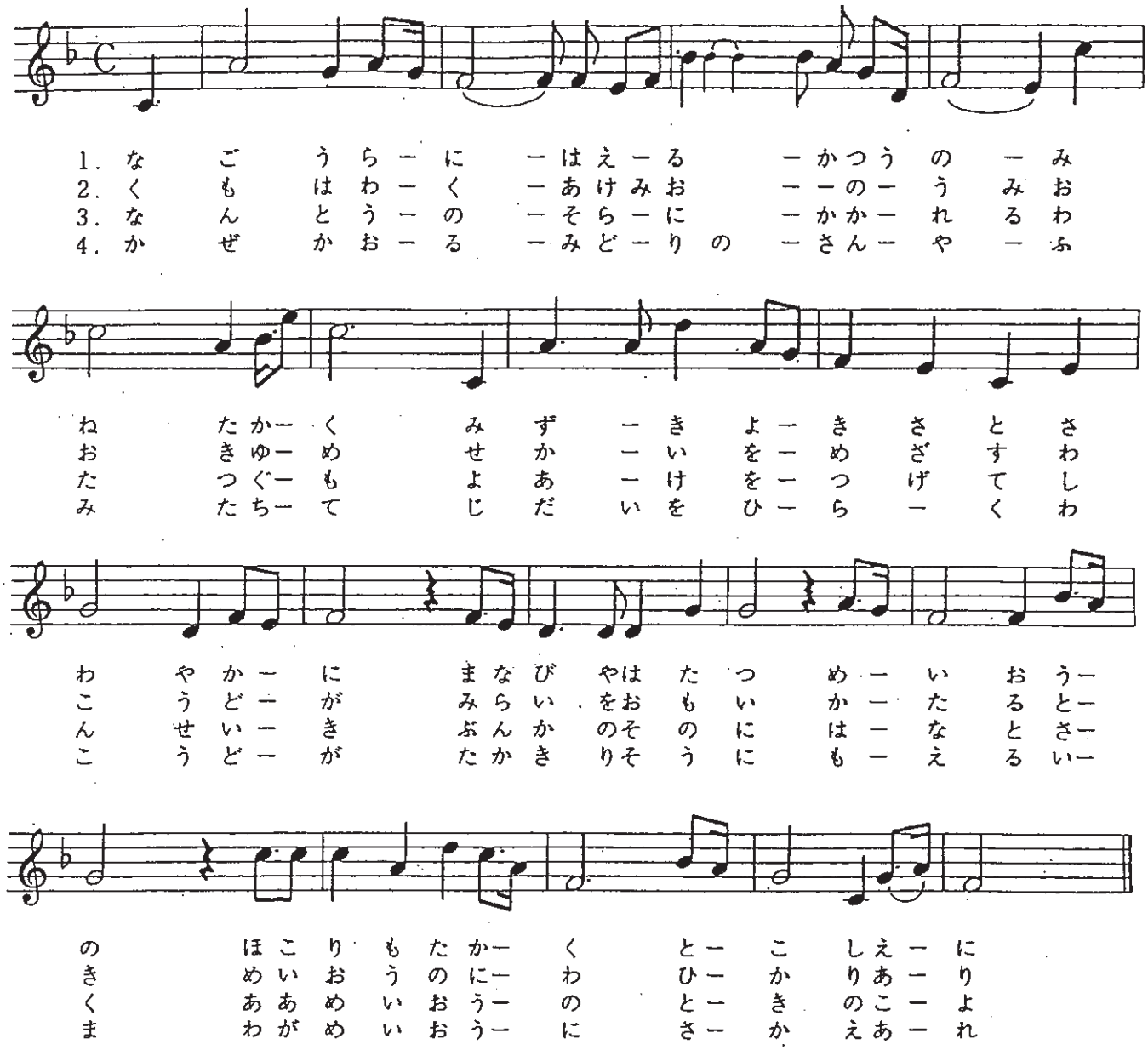
外間守善 作詞
千葉聡 作曲

一、いざ漕ぎ出でむ 名護の浦
後ろ盾には 嘉津宇嶽
俊英集う 名桜は
世界の海の 津梁ぞ

二、遥かに見やる 名護城
名に負う桜 咲きわたる
揖取る舟は しなやかに
真帆は追風に 充ち満てり

三、自由と進歩の 旗かかげ
平和をめざす 我が母校
若夏立たば はばたきて
行く先々を 和やけむ

名桜大学讃歌



名桜大学讃歌

伊江朝章 作詞
伊志嶺朝次 作曲

一、名護浦に
映える嘉津宇の 峯高く
水清き郷 さわやかに
学び舎は建つ 名桜の
誇りも高く 永遠に

二、雲は湧く
あけみおの海 巨き夢
世界をめざす 若人が
未来を思い 語るとき
名桜の庭 光あり

三、南島の
空にかかれる わたつ雲
夜明けを告げて 新世紀
文化の園に 花と咲く
ああ 名桜の 時代の児よ

四、風かおる
緑の山野 ふみたちて
時代を拓く 若人が
高く理想に もえる今
わが名桜に 栄えあれ

「履修ガイド」には、みなさんが卒業するまでの４年間の基本的な履修のルールが書かれています。

「履修ガイド」は入学時のみの配布です。４年間大切に保管し、ガイドブックとして活用して下さい。

名 桜 大 学 国 際 学 群
2020 年履修ガイド

印刷・発行：令和２年４月１日
編集・発行：名桜大学国際学群
〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220 番地の 1
電話（0980）51-1100
印　　刷：沖縄高速印刷株式会社
〒901-1111　沖縄県南風原町字兼城 577 番地
電話（098）889-5513

所　　属	国　際　学　群
学 生 番 号	
氏　　名	